平成31年第１回定例会会議録

平成３１年第１回菊池市議会定例会会期日程表（会期２６日間）

月　　日	曜日	区　分	日　　程
２月２５日	月	本会議	開会宣告・開議・会議録署名議員の指名・会期の決定・ 議案上程・提案理由説明
２日２６日	火	休　会	議案調査
２月２７日	水	休　会	議案調査
２月２８日	木	本会議	質疑・委員会付託
		委員会	予算決算常任委員会
３月　１日	金	休　会	議案調査
３月　２日	土	休　会	市の休日
３月　３日	日	休　会	市の休日
３月　４日	月	本会議	一般質問
３月　５日	火	本会議	一般質問
３月　６日	水	本会議	一般質問
３月　７日	木	委員会	総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会 福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会 経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
３月　８日	金	委員会	予算決算常任委員会総務文教分科会 予算決算常任委員会福祉厚生分科会 予算決算常任委員会経済建設分科会
３月　９日	土	休　会	市の休日
３月１０日	日	休　会	市の休日
３月１１日	月	委員会	予算決算常任委員会総務文教分科会 予算決算常任委員会福祉厚生分科会 予算決算常任委員会経済建設分科会
３月１２日	火	委員会	総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会 福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会 経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
３月１３日	水	休　会	議事整理
３月１４日	木	休　会	議事整理
３月１５日	金	休　会	議事整理
３月１６日	土	休　会	市の休日
３月１７日	日	休　会	市の休日
３日１８日	月	委員会	予算決算常任委員会
３月１９日	火	休　会	議事整理
３月２０日	水	休　会	議事整理
３月２１日	木	休　会	市の休日
３月２２日	金	本会議	委員長報告・質疑・討論・採決・閉会宣言

平成３１年　第１回菊池市議会定例会会議録（目次）

２月２５日（月曜日）　本会議　　**頁**

１．議事日程第１号…… 23
２．本日の会議に付した事件…… 25
３．出席議員氏名…… 27
４．欠席議員氏名…… 27
５．説明のため出席した者の職氏名…… 28
６．事務局職員出席者…… 28
７．開　会…… 29
８．開　議…… 29
９．日程第１　会議録署名議員の指名…… 29
10．日程第２　会期の決定…… 29
11．日程第３　議案第３号から議案第３８号まで一括上程…… 30
　休　憩…… 42
　開　議…… 42
　説明…… 42
12．日程第４　報告第２号　上程・説明・質疑…… 56
13．日程通告　散会…… 57

２月２６日（火曜日）　休　会

２月２７日（水曜日）　休　会

２月２８日（木曜日）　本会議　　**頁**

１．議事日程第２号…… 61
２．本日の会議に付した事件…… 61
３．出席議員氏名…… 61
４．欠席議員氏名…… 62
５．説明のため出席した者の職氏名…… 62
６．事務局職員出席者…… 62
７．開　議…… 63
８．日程第１　質疑…… 63
９．日程第２　委員会付託…… 68
10．日程通告　散会…… 71

３月１日（金曜日）　休　会

３月２日（土曜日）　休　会

３月３日（日曜日）　休　会

３月４日（月曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第３号…… 75
２．本日の会議に付した事件…… 75
３．出席議員氏名…… 75
４．欠席議員氏名…… 75
５．説明のため出席した者の職氏名…… 76
６．事務局職員出席者…… 76
７．開　議…… 77
８．日程第１　一般質問…… 77
（１）城　典臣君質問…… 77
「大型連休における公共サービスについて」…… 77
○総務部長　上田俊介君答弁…… 78
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 78
○総務部長　上田俊介君発言の申し出…… 79
城　典臣君質問…… 79
○総務部長　上田俊介君答弁…… 79
（２）城　典臣君質問…… 79
「児童虐待について」…… 79
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 80
城　典臣君質問…… 80
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 81
城　典臣君質問…… 82
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 82
城　典臣君質問…… 83
○市長　江頭　実君答弁…… 83
（３）城　典臣君質問…… 84
「防災対策、防災減災について」…… 84
○総務部長　上田俊介君答弁…… 84
（４）城　典臣君質問…… 85

「学校教育について」…… 85
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 86
城　典臣君質問…… 86
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 87
（５）城　典臣君質問…… 88
「施政方針について」…… 88
○経済部長　谷田　修君答弁…… 89
城　典臣君質問…… 90
○経済部長　谷田　修君答弁…… 90
城　典臣君質問…… 91
○市長　江頭　実君答弁…… 91
休　憩…… 93
開　議…… 93
（１）工藤圭一郎君質問…… 93
「福祉政策について」…… 93
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 93
工藤圭一郎君質問…… 94
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 94
工藤圭一郎君質問…… 95
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 95
工藤圭一郎君質問…… 95
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 96
工藤圭一郎君質問…… 96
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 97
（２）工藤圭一郎君質問…… 98
「高齢者政策について」…… 98
○総務部長　上田俊介君答弁…… 98
（３）工藤圭一郎君質問…… 99
「災害時対応について」…… 100
○総務部長　上田俊介君答弁…… 100
工藤圭一郎君質問…… 101
○総務部長　上田俊介君答弁…… 102
昼食休憩…… 103
開　議…… 103

（1）平　直樹君質問…… 103
「新年度予算について」…… 103
○総務部長　上田俊介君答弁…… 104
平　直樹君質問…… 104
○総務部長　上田俊介君答弁…… 104
平　直樹君質問…… 105
○総務部長　上田俊介君答弁…… 105
平　直樹君質問…… 106
○総務部長　上田俊介君答弁…… 106
平　直樹君質問…… 107
○総務部長　上田俊介君答弁…… 107
平　直樹君質問…… 107
○総務部長　上田俊介君答弁…… 108
平　直樹君質問…… 108
○総務部長　上田俊介君答弁…… 109
平　直樹君質問…… 110
○総務部長　上田俊介君答弁…… 110
平　直樹君質問…… 110
○総務部長　上田俊介君答弁…… 111
平　直樹君質問…… 111
○総務部長　上田俊介君答弁…… 113
平　直樹君質問…… 113
○市長　江頭　実君答弁…… 113
（2）平　直樹君質問…… 114
「きくち防災アプリについて」…… 114
○総務部長　上田俊介君答弁…… 115
平　直樹君質問…… 115
○総務部長　上田俊介君答弁…… 115
平　直樹君質問…… 116
○総務部長　上田俊介君答弁…… 116
平　直樹君質問…… 117
○総務部長　上田俊介君答弁…… 117
平　直樹君質問…… 118
○市長　江頭　実君答弁…… 118

休　憩…… 120
開　議…… 120
（１）泉田栄一朗君質問…… 120
「歴史民俗資料館（仮称）について」…… 120
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 121
泉田栄一朗君質問…… 121
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 123
泉田栄一朗君質問…… 123
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 124
泉田栄一朗君質問…… 125
○経済部長　谷田　修君答弁…… 125
泉田栄一朗君質問…… 126
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 127
○市長　江頭　実君答弁…… 127
（２）泉田栄一朗君質問…… 128
「本市におけるリスクマネジメントについて」…… 129
○総務部長　上田俊介君答弁…… 130
泉田栄一朗君質問…… 130
○総務部長　上田俊介君答弁…… 131
（３）泉田栄一朗君質問…… 132
「公園の水の活用について」…… 132
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 133
○経済部長　谷田　修君答弁…… 133
休　憩…… 135
開　議…… 135
（１）坂本道博君質問…… 135
「施政方針について」…… 136
○経済部長　谷田　修君答弁…… 136
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 137
坂本道博君質問…… 138
○経済部長　谷田　修君答弁…… 139
○市長　江頭　実君答弁…… 139
坂本道博君質問…… 140
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 140

坂本道博君質問…… 141
○市長　江頭　実君答弁…… 141
（２）坂本道博君質問…… 142
「ごみ分別について」…… 142
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 142
坂本道博君質問…… 143
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 143
坂本道博君質問…… 143
○市長　江頭　実君答弁…… 144
（３）坂本道博君質問…… 145
「交通安全対策について」…… 145
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 145
○総務部長　上田俊介君答弁…… 145
坂本道博君質問…… 146
○総務部長　上田俊介君答弁…… 146
９．日程通告　散会…… 147

３月５日（火曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第４号…… 151
２．本日の会議に付した事件…… 151
３．出席議員氏名…… 151
４．欠席議員氏名…… 151
５．説明のため出席した者の職氏名…… 152
６．事務局職員出席者…… 152
７．開　議…… 153
８．日程第１　一般質問…… 153
（１）田中教之君質問…… 153
「法に明るい菊池市について」…… 153
○総務部長　上田俊介君答弁…… 154
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 155
○健康福祉部長　中村隆純君発言の申し出…… 156
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 156
田中教之君質問…… 157
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 158

田中教之君質問…… 158
○教育長　渡邉和博君答弁…… 159
（２）田中教之君質問…… 159
「菊池川上流流域の再整備について」…… 160
○経済部長　谷田　修君答弁…… 161
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 162
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 163
田中教之君質問…… 163
○市長　江頭　実君答弁…… 165
（３）田中教之君質問…… 167
「公営塾について」…… 167
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 168
休　憩…… 170
開　議…… 170
（１）大賀慶一君質問…… 170
「新元号について」…… 170
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 170
大賀慶一君質問…… 171
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 171
大賀慶一君質問…… 172
○市長　江頭　実君答弁…… 172
（２）大賀慶一君質問…… 173
「子どものスポーツの振興について」…… 173
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 174
大賀慶一君質問…… 175
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 176
大賀慶一君質問…… 176
○教育長　渡邉和博君答弁…… 177
○教育長　渡邉和博君発言の申し出…… 178
（３）大賀慶一君質問…… 178
「道路の改良について」…… 178
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 179
大賀慶一君質問…… 179
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 180

（４）大賀慶一君質問…… 180
「施政方針について」…… 180
○経済部長　谷田　修君答弁…… 182
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 183
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 184
大賀慶一君質問…… 184
○市民環境部長　古田浩敏君発言の申し出…… 185
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 185
○市民環境部長　古田浩敏君発言の申し出…… 186
○市長　江頭　実君答弁…… 186
昼食休憩…… 187
開　議…… 187
（１）猿渡美智子さん質問…… 187
「ＬＧＢＴの児童・生徒への配慮について」…… 187
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 188
猿渡美智子さん質問…… 189
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 189
猿渡美智子さん質問…… 190
○教育長　渡邉和博君答弁…… 191
（２）猿渡美智子さん質問…… 191
「福祉分野での地域との協働について」…… 192
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 193
猿渡美智子さん質問…… 194
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 194
猿渡美智子さん質問…… 194
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 195
（３）猿渡美智子さん質問…… 196
「プログラミング教育について」…… 196
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 196
猿渡美智子さん質問…… 197
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 197
猿渡美智子さん質問…… 198
○教育長　渡邉和博君答弁…… 199
休　憩…… 201

開　議…… 201
（1）荒木崇之君質問…… 201
「菊池市中央図書館閲覧用椅子の購入について」…… 201
○代表監査委員　宮川貞雄君答弁…… 202
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 203
荒木崇之君質問…… 203
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 204
荒木崇之君質問…… 204
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 205
荒木崇之君質問…… 206
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 207
荒木崇之君質問…… 207
○総務部長　上田俊介君答弁…… 208
荒木崇之君質問…… 208
○代表監査委員　宮川貞雄君答弁…… 209
荒木崇之君質問…… 209
休　憩…… 210
開　議…… 210
○総務部長　上田俊介君答弁…… 210
荒木崇之君質問…… 210
○総務部長　上田俊介君答弁…… 210
荒木崇之君質問…… 210
○総務部長　上田俊介君答弁…… 211
荒木崇之君質問…… 212
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 212
荒木崇之君質問…… 212
○総務部長　上田俊介君答弁…… 213
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 213
荒木崇之君質問…… 214
休　憩…… 215
開　議…… 215
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 215
荒木崇之君質問…… 215
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 216

荒木崇之君質問…… 216
○代表監査委員　宮川貞雄君答弁…… 217
○市長　江頭　実君答弁…… 218
休　憩…… 219
開　議…… 219
（１）福島英徳君質問…… 220
「５０％以上を占める森林に対する本市の取り組みについて」…… 220
○経済部長　谷田　修君答弁…… 221
福島英徳君質問…… 222
○市長　江頭　実君答弁…… 223
（２）福島英徳君質問…… 223
「図書館のあり方について」…… 224
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 224
福島英徳君質問…… 225
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 225
福島英徳君質問…… 225
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 226
福島英徳君質問…… 227
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 228
９．日程通告　散会…… 228

３月６日（水曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第５号…… 231
２．本日の会議に付した事件…… 231
３．出席議員氏名…… 231
４．欠席議員氏名…… 232
５．説明のため出席した者の職氏名…… 232
６．事務局職員出席者…… 232
７．開　議…… 233
８．日程第１　一般質問…… 233
（１）水上隆光君質問…… 233
「施政方針について」…… 233
○経済部長　谷田　修君答弁…… 235
○市長　江頭　実君答弁…… 238

（２）水上隆光君質問…… 239
「スクールロイヤー（学校弁護士）について」…… 239
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 239
水上隆光君質問…… 240
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 241
水上隆光君質問…… 241
○教育長　渡邉和博君答弁…… 241
水上隆光君質問…… 242
○市長　江頭　実君答弁…… 242
（３）水上隆光君質問…… 243
「エコ・ヴィレッジ旭について」…… 243
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 244
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 244
休　憩…… 245
開　議…… 245
（１）緒方哲郎君質問…… 245
「中山間地域の農業について」…… 246
○経済部長　谷田　修君答弁…… 246
緒方哲郎君質問…… 248
○経済部長　谷田　修君答弁…… 249
（２）緒方哲郎君質問…… 250
「花房坂周辺公園整備について」…… 250
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 251
（３）緒方哲郎君質問…… 251
「コミュニティナースについて」…… 253
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 253
（４）緒方哲郎君質問…… 255
「ジュニアスポーツ大会について」…… 255
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 256
昼食休憩…… 258
開　議…… 258
（１）東　奈津子さん質問…… 258
「菊池市の徴税業務について」…… 258
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 259

東　奈津子さん質問…… 259
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 260
東　奈津子さん質問…… 260
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 260
東　奈津子さん質問…… 261
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 261
東　奈津子さん質問…… 261
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 262
東　奈津子さん質問…… 262
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 263
東　奈津子さん質問…… 263
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 265
東　奈津子さん質問…… 265
○市長　江頭　実君答弁…… 266
（２）東　奈津子さん質問…… 267
「就学援助制度について」…… 268
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 269
東　奈津子さん質問…… 270
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 271
東　奈津子さん質問…… 271
○教育長　渡邉和博君答弁…… 272
休　憩…… 273
開　議…… 273
（１）二ノ文伸元君質問…… 273
「財政改革について」…… 274
○総務部長　上田俊介君答弁…… 274
二ノ文伸元君質問…… 275
○総務部長　上田俊介君答弁…… 276
二ノ文伸元君質問…… 277
○総務部長　上田俊介君答弁…… 278
二ノ文伸元君質問…… 279
○総務部長　上田俊介君答弁…… 280
○市長　江頭　実君答弁…… 280
休　憩…… 282

開　議…… 282
（1）木下雄二君質問…… 282
「道路整備について」…… 282
○建設部長　淵邉政博君答弁…… 283
（2）木下雄二君質問…… 284
「旧迫水小跡地への進出企業の状況について」…… 284
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 285
木下雄二君質問…… 285
○市長　江頭　実君答弁…… 286
（3）木下雄二君質問…… 286
「小川基金を活用した給付型奨学金の状況について」…… 286
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 287
（4）木下雄二君質問…… 288
「図書通帳について」…… 288
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 289
木下雄二君質問…… 289
○教育部長　大山堅四郎君答弁…… 290
（5）木下雄二君質問…… 290
「有害鳥獣による農林作物の被害への対策について」…… 290
○経済部長　谷田　修君答弁…… 291
（6）木下雄二君質問…… 292
「学童保育について」…… 293
○健康福祉部長　中村隆純君答弁…… 293
木下雄二君質問…… 294
○市長　江頭　実君答弁…… 294
（7）木下雄二君質問…… 295
「中小企業振興基本条例について」…… 295
○総務部長　上田俊介君答弁…… 295
木下雄二君質問…… 295
○総務部長　上田俊介君答弁…… 296
木下雄二君質問…… 297
○総務部長　上田俊介君答弁…… 297
○市長　江頭　実君答弁…… 297
9．日程第2　議案第39号　上程・説明・質疑・委員会付託…… 299

10．日程通告　散会…… 301

３月　７　日（木曜日）　総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会
福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会
経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
３月　８　日（金曜日）　予算決算常任委員会総務文教分科会
予算決算常任委員会福祉厚生分科会
予算決算常任委員会経済建設分科会
３月　９　日（土曜日）　休　会
３月１０日（日曜日）　休　会
３月１１日（月曜日）　予算決算常任委員会総務文教分科会
予算決算常任委員会福祉厚生分科会
予算決算常任委員会経済建設分科会
３月１２日（火曜日）　総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会
福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会
経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
３月１３日（水曜日）　休　会
３月１４日（木曜日）　休　会
３月１５日（金曜日）　休　会
３月１６日（土曜日）　休　会
３月１７日（日曜日）　休　会
３月１８日（月曜日）　予算決算常任委員会
３月１９日（火曜日）　休　会
３月２０日（水曜日）　休　会
３月２１日（木曜日）　休　会

３月２２日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第６号…… 305
２．本日の会議に付した事件…… 305
３．出席議員氏名…… 305
４．欠席議員氏名…… 306
５．説明のため出席した者の職氏名…… 306
６．事務局職員出席者…… 307
７．開　議…… 308

８．日程第１　各常任委員長報告…… 308
・総務文教常任委員長報告…… 308
・福祉厚生常任委員長報告…… 311
・経済建設常任委員長報告…… 312
・予算決算常任委員長報告…… 314
休　憩…… 322
開　議…… 322
委員長報告に対する質疑…… 322
討論…… 322
（１）東　奈津子さん討論…… 322
（２）荒木崇之君討論…… 325
採決…… 325
討論…… 327
（１）東　奈津子さん討論…… 327
（２）荒木崇之君討論…… 328
（３）緒方哲郎君討論…… 328
採決…… 330
討論…… 330
（１）東　奈津子さん討論…… 330
採決…… 331
９．日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について…… 331
10．追加議事日程（第６号の追加１）…… 332
追加日程第１　決議案第１号　上程・説明…… 332
休　憩…… 333
開　議…… 333
猿渡美智子さん発言の申し出…… 333
質疑…… 333
討論…… 333
（１）城　典臣君討論…… 333
採決…… 334
追加日程第２　決議案第２号　上程・説明・質疑…… 334
討論…… 336
（１）東　奈津子さん討論…… 336
（２）二ノ文伸元君討論…… 336

（３）田中教之君討論…… 337
（４）木下雄二君討論…… 338
採決…… 339
11．閉　会…… 339

第　１　号

２月２５日

平成３１年第１回菊池市議会定例会

議事日程　第１号

平成３１年２月２５日（月曜日）午前１０時開議

第１　会議録署名議員の指名
第２　会期の決定
第３　議案第　３　号　菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会条例の制定について
　　議案第　４　号　菊池市上水道事業運営審議会条例の制定について
　　議案第　５　号　菊池市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第　６　号　菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
　　議案第　７　号　菊池市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
　　議案第　８　号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第　９　号　菊池市地域福祉計画策定委員会条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第１０号　菊池市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第１１号　菊池市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第１２号　菊池市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第１３号　菊池市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について
　　議案第１４号　菊池市幼稚園民営化検討委員会設置条例を廃止する条例の制定について
　　議案第１５号　菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会条例を廃止する条例の制定について
　　議案第１６号　平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）

議案第１７号　平成３０年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）
議案第１８号　平成３０年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）
議案第１９号　平成３０年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第４号）
議案第２０号　平成３０年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
議案第２１号　平成３０年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
議案第２２号　平成３０年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）
議案第２３号　平成３０年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第３号）
議案第２４号　平成３０年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）
議案第２５号　平成３０年度菊池市水道事業会計補正予算（第４号）
議案第２６号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算
議案第２７号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市国民健康保険事業特別会計予算
議案第２８号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市後期高齢者医療事業特別会計予算
議案第２９号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市介護保険事業特別会計予算
議案第３０号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市公共下水道事業特別会計予算
議案第３１号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算
議案第３２号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市地域生活排水処理事業特別会計予算
議案第３３号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市農業集落排水事業特別会計予算
議案第３４号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市特別養護老人ホーム特別会計予算
議案第３５号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市水道事業会計予算
議案第３６号　財産の無償譲渡について
議案第３７号　調停の申立てについて

議案第３８号　熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結について

まで一括上程・説明

第４　報告第 ２ 号　専決処分の報告について（除草作業事故）

上程・報告・質疑

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議案第 ３ 号　菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会条例の制定について

議案第 ４ 号　菊池市上水道事業運営審議会条例の制定について

議案第 ５ 号　菊池市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 ６ 号　菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第 ７ 号　菊池市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第 ８ 号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 ９ 号　菊池市地域福祉計画策定委員会条例の一部を改正する条例の制定について

議案第１０号　菊池市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

議案第１１号　菊池市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

議案第１２号　菊池市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第１３号　菊池市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について

議案第１４号　菊池市幼稚園民営化検討委員会設置条例を廃止する条例の制定について

議案第１５号　菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会条例を廃止する

条例の制定について

議案第１６号　平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）

議案第１７号　平成３０年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）

議案第１８号　平成３０年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）

議案第１９号　平成３０年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第４号）

議案第２０号　平成３０年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）

議案第２１号　平成３０年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）

議案第２２号　平成３０年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）

議案第２３号　平成３０年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第３号）

議案第２４号　平成３０年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）

議案第２５号　平成３０年度菊池市水道事業会計補正予算（第４号）

議案第２６号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算

議案第２７号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市国民健康保険事業特別会計予算

議案第２８号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市後期高齢者医療事業特別会計予算

議案第２９号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市介護保険事業特別会計予算

議案第３０号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市公共下水道事業特別会計予算

議案第３１号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算

議案第３２号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市地域生活排水処理事業特別会計予算

議案第３３号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市農業集落排水事業特別会計予算

議案第３４号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市特別養護老人ホーム特別会計予算
議案第３５号　平成３１年度（２０１９年度）菊池市水道事業会計予算
議案第３６号　財産の無償譲渡について
議案第３７号　調停の申立てについて
議案第３８号　熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結について
まで一括上程・説明
日程第４　報告第 ２ 号　専決処分の報告について（除草作業事故）
上程・報告・質疑

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之　君
２番	福　島　英　徳　君
３番	緒　方　哲　郎　君
４番	後　藤　英　夫　君
５番	平　　直　樹　君
６番	東　　奈津子　さん
７番	坂　本　道　博　君
８番	水　上　隆　光　君
９番	猿　渡　美智子　さん
１０番	松　岡　　譲　君
１１番	荒　木　崇　之　君
１２番	柁　原　賢　一　君
１３番	工　藤　圭一郎　君
１４番	城　　典　臣　君
１５番	大　賀　慶　一　君
１６番	水　上　彰　澄　君
１７番	二ノ文　伸　元　君
１８番	泉　田　栄一朗　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	山　瀬　義　也　君

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	芳野勇一郎　君
政策企画部長	元島加奈子　さん
総務部長	上田俊介　君
市民環境部長	古田浩敏　君
健康福祉部長	中村隆純　君
経済部長	谷田　修　君
建設部長	淵邉政博　君
七城支所長	楳田邦昭　君
旭志支所長	岩根卓士　君
泗水支所長	坂本忠弘　君
財政課長	上田敏雄　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩　君
市長公室長	前川幸輝　君
教育長	渡邉和博　君
教育部長	大山堅四郎　君
農業委員会事務局長	坂本高秀　君
水道局長	大塚忠康　君
監査委員事務局長	清田幸臣　君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治　君
事務局課長	歌岡憲一　君
課長補佐	松原憲一　君
議会係長	安武則貴　君
議会係	吉岡結加里　さん

午前１０時００分　開会

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立願います。

（全員起立）

おはようございます。

着席ください。

ただいまの出席議員は２０名です。定足数に達していますので、ただいまから平成３１年第１回菊池市議会定例会を開会します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　ここで、日程に先立ちまして諸般の報告をいたします。

２月７日に、全国広域連携市議会協議会総会が東京都で開催され、平成３１年度の本協議会活動方針等について協議しました。

次に、監査委員から平成３１年１月分までの一般会計・特別会計並びに企業会計に関する例月出納検査報告があっておりますので、ご報告いたします。

なお、詳細については、それぞれ事務局に備えつけの書類により、ご承諾いただきたいと思います。

以上で、諸般の報告を終わります。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時０１分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（柁原賢一君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定により、緒方哲郎君及び後藤英夫君を指名します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第２　会期の決定

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期につきましては、議会運営委員会におきまして、本日から３月２２日までの２６日間とすることに結論を見ておりますが、これにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、会期は本日から３月２２日まで

の２６日間と決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第３　議案第３号から議案第３８号まで一括上程・説明

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第３、議案第３号から議案第３８号までの３６案件を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、皆様、おはようございます。

本日、平成３１年第１回菊池市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、本会議にご出席をいただき、まことにありがとうございます。

本定例会の会期につきましては、先ほどご決定をいただきましたように、本日から３月２２日までの２６日間の日程でご審議をお願いするものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただいま上程されました議案の提案理由の説明に先立ちまして、まず平成３１年度における私の市政運営に関する基本的な考え方と予算の概要についてご説明申し上げ、議員各位を初め、市民の皆様にご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

ことしは平成最後の年となり、５月には新しい天皇が即位され、元号も変わり、新しい時代の幕あけを迎えます。

そのような中、我が国の経済情勢は、景気は緩やかに回復していると判断され、先行きについても緩やかな回復が続くとの見方がなされています。日欧ＥＰＡの発効等による経済のグローバル化が進み経済発展への期待が高まる一方で、中国の経済成長率の低下が景気に悪影響を及ぼすことも懸念されています。地方においても、こうした経済のグローバル化による影響は避けられないところであり、世界の動向を踏まえながら地域経済の活性化に取り組む必要があります。

国においては、人口減少時代に突入したことを受け、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、目指すべき将来の方向を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定しました。本市においても、人口減少・高齢化が大きく進展しており、「経済」「市民生活」「医療・福祉」「まちづくり」の各分野に影響を与えることが懸念されています。人口減少に歯どめをかけるとともに、人口流出を抑制するために、地方創生を効果的、確実に推進していく必要があります。

一方、昨年は、一年の世相をあらわす漢字に「災」の字が選ばれるほど、全国各地で台風や大地震などが相次ぎ、大きな自然災害に見舞われました。幸い、本市に

おいては大きな被害はありませんでしたが、従来の知見では予測しがたい異常気象が続き、備えの重要性を痛感させられました。引き続き、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。

また、本市財政の現状は、比較的健康体ですが、公共施設などはかなりメタボの状態です。少子高齢化の進展を見据え、今のうちに筋肉質な財務体質に変えていくことは、未来の世代に対する私たちの責務と考えます。本市の将来にわたる持続的な発展に向け、財政基盤を強化することは必要不可欠であります。

それでは、今定例会に提案しています、平成３１年度（２０１９年度）の予算編成方針について述べさせていただきます。

歳入については、市税や今般見直しを行った使用料及び手数料は微増となっているものの、国・県支出金を初めとするその他の収入については、おおむね減少が見込まれています。

歳出については、既存公共施設の更新や改修、インフラの再整備などの老朽化対策に係る経費の増加、また、少子高齢化の進展により、社会保障関係費等の経常経費の増加も見込まれます。

さらには、熊本地震関連の市債償還も始まることから、今まで以上に計画的な行財政運営が求められるところです。

このような財政状況を踏まえ、総合計画前期基本計画から見えてきた成果と課題についての検証結果を生かしながら、本年度は、歳出の重点化、効率化を図り、必要性、緊急性の高い事業に優先的に取り組むなど、健全な財政運営に配慮し、編成しました。

この結果、平成３１年度（２０１９年度）一般会計予算の総額は２８３億８，７００万円となり、前年度当初予算額と比較して９億１，１００万円の減額となっています。

次に、市政執行の基本的な考え方について述べさせていただきます。

これまで、マニフェストに掲げた六つのまちづくり戦略について取り組み、幾つかの成果があらわれてきています。本年度は、その成果を確実なものにするために、なお一層しっかりと取り組んでまいります。

災害に強いまちづくりについては、市民の安全・安心の暮らしの構築に努めるとともに、熊本地震発生より３年近くを経過しても、いまだみなし仮設住宅や市営住宅等に入居されている被災世帯について、住まい再建に向けた支援や見守り活動を継続します。

人が集まる魅力のまちづくりについては、市民広場の整備や菊池渓谷の復旧、着地型・体験型観光メニューの開発に力を入れてきました。本年は、菊池の安心・安

全な食材を生かしたグルメ戦略の具体化に加え、菊池一族の歴史文化遺産を活用した地域活性化プロジェクトをスタートさせ、菊池ファンや関係人口をふやし、経済を活性化して市政発展につなげます。

未来につながる農業力については、米日本一などのブランド戦略とインターネットショップなどの販路拡大に努めてきました。本年度は、農地の集積、営農の組織化やほ場整備など、農業を行うための基盤の強化に取り組むとともに、ロボット技術やＩＣＴを活用して省力化や高品質生産等を実現するスマート農業を推進します。

明日を担う人材育成については、まちづくりのリーダーを育てる若者向けの講座を初め、商業者向け、新規就農・担い手向け、小中学生向けなど、世代・職種ごとに講座やセミナー等を実施してきました。引き続き、次世代リーダーの育成に取り組むとともに、グローカルビレッジ構想事業等により、ＩＣＴを活用できる人材の育成を推進します。

人と環境にやさしいまちづくりでは、子育て環境の充実や高齢者の生きがいづくりに注力するとともに、健康づくり都市宣言のもと、市民の健康づくりを推進してきました。引き続き、子どもから高齢者までが笑顔で健康に暮らせるまちを目指します。

また、暮らしの環境については、循環型社会の構築と自然景観の保全に取り組んできました。本年は、畜産バイオマスを用いた再生可能エネルギーの導入に向けた取り組みを進めるとともに、引き続き市民と一体となった美しい自然景観の保全と活用に取り組みます。

働き方改革と行政サービスの改善については、費用対効果を重視した、迅速で質の高い市民ファーストの行政サービスの提供を目指してきました。今後、ＩＣＴの活用による市業務の効率化を進めるほか、公共施設や補助金の見直しなど、引き続き行財政基盤の強化に努めます。

なお、目まぐるしく変わっていく時代に的確に対応し、本市のさらなる飛躍につなげるため、さまざまな分野において知見を持つ専門家、有識者から、菊池の可能性について意見を伺う機会を設けます。

また、昨年は市役所の業務そのものの品質が問われる事案が発生しました。このようなことは市民の信頼を揺るがすものであり、まことに遺憾であります。市職員一丸となっていま一度基本に立ち返り、自覚と緊張感、使命感をもって、全力で市民の信頼回復に努めます。

以上のことを踏まえ、具体的には次の主要施策に取り組んでまいります。

まず一つ目は、豊富な資源を活用する元気な産業づくり、すなわち、産業と経済についてであります。

観光戦略については、完成した市民広場を活用し、市民や観光客の交流と賑わいを創出するとともに、各種イベントや新たに開発した菊池を満喫する体験型観光メニューなどを、パブリシティやＳＮＳを効果的に活用して全国に発信し、観光客誘致につなげます。

特に本年は、菊池一族第１５代当主・菊池武光公の生誕７００周年の節目を迎えます。これを好機と捉えて、一族の歴史文化遺産を活用した地域活性化プロジェクトをスタートします。また、全国の菊池（菊地）さんや九州管内に所在している菊池一族関連自治体との交流・連携を図るなど、本市への集客や関係人口の増による経済の活性化につなげます。

菊池渓谷については、関係機関と連携して渓谷内の整備に引き続き取り組むとともに、情報発信と交流促進を行うビジターセンターとして渓谷館を整備し、来訪者の増加と市内への誘導に努めます。

ヘルスツーリズム（スマートライフステイ）については、観光産業、健康産業の発展につながるよう、宿泊型新保健指導プログラムの充実と情報発信に努め参加者の拡大を目指します。

グリーンツーリズムについては、きくちふるさと水源交流館のイデベンチャーが、スポーツ文化ツーリズムアワード２０１８で入賞するなど、大きな成果を上げています。今後は、本市の自然を活用した新たなプログラムの開発や他の観光資源と連携を図り、魅力ある取り組みとして発展させます。

農家民泊は、インバウンドによる日本の田舎暮らし体験が人気となっています。菊池ふるさと体験協議会が中心となって取り組んでいる農家民泊については、体験イベントの開発やＳＮＳによる情報発信を行い、取り組みを強化します。

日本一の桜の里を実現するために、菊池桜千年プロジェクトを立ち上げ、河川堤防や道路沿いへの植樹を進めてきた桜並木は、平成２９年度までの５年間で約５．４キロメートルとなりました。今後も、地域の皆様と連携・協力しながら日本一の桜の里づくりを推進します。

農業については、農業後継者や新規就農者など、これからの地域の中心となる担い手農家の育成は極めて重要であります。今後も、農業に関する情報提供を行うとともに、日本農業経営大学校を運営するＡＦＪと連携し、経営セミナー等を開催することで、人材の育成・強化を図ります。

また、新規就農者の支援としては、国の農業次世代人材投資資金と本市単独の新規農業就業奨励金を活用し、地域営農を支える担い手農業者としての育成を図ります。

さらに、農業の省力化、高度化については、昨年から実施しているアグリサイエ

ンスパーク構想事業を初めとするロボット技術や、ＩＣＴなどの先端技術を利用したスマート農業の実現に向けた取り組みを進め、農畜産物の品質や生産性の向上を図ります。

米日本一戦略については、菊池米食味コンクールを通じた良質な米づくりを引き続き実施し、市場関係者及び消費者へのＰＲを行うなど、米どころ菊池の情報発信と菊池米の一層のブランド化を図ります。あわせて、九州各県自治体と協力し、九州米食味コンクールの開催を通じて、九州の米どころとしての確立を目指します。

担い手農業者の高齢化や農業後継者の減少、耕作放棄地の発生防止や解消については、個々の農業経営から集落営農組織への展開を図り、法人化をさらに推進します。あわせて、地域の中心となる担い手への農地集積を推進し、農業生産の効率化と農業者の所得向上を図ります。

全国第４位の農業産出額を誇る畜産業については、さらなる経営基盤の強化を図るため、優良な家畜の導入に対する市単独の補助を初め、国・県の補助事業を活用した支援を引き続き行います。また、県と連携し、家畜防疫対策や畜産環境問題についての啓発強化に努めます。

菊池基準による安心・安全な農産物等をインターネット販売する、菊池まるごと市場については、取扱商品の魅力化とさまざまな機会を通じ全国の消費者や企業などへのＰＲを強化し、販路拡大と収益向上に努め、自立した経営を目指します。

農業生産基盤の強化については、現在実施しています県営事業３地区、団体営事業１地区に加えて、昨年度新規採択されました４地区の県営事業を進めます。そのほかにも、農業用施設等の整備や未整備地区における農業基盤の強化を推進します。

林業については、作業路・作業道の開設費用の補助や造林事業のかさ上げ補助、間伐材生産及び流通経費の補助を実施し、林業経営者の森林整備に対する意欲を喚起し、適正な森林管理と木材の安定供給を図りながら林業振興を推進します。

福岡都市圏や熊本都市圏等からの誘客を図るため、商工会や観光協会及び民間事業者と連携し、グルメ菊池を展開します。具体的には、創業支援事業により空き店舗や古民家などを活用した、特色ある飲食店の新規出店を促進します。

市内商工業の活性化については、地域リーダーの育成が必要と考えます。昨年度から実施していますキーパーソン事業において、商工会若手リーダー候補が提案した企画の実現に向けてフォローアップを行います。

また、起業を考えている方を対象に、必要な情報提供を行いながら、商工業への新たな参入を促進します。あわせて、経営者の高齢化や後継者不足の問題を克服し事業を継続するために、事業承継についても商工会と連携して支援します。

主要施策の二つ目、学び合いと地域が育む人づくり、すなわち、教育と文化につ

いてであります。

子どもたちの生きる力を育むため、特別な教育的支援が必要な児童・生徒に対して、学習指導補助・介助を行う市単独の補助教員や特別支援教育支援員を引き続き配置し、教育支援体制の充実を図ります。

また、意欲と能力があり、国や社会の発展に貢献することが期待される子どもたちが、経済的な理由により高校や大学への進学を断念することがないよう、引き続き、給付型奨学金である菊池市教育振興小川基金を活用し支援します。

学校施設については、小中学校の長寿命化計画に基づき、計画的なバリアフリー化、老朽化対策を引き続き行います。また、国の新たな施設整備方針が示されたことを受け、全１５校を対象とした公立学校施設の個別施設計画を策定します。

明日の菊池を担う中学生の学習体験プログラムである、宿泊型研修の「森の学校・きくち」及び「プラチナ未来人財育成塾」への中学生派遣を継続して実施します。また、小学生については、「笑育」事業の対象校を拡大し、子どもたちの自発性やコミュニケーション能力の向上を目指します。

新たに始まるプログラミング教育や不登校等の問題など高度で困難な教育課題については、専門家の協力が必要なことから、関係機関や大学等と連携を図り、知見を深め、課題解決に努めます。

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を持ち、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える必要があります。そのため、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働する地域学校協働活動の取り組みを推進します。

生涯学習センターＫｉＣＲＯＳＳについては、既に多くの市民の皆さんにご利用いただいておりますが、取り組みをさらに充実させ、市民が集い・学び・つながる生涯学習・社会教育の拠点として機能向上・利用促進に努めます。

特に図書館については、新たなニーズへの対応として電子図書館サービスの充実を図るとともに、仮称でありますが、菊池文化研究所として本市の貴重な歴史・文化資料の収集整理、情報発信に努めます。

また、公民館については、生涯学習・地域づくりの拠点として講座の充実を図り、さまざまな地域社会の課題解決に向けた市民力の向上や自己実現の支援に努めます。さらに、郷土芸能等の後継者育成を視野に講座を開設し、人材育成に努めます。

全国高等学校総合体育大会ボート競技が、本年８月に菊池市斑蛇口湖ボート場で開催されますので、選手・関係者の皆様をおもてなしの心でお迎えします。また、ボート競技の国内外からの合宿誘致に向け、施設の整備を含め取り組みを進めます。

さらに、２０２０年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、

ボート競技の事前キャンプ誘致に努めるとともに、市民の機運の醸成を図ります。

若者視点で菊池の未来を切り開いていく人材の育成を目的に、まちづくり人財育成事業「フューチャーラボＫＩＫＵＣＨＩ」を引き続き実施します。全国のまちづくりの最新動向を学ぶ講座、菊池の地域資源を活用した事業化を目指す講座、ワークショップ等を実施し、受講した若者がネットワークを広げ、活気あふれるまちづくりに向けた活動ができるよう支援します。

文化庁より認定を受けた菊池川流域の日本遺産事業については、関係する３市１町で連携を深めながら、文化財を活用した魅力発信事業やガイド育成に努めます。

また、鞠智城跡の国営公園化に向けては、引き続き認知度向上及び地域の機運の醸成を図るため、県や山鹿市と共同で鞠智城の日のイベントを開催するなどＰＲ活動に取り組みます。

全ての人がみずからの意思で個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するため、意識啓発に努め、女性の活躍推進や働き方改革のための研修や市民講座等を開催します。また、多様な視点による施策が実施されるよう各種審議会等への女性登用の推進に取り組みます。

人権問題についての理解と認識を深め、差別意識を解消し、差別のない明るいまちづくりを目指すため、継続して人権教育・啓発事業に取り組みます。また、さまざまな機会を捉え、部落差別解消推進法、障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法や本人通知制度の周知を図ります。

その他、ＬＧＢＴなど性的少数者の方々への配慮として、申請書などから性別記載欄をなくす取り組みも始めました。また、昨年実施した、人権に関する市民意識調査の結果も踏まえ、人権教育・啓発基本計画の見直しを行います。

主要施策の三つ目、みんなで支えあう生涯にわたる安心づくり、すなわち、保健と福祉についてであります。

保健、医療、福祉、教育等、多くの部署にわたっている子育ての相談窓口を一元化した、子育て世代包括支援センターを設置します。センターについては専門職員を配置し、子育てサービスについての情報の提供や相談を行うとともに、関係部署との連携や関係機関との連絡調整を行うなど、妊娠から出産、子育てに関する切れ目のない支援を行います。

いきいき１００歳体操などを行う通いの場について、立ち上げや継続的活動の支援を行い、介護予防及び高齢者相互の交流促進を図ります。また、認知症の人に優しいまちづくりを目指し、認知症サポーターの養成を継続します。

つまごめ荘の民営化については、民営化基本方針並びに民営化実施計画書に沿って、２０２０年４月をめどに、円滑に移譲先法人へ譲渡できるよう進めます。

平成３０年度に策定した第３期菊池市地域福祉計画の基本理念である「ともにつながり支え合い、誰もが安心して暮らせる菊池」の実現に向けて、地域支え合いの意識づくりを進めるとともに、民生委員・児童委員等の福祉活動を支援し、地域福祉のさらなる充実に努めます。

障がい者福祉については、菊池市障がい者計画に基づき、障がい者・障がい児の自立と社会参加を推進するため、一人ひとりのニーズに即した障がい福祉サービスが適切に利用できるよう、関係機関との連携を図りながら地域での生活を支援します。また、障がい者差別の解消と障がいの特性などに応じた配慮の提供について、関係課と連携し啓発活動等を実施します。

健康づくり都市宣言のもと、健康づくり活動のきっかけづくりや健康診断の受診率向上を図るために、健康ポイント事業を実施します。

市民の健康寿命を延ばすことは、個人の暮らしを豊かにするとともに、医療費の縮減にもつながります。そのため、特定健診受診率の向上を目指し、未受診者への啓発や個々の状況に合わせた受診勧奨を行うとともに、医療機関と連携し、個別健診等を進めます。あわせて、レセプト・健診データを活用して糖尿病重症化予防対策などの保健事業を充実していきます。また、マンモグラフィを活用した乳がん検診の受診率の向上に引き続き努めます。

主要施策の四つ目、自然の恵みを守る安全なまちづくり、すなわち、自然環境と安全についてであります。

地下水保全については、引き続き熊本大学と共同して地下水の水質調査及び監視を行います。また、硝酸性窒素濃度上昇の原因の一つと考えられている家畜排せつ物の野積み等、不適切な処理に対し、パトロール等によるほ場の確認を行い、県を初めとする関係機関と連携した指導を行います。

さらに、七城地区の地下水対策が必要な地域については、応急的対策としての浄水器設置補助制度を継続します。あわせて、七城地区における今後の飲用水対策について、地域住民のご意見を伺いながら検討を進めます。

農地の保全については、国の中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金等を有効に活用し、集落ごとの共同活動を行う組織に対し支援を行い、中山間地域を初めとする農地の活用・保全に努めます。

有害鳥獣対策については、農作物の被害が拡大していることから、狩猟免許取得者に対する補助を行い、捕獲隊員の確保を図るとともに、個体数調整や侵入防止柵の設置を推進し、農作物の被害防止に努めます。

森林の保全については、森林経営管理制度の構築に向け、新設された森林環境譲与税を活用し、今後の体制づくりに必要な林地台帳の整備及び森林所有者の意向調

査を行います。

古川兵戸井手、原井手、築地井手、今村井手・宝永隧道については、世界かんがい施設遺産の登録を目指すとともに、かんがい施設の継続的な活用・保全に努めます。

畜産バイオマスの活用については、これまで研究・調査を進めてきた畜産バイオマスを用いたエネルギー転換システムの導入に向け、国のバイオマス産業都市構想に応募し、産業都市として認定を受けることを目指します。

２０２１年４月に予定されている菊池環境保全組合新環境工場の供用開始に伴い、市内全域が同組合の処理区域となることから、泗水地区を除く全地区で、ごみの分別方法が変わることとなります。新しい分別方法になれていただくため、出前講座を開設するとともに、ごみ分別冊子の配付や広報紙等による周知及び理解促進を図ります。

また、新環境工場建設予定地周辺地域における生活環境改善事業にも引き続き取り組みます。

各行政区や小中学校より改善要望があった通学路等については、区画線の引き直しやグリーンベルトの設置、交差点部の着色などの整備を行うとともに、防犯カメラや防犯灯を設置し、通学路等における安全性の向上に努めます。

本市で開催する菊池・合志・菊陽合同の防災士育成講座や、県主催の火の国ぼうさい塾を活用し、各行政区の地域リーダーとして防災士を計画的に育成します。また、菊池市防災士協会と協力しながら、地域の防災・減災のための啓発に努めるとともに、防災士のスキルアップにも取り組みます。

きくち防災・行政ナビは、瞬時に災害情報を伝達できる有用性が高いシステムです。現在、各区長に配付しています専用端末（タブレット）は、相互間の情報共有が可能であり、災害時の情報収集に役立っています。また、スマートフォンアプリについては、多くの市民の方に導入いただいていますが、さらに利用者の増加を図るため、さまざまな機会を活用し啓発に努めます。

市民参加型総合防災訓練については、秋に七城地区を会場として開催し、市民の防災意識の高揚を図ります。

また、熊本地震による被災宅地の復旧を支援し、被災者の負担を軽減することにより被災者の生活再建を図るとともに、戸建て住宅について今後に備えた住宅の耐震性を強化するための支援を行います。

主要施策の五つ目、快適で便利に暮らせる基盤づくり、すなわち、都市基盤と生活基盤についてであります。

公共交通については、あいのりタクシー６地域路線で１日最大３往復６便の運行

を、４往復８便に増便するとともに、観光あいのりタクシーについては運行日の見直しを行います。

また、昨年実施した、公共交通に関するアンケートでは、「現在は公共交通を利用しないが、将来的に利用する」という回答が多く寄せられました。これからの超高齢化社会を見据えた今後の交通システムについては、引き続き検討を行っていきます。

市民の憩いの場となっている鴨川公園については、運動公園や菰入新橋のかけかえなど、周辺施設と一体的に整備します。また、森まちプロジェクト事業により、市街地に癒しの空間をつくるため、引き続き緑のポケットパークの整備や植栽を行います。さらに、ガーデニングコンテストや寄せ植え講習会を開催し、景観マイスターとともに市民参画型の花いっぱいのまちづくりを進めます。

移住・定住の促進については、空き家バンク制度を活用した移住希望者と空き家所有者とのマッチング、お試し住宅の活用、移住体験事業等を引き続き実施します。また、都市部での相談会や市ホームページの移住・定住サイトを有効に活用しながら、関連する事業との連携を図り、菊池ファンをふやす取り組みを進めます。

国県道については、国道３２５号の４車線化、国道３８７号の花房交差点の改良、県道原植木線、菊池赤水線等の整備を中心に、未改良区間の整備要望を引き続き行います。また、市道については、現在着手している路線の早期完了を目指すとともに、長寿命化計画をもとに道路橋りょうの適切な維持管理に努めます。

公営住宅については、施設の計画的かつ効果的な維持管理を推進するとともに、長寿命化のための整備を行うなど、既存住宅の有効活用を図ります。また、空き家対策については、空家等対策計画に基づき適正な管理促進等に努め、効果的な空き家対策に取り組みます。

水道事業については、２０２０年から１０年間の方針を示した水道ビジョンの策定に取り組みます。また、井戸の掘削が完了した大琳寺第二水源池及び旭志西部第三水源池の整備を行うとともに、老朽化した水道管の布設替工事等を行い給水区域内への水道水の安定供給を図ります。

下水道事業については、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である経営戦略の策定に取り組みます。また、処理場の老朽化対策として改築更新に取り組むとともに、富の原工業団地周辺の管渠整備を進めます。なお、浄化槽区域内については、引き続き市町村設置型の設置啓発に努めます。

主要施策の六つ目、開かれた市政と行財政の効率化についてであります。

市職員としての信頼回復を果たすため、事務管理・執行体制を見直すとともに、

危機管理のための実務的な研修を実施します。あわせて、それぞれの担当部署において係ごとの小グループで、継続的に事務品質やサービスの管理改善を行うＱＣサークル活動に取り組みます。

また、社会情勢が刻々と変化する中、高次の政策形成力や問題解決力を持った職員の育成は喫緊の課題です。このようなことから、行政課題に対応する知識や技能の習得、能力の向上を図るため、国・県及び関係機関への派遣研修を継続して実施します。さらに、地方創生に向けた人材育成に関する連携協定を締結した一般財団法人地域活性化センターと連携し、地方創生の実現を目指した人材の育成を行います。

平成３０年度に策定する情報化推進基本方針及び情報化推進アクションプランをもとに、情報システムの調達の適正化や所管課の情報システム関連事務の効率化等を進めます。また、ＩＣＴを活用した利便性の高い行政サービスの実現にも積極的に取り組みます。

次世代につなぐ健全で安定した行財政基盤の確立と業務改革による市民サービスの満足度向上は言うまでもなく行政の重要な責務であり、緩みなく行政改革に取り組む必要があります。本年度は、第三次行政改革大綱の計画期間の終了を迎えますが、引き続き将来にわたって持続可能な自治体運営を行うため、第四次行政改革大綱を策定します。

支所庁舎については、有効活用に向けて方針を整理した、菊池市支所庁舎施設利活用基本計画に沿って整備を行います。旭志支所は、老朽化した現庁舎を解体し、コンパクトで使い勝手のよい庁舎へ建てかえます。泗水支所は、空きスペースを利活用し、菊池市母子等保健センターとの複合施設として改修します。また、七城支所は、利活用基本計画の内容を踏まえ、地域団体の代表者による懇談会や七城区長協議会からの要望を受け、現庁舎を解体し規模縮小による建てかえ方針を決定しましたので、基本設計・実施設計を行います。

以上、六つの主要施策について述べさせていただきましたが、早いもので、市政をお預かりしまして２期目の折り返しを迎えました。

これまで進めてきました、癒しの里づくりについては、議員の皆様を初め、幅広い市民の皆様のご支援、ご協力を得て、芽が出、花が咲き始めるなど、少しずつではありますが成果が出てきていると受けとめております。しかしながら、全体としてみれば、まだまだ、道半ばであり、平成３１年度（２０１９年度）においても真摯に取り組み、今後さらに加速させてまいりたいと考えております。

また、市政をお預かりして深く感ずることは、古代中国の管子の言葉に、「一年の計は穀物を植えるに如くはなく、十年の計は木を植えるに及ぶものはなく、終身

の計は人を育てるにまさるものはない」とあるように、市の長期的な発展を支えるのは何より人であり、人材の育成が何よりも大切ということです。

今後とも、将来の菊池市を担う人材育成に力を注ぐとともに、知のネットワークづくりを進め、市民と一体となって魅力あふれる菊池市をつくり、市民の誰もが幸せを実感できる「安心・安全の『癒しの里』きくち」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

以上、平成３１年度における私の市政運営に関する基本的な考え方を述べさせていただきました。

それでは、上程されました議案につきましてご説明申し上げます。

議案第３号は、地方自治法の規定により、執行機関の附属機関を設置する、菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会条例の制定、議案第４号は、同じく地方自治法の規定により、執行機関の附属機関を設置する、菊池市上水道事業運営審議会条例の制定、議案第５号は、働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う、菊池市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正、議案第６号は、国家公務員の特別職の給与改定及び熊本県特別職の給与改定に伴う、菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部改正、議案第７号は、人事院勧告及び熊本県人事委員会勧告による公務員の給与改定に伴う、菊池市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正、議案第８号は、上水道事業運営審議会、在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会の設置等に伴う、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正、議案第９号は、社会福祉法の一部改正に伴う、菊池市地域福祉計画策定委員会条例の一部改正、議案第１０号は、厚生労働省令の一部改正に伴う、菊池市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正、議案第１１号は、介護保険法の一部改正に伴う、菊池市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正、議案第１２号は、学校教育法などの一部改正に伴う、菊池市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部改正、議案第１３号の菊池市立幼稚園条例、議案第１４号の菊池市幼稚園民営化検討委員会設置条例及び議案第１５号の菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会条例の３条例につきましては、菊池市立泗水幼稚園の民営化に伴う廃止条例でございます。

次に、議案第１６号、平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）につきましては、予算の総額から１４億５，３８６万１，０００円を減額するものでございまして、補正の内容としましては、事業費の最終見込み額の確定に伴う減額補正が主なものでございます。

議案第１７号から議案第２５号までは、各特別会計及び水道事業会計の補正予算でございまして、その主なものとしましては、菊池市介護保険事業特別会計の歳入である介護費給付費負担金の確定見込みや、歳出事業費の確定見込みなどによる減額、菊池市公共下水道事業特別会計の処理場改築更新事業に係る国からの交付金の減額に伴い、事業費を見直したことなどによる減額補正などでございます。

また、別冊となっております、議案第２６号から議案第３５号までの１０議案につきましては、平成３１年度の当初予算でございます。

議案第３６号、財産の無償譲渡は、菊池市立泗水幼稚園の建物及び物品等を無償譲渡するに当たり、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第３７号、調停の申立てにつきましては、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするもので、相手方の住所及び氏名、申し立ての要旨、遂行の方針は、記載のとおりでございます。

議案第３８号、熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結については、地方公共団体が連携して事務を処理するための連携協約の締結について、議会の議決をお願いするものでございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　ここで、１０分間休憩します。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午前１０時４６分

開議　午前１０時５３分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　皆様、おはようございます。

それでは、提案いたします議案第３号から議案第３８号までの３６議案につきまして、一括して説明いたします。

議案書その１の１ページをお願いいたします。

議案第３号、菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会条例の制定についてでございます。

地方自治法の規定により、執行機関の附属機関の設置について条例を定めるもの

で、医療、介護及び福祉の各分野における連携を円滑に推進するための協議会の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとなっており、２ページから３ページまでが条例案でございます。

第１条で連携を推進するための協議会の設置、第２条で所掌事務、第３条で組織、第４条で任期、その他委員会の運営に関し、必要な事項を定めるものでございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、５ページをお願いいたします。

議案第４号、菊池市上水道事業運営審議会条例の制定についてでございます。

同じく地方自治法の規定により、執行機関の附属機関の設置について、条例を定めるもので、上水道事業の運営を調査、審議するための審議会の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとなっており、６ページから７ページまでが条例案でございます。

第１条で審議会の設置、第２条で所掌事務、第３条で組織及び任期、その他審議会の運営に関し、必要な事項を定めるものでございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、９ページをお願いいたします。

議案第５号、菊池市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律の施行に伴い、条例の一部を改正するもので、１０ページが条例案でございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、１１ページをお願いいたします。

議案第６号、菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてでございます。

国家公務員の特別職の給与改定及び熊本県特別職の給与改定に準じて、本市特別職の職員の給与を改定するために条例等を改正するもので、１２ページが条例案でございます。

なお、この条例は、公布の日から施行し、第２条及び第４条の規定は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、１３ページをお願いいたします。

議案第７号、菊池市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてでございます。

人事院勧告及び熊本県人事委員会勧告に基づき実施された公務員の給与改定に準じて、本市一般職の職員の給与を改定するために条例を改正するもので、１４ペー

ジから１９ページまでが条例案でございます。

なお、この条例は、公布の日から施行し、第２条及び第５条の規定は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、２１ページをお願いいたします。

議案第８号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

前述いたしました、菊池市上水道事業運営審議会、菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会の新規設置並びに後述いたします、菊池市幼稚園民営化検討委員会、菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会、菊池市母子保健推進委員等及び菊池市介護相談員の廃止に伴い、条例を改正するもので、２２ページが条例案でございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行し、幼稚園民営化検討委員会及び泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会を廃止する規定は、平成３２年４月１日から施行することとしております。

次に、２３ページをお願いいたします。

議案第９号、菊池市地域福祉計画策定委員会条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

社会福祉法の一部改正に伴い、条例を改正するもので、２４ページが条例案でございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、２５ページをお願いいたします。

議案第１０号、菊池市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

厚生労働省令であります放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、条例を改正するもので、２６ページが条例案でございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、２７ページをお願いいたします。

議案第１１号、菊池市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

介護保険法の一部改正に伴い、条例を改正するもので、２８ページから３１ページまでが条例案でございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、３３ページをお願いいたします。

議案第１２号、菊池市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管

理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

学校教育法及び技術士法施行規則の一部改正に伴い、条例を改正するもので、３４ページが条例案でございます。

なお、この条例は、平成３１年４月１日から施行することとしております。

次に、３５ページをお願いいたします。

議案第１３号、１４号、１５号の３議案は、関連する３本の廃止条例でございまして、議案第１３号、菊池市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について、３７ページの、議案第１４号、菊池市幼稚園民営化検討委員会設置条例を廃止する条例の制定について、３９ページの、議案第１５号、菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会条例を廃止する条例の制定について、以上の３議案につきましては、菊池市立泗水幼稚園の民営化に伴い、それぞれの条例を廃止するもので、３６ページ、３８ページ、４０ページがそれぞれの条例案でございます。

なお、３条例の廃止は、民営化を予定しております平成３２年４月１日から施行することとしております。

次に、議案書その２をお願いいたします。

議案書その２の１ページでございます。

議案第１６号、平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）でございます。

あけていただきまして、３ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から１４億５，３８６万１，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ２８７億２，１１７万８，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、事業費の最終見込み額の確定に伴う減額補正が主なものでございますが、それ以外の主なものについて説明をいたします。

まず、歳入について、事項別明細により説明いたします。

１４ページをお願いいたします。

最下段の款１０地方交付税５億１，３０４万２，０００円の増額は、普通交付税の交付額確定によるものでございます。

次に、１７ページをお願いいたします。

最下段の款１４国庫支出金、項１国庫負担金、目３民生費国庫負担金、節３児童福祉費負担金のうち、子どものための教育・保育給付費交付金７，１７４万７，０００円の増額は、保育所及び認定こども園への給付費の増額によるものでございます。

あけて、１８ページをお願いいたします。

２枠目の項２国庫補助金、目３民生費国庫補助金、節３児童福祉費補助金のうち、

保育所等整備交付金８，２７１万９，０００円の減額は、私立幼稚園の建設事業に対する補助金でございますが、事業実施が翌年度以降に延期となったことに伴う減額でございます。

同じく、目４衛生費国庫補助金、節２清掃費補助金の９，３０５万５，０００円の増額は、熊本地震による災害廃棄物処理事業費に対する補助金でございます。

受け入れ後、一旦、減債基金に積み立てを行い、事業の財源として発行しました災害対策債の元利償還が始まります平成３２年度に、償還金の財源として活用する予定としております。

１９ページをお願いいたします。

１枠目の目１０災害復旧費国庫補助金５，７２１万６，０００円の減額は、平成２８年度及び平成２９年度に大雨により被災した林道復旧事業に対する補助金の一部が、平成３１年度に交付されることになったことによる減額でございます。

あけて、２０ページをお願いいたします。

款１５県支出金、項２県補助金、目３民生費県補助金、節３児童福祉費補助金のうち、上から１段目の安心こども基金特別対策事業補助金７，３１５万９，０００円の減額は、先ほど国庫補助金で説明しましたとおり、私立保育園の建設事業の実施が翌年度以降に延期となったことに伴う減額でございます。

同じく、目５農林水産業費県補助金、節１農業費補助金のうち、次のページをごらんいただき、上から７段目の担い手確保・経営強化支援事業補助金５，３６２万９，０００円の増額は、１５件の事業主体が実施する農業用機械の購入等に対する補助金の増額でございます。

本事業は国庫補助金として１００％措置され、県を通じまして交付があり、市の負担はございません。

次に、２４ページをお願いいたします。

１枠目の款１６財産収入８，４３４万８，０００円の増額は、迫水小学校跡地、菊池ふれあいセンター跡地及び伊坂住宅跡地の売却に伴う増額でございます。

２枠目の款１７寄附金、項１寄附金、目１一般寄附金１億１，３４０万円の減額は、ふるさと納税の納付見込み額の確定に伴う減額でございます。

３枠目の款１８繰入金、項３基金繰入金、目２３企業誘致促進基金繰入金１億３，６３８万５，０００円の減額につきましては、誘致企業に対する補助金の一部について、翌年度に交付することになったことに伴う減額でございます。

同じく、目２７庁舎建設基金繰入金７，２６４万４，０００円の増額につきましては、庁舎建設関連事業費の確定見込みによる繰入金の増額でございます。

次に、２７ページをお願いいたします。

款２１市債につきましては、国の２号補正予算による事業実施のための補正予算債の増額及び事業費確定見込みによる市債の増減となっております。

戻っていただきまして、２４ページをお願いいたします。

３枠目の款１８繰入金、項３基金繰入金、目１財政調整基金繰入金につきましては、補正予算の財源調整でございます。

続きまして、歳出につきましてご説明いたします。

３０ページをお願いいたします。

款２総務費、項１総務管理費、目２人事管理費、事業２４退職手当組合経費４，８００万円の減額は、退職手当組合への負担金の確定によるものでございます。

次に、３４ページをお願いいたします。

目９地域振興費、事業６３ふるさと納税促進事業４，１６１万６，０００円の減額は、ふるさと納税納付額の確定見込みによる返礼品等の減額でございます。

次に、５１ページをお願いいたします。

款３民生費、項３児童福祉費、目５児童福祉施設費、事業１７１私立保育園経費、節１９負担金補助及び交付金のうち、子どものための教育・保育給付費負担金、保育所分５，３２４万７，０００円及び認定こども園分５，２６２万７，０００円の増額は、国が示す施設運営費の単価の上昇に伴い、負担金が増額となったものでございます。

同じく、事業１７２保育園等施設整備事業、１９負担金補助及び交付金２億３，３８１万７，０００円の減額は、歳入でご説明しました私立幼稚園の建設事業の実施が翌年度以降に延期となったことに伴う減額でございます。

次に、５５ページをお願いいたします。

款４衛生費、項１保健衛生費、目４環境衛生総務費、事業６８７熊本地震災害廃棄物処理基金活用事業９，３０５万５，０００円の増額は、歳入でご説明いたしました熊本地震による災害廃棄物処理事業費に対する補助金を、一旦減災基金に積み立てるものでございます。

次に、６２ページをお願いいたします。

款５農林水産業費、項１農業費、目３農業振興費、事業６８８担い手確保・経営強化支援事業５，３６２万９，０００円の増額は、歳入でご説明しました１５件の事業主体が実施する農業用機械の購入等に対する補助金の増額でございます。

あけて、６４ページをお願いいたします。

款５農林水産業費、項１農業費、目８農地費、事業２８３県営古川兵戸井手用水路施設整備事業、節１９負担金補助及び交付金のうち、単県農村地域防災減災事業負担金１，０３６万円及び事業２８５農業水利施設保全合理化事業、節１９負担金

補助及び交付金のうち、旭志中央地区農業水利施設保全合理化事業、負担金１，２２３万円、加恵本村地区農業水利施設保全合理化事業、負担金８８７万５，０００円、菊池３地区農業水利施設保全合理化事業、負担金１０１万３，０００円並びに次のページの菊池Ａ地区農業水利施設保全合理化事業、負担金５８８万６，０００円の増額は、国の２号補正予算対象事業でございます。

市の負担額につきましては、公共事業等債が１００％充当され、後年度において元利償還金の５０％を、公債費方式により基準財政需要額に算入、残余につきましても単位費用により措置されることから、実質的な市の負担はございません。

次に、６８ページをお願いいたします。

款６商工費、項１商工費、目２商工業振興費、事業３１２企業誘致等推進事業、節１９負担金補助及び交付金５億２７万９，０００円の減額は、歳入でご説明しました、誘致企業に対する補助金の一部について翌年度に交付することとなったことに伴う減額でございます。

あけて、７０ページをお願いいたします。

１枠目の目４観光費、事業３３３観光施設整備事業、節１５工事請負費１，７８３万２，０００円の増額は、現在整備を進めております菊池渓谷ビジターセンター建設工事において、新たに誘導員等の確保が必要となったことや、入札不落に伴う発注時期のおくれに伴い、消費税が増額となる見込み等により、増額するものでございます。

あけて、７２ページをお願いいたします。

款７土木費、項２道路橋りょう費、目３道路橋りょう維持費、事業３４７道路橋りょう維持事業、節１５工事請負費２，３００万円の増額は、国の２号補正予算対象事業でございます。

迫水線舗装工事を予定しており、事業費の５１％が国費で負担となり、残りの市の負担額につきましては、公共事業等債が１００％充当され、後年度における元利償還金の５０％を公債費方式により基準財政需要額に算入し、残余につきましても、単位費用により措置されることから、実質的な市の負担はございません。

その他、人事院勧告に伴う給与改定や、実績による人件費、各特別会計の事業費確定見込みに伴う繰出金の補正等を行っております。

それでは、８ページに戻っていただきたいと思います。

第２表、繰越明許費補正でございます。

追加１８件、変更５件となっておりますが、繰り越しの理由といたしましては、工法等の見直しが必要となったもの、関係機関との協議や調整に不測の日数を要したもの、業者選定や資材の調達が困難となったもの等によるものでございます。

１０ページをお願いいたします。

第３表、債務負担行為補正でございます。

内容といたしましては、四季の里旭志の故障した温水ポンプを復旧しないこととなったため、温泉と地下水の水温の違いから、浴場の湯沸かしに係る重油代が増加したことにより、指定管理委託料を増額するものでございます。

１１ページをお願いいたします。

第４表、地方債補正でございます。

内容としましては、国の２号補正予算による事業実施のための補正予算債の増額及び事業費確定見込みによる市債の増減が主な内容となっております。

次に、１０３ページをお願いいたします。

議案第１７号、平成３０年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

あけて、１０５ページをお願いいたします。

今回の補正は、財源の組み替えを行うものであり、予算の総額の増減はございません。

補正の内容につきましては、歳入であります国民健康保険税の実績見込みによる減額、保険基盤安定繰入金、保険税軽減分等の増額に伴う財源調整基金繰入金の減額が主な内容となっております。

次に、１１１ページをお願いいたします。

議案第１８号、平成３０年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

あけて、１１３ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から６９５万４，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ５億７，３１９万２，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、後期高齢者医療広域連合納付金の減額が主な内容となっております。

次に、１１９ページをお願いいたします。

議案第１９号、平成３０年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第４号）でございます。

あけて、１２１ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から５，４２６万６，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ５８億５，６１８万３，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、歳入である介護給付費負担金の確定見込みや、歳出事業費の確定見込みによるものでございます。

次に、１３７ページをお願いいたします。

議案第２０号、平成３０年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけていただき、１３９ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から１億５，７９４万１，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ７億９，７１６万６，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、処理場改築更新事業に係る国からの交付金が減額となったことにより、事業費を見直したことが主な内容となっております。

１４２ページをお願いいたします。

第２表、繰越明許費でございます。

繰り越しの理由といたしましては、事業規模の変更に伴い、設計変更等に不測の日数を要したことによるものでございます。

次に、第３表、地方債補正でございます。

内容としましては、事業費確定見込みによる市債の減額となっております。

次に、１５１ページをお願いいたします。

議案第２１号、平成３０年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて、１５３ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から６６８万１，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ４億８，１３９万９，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、処理場管理費等の確定見込みによるものでございます。

１５６ページをお願いいたします。

第２表、地方債補正でございます。

内容としましては、事業費確定見込みによる市債の減額となっております。

次に、１６３ページをお願いいたします。

議案第２２号、平成３０年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

あけて、１６５ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から３，０４０万３，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ１億７，８４８万４，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、浄化槽設置事業費等の確定見込みによるものでございます。

１６８ページをお願いいたします。

第２表、地方債補正でございます。

内容としましては、事業費確定見込みによる市債の減額となっております。

次に、１７７ページをお願いいたします。

議案第２３号、平成３０年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて、１７９ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から２９４万８，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ４億１，１０６万８，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、処理場管理費等の確定見込みによるものでございます。

１８２ページをお願いいたします。

第２表、地方債補正でございます。

内容としましては、事業費確定見込みによる市債の減額となっております。

次に、１８９ページをお願いいたします。

議案第２４号、平成３０年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）でございます。

あけて、１９１ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から５，３５１万７，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ７億１，８３５万４，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、施設管理費等の確定見込みによるものでございます。

次に、１９９ページをお願いいたします。

議案第２５号、平成３０年度菊池市水道事業会計補正予算（第４号）でございます。

あけていただき、２００ページをお願いいたします。

今回の補正の主なものにつきましては、第２条の収益的収入及び支出におきまして、水道事業収益を５９０万１，０００円増額し、総額を６億７，８７２万円へ、水道事業費用を１，１９３万２，０００円増額し、総額を６億５，４７２万９，０００円とするものでございます。

内容としましては、消費税支払額の増額が主なものでございます。

また、第３条の資本的収入におきましては、資本的収入を１，５９４万円減額し、総額を１億８，３４９万円とするものでございます。

内容としましては、建設改良事業費の確定に伴う企業債の減額が主なものでございます。

第４条の企業債におきましては、企業債借入額の限度額を１，０００万円減額し、

１億３，５２０万円とするものでございます。

次に、別冊となっております、議案第２６号から議案第３５号までの一般会計・各特別会計・水道事業会計の平成３１年度（２０１９年度）当初予算の概要につきましては、予算に関する説明資料により概要を説明しますので、そちらをごらんください。この資料でございます。

それでは、１ページをお願いいたします。

平成３１年度菊池市の財政規模でございます。

一般会計につきましては、予算総額２８３億８，７００万円で、平成３０年度予算と比較しまして、９億１，１００万円、３．１％の減額となっております。

主な事業を申し上げますと、産地パワーアップ事業約４億２，３００万円、鴨川公園板井線道路改良事業約３億１，７００万円、北岸線道路改良事業１億４，０００万円、企業誘致等推進事業２億６，９００万円、泗水支所整備事業約３億６，５００万円、旭志支所整備事業約２億８，７００万円、多目的研修センター整備事業約２億５，５００万円、七城総合グラウンド整備事業約１億４，９００万円などが主なものとなっております。

続きまして、特別会計について説明させていただきます。

まず、国民健康保険事業会計でございますが、予算総額６７億５，６３３万１，０００円、対前年度比９，４９４万６，０００円、１．４％の増で、主に療養給付費負担金及び高額医療費負担金の増によるものでございます。

次に、後期高齢者医療事業会計につきましては、予算総額５億８，８２２万４，０００円、対前年度比８０７万８，０００円、１．４％の増で、主に制度改正による保険料の増額によるものでございます。

次に、介護保険事業会計につきましては、予算総額５８億６，６６０万７，０００円、対前年度比７，５５４万２，０００円、１．３％の増で、主に高齢化の進展に伴う居宅介護サービス給付負担金等の増額によるものでございます。

次に、公共下水道事業会計につきましては、予算総額１０億２，８８６万１，０００円、対前年度比１億４５万３，０００円、１０．８％の増で、主に浄水センター改築更新事業の実施に伴う建設工事委託料の増額によるものでございます。

次に、特定環境保全公共下水道事業会計につきましては、予算総額５億１，０５９万円、対前年度比３，６９２万５，０００円、７．８％の増で、主に未普及地域の解消のための面整備の実施に伴う測量設計委託料の増によるものでございます。

次に、地域生活排水処理事業会計につきましては、予算総額２億２，００１万３，０００円、対前年度比１，１１８万９，０００円、５．４％の増で、主に合併浄化槽管理件数の増加に伴う維持管理費の増によるものでございます。

次に、農業集落排水事業会計につきましては、予算総額４億７３６万６，０００円、対前年度比１７９万６，０００円、０．４％の減で、前年並みとなっております。

最後に、特別養護老人ホーム会計につきましては、予算総額７億６，６１８万４，０００円、対前年度比１５５万５，０００円、０．２％の増で、前年並みとなっております。

以上、特別会計全体では１６１億４，４１７万６，０００円で、対前年度比３億２，６８９万２，０００円、２．１％の増となっております。

水道事業会計につきましては、予算総額１１億５，８５９万１，０００円で、対前年度比４，２２０万２，０００円、３．８％の増で、主に水源池管理棟の築造工事費の増によるものでございます。

次に、２ページをお願いいたします。

平成３１年度目的別歳入予算の状況でございます。

表中の主なものを説明させていただきます。

一番上の市税につきましては、５４億４，７７１万８，０００円で、対前年度比５２７万９，０００円、０．１％の増となっており、前年度と同額程度を見込んでおります。

次に、地方譲与税から地方交付税につきましては、国の地方財政計画と本市の実績等を精査した上で、見込み額を計上いたしております。

その中で、地方消費税交付金９億３，９００万円につきましては、１０月に消費税率の改定が予定されておりますが、当該年度中の税率改定に伴う影響額はわずかであるとの国の見解が示されていることから、前年度実績額を考慮し、３，４００万円、３．８％の増と見込んでおります。

また、自動車取得税交付金及び環境性能割交付金につきましては、税制改正大綱による自動車取得税の廃止及び新税である環境性能割の導入によるものでございます。

廃止及び導入時期が１０月の予定のため、自動車取得税交付金については、廃止までの半年分、環境性能割交付金については、導入後の半年分を見込んでおります。

地方交付税につきましては、合併に伴う普通交付税の段階的な縮減が、最終年度の５年目となり、その影響額等を勘案する反面、熊本地震関連で発行しました市債の償還分が反映されることとなることなども考慮しまして、総額の７５億円、前年度同額を見込んでおります。

次に、国庫支出金は３５億２，３２０万５，０００円で、対前年度比２億９，８８０万１，０００円、７．８％の減となっております。

主な要因は、保育所等整備交付金及び学校施設環境改善交付金などの減額によるものでございます。

次に、県支出金は２８億２，２２８万６，０００円で、対前年度比２億６，６１４万９，０００円、８．６％の減となっております。

主な要因は、安心こども基金特別対策事業補助金及び産業廃棄物施設補助金などの減額によるものでございます。

次に、繰入金は３３億４，７０８万６，０００円で、対前年度比２億８，１９８万４，０００円、７．８％の減となっております。

主な要因は、企業誘致促進基金繰入金、これは１億６，０７５万２，０００円の減及び環境整備基金繰入金３億６，０２３万５，０００円の減などによるものでございます。

最後に、市債は３０億４，３００万円で、対前年度比４，１７０万円、１．４％の減となっております。

主な要因は、泗水小大規模改修事業完了による減額などでございます。

次に、３ページをお願いいたします。

平成３１年度目的別歳出予算の状況でございます。

表中の主なものを説明させていただきます。

まず、議会費は２億４７３万２，０００円で、対前年度比８２０万９，０００円、３．９％の減で、主に前年度が改選の時期であったため、計上しておりました市議会議員退職に伴う手当等の減によるものでございます。

次に、総務費は３２億２，４２７万円、前年度比１億７，３８４万３，０００円、５．１％の減で、主に市民広場再整備事業の減によるものでございます。

次に、民生費は９７億５，８５０万４，０００円、対前年度比６，４７６万１，０００円、０．７％の増で、主に扶助費の増によるものでございます。

次に、衛生費は２１億６，２９３万９，０００円、前年度比２億４９７万４，０００円、８．７％の減で、主に廃棄物処理施設補償経費及び環境整備基金積立金の減によるものでございます。

次に、農林水産業費は２７億２，９２９万４，０００円、前年度比６６３万４，０００円、０．２％の増で、前年度同額程度となっております。

その中で増額となった事業に、多目的研修センター整備事業がございます。

次に、商工費は６億５，７６８万９，０００円、前年度比４億２，３２６万２，０００円、３９．２％の減で、主に企業誘致等推進事業の減によるものでございます。

次に、土木費は２５億７，９２２万９，０００円、前年度比２億５，８９０万５，

０００円、９．１％の減で、主に高質空間形成事業や道路橋りょう新設改良事業及び維持事業の減によるものでございます。

次に、消防費は８億３，２４９万円、前年度比３，５３７万１，０００円、４．４％の増で、主に菊池広域連合負担金の増によるものでございます。

次に、教育費は２４億３７３万円、前年度比４億１，８２６万１，０００円、１４．８％の減で、主に泗水小大規模改修事業の減によるものでございます。

次に、災害復旧費は１億３，９３４万１，０００円、前年度比１，２３５万５，０００円、９．７％の増で、主に熊本地震復興基金事業費の増によるものでございます。

次に、公債費は３６億１，９４８万３，０００円、前年度比４億５，６０３万円、１４．４％の増で、主に庁舎整備や地域振興基金の原資として借り入れました合併特例事業債及び熊本地震関連で発行しました災害復旧事業債の影響等によるものでございます。

最後に、諸支出金は５，５２９万９，０００円、前年度比１３２万３，０００円、２．５％の増で、主に統合前の簡易水道事業に係る経費の一部について、国が示す繰出基準に基づき負担するものでございます。

なお、４ページから８ページにかけまして、性質別歳入予算分析表、目的別性質別歳出予算分析表、性質別歳出予算分析グラフを記載いたしております。

以上が、一般会計・各特別会計・水道事業会計の平成３１年度当初予算の概要でございます。

それでは、議案のその１にお戻りいただきたいと思います。

議案書その１の４１ページをお願いいたします。

議案第３６号、財産の無償譲渡についてでございます。

菊池市立泗水幼稚園の民営化に伴い、財産を無償譲渡するもので、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

譲渡する財産は、所在が菊池市泗水町吉富の菊池市立泗水幼稚園の建物及び物品その他でございまして、建物の構造、床面積及び物品その他の品名、数量は記載のとおり、譲渡の相手方は、熊本市北区の学校法人北部学園、譲渡の時期は、平成３２年４月１日でございます。

次に、４３ページをお願いいたします。

議案第３７号、調停の申立てについてでございます。

本件、調停につきましては、地方自治法の規定により、調停の申立てについて、議会の議決をお願いするものでございます。

調停の申立てをする相手方につきましては、記載のとおりでございまして、調停

の申立ての要旨は、相手方に対し、公道上にはみ出した樹木を剪定するよう請求を行ったが、履行しようとしないため、樹木の剪定を求める調停を申し立てるものでございます。

申立て後の遂行方針は、市は、調停が成立しなかったときは、裁判所に樹木の剪定を求める訴えを提起することができる。

市は、調停または訴訟において必要があるときは、適当と認める条件で当事者と和解することができるとしております。

次に、４５ページをお願いいたします。

議案第３８号、熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結についてでございます。

地方自治法の規定により、地方公共団体が連携して事務を処理するための連携協約の締結について、議会の議決をお願いするもので、４６ページから５１ページまでが協約案でございます。

第１条において連携協約の目的、第２条において基本方針、第３条において連携する取り組み及び役割分担、第４条において費用分担、第５条において連絡会議を定めております。

以上、議案第３号から議案第３８号までの説明とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で、議案の説明を終わります。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第４　報告第２号　上程・説明・質疑

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第４、報告第２号を議題とします。

提出者の報告を求めます。

総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、議案書その１の５３ページをお願いいたします。

報告第２号、専決処分の報告についてにつきましては、地方自治法の規定により、議会において指定されている事項について、専決処分をいたしましたので、これを報告するものでございます。

あけていただき５４ページが、専決第２号専決処分書で、除草作業中の事故による損害賠償に係る額の決定について、平成３１年２月１４日に専決処分したものでございます。

事故発生日は、平成３１年１月２３日、相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、市道路作業員が、市道打越岡線を刈払い機で除草作業していたところ、石が飛散し、リバテープ製薬の敷地内駐車場に停車してあった社員の車両の

助手席側窓ガラスを破損させ、損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は、２１万４，７９６円、その他決定事項は記載のとおりでございます。

以上、報告第２号につきまして、報告させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

お知らせします。次の会議を２月２８日午前１０時から開き、質疑及び委員会付託を行います。議案に対する質疑を行う方は、事務局備えつけの様式により、その要旨を具体的に記載し、明日２６日の正午までに事務局に提出をお願いします。

本日は、これにて散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１１時４２分

第　２　号

２月２８日

平成３１年第１回菊池市議会定例会

議事日程　第２号

平成３１年２月２８日（木曜日）午前１０時開議

第１　質　疑
第２　委員会付託

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　質　疑
日程第２　委員会付託

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之	君
２番	福　島　英　徳	君
３番	緒　方　哲　郎	君
４番	後　藤　英　夫	君
５番	平　　直　樹	君
６番	東　　奈津子	さん
７番	坂　本　道　博	君
８番	水　上　隆　光	君
９番	猿　渡　美智子	さん
１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君
１８番	泉　田　栄一朗	君
１９番	木　下　雄　二	君
２０番	山　瀬　義　也	君

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	芳野勇一郎　君
政策企画部長	元島加奈子　さん
総務部長	上田俊介　君
市民環境部長	古田浩敏　君
健康福祉部長	中村隆純　君
経済部長	谷田　修　君
建設部長	淵邉政博　君
七城支所長	楳田邦昭　君
旭志支所長	岩根卓士　君
泗水支所長	坂本忠弘　君
財政課長	上田敏雄　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩　君
市長公室長	前川幸輝　君
教育長	渡邉和博　君
教育部長	大山堅四郎　君
農業委員会事務局長	坂本高秀　君
水道局長	大塚忠康　君
監査委員事務局長	清田幸臣　君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治　君
事務局課長	歌岡憲一　君
課長補佐	松原憲一　君
議会係長	安武則貴　君
議会係	吉岡結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　質疑

○議長（柁原賢一君）　日程第１、質疑を行います。

ここで、申し合わせ事項について申し上げます。質疑は一括質疑として、３回までとなっています。質疑は、提出議案に対して疑義をただすものであり、一般質問と違って自己の意見を述べることはできません。

発言の通告があっておりますので、質疑を許します。

初めに、平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　おはようございます。質疑をさせていただきます。４点あります。

まず１点目に、議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算、款９教育費、項１教育総務費、目２事務局費、事業番号４０４について、外国語指導事業２，６５２万２，０００円計上されておりますが、事業の必要性と目的の中で「高い資質、能力を備えたネイティブスピーカーであるＡＬＴを小中学校へ配置する」とありますが、この根拠とこれまでの実績を示してください。

２点目に、本事業の見直しの時期はいつですか。

二つ目は、議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算、款９教育費、項２小学校費、目１学校管理費、事業番号４３１について、学校ＩＣＴ教育推進事業（小学校）６，４４０万７，０００円計上されていますが、電子黒板の故障の台数とその原因は何でしょうか。

２点目に、ＡＩロボットとは何ですか。

３点目です。議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算、款８消防費、項１消防費、目３消防施設費、節１８備品購入費について、これらで購入後の既存の消防備品の取り扱いなんですが、ただ、廃棄するとするのか、例えば車とかであれば下取りに出すとか、そういったことがいろいろ考えられると思い

ますが、そういった取り扱いはどうなっているでしょうか。

４点目です。議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算、款２総務費、項１総務管理費、目９地域振興費、事業番号６３について、議案第１６号で同事業費は３，６５７万５，０００円の減額を提出されております。にもかかわらず、本議案では前年同等額９，５９４万２，０００円計上のうち、賞賜金は８，０００万円であります。予算編成のその根拠、３，６００万円減額をしているにもかかわらず、同等金額を上げてくる、その根拠をお示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　改めまして、皆さん、おはようございます。

それでは、教育部のほうから、質疑の１点目と２点につきましてお答えをさせていただきます。

最初に、外国語指導事業の根拠と実績ということでございますが、まず、英語教育の現状を簡単にご説明をさせていただきます。

国は、平成２９年に学習指導要領を改正し、平成３２年度から小学校英語の抜本的拡大を初めとした小中学校、高等学校におけるグローバル化に対応した新たな英語教育のあり方を示しました。

これにあわせて、本市では、本年度から小学校の英語教育の先行実施を行っております。

あわせて、国は教育現場で対応できない部分についてはＡＬＴなどの外部人材の活用が不可欠であり、今後、拡大する方針も示しているところでございます。

それでは、１点目の高い資質等を備えたＡＬＴの根拠についてお答えをいたします。

本市の外国語指導事業につきましては、平成２０年度以前は、一般財団法人自治体国際化協会を通して海外の青年を直接雇用するＪＥＴプログラムによるＡＬＴを配置しておりました。

しかしながら、ＡＬＴの選考を自治体で行えないこと、自己都合で途中帰国した場合の後任の補充が行われないこと、社会経験が少なかったり、教授能力を保持していなかったりする場合があるなどの諸問題があることから、平成２１年度から指名プロポーザル方式により、高い資質、能力を備えたネイティブスピーカーであるＡＬＴを確保でき、かつ、すぐれたノウハウを持つことを条件として数社の事業者を選定し、校長会、小中学校の英語教諭の代表者を含めた庁内の特定委員会で審査の上、受託者を決定しているところでございます。

また、ＡＬＴの実績につきましては、数値的に示すことは難しいですが、学校現

場からは、国際理解教育に大きく貢献している、外国人に対する抵抗感が軽減している、さまざまな授業の仕掛けを工夫して学習意欲が高まっている、異文化理解や自国を大切にする心などの育成につながっているといったご意見をいただいております。子どものころからＡＬＴと直に触れ合い、コミュニケーションをとることは、外国語学習の動機づけを高めるために極めて重要であると考えております。

そのようなことから、グローバル化に対応した英語教育を推進する上で、ＡＬＴの小中学校配置は大変効果的であると考えております。

次に、外国語指導事業の見直し時期につきましてお答えをいたします。

現在の小中学校外国語指導業務委託の契約期間が、平成３０年度から平成３１年度までの２カ年間となっておりますので、今後、児童・生徒と学校にアンケートを実施し検証をするとともに、先進地の取り組みや県内の自治体の状況も調査し、平成３１年第４回市議会定例会への債務負担の予算上程に向けて見直しを図りたいと考えております。

次に、２点目の学校ＩＣＴ教育推進事業のご質疑にお答えをいたします。

１点目の学校ＩＣＴ教育推進事業（小学校）の事業費６，４４０万７，０００円のうち、電子黒板の故障による費用は、節１８の備品購入費３６４万４，０００円というものになります。

故障の対象となる電子黒板の台数は、菊之池小学校で２台、泗水東小学校で１台、泗水西小学校で２台の、合計５台となります。

５台全てが、平成２２年度購入の５０インチの液晶テレビ型電子黒板で、経年劣化による画面の故障により、画像を映すことができず、授業での使用が不能となっております。年数がたっており、製品の製造終了に伴い交換部品もなく、修理不能となっておりますので、今回買いかえの要求となったものでございます。

次に、ＡＩロボットは何かということでございますが、２０２０年度導入のプログラミング教育に向け、小学校の研究指定校に配置するＰｅｐｐｅｒ（ペッパー）１台ということになります。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　おはようございます。それでは、３点目のご質疑にお答えしたいと思います。

目３消防施設費、節１８備品購入費で購入しております物品は、消防積載車及び小型動力ポンプで、老朽化した積算車及びポンプを計画的に更新を行っておりますので、その経費でございます。

新規購入に伴い廃棄します積載車及び小型動力ポンプにつきましては、現在、納入する業者に廃棄処分をお願いしている状況です。

なお、小型動力ポンプについては、地元行政区などから利用希望がありましたならば、備品の廃棄決定をした後に、保守管理を地元で行っていただくということを条件として無償譲渡を行っている場合もございます。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　おはようございます。ふるさと納税促進事業に係る質疑についてお答えをいたします。

平成３０年度は、ふるさと納税による寄附金収入は２億円を目標とし、送料を含む返礼品代として報償費（賞賜金）８，０００万円を計上いたしておりました。

寄附額の増加を目指し、特産品等の返礼品については種類をふやし、特産品以外の返礼品として郵便局の見守りサービスを導入いたしました。

また、過去にご寄附いただいた方々へのパンフレット送付や、イベント時のリーフレット配布、首都圏の大手企業における促進イベントを新たに行うなどＰＲにも力を入れて取り組んでまいりました。

しかしながら、目標達成は見込めない状況となりましたので、本定例会で減額補正の計上をさせていただいております。

そのような状況ではございますが、今年度の取り組みを検証の上、寄附額が増加している自治体の取り組みも参考に取り組むこととし、平成３１年度につきましても、寄附額は今年度と同額の２億円を目標に予算計上をし、報償費（賞賜金）についても今年度と同額の８，０００万円といたしております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　じゃあ、ちょっと再質疑させていただきます。

まず、教育部長にちょっとお尋ねしますが、１点目の数字の実績を示すのは難しいということでしたが、数字の実績を示していただかないと、我々はチェック機関として果たせないと思うんですが、それを今後出す予定はありますか。

それと２点目に、ＡＩロボットのそのＰｅｐｐｅｒを１台購入するということでだったんですが、そのＰｅｐｐｅｒを１台購入して、何をしようと考えられているんですか。

それと、総務部長にお尋ねします。廃棄処分をして、地元から要望があれば、そ

れで無償譲渡しているということだったんですが、それ以外に何か、今後、こういうふうにしていきたいとか、そういった協議をしている内容とかがあれば教えていただきたいんですが。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　再質疑にお答えをさせていただきたいと思います。

１点目、ＡＬＴにつきまして、何か数字を示されないかということでございます。

先ほど述べたとおりでございますけども、この事業効果につきましては、アンケートをとるようにいたしておりますので、アンケートの結果については報告をすることができるということで考えております。

それから、２点目のＰｅｐｐｅｒ君で何を一体やるのかというようなことでございます。

児童・生徒の命令、それからプログラミングによってＰｅｐｐｅｒを動かしたり、学校生活でＰｅｐｐｅｒと交流をしたりするということになります。これにつきましては、昨年１２月に戸崎小学校におきまして、菊池グローカルビレッジ構想を活用したプログラミング体験授業を実施いたしております。プログラミングでＰｅｐｐｅｒを動かす体験授業を行い、参加した児童や教職員には大変好評だったということでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　譲渡のほかにどんな考えを持っているかということでございますけども、積載車等については、ああいう消防車の形をしておりますので、それを普通の車両とするためには、大分部品を外さなくてはいけないとか、そういう部分がありまして、その処理には結構お金がかかるということではございました。

ただ、今後ですけども、費用対効果も含めまして、公売等も考えていきたいというふうに考えております。

○議長（柁原賢一君）　次に、猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　おはようございます。議案第４号、菊池市上水道事業運営審議会条例の制定について質疑を行います。

審議会は、上水道事業の運営に関する審議を行うことになっていますが、具体的にはどのような内容を審議されるのか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　水道局長、大塚忠康君。

［登壇］

○水道局長（大塚忠康君）　おはようございます。猿渡議員の質疑にお答えいたします。

具体的には、平成３２年度から１０年間の新たな水道ビジョンを策定するに当たりまして、水道施設の更新計画や、それに伴う財政計画についてご審議をいただくことで、ご意見を水道ビジョンに反映させるためのものでございます。

また、水道ビジョンの策定後も、施設や経営の状況を継続してご審議いただきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　再質疑します。

コンセッション方式の導入についても検討されるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　水道局長、大塚忠康君。

［登壇］

○水道局長（大塚忠康君）　再質疑にお答えをいたします。

審議会は、コンセッション方式などの民間委託の検討を念頭に置いたものではなく、水道ビジョンの策定を契機といたしまして、施設や財政の状況なども踏まえ、運営に関して幅広くご審議をいただくことを目的としたものでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　これで質疑を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第２　委員会付託

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、委員会付託を行います。

議案第３号から議案第３８号までについては、お手元に配付しております議案付託表のとおり、それぞれ所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますようお願いします。

平成３１年第１回菊池市議会定例会議案等付託表

付託委員会	議案番号	件　　名
総務文教常任委員会	議案第５号	菊池市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第６号	菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
	議案第７号	菊池市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
	議案第８号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第13号	菊池市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について
	議案第14号	菊池市幼稚園民営化検討委員会設置条例を廃止する条例の制定について
	議案第15号	菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会条例を廃止する条例の制定について
	議案第36号	財産の無償譲渡について
	議案第38号	熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結について
福祉厚生常任委員会	議案第３号	菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会条例の制定について
	議案第９号	菊池市地域福祉計画策定委員会条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第10号	菊池市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第11号	菊池市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
経済建設常任委員会	議案第４号	菊池市上水道事業運営審議会条例の制定について
	議案第12号	菊池市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第37号	調停の申立てについて

平成３１年第１回菊池市議会定例会議案等付託表

付託委員会	議案番号	件　　名
予算決算常任委員会	議案第16号	平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）
	議案第17号	平成３０年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第18号	平成３０年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第19号	平成３０年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第４号）
	議案第20号	平成３０年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第21号	平成３０年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第22号	平成３０年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第23号	平成３０年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第24号	平成３０年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）
	議案第25号	平成３０年度菊池市水道事業会計補正予算（第４号）
	議案第26号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市一般会計予算
	議案第27号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市国民健康保険事業特別会計予算
	議案第28号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市後期高齢者医療事業特別会計予算
	議案第29号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市介護保険事業特別会計予算
	議案第30号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市公共下水道事業特別会計予算
	議案第31号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算
	議案第32号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市地域生活排水処理事業特別会計予算
	議案第33号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市農業集落排水事業特別会計予算
	議案第34号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市特別養護老人ホーム特別会計予算
	議案第35号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市水道事業会計予算

○議長（柁原賢一君）　以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、３月４日の午前１０時から開き、一般質問を行います。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１０時１８分

第　３　号

３　月　４　日

平成３１年第１回菊池市議会定例会

議事日程　第３号

平成３１年３月４日（月曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中	教　之　君
２番	福　島	英　徳　君
３番	緒　方	哲　郎　君
４番	後　藤	英　夫　君
５番	平	直　樹　君
６番	東	奈津子　さん
７番	坂　本	道　博　君
８番	水　上	隆　光　君
９番	猿　渡	美智子　さん
１０番	松　岡	譲　君
１１番	荒　木	崇　之　君
１２番	柁　原	賢　一　君
１３番	工　藤	圭一郎　君
１４番	城	典　臣　君
１５番	大　賀	慶　一　君
１６番	水　上	彰　澄　君
１７番	二ノ文	伸　元　君
１８番	泉　田	栄一朗　君
１９番	木　下	雄　二　君
２０番	山　瀬	義　也　君

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実君
副市長	芳野勇一郎君
政策企画部長	元島加奈子さん
総務部長	上田俊介君
市民環境部長	古田浩敏君
健康福祉部長	中村隆純君
経済部長	谷田　修君
建設部長	淵邉政博君
七城支所長	楳田邦昭君
旭志支所長	岩根卓士君
泗水支所長	坂本忠弘君
財政課長	上田敏雄君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩君
市長公室長	前川幸輝君
教育長	渡邉和博君
教育部長	大山堅四郎君
農業委員会事務局長	坂本高秀君
水道局長	大塚忠康君
監査委員事務局長	清田幸臣君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治君
事務局課長	歌岡憲一君
課長補佐	松原憲一君
議会係長	安武則貴君
議会係	吉岡結加里さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立ください。

恐れ入ります。傍聴席の方もよろしければご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席願います。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（柁原賢一君）　日程第１、一般質問を行います。

初めに、城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　皆さん、おはようございます。今回、８回目の第１回定例会を迎えました。そして、例年のごとく、出会いと別れの季節となりました。職員の中にも部長を初め多くの方が退職されます。長い間、市民のため、職務に尽力されましたことに対しまして敬意を表したいと思います。退職後はそれぞれ過ごされると思いますが、健康に留意され、地域でも皆さんの退職を心待ちにしておられる地域もあると思います。地域のためにもお力添えを期待しております。また、新たに４月より役所で仕事をされる職員の皆様も、早く職場になれられ、市民のためにいい仕事をされますようご期待申し上げたいと思います。

そして、この春、５月１日に元号が平成から新しい元号へ変わります。私は昭和を３２年、平成を３１年間過ごしてきました。新たな元号公表を迎えようとしております。新元号を迎えて、５月の連休について、大型連休が１０連休になります。そこで、通告しておりました大型連休について質問したいと思います。

皇太子様が天皇に即位される５月１日が祝日となりますが、祝日法という法律があり、法律では前日と翌日が祝日である日は休日とすると決まっているために、休日に挟まれました４月３０日と５月２日がオセロのように休日に変化いたします。４月２７日から５月６日までの１０日間が連休になるようです。

ちなみに、昨年の平成３０年の連休は、５月１日と２日が連休ではなかったので、その間にさまざまな用は済まされたものと考えますが、今回は中の休みがございません。そこで、今回の連休に対してどのような対応をされるのかをお聞きしたいと思います。

まず、役所は、連休中、何日か役所をあけられるのか。また、その他公共機関、公民館等、病院の休日に対する対応、ごみ収集を把握されて、営業日の周知はどのようになりますか。特に病院は高齢者の方々には心配と思います。また、休日は休めない保護者の家庭の保育の預かり方はどうなりますか。市民の皆様に関することは役所のほうから休日の情報を発信されたら丁寧で喜ばれると思いますが、いかがですか。

以上について、お答え願いたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　皆様、おはようございます。それでは、城議員の大型連休の対応についてということでお答えしたいと思います。

先ほど議員からおっしゃられたとおり、４月２７日、土曜日から５月６日、月曜日までの１０日間につきましては、土曜日、日曜日及び休日であることから、市役所本庁、各支所、各小中学校、公立幼稚園などの公共機関につきましては、連続して閉庁、休業というふうになります。

また、図書館につきましては、通常の開館日は月曜でございますけども、連休中の閉館日については、現在、検討中でございます。

また、ごみ収集につきましては、実施日は未定でございますけども、臨時で収集日を設ける予定としております。

さらに、西部市民センターについては、４月２７日は土曜日ですけども開館となりますし、公民館につきましては、期間中、全て開館というふうになります。

なお、市役所本庁、各支所は閉庁いたしますけれども、通常の閉庁日と同様に、宿日直で、死亡届であるとか、婚姻届の受理、また、災害・非常時の受信等は当然行ってまいります。

例年の大型連休とは異なりまして、１０日間の連休となりますことから、公共機関の閉庁などにつきましては、広報紙、また、ホームページなど、市民の皆様へ丁寧な周知を図っていきたいというふうに思っております。

病院とか保育園などにつきましては、健康福祉部長から回答いたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　改めまして、おはようございます。私のほうからは、医療体制並びに保育園の体制についてお答えさせていただきます。

連休時の医療体制につきましては、在宅当番医や重症の患者さんに対応します病院群輪番制運営事業にて対応させていただくところでおります。

また、連休中の在宅当番医の担当医療機関につきましては、広報誌やホームページ等を利用しまして周知をしてまいりたいと考えております。

次に、連休中の保育所等における保育の体制につきましては、国の通知によりまして、保育施設等を利用する労働者の子どもの保育が確保されるように配慮することとされております。本市におきましても、保育所を通じまして連休中の保育ニーズの把握を行い、家庭に支障が出ないように対策をただいま検討しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　先ほどの答弁の中で、図書館について、通常の開館日を月曜日と言ってしまいました。通常の閉館日は月曜ということで、連休中の閉館日について、現在、検討中ということでございます。訂正させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　５月１日、新元号が変わるときに婚姻届が多く出される可能性があるということで、あけるところもあるようですが、その対応は考えておられますか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　婚姻届け出等の対応につきましては、宿日直で対応するということで、今のところは考えております。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　では、市民生活に支障がないような対応をお願いしたいと思います。

次の元号が気になりつつ、次の質問にいきたいと思います。

児童虐待について、菊池市の現状と対策はどうなっているか、お聞きしたいと思います。このことについては、以前、泉田議員、平議員が質問されております。子どもが親の虐待によって死亡するという痛ましい事件が発生いたしましたので、改めて質問したいと思います。

１月２４日、千葉県野田市で小学４年生、１０歳の女の子が両親からの虐待で死亡するという痛ましい事件が発生いたしました。実の子を夫婦で亡くなるまで虐待するなんて考えられないことでありますけども、国のほうでも再発防止に動き出し

ました。野田市の事件の検証、児童相談所や学校で行われている緊急安全確認などの結果、共有や分析、検討を行い、それらを踏まえて、さらなる対策案をまとめるようです。

事件では、児童と学校、教育委員会の対応の不備や、関係機関同士の連携不足が指摘されております。全国で児童相談所に通告した１８歳未満の子どもは、前年比２４．４％増の８万１０４人で、２００４年以降、初めて８万人を超えたようでございます。

熊本の推移はどうなのか。県警の調べでは、虐待を受けたとして児童相談所に勧告した１８歳未満の子どもは、前年比３１．１％、１７２人増の６６２名であったと。過去最多になったことが県警への取材でわかったと熊日新聞に掲載されておりました。全国で児童虐待がふえていることに驚き、私自身、ここまで多いとは思いませんでした。

そこで、菊池市における児童虐待の現状はどうなっているのかをお聞きしたいと思います。児童相談所や役所で把握している児童虐待の相談件数や児童虐待があれば、その内容等をお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、児童虐待の現状についてお答えさせていただきます。

本市における児童虐待の相談件数は、平成２８年度２８件、平成２９年度５８件、平成３０年度は、１月末時点で９３件と年々増加しております。

平成３０年度の９３件の児童虐待は、心理的虐待４１件、ネグレクト３３件、身体的虐待１８件、性的虐待１件となっております。

虐待者は、実母５９件、実父、実の親でございますが２４件、継父４件、その他６件、大半が実の父親、母親となっており、被虐待児の年齢につきましては、３歳未満が２１件、３歳から就学前が２４件、小学生２８件、中学生８件、高校生以上１０件、不明２件と、小学生までが全体の約８割を占めているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今のお答えですと、年々ふえておるということで、また、実の親からの虐待が物すごく多いということで、また野田市のような事件に発展しないか心配であります。

野田市の事件は、菊池市が、今、児童虐待に対して対応していることで、今の体

制で防げるんでしょうか。菊池市では、児童虐待に対して、他の自治体と違った対応をしているから、菊池は大丈夫と考えておられますでしょうか。

児童虐待は、教育部、また、健康福祉部等にまたがっております問題でありますので、なかなか難しいと思います。野田市の事件の検証でも、不備や連携の不徹底が指摘されております。縦割りではなく、横のつながりで問題の共有、連携が大切と考えます。

そこで、児童相談所、教育部と健康福祉部、関連する機関と問題を共有し、連携して解決に取り組む新たな組織をつくって、この問題に対応していくべきと考えますが、いかがでしょうか。

また、周辺自治体の状況をお聞きします。児童虐待の対応で、市役所内の組織体系が菊池市と違う組織、システムを対応している自治体はありませんでしょうか。人ごとではございません。児童の死を無駄にしないためにも、最善の策を講じていただきたいと思いますが、お答えのほうをよろしくお願いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、本市の児童虐待についての取り組みについてお答えさせていただきます。

まず、子育て支援課等の体制でございますけども、子育て支援課内に家庭児童相談室を設置しまして、家庭児童相談員２名と女性相談員１名を配置しまして、児童や家庭のさまざまな相談に対応をしているところでございます。

また、警察や児童相談所、学校、保育所、医療機関等から構成されました要保護児童対策及びＤＶ対策地域協議会を設置いたしまして、情報共有や支援内容の検討を行いまして、支援が必要な児童の適切な保護や対応を行っているところでございます。

また、日ごろから、庁内でございますが、健康推進課と連携しまして、児童虐待の未然防止として、妊娠届時の相談や乳児全戸訪問、乳幼児健診等を通しまして保護者の訴えに耳を傾けまして、支援が必要な家庭に対して、養育支援訪問や、つどいの広場・保育所入所等の子育て支援サービスの利用や、保育士による訪問指導などを行っているところでございます。

未就学児や小中学生につきましては、保育所や学校・教育委員会と連携しまして、児童虐待の早期発見・早期対応に努めているところでございます。

何よりも、社会全体で子どもを守ることが重要でございますので、本市の相談窓口を含め、児童虐待の相談や通報を２４時間受け付けております全国共通ダイヤル１８９（いちはやく）の周知も継続しつつ、児童虐待の啓発についてもより一層力

を入れているところでございます。

さらにでございますが、平成３１年４月から菊池市子育て世代包括支援センターを設置しまして、関係機関と連携しながら、支援が必要な家庭の早期発見と継続的な支援を行うことで、虐待の未然防止を図っていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今、部長が言われました全国共通ダイヤル１８９について、ちょっとお聞きしたいと思います。

この共通ダイヤルの利用状況と、現在は相談自体は無料なんですけども、通話料は発生しております。厚生労働省の担当者によると、この共通ダイヤルに電話がかかった状況の調査を行った昨年１０月、１カ月間で携帯から電話がかかってきます。それが７，５７９件あったと。そのうち３，４５５件が、通話料金が発生することを伝える音声が冒頭に流れるそうですが、その電話料金が発生しますよということで流れた時点で切れるそうです。結局、窓口につながらなかったということがかなり起きたそうでございます。通話料金がかかることで、相談、通報が伝わらず、事件につながる可能性も出てまいります。そのため、今回、通話料金を無料化する予算として７億８，９００万円、補正予算が国のほうで計上され、システム改修など準備が整い次第、無料化を実施されるようでございます。この対応の仕方は、少なからず虐待防止につながると考えます。予算措置がなされ無料化されましたら、いち早く市民の皆様に周知徹底をお願いしたいと思いますが、どうお考えですか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　まず、修正をさせていただきたいと思います。先ほど、「保健師」というふうに説明すべきところを「保育士」というふうに申し上げております。おわびして、訂正申し上げます。

それから、１８９（いちはやく）の対応につきましては、現在は電話された方が持つようなことになっておりますので、これについては精査していきたいというふうには考えておるところで、状況を見て考えていきたいというふうに考えておるところでございます。

それから、児童福祉法の規定によりまして、他自治体も同様に要対協も設置しておるところでございます。先ほど他市の状況はいかがかというふうなご質問でございましたが、私が答えておりませんでしたので、他自治体も同様に要対協を設置し

ているというところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今回、虐待から子どもを守るために、先日、公明党が体罰一掃へ法整備をということで、総理大臣宛てに緊急提言をしております。しつけと称した体罰の一掃に向けた法整備や、民法第１２０条、第１２２条が懲戒権のあり方見直しなど、再発防止を求めております。

提言の骨子は、民法の懲戒権の見直し、懲戒権とは、民法で規定する親権の一つで、民法第８２０条は、子どもの利益のため、親権者は子どもを看護したり教育したりする義務や権利を有すると規定されております。第８２２条では、必要な範囲内で子どもを懲戒することができると定めてあります。

それと、全国で情報共有システムを構築してはどうか、ＤＶ被害者支援への連携、学校での対応体制を構築する、児童相談所に警察職員・ＯＢの配置、以上５点について提案しております。

児童相談所や関係機関の情報共有の早期構築について、全国の都道府県、市町村で２０１９年度に確実に構築できるよう、自治体の財政負担をなくすなど、国の強靭な支援を要請、運用に当たっては、全国統一のルールや基準を定めるように訴えております。国も、児童虐待防止法で改正案を検討、保護者の体罰禁止の法制化へ動き出しております。このことを踏まえ、児童虐待に対しての市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、皆様、おはようございます。ただいまの城議員からの児童虐待に向けた私の考えはということでございます。

先ほど来、お話がありましたように、目黒区や、あるいは千葉県野田市を初めとしまして、各地で信じられないような虐待事案が毎日のように発生しておりまして、まことに痛ましいことでございます。

このように、全国的に相談件数は増加傾向にあるわけでありますけども、本市における児童虐待の対策といたしましては、これまで同様、虐待の未然防止ということを第１に、虐待のリスクが高い家庭の早期発見に努めて、支援を行ってまいりたいというふうに考えております。

また、児童虐待が発生した場合は、児童相談所や警察等の関係機関と緊密に連携をいたしまして、子どもの命を守ることを最優先に、対応してまいりたいというふ

うに思います。

また、先ほど議員さんのほうからご案内がございました、子どもを社会全体で守るという観点からの、全国共通ダイヤル１８９（いちはやく）につきましても、これまで同様にさまざまな機会や場面を通して、周知を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　それでは、適切な措置をお願いしたいと思います。

次に行きます。防災、減災対策についてということでお聞きしたいと思います。

災害は忘れたころにやって来ると言われますが、天変地異で予期せぬ災害が発生し、とうとい人命が失われたりします。また、あと３カ月もすれば、雨による災害が心配される季節となります。そこで、菊池市の防災対策で市民の皆さんに情報伝達する手段についてお聞きしたいと思います。

スマートフォンを利用したＮｅｔ１１９についてお伺いします。

総務省消防庁のホームページは、このシステムの概要は、音声による１１９番通報が困難な聴覚・言語機能障がい者の方が円滑に消防署への通報を行えるようにするシステムと書いてあります。内容がよく理解できません。

そこで、菊池市では、このシステム運用がなされるようでございますから、このシステムを詳しく説明していただきたいと思います。そして、このシステム運用方法を示していただき、何年から実施されるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、Ｎｅｔ１１９の内容とか導入等についてお答えをしたいと思います。

先ほど、議員がおっしゃったとおり、総務省の資料によりますと、Ｎｅｔ１１９緊急情報システムは、音声による１１９番通報が困難な方、難聴の方であるとか、言語機能障がいの方が円滑に消防に通報できる、行えるようにするシステムということでございます。

利用者につきましては、ＧＰＳを搭載したスマートフォンなどを保有されておられて、住所地を所管する消防本部への事前登録が必要ということでございました。

利用の方法につきましては、通報用のウエブサイトにアクセスをされて、消防本部が出動させるべきは消防隊であるとか、救急車であるとかを判断するために必要な「火事」とか「救急」の別をそういうふうに押しますと、通報者の位置情報を入

力すれば、また即座に消防本部に通報されまして、その後はテキストチャット等で詳細を報告できるような仕組みということでございました。

導入につきましては、菊池広域連合消防本部での導入というふうになりますので、確認しましたところ、平成３２年度中には運用できるような計画がなされているということでございました。

以上、回答いたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　では、システムができましたら、皆さんに周知していただいて、運用できるようにお願いしたいと思います。

それでは、次に行きます。

学校教育についてということで、２０２５年大阪万博に卒業旅行を計画してはどうかという質問をしたいと思います。

今から４９年前、１９７０年、大阪万博が開催された年、ちょうど私たちの卒業に当たりましたので、大阪万博へ行くこととなりました。それで、最近、よく朝ドラ等とか、いろいろ万博の場面が出ますけども、ああ、あそこに行ったなという思いがしております。行く前に、事前に予行練習をされるわけですね。グラウンドに列車の絵を棒で描きまして、どこに座ると、どこから出るとか、そういうことをやった記憶がございます。そして、私は記憶がないんですが、洋式トイレの使い方の練習もしたということでございます。寝台車じゃないんですね。団体専用ですから椅子に座るわけですね。寝るわけです。通路にも寝る。すごいあれでしたけども、それを行きと帰り、２泊はそこにとられるわけです。４泊５日で行ったんですけども、２泊はその列車の中だったということです。

それで、他の学校も何か一緒に行ったですもんね。菊池市の泗水とか旭志の学校も行ったんじゃないかと思いますけども、行って、京都、大阪に行きましたね。比叡山に登りました。京都の国際会議場も行きました。ですから、万博には一日だけだったのかなというふうな思いもしますけど、ちょっと記憶が定かでないんですけども、会場ではたくさんの外国人の方を初めて見ました。サイン帳を持っておるわけですよ。サインをしていただいたと。今はちょっと恥ずかしいことですけども、もう初めてお会いしましたので、そういうことをしたというふうに思います。

アメリカ館とか月の石とかありましたけども、ちょっと並んだんですけど、もう３時間待ちとかだったと思います。結局、すぐ諦めて、小さいパビリオンをずっと回ったという記憶がございます。また、太陽の塔の中に入りましたけども、白いワイシャツとかなんとかが光る。そういうのを見てびっくりしたという思いがします。

それと一番印象に残ったのは動く歩道はありましたね。今、空港なんかへ行けばありますけども、これがあのときにできたんだなとか思いますけども、そういうところが一番印象に残っています。あの当時は、将来、こんなに豊かになるとは誰も想像してなかったんじゃないかと思います。こういうあのときの技術が生かされて発展したんだなという思いがします。

今、考えれば、あのときに万博に連れていっていただいて、本当によかったなと感謝しているところであります。結局、テレビの場面を見れば、ああ、あの歴史の１ページを目撃したんだなという思いがしております。

今回、２０２５年、再び大阪に万博が誘致されました。ロシアとの最終決戦で決まったというようでございます。これだけ技術が発展して、どんな展示になるだろうかと思いますが、私たちはあのときの技術の進歩を見て感じてきた世代です。そして、その技術の恩恵にあずかって毎日生活しております。

前置きが長くなりましたが、今回の万博開催のチャンスを中学校の卒業旅行に生かしてはどうかということを考えます。そして、未来のある生徒が万博に触れることで、将来、その技術の中で生活すると、必ず得るものがあると確信します。

そこで、お聞きしますが、修学旅行先を決めるのはどなたが決めているんでしょうか。また、現在の修学旅行はどこに行っていますか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　改めまして、おはようございます。それでは、城議員のご質問にお答えをさせていただきます。

学校の修学旅行は、教育課程上、学校行事等に位置づけられる教育活動として、学習指導要領によりその狙いを明確にし、教育的効果を高めるよう学校の創意と教育的識見を生かすことが求められております。

こうしたことから、修学旅行の行程に関しましては、平和学習や人権学習などの重点指導内容及び保護者の費用負担等を踏まえ、各学校で実施内容を決定し、教育委員会が行事承認を行っているというところでございます。

なお、本年度の中学校における修学旅行に関しましては、全校とも２泊３日で、５校中４校が関西方面、１校は沖縄で実施されております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今、２泊３日で行われているということでありますけども、もしも万博に行けるようになりましたら、もう１泊ふやしていただいて、３泊４日

ぐらいにはしていただきたいと思います。宿泊日数を決めるのはどこが決めるんでしょうか。それから、現在の小学校の何年生が対象になるんでしょうか、お示しいただきたいと思います。

仮に万博を計画されるのであれば、積み立ても必要となりますので、早目に質問をいたしたところでございました。

今は飛行機を利用しますので、もう行き帰りのことは考えなくていいので、物すごく楽じゃないかと思います。

私たちも万博だけではなくて、京都とかに行っておりますので、そういうのを考慮したことを考えて修学旅行はやられているんだなという思いがします。ですから、結局、学校側が判断されるということでありますけども、よかったらそういうふうに教育委員会のほうからも指導していただければなという思いがします。

あのとき、前回の万博は、結局、日本の進歩と調和をテーマに博覧会が開催され、あのとき日本が、結局、生まれ変わる機会となったと私は思います。今回開催される万博は、再び日本が生まれ変わるきっかけとなると考えますので、どうか修学旅行を利用して万博を見せていただきたいという思いがします。修学旅行に行けば、行った子、行かない子ということがなくなりますので、全員に公平に触れられるんじゃないかと思いますので、お考えをお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　再質問にお答えをさせていただきます。

現在、全校とも中学２年生で修学旅行を実施しておりますので、２０２５年の修学旅行は、現小学校１年生が対象ということになります。

修学旅行に関する基準につきましては、平成３０年４月４日付文科省初等中等教育局長通達をもとに、菊池市立小中学校管理規則施行規程第７条第１項において、中学校は２泊３日以内において実施するように定めているところでございます。

また、同通知におきましては、計画上の注意として、子どもたちの安全、保健衛生はもとより、なるべく多数の児童・生徒が参加できるように、保護者の経済的負担を考慮し、費用の節減を図ることとされております。

本年度、菊池市の中学校における修学旅行費用の平均は５万５，０００円ということでございました。このことからも、現段階では、現状の施行規程に沿った形で検討するということになりますが、国家プロジェクトとして取り組まれる、議員のおっしゃられました大阪・関西万博は、あと６年後ということになりますので、今後の学校・保護者等の検討を尊重しながら、対応してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　この前、うちの公明党の議員が都議会で質問しておりました。来年のオリンピックに子どもを全員を連れていくような支援をお願いしたいということで、質問をしておりました。時期がちょっと違いますけども、そういうことで、子どもたちに対してはしっかり考えていただきたいなという思いがします。

また、ちょうど私たちも７０歳になります。７０歳になって、この前、同級会をして、万博で会おうというお話をしたところでございました。そういうこともしっかり考えていただきたいというふうな思いがします。よろしくお願いします。

施政方針についてということでお聞きします。

菊池の観光をリードする温泉と菊池渓谷について、また、林業振興について、以上の二つについてお聞きしたいと思います。

初めに、菊池の観光をリードする温泉と菊池渓谷についてお聞きしたいと思います。

菊池の観光は、温泉と渓谷が観光誘致を引っ張っていると思います。この温泉と渓谷は別物ではなく、コラボしてこそ生きていくものではないかと考えます。

施政方針の中で、ヘルスツーリズムについて、観光産業、健康産業の発展に、情報発信、宿泊型新保健指導に努め、来訪者の市内への誘致に努めると言われております。

ここで、私も健康でまちの活性化について提案させていただきました。菊池渓谷を利用した森林セラピーで健康づくりの提案もさせていただきました。

市長が言われるように、健康産業で活性化を目指すのも一つの手だと思います。具体的に市長が考える観光振興策をお示しいただきたいと思います。

林業振興についても聞いておかなければなりませんでした。済みません。

市営牧場跡地の植栽についてお伺いしたいと思います。

いよいよ動き出すものと思いますが、今後の段取りや計画をお聞きしたいと思います。

それから、作業については森林組合にお願いして、地元で仕事ができるものなら、地元にお願いできるようにできませんかと聞いておりました。どうなりましたでしょうか、お聞きします。

次に、森林環境税についてお聞きします。

今回、施政方針で林業振興について触れておられますが、毎年変わらない印象はありますが、後継者の育成に力を入れていただきたいと思います。森林経営者の森林整備等に対する意欲を喚起したいと言われておりますが、森林に対する魅力を感

じなければ、森林経営に若者が従事したいと思いませんので、環境譲与税をうまく利用して、森林振興の後押しをお願いしたいと思います。

そこで、森林環境譲与税はどのぐらいの金額になりますでしょうか。また、環境での使い道には制約がありますか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　皆様、改めまして、おはようございます。ただいまの城議員の２点のご質問についてお答えさせていただきます。

まず、１点目の菊池渓谷と温泉を活用した観光振興の具体策はということでございますが、本市を代表します観光資源であります菊池渓谷は、新緑や紅葉など美しい景観を見せると同時に、森林浴により心身ともにリフレッシュできる癒しの空間でもあります。

また、菊池温泉は、日本の温泉地の中でも特に療養・保養にすぐれた温泉地として、日本の名湯百選の認定も受けております。

ストレス社会と言われています現代におきまして、菊池渓谷を初めとする豊かな自然や良質な温泉を活用して、リフレッシュや健康づくりの場を提供することは、今後の観光振興を図る上で大変重要なものであると考えています。

このような中、本市の有する豊富な観光資源と健康を結びつける具体的な施策として、平成２７年度よりスマート・ライフ・ステイ事業に取り組んでおります。

その内容としましては、菊池養生園による問診や検診を受けた上で、保健師や管理栄養士、健康運動指導士のサポートのもと、菊池渓谷に代表される雄大な自然を体験し、地域の食材を活用した健康メニューを味わい、肌に優しい温泉で過ごすなど、本市の魅力を満喫しながら、健康づくりにつながる滞在型のプログラムとなっております。

さらに、滞在後もメールや電話でのヘルスサポートを実施し、６カ月後の最終メディカルチェックでは、再度本市にお集まりいただくことになっております。

今後におきましても、菊池渓谷と温泉、そのほかにも本市の豊富な観光資源と健康づくりを結びつけることで、交流人口の増加による地域経済の活性化につなげてまいりたいと考えているところでございます。

次に、２点目のご質問にお答えします。

一つ目の市営牧場跡地の植林計画についてでございますが、菊池市・菊池森林組合・森林整備センターの三者によります分収造林契約締結後の状況といたしましては、昨年１１月に、本市の水源林造成事業の造林者であります菊池森林組合から森林整備センターへ提出されておりました実施計画書が承認され、事業に着手されて

おります。

現在の状況としましては、菊池森林組合より地元の林業研究グループ、森林施業団体に対しまして、地ごしらえや植栽の打診をされているとのことでした。一部の施業地において、まだ施行者が決まっていないところもあるとのことで、そのため、当初予定しておりました工期が少し延長になるということでございました。

次に、二つ目の本市の森林環境譲与税についてでございますが、現在、まだ仮称ですが、本市への配分試算額は平成３１年度（２０１９年度）においては１，８３１万８，０００円となっております。それ以降につきましては、段階的に増額される予定となっております。

また、森林環境譲与税の使途についてでございますが、国からの通知では、市町村が行う間伐、人材育成や担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などの森林整備及びその促進に関する費用に充てなければならないとなっております。

本市におきましては、平成３１年度は、森林整備を行う上で必要な林地台帳の整備を予定しているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今の答弁では、健康を観光につなげてやるということでありますので、しっかりその食のほうもやっていくということでありますので、よろしくお願いしたいと思います。

それと林業に関しまして、私が思ったのは、もう一つ、鳥獣被害等に、シカが木の皮を食べたりしますけど、それに対して助成は、その環境税を使えないかとお聞きしたかったんですけど、それは、ちょっと無理なようですね、今の考えからいけばですね。

それで、ほかの方法でネット等を張る場合の対策はできているんでしょうか。また、シカの被害等はあっているんでしょうか、お聞きしたいと思います。

それと、森林保全について、森林環境譲与税を利用した森林台帳の整備、所有者のどういう仕事を行うと、先ほど部長も言われましたけども、あわせて、森林所有者の行方不明の調査等もお願いしたいと思います。不明者がいれば手も出せなくて、森林整備振興につながらないと思います。市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　ただいまの２点のご質問にお答えいたします。

まず、１点目の本市のシカの被害状況でございますが、林野庁が定めております

被害の程度をあらわす被害レベル基準というのが５段階でありますが、その中で本市はレベル２ということで、植生保護柵による被害の低減と捕獲による個体数の調整を行うこととなっております。

そのため、植生保護柵による被害の低減につきましては、国の補助事業であります森林環境保全整備事業を活用して、シカネットの設置に取り組んでいるところでございます。また、個体数調整につきましては、捕獲隊による銃器や、わなによる捕獲を実施しているところでございます。

次に、平成３１年度に予定しております林地台帳の整備を行うことに当たりまして、森林所有者を特定する必要がございます。林地台帳を作成する中では、所有者の方が市外に居住されているなどおられますので、行方を調査する予定となっております。

また、整備された林地台帳をもとに、森林所有者へ森林管理の意向調査を実施するということにしているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　せっかく植えた木も、シカに取られてしまっては何もなりませんので、よろしくお願いしたいと思います。

今回、施政方針の中で、菊池の観光と森林振興についてお聞きしましたが、この春、市長が２期目の折り返しを迎えられております。私が聞きました、この林業と観光について、どのように２期目、６年間やってこられて、どういう思いがありますでしょうか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は、今後の観光及び林業に関する私の考えということでございます。

まず、観光面でございますけども、これまで「安心・安全『癒しの里』きくち」の実現に向けて取り組んできたわけでございます。

社会の価値観の大きな変化などによりまして、今や、健康志向あるいは自然回帰というのは世界的な潮流でありまして、こうした動きは当面続くだろうというふうに私は考えておるところでございます。

幸い本市には、先人たちが長く守り続けてこられました宝がたくさんあるというふうに考えております。菊池渓谷を初めとする豊かな自然、その自然が育むおいしい食・グルメ、そしてまた、菊池一族の歴史や文化。そして、すばらしい泉質を誇

る温泉といったふうな宝物がございまして、何物にもかえがたいものであるというふうに考えております。こうしたものが人々の心や身体の充足につながるというふうに考えておるところでございます。

これまで、この宝を掘り起こすことで菊池ファンという固定ファンをつくり出して、それを持続的な発展につなげていこうという戦略でまいりました。今後もさらに磨きをかけて次の世代へ引き継ぐと同時に、その宝を生かした観光展開を図りたいというふうに考えております。いわば菊池の暮らしそのものの魅力を訴求していくということであります。言葉をかえれば、総力戦で臨むということでございます。おもてなし、観光ガイド、あるいは暮らしの景観整備等々、いろんなものがこうした多くの方で、一緒になって闘っていくことになろうというふうに思います。そういう意味では、これから一番大事なのは、市民と行政が役割を分担して、それぞれの責任を果たしながら協働と連帯によって英知を結集する。いわゆる、市民力というふうに呼んでおりますけども、この市民力こそが最大の力になるのではないかというふうに考えております。

本年度は、市民広場の再整備も完了しまして、多くの人々が菊池に集い、交流する場所が新たに生まれます。菊池に暮らす人も、あるいは訪れる人も菊池の癒しを体感して、魅力あるまちとして発展していけるように努めていきたいというふうに考えております。

また、林業のほうでありますけども、本市の土地面積の半分以上を森林が占めておるわけでございますけども、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、あるいは木材の供給など私たちの安全で快適な暮らしを支えているわけでありますけども、戦後に植栽された人工林は、伐採の時期を迎えておりまして、間伐あるいは全伐という適切な手入れを行わなければ、健全な森林が維持できないという時期に来ているのではないかというふうに思います。

ところが、近年は木材需要や価格の長期低迷によりまして、所有者の森林管理の意欲が薄れてきて、後継者も不足している。そういうことで、十分な手入れができずに、森林の持っている公益的機能、特に防災面がそうでありますけども、その低下が危ぶまれているという状況でございます。

こういう中で、平成３０年度に制定されました森林経営管理法では、経営管理が適切に行われていない森林について、市が仲介役となって森林所有者と意欲・能力のある林業経営者をつなぐシステムを構築して、集積・集約化を図ることとなっております。

また、経営管理に適さない森林については、市が経営管理を行い、森林を健全な状態に整備することになっておりまして、このために森林環境譲与税、仮称でござ

いますけども、が創設される予定になっているわけでございます。

こうしたことから、国、県の補助事業や市単独事業に加えまして、平成３１年度に新たに創設予定の森林環境譲与税を有効に活用しまして、人材育成、担い手の確保、林産物の生産拡大とＰＲに努めまして、本市の林業振興を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答え申し上げます。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今後の市長の市政運営をご期待申し上げながら、終わりたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　これで、城典臣君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時５８分

開議　午前１１時０６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　皆さん、おはようございます。議席番号１３番、工藤圭一郎です。通告しておりましたので、順に一般質問をしたいと思います。

まず、福祉政策ということで質問したいと思います。

今回、政務活動費を活用させていただいて研修をしてまいりました。その研修が地域福祉政策でありましたので、その中から地域包括ケアシステムについてと、その運用で地域ケア会議というものが行われております。いつから開催されているのかということをお尋ねしたいと思いますが、この質問は平成２６年に泉田議員が質問されております。そのときにもしっかり答えてありますけど、時間が経過しておりますし、やはり高齢者福祉は大事かというふうに思いますので、復習の意味も込めてお尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、地域包括ケアシステムの内容と、それから、いつから開催しているかというご質問についてお答えさせていただきたいと思います。

地域包括ケアシステムは、全ての団塊の世代が７５歳以上の後期高齢者になる２０２５年問題に対応するために、重度な要介護状態となっても住みなれた地域で自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援サービスが一体的に提供されるための取り組みでございまして、地域で高齢者を支える体制を地域の実情に応じて構築するもので、平成２３年の介護保険法改正に伴い、自治体における地域包括ケアシステムの構築が義務化されているところでございます。

そのような状況のもと、本市におきましては、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた一つの手法として、地域ケア会議を平成２５年度から開催しております。なお、地域ケア会議におきましては、守秘義務が課されておりまして、安心して会議にご参加いただき、意見をいただいているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　では、今言われました地域ケア会議ですね、この地域ケア会議の内容と、そして、これまで何回開催され、その会議を通して、どのような課題が見えてきているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　地域ケア会議についてお答えさせていただきます。

本市では、２種類の地域ケア会議を開催しております。

一つは、介護を必要とする高齢者が自立した生活ができるよう、介護支援専門員の適切なケアプランの作成を目的に、個別事例について、理学療法士、薬剤師、主任介護支援専門員等の多職種の参加による会議を月１回開催しております。

もう一つは、複数の問題を抱えた高齢者への支援をするために、専門職や民生委員、地域住民、警察、民間企業など事例に関係する方々が参加し、ネットワーク構築を図るための会議を随時開催しております。平成２９年度は７回開催いたしました。

課題につきましては、ひとり暮らし等の高齢者や認知症高齢者が増加すると予測されておりまして、特に、支援が困難な事例を検討する地域ケア会議の開催数がふえるというふうに見込んでおるところでございます。

また、地域ケア会議を重ねることで、買い物弱者や交通弱者の問題、サービスが必要な状態にもかかわらず、拒否される事例等の地域の課題がだんだん見えてきて

おるところでございます。それらの課題を解決するために関係部署とのより一層の連携が必要であるというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　それでは、今、部長のほうからお話がありましたけど、地域ケア会議の対象にならない、要介護状態ではない人たちの高齢者対策、そのあたりはどういうふうに行われているかをお尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　地域ケア会議の対象とならない高齢者の方々への対策につきましては、つまり、要介護状態でない高齢者への対策となります。平成２９年１０月から、いきいき１００歳体操などを行う通いの場の立ち上げや、継続の支援を重点的に取り組んでおるところでございます。

平成３１年２月末現在でございますが、６４団体が取り組まれておりまして、立ち上がりが楽になった、つまずきにくくなったなどの介護予防の効果とあわせまして、週に１回みんなと話すことが楽しみである、閉じこもり予防になっているなどの声をいただき、交流の場にもなっているところでございます。

そのほかに、有償ボランティアによります軽度の家事支援サービスや、認知症高齢者見守り事業として、大きなオレンジリングまちいっぱい運動、認知症の早期発見・早期対応支援を目的とした専門職によります、認知症初期集中支援チーム活動や、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員などの専門職の方々によります総合相談事業を実施しているところでございます。

さらに、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、安心して医療・介護サービスを受けることができるよう、在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　ありがとうございました。

先ほど言いました地域ケア会議では、部長も言われました守秘義務も発生する、そういうような個人のさまざまな状況、少しでもよくなるように自立支援に向けて行われております。また、地域課題を把握したり、地域づくりや社会資源の開発の検討等、多岐にわたっていろんな問題を会議されております。よって、担当職員が

相当な負担がかかっているのかなというふうに思いますし、医療関係者との連携とか、かなり高度なお話等も出てくるかと思いますので、そのあたりで職員の負担がかなり大きくなっているんじゃないかな、大丈夫かなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　お答えさせていただきます。

地域ケア会議に取り組み始めました平成２５年度と比較しましても会議開催数はふえており、人員不足というのは否めないところでございますけども、２０２５年問題に対応するための地域包括ケアシステム構築のために、地域ケア会議は重要であるというふうに考えております。係内の事業の見直しをしながら取り組んでいきたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　ここまで、地域包括ケアシステムについてお尋ねしてきました。高齢者が可能な限り住みなれた地域で安心して自分らしく生活を続けることができるよう支援する仕組みづくりに向けた取り組みは理解しました。課題があるものの、地域の関係機関が連携して事に当たれば、解決の道は開けると思います。

ここまでは福祉的要素の部分とすれば、地域包括ケアシステムでは、自立した生活を持続できる地域づくりも重要だと思います。できるだけ医療・介護に頼らない、伝統・文化・歴史を大切にして、地域の魅力を地域で共有する。地場産業を大切にして役割や生きがいをつくる。訪れた人におもてなしをする等、夢や未来への希望を持つことが大事になってくると思います。高齢になってもそういう気持ちを忘れずに、地域のために何ができるのかを探す。地域づくり、まちづくりにおいて、若者の定住や交流人口をふやす施策も当然大事ですが、この地域ケアシステムの中から見えてくるハード面、例えば道路整備や病院、介護施設、スーパー等、そういう場所についても公共交通でつないだり、もっと利便性を向上させたり、考えるもとになる部分をこの地域包括ケアシステム、先ほどケア会議もありましたが、その中からいろんな課題が見えてくる。そういうことをいろんな部署で連携して話し合っていけば、おのずと菊池市なりのまちづくり、先ほど城議員のときの市長の答弁もありましたが、施政方針で十分理解しています。ただ、私の今回の一般質問の趣旨は、この福祉的な視点からもっとまちづくりもしっかり見ていくと、自分たちが本当に住みやすい、そういうまちづくりができ上がってくるんじゃないかなと。そう

すると、おのずと若者も定住するし、また、先ほども言われました歴史とか文化を大事にすれば、交流人口も自然とふえてくるのかなというふうに思ったものですから、この一般質問をしました。

最後に、部長に、これまでの行政経験を通して、また、健康福祉部長として、次の人たちに引き継ぐに当たり、思いだったり、反省点だったり、言えない部分もあるかもしれませんけど、言える部分で福祉政策のまとめとしてお尋ねしたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　お答えさせていただきます。

役所生活最後の２年間に、こういう答弁をさせていただくことに非常に感謝しております。

まず、健康福祉部の職員でございますので、市全体の意見については差し控えさせていただきたいと思います。

私は、決してほかの職員さんの見本になるような優秀な職員ではございませんので、数々の失敗をしております。議員の皆様、それから市長を初め執行部の皆様、それから健康福祉部職員の皆様には、大変ご迷惑をおかけしたというふうに思っているところでございます。

部への思いを述べさせていただきますと、健康福祉部は４課３施設ございます。市民の皆様へ幸せを届けることができる一番の部署だと私は思っております。しかしながら、抱えている問題は単独の課では解決できないことが多くなってきておりまして、各課、市民の皆様のそれぞれの状況を十分把握し、統計などの数値であらわして、そのデータをもとに、健康及び政策の実施時期を推測し、健康福祉部が一つのグループとして、連携して業務を進めていくことが大切であるというふうに感じております。また、職員は仲間ですので、お互いを理解し合い、仲よく助け合いながら、楽しい職場であっていただきたいとも思っております。部の職員の皆さんには、私が感じたことをぜひ進めていただきたいというふうに期待しておるところでございます。

工藤議員さんとは、市政に関するお話をさせていただく時間は短いものでございましたが、私にとりましては貴重な時間でございました。ありがとうございます。

最後になりますが、議員の皆様からご指導いただいたことへの感謝と、ますますのご活躍を祈念いたしまして、答弁とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　次の質問に移りたいと思います。

次に、高齢者施策についてということで、高齢ドライバーの免許証返納についてというような書き方になっておりますが、この免許証返納をとにかく進めたいというようなことではなくて、何かと高齢ドライバーの人たちの事故について、マスコミ等でも取り上げられましたし、私なりに菊池警察署にも出向きまして、交通課の課長さんからお話を聞いたりしますと、全体の交通事故は減ってきているんですというようなお話でした。ただ、高齢者の事故については、なかなか同じような減り方ではなくて、横ばいでありますので、自分としてもどうにか対策をというようなお話を聞いてきて、今回、質問に立つわけでありますが、この問題については、総務文教常任委員長の水上隆光委員長から、これは所管でしっかり取り上げていかなきゃいけないというようなお話もいただいておりますが、まず、そのはしりとして、前段として、きょう、お尋ねしたいと思います。

本市のこの高齢ドライバーのいろんな諸問題についての取り組みをまずお尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　返納の取り組みということで、ちょっと予定しておった質問と大分変わってしまいまして、まず、ちょっと用意しておったものを読んでみたいと思います。

まず、先ほど、返納の状況というふうに聞いておりましたものですから、高齢ドライバーの免許の返納状況について、まずお答えをしたいと思います。

まず、高齢者の運転者の数でございますけども、平成２９年１２月末で９，８００人ほどの方が免許をお持ちと。これは本市の６５歳以上の人口の大体６割程度に当たりますということです。

運転免許証の返納者の推移につきましては、これは菊池警察署のほうで確認をいたしましたけれども、集計としまして菊池警察署に返納された数ということでございます。

そういうことで、例えば合志市の方などが菊池の警察署に返納された場合にはカウントに入っておりますし、また、本市の方が、例えば免許センターで返納された場合には、菊池にカウントされないということをお断りしまして、年別の推移を申し上げますと、平成２６年が４３件、それと平成２７年が７８件、平成２８年が８７件、それと平成２９年が１７２件、それと平成３０年が１３５件というふうになっております。

平成２９年にいきなり、平成２８年が７８件から１７２件にふえておりますのは、これは交通安全協会のほうで先着１００名を対象に、タクシー券であるとか、温泉券などを返納するに当たる特典として、そういうことをやられた関係でちょっと多くなったというふうなところはございます。それは平成２９年度の取り組みでございましたので、平成３０年度は行っておられませんですけども、そういう状況でございます。

また、交通安全教室というのも、交通安全協会のほうに委託してから、対象者としましては、保育園でありますとか、幼稚園、当然小中学校、また、高齢者などをやっております。

平成３０年度の実績としましては、１５４回ほどそういう取り組みを行っておりまして、高齢者を対象としたものは大体２７回でございます。内容としては、横断歩道の渡り方であるとか、反射材でございますけども、あの辺の推進等をその内容という形で実施をしておるところです。

高齢者ドライバーの対策としまして、具体的にどういうことをやっているというのは、まだ今のところございませんですけども、昨年、企画振興課のほうで公共交通に関するアンケートというのを実施しておりまして、その中の運転免許証の自主返納に関する設問では、現時点でそのつもりはないんだけれども、将来的には検討するという方が、６５歳以上の回答者の中の８０％を占めておりました。また、返納後の移動手段としては、路線バスであるとか、べんりカー・あいのりタクシーといった公共交通機関というふうにお答えした方が４０％ということでございましたので、そのような結果を踏まえまして、現在の交通体系を維持しながら、高齢者を初め交通弱者の生活維持に係る移動手段の充実についても、今後、引き続き検討していきたいというふうには考えておるところでございます。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　少しちょっと質問、舞い上がって変なふうに質問してしまいました。済みませんでした。

ちょっと言いわけみたいに言ってしまった部分で、当初の打ち合わせでは、最初のあれでは、その返納についてと、今、部長がお答えになったとおりです。ただ、今、最後のほうでアンケートの結果とかおっしゃったように、今はまだ考えてないけど、返納すると、公共交通だったり、そういうのを使いたいというのは、当然皆さんは思われていることだと思いますし、この質問に当たって、高齢者の免許更新を城北自動車、菊池自動車もやっていると思いますが、そこにちょっとお尋ねに行ったときに、どんなふうですかというふうに聞くと、実は、自動車学校で見ている

のは、認知症になられている方が免許をそのまま更新して乗ると危ないということで、そのことは見ているんですよと。単純に高齢ドライバーを、何というか、その運転能力が少し下がっているからとか、そういうことを見ているんじゃありませんというようなお話であります。

ただ、今、高齢ドライバーだけじゃなく、あおり運転が問題になったりとか、実際、横断歩道に人が立ってても、なかなか車の運転手がとまらないとか、そういう交通マナーというか、交通ルールをいま一度再確認するような、先ほど２７回ぐらいのその高齢者の交通安全協会がやっていると。子どもたちには毎年しっかりやっているけど、やっぱりなかなか高齢者に対してとか、若者、私たちも含めてですけど、みんながそういうのを改めて見るのは、免許更新のときに免許センターでちょっとビデオを見て、その瞬間だけみたいなことでありますんで、そういうことを含めて、これから総務文教でしっかり調査をしながら、どういう対策が一番ベストであるか、そういうことに進めていければというふうに委員長のほうから言われていますので、思っております。

そういうことで、次の質問に移りたいというふうに思います。

次に、災害時の対応についてということでお尋ねしたいと思います。

戸別受信機のお話がよく出てくるんですが、私も泗水におりまして、戸別受信機がある、このありがたさというか、日々感じておりますが、実際、質問が出て、なかなかやりますという返答ではありませんので、じゃあ、どういう対策が本当にあるのかなということを思っておりますし、このことも総務文教常任委員会の水上隆光委員長から、これもやっぱり大事なことじゃないかというようなところで取り上げようとしているところです。

これも先ほどと一緒で、ちょっと先行して、少し私なりのところをお尋ねしたいと思いますので、まずもって、今現在の本市の、先ほどは城議員が視覚・聴覚の障がい者向けの災害時の伝達というようなお話だったかと思いますが、今現在、どう考えられておって、どういうふうに進まれているのか。

先ほどもお話ありました、これから梅雨の時期が来るし、年明けに地震もあって、やっぱり忘れたころにやって来るみたいな、地震がちょこちょこあっているのがどうしても気になるし、そういうときのやっぱり情報伝達が一番大事かなと思っておりますので、そこの考えをまずお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、停電時の情報伝達の方法、今現在、うちがやっておりますところをお答えしたいと思います。

災害時の情報伝達の方法としましては、今、防災行政無線、それときくち防災・行政ナビ、それと登録制メール、ホームページなどのさまざまな手段を活用しまして、情報の伝達を行っている状況でございます。

停電時におきましては、まず情報を配信する側、システム側のほうにつきましては、全て市役所の本庁内にありまして、操作が可能となっております。また、市役所本庁には庁舎用と防災行政無線用の非常用発電機が配備されておりますので、停電時でも情報の配信は可能であるというふうには考えております。

次に、情報を受信する側でございますけども、防災行政無線の屋外拡声子局のほうにはそれぞれ子局にバッテリーが装備されておりますので、音声の発信は可能かなというふうに思います。

また、きくち防災・行政ナビの受信用タブレットにつきましても、バッテリーが内蔵しておりますので、受信は可能となります。

きくち防災・行政ナビアプリ、その他の登録制メール、また、ホームページに関しましては、受信される携帯電話であるとか、パソコン等の電源確保が可能であれば受信は可能であるということでございます。

なお、停電の長期化等が、１週間、２週間とかバッテリーを超えるようになった場合については、消防団に協力をいただきながら、消防団の積載車とか市役所の広報車による災害情報の提供などを行っていきたいというふうには考えております。

また、平成３０年９月には九州電力株式会社の大津配電事業所との間で、災害発生時のライフラインの早期復旧を目的としました、菊池市地区災害復旧に関する覚書を締結いたしております。円滑に災害復旧ができる体制をいろんな形でも構築していきたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　あと一つ、テレビを見てますと、ＮＨＫで緊急警報放送の試験放送ですというような放送があります。災害時にはテレビの電源を入れて流しますというような放送の中身というか、そういうふうに言っているんですよね。見たことある人、ない人がおられるのかもしれませんけど、そのことについて、もしわかれば、どういうふうなことになっているのか、本当にテレビが消えているときにつくのかというふうに思いますので、それが可能であれば、いざというときの情報伝達、テレビは大抵のお家にありますので、いいのかなと思いますが、そこはお調べになっていれば、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　緊急警報放送ということで、これは放送局が緊急警報信号と呼ばれる電波を、ピピピというような感じだと思いますけども、特別な信号を、法律で定められた条件のもとで臨時的に行う放送ということでございます。

放送の条件としましては、大規模地震の警戒宣言が発令された場合、または津波警報が発表された場合、また、災害対策基本法第５７条に基づく都道府県知事や市町村長からの要請があった場合というふうに決められております。

緊急警報放送に対応した受信機、例えばテレビであるとかラジオ等で、受信機自体が待機状態であって、緊急警報信号を受信した際に、自動的に電源をオンにして放送の受信ができる状態に移行するシステムというふうになっております。ということで、その受信機側にそういうシステムが組み込まれていないとできないという形にはなります。

ただ、販売店等に、ちょっと確認したところでございますけれども、テレビやラジオでこのような緊急放送に対応した機種というのが、今ほとんど販売されていないというような状況というふうにお聞きしたところでございます。

○議長（柁原賢一君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１３番（工藤圭一郎君）　結局、役に今現在では立たないような状況ですよね。だから、やはり施政方針の中にもあります、結局、アプリを利用してということになってくると、スマートフォンなのかなというふうに思います。

ただ、今現在、スマートフォンがそれだけ普及しているのが、若い世代には普及してても、一番届かなきゃいけない高齢世帯が、果たしてそのアプリを利用できるスマホを持っているのかというようなところが肝になってくるのかなと思います。

まず、やはり停電時にしっかりと情報が届くその仕組みはつくらなければならない。ただ、お金を幾ら使えるのかというようなところなので、そこで悩ましいところだろうとは思います。

スマホを、じゃあ、行政が皆さん持ってくださいというようなお話ができるかというと、そうでもないし、なるべくお勧めするぐらいのことであろうかと思いますので、できれば常任委員会のほうでしっかり研究をして、本当に高齢者に勧められる、こういう携帯だったら安心ですよ、今、皆さんがスマホを持たない理由は何ですかと。いや、実はスマホを持った瞬間に口座からお金がなくなるんじゃないかなと、そんな心配をされてたりとか、もうそもそも扱い方がわからんとか、やっぱりいろんなことだろうと思います。だから、そういう部分をもっと研究して、それが一番ベストであるならば、持っていただけるような、皆さんが本当に情報をきちっ

とキャッチできるそういう状況を、こうやって災害を受けた私たちは身構えなければいけないし、市民の皆さんにも、そういうことをしっかりと勧められる、行政ができなければ、議会側がそういうような動きをできればというふうに思いますので、この後の総務文教常任委員会できちっと研究しながら、答えを出していきたいというふうに思います。

これで、一般質問を終わりたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　これで、工藤圭一郎君の質問は終わります。

ここで昼食等のため、暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時４１分

開議　午後　零時５８分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　皆さん、こんにちは。政治目標、政治をもっと近くに、判断基準、子どもたちが大きくなったときにどうかという基本理念をもって、２期目の菊池市議会議員として、住民福祉の向上を念頭に置き、ちゃんと決める、ちゃんとチェックする、そして、ちゃんと提案できる、そういう議員になるべく、日々勉強していくのは当然として、それだけではなく、議員は何ばしよるかわからんと言われることのないように、議員のなり手不足とされる懸念、これらを少しでも解消するように、なるだけ我々の仕事を見てもらえる仕組みをつくっていくことも、とても大切な仕事だと思っております。

そして、菊池市の最高決定機関である、この菊池市議会の定例会は、国旗を掲げ、国歌斉唱して始めるべきだと考えている、議席番号５番の平直樹です。

では、通告に従いまして、一般質問をいたします。

１点目は、新年度予算の編成についてお伺いしたいと思います。

中期財政試算が以前に出されておりますけども、ここで少し金額の差があるようですので、ここのところを聞いてみたいと思います。

この質問の目的は、何が本当に大切な事業なのかというのを、限られた予算の中でしっかりと見きわめたいというふうに考えているからです。

平成３０年１０月２２日、月例会で提出されたこの菊池市中期財政試算書によりますと、平成３１年度の一般会計の試算額は２７６億６，０００万円とあります。

一方、今議会に上程されている新年度一般会計予算額は２８３億８，７００万円で、差額が７億２，７００万円であります。この整合性についてお尋ねします。この差は一体何でしょうか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、平議員のご質問にお答えしたいと思います。

平成３１年度一般会計における中期財政試算と、今回上程をしております当初予算の差額７億２，７００万円の主な理由ということで、お答えしたいと思います。

まず、１点目でございますけども、平成３０年度に支出予定でございました企業誘致推進補助金の一部が、交付予定企業の施設整備のスケジュール等の関係で平成３１年度にスライドしたことによる差額、試算では１，４６７万５，０００円でございまして、当初予算では２億６，６４１万２，０００円、差額の２億５，１７３万７，０００円が一つでございます。

二つ目としまして、平成３１年度及び平成３２年度の２カ年で整備を予定しております旭志支所及び泗水支所に係る整備事業費の年度間調整及び事業費総額が増額となったことによる差額、試算額では３億９，３５４万３，０００円としており、今回、当初予算では６億６，８０６万２，０００円としておりまして、その差額が２億７，４５１万９，０００円となっております。

それと、受給者数の増及び制度改正に伴う児童扶養手当給付費の増額による差額として６，３２５万９，０００円、その他、原油価格の高騰に伴う燃料費であったり、光熱水費等の増額等によるものが、この差額というふうに分析しております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　今のお答えの中で、企業誘致推進補助金というのが２億５，０００万円程度という感じで言われたんですかね。同じように上がっている平成３０年度の補正予算の中では減額が５億円程度ありますが、なぜ減額で５億円あって、今年度の予算で２億５，０００万円程度なのかを教えてください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　企業誘致の推進補助金につきましては、平成３０年度の当初予算で６億６，３８９万４，０００円を計上いたしておりまして、６号補正で５億２７万９，０００円を減額いたしております。これが平成３１年度のほうに振りかわったということで、平成３１年度の分として２億６，６４１万２，０００円と

いうのは先ほどご説明したかと思いますけども、残りの２億３，３８５万７，０００円につきましては、平成３２年度以降に交付されるというものでございます。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　試算をつくっていく上で、５億円を減額して２億５，０００万円ずつ２年にずれるというのが、ちょっと試算のやり方的にも難しいのかなというふうには思いますが、政務活動費を活用させていただいて、購入したある本を読んだところが、今回の質問を考えるわけですけども、その勉強した本によりますと、予算は大きく三つの経費で分けられるとありました。ここにおいでの方には、ちょっと釈迦に説法とは思いますが、ちょっとお時間をいただいて、ご説明させていただきたいと思います。

まず１点目が、義務的経費、これは必ず支払う義務のある裁量のきかない経費とあります。中には公債費と扶助費、人件費、この三つが義務的経費であると。

二つ目に、経常的経費、これは過去の政策決定をした分のランニングコストだと。去年やったから、ことしもやるからというようなお金ですかね。そういったことを経常的経費と。

三つ目が、政策的経費、それ以外、その二つ以外の新しい分野や事業をやるためのお金であるとか、新しい社会課題が見つかったときのためのお金であるというふうに書いてあった、勉強をしました。

そこで、お尋ねなんですけども、試算額で出された金額、試算額と、今回上程された予算の中で、その三つ、義務的経費、経常的経費、政策的経費というその内訳をお示しください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　義務的経費、経常的経費、政策的経費についての試算額と予算額の内訳ということで、まず、公債費、扶助費及び人件費の総称でございます義務的経費につきましては、試算では１３９億９，２００万円と見込んでおりましたけれども、当初予算では１４２億９００万円となっており、２億１，７００万円の増額というふうになっております。

この理由としましては、扶助費が予想以上の伸びとなっていること及び人事院勧告等を反映した人件費の増によるものでございます。

次に、政策的経費につきまして、明確な区分はしておりませんので、大まかな金額で申しわけございませんけども、予算でお答えしますと、平成３０年度当初予算において予算化されておらず、平成３１年度当初予算において新たに予算化されて

おります事業のうち、熊本県知事及び参議院議員選挙費や統計調査費等を除いた事業費の合計をお答えしますと、大体２億３，４００万円となっております。

その中には、グルメ推進事業でありますとか、菊池一族プロジェクト事業といった施政方針に盛り込まれた主要事業であったり、支所、公民館整備事業や道路改良事業等の事業費予算も含まれておりますので、これが政策的経費かなというふうに思っています。

なお、経常的経費につきましては、予算の総額から、今申し上げました義務的経費と政策的経費を差し引いた残りの１３９億４，４００万円というふうに捉えております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　今のお答えの中で、人件費のことにお話も及びましたけども、今議会で提出された議案第７号、これは人事院勧告及び熊本県人事委員会勧告に基づいた給与改定も上がってきております。これは、その勧告を受けて改定という流れというのはよくわかりますけども、ちょっと耳の痛い話になるかもしれませんけど、昨年、結構ミスが続きました。役所の方々がちゃんとすべき仕事をしてなくて、いろいろミスが出てきました。これを民間の感覚からすると、ミスはする、でも、給料は上がる。収入は減る、でも、給料は上がるというタイミングでの上程だと思います。そのタイミング云々はちょっと置いといて、市民の感覚からすれば、そういう気持ちになるのは、これはいたし方ないなというふうに思うんですけども、今回のその上程でどれぐらい実際に払うべき給料がふえるのか。そして、人員はどうなるのかを教えてください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　職員給与費の増減と人員の推移はということでよろしかったでしょうか。職員給与費につきましては、予算書の２２３ページをごらんいただきますと、これは一般会計でございますけども、金額で５，２８７万４，０００円の減、人員は昨年と同数の４１９人を見込んでおるところです。これは一般会計でございます。

給与費が減額した要因としましては、退職者数が多いことによるものでございます。

ただ、議員がおっしゃるとおり、人事院勧告及び熊本県人事委員会勧告に基づいた給与改定により、職員１人当たりの額は増額というふうになっております。

給与改定による影響額についてですけれども、平成３０年度の金額でお答えしま

すと、大体１，３５０万円程度の増額というふうになっております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　１，３５０万円ふえるということですね。ちょっと予算によりますと、この裁量のきかない義務的経費が、前年度に比べてということですかね。公債費が１４．４％増、扶助費が５．８％増、人件費が２．１％増というふうにありますが、この合計額を教えてください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　これは、済みません、合計額だけでよろしいでしょうか。

［「はい」と呼ぶ者あり］

○総務部長（上田俊介君）　義務的経費では合計で１４１億７，７６９万７，０００円となっております。

合計額は以上でございますけど、内訳的なものを申し上げますと、まず、公債費につきましては、予算に関する説明資料の７ページにありますとおり、前年度と比較しますと１４．４％の増ということで、金額で申し上げますと４億５，６０３万円の増額となっております。この要因としましては、主に庁舎整備や、地域振興基金の原資として借り入れました合併特例事業債及び熊本地震関連で発行した災害復旧事業債の影響によるものでございます。

次に、扶助費につきましては、同じく予算に関する説明資料７ページにありますとおり、前年度と比較しまして５．８％増で、金額で申し上げますと３億４，７３０万４，０００円の増額となっております。これは児童扶養手当給付費や自立支援給付費等が、制度改正や対象者、利用者の増加に伴い、大幅に伸びていることによる影響でございます。

人件費につきましては、予算に関する説明資料は、性質別のため、予算書の２２２、２２３ページをごらんいただきますと、前年度比６，１５２万５，０００円の減額、１．４％の減額となっております。減の要因としましては、退職者数が多いことによるものでございます。

先ほど冒頭で申しましたように、義務的経費の合計としましては、１４１億７，７６９万７，０００円となっておりまして、前年度と比較しますと７億４，１８０万９，０００円の増額というふうになっております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　答弁ありがとうございました。

この試算、中期財政試算、ここを基準に私はお話をしておりますが、ちょっと改めてお伺いしますけども、この試算で導き出された金額もそうですけど、前回等々の一般質問の答弁でもお答えいただいておりますが、改めてお伺いしますが、菊池市、本来、適正な財政規模というのはお幾らだと考えられていますか、教えてください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　本市の適正な財政規模につきましては、以前の一般質問でもたしかお答えしておりますとおり、２５０億円から２６０億円程度というふうに考えております。

実際に中期財政試算のほうも見ていただきますと、平成３４年度の試算額を２５６億３，５００万円と見込んでおります。その程度の財政規模となるように調整を図っていく必要があるかなというふうに思っております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　２５０億円から２６０億円と。間をとって２５５億円だとしても、一方、２５５億円程度だというふうに言いながらも、試算をしながらも、公債費が４億円ふえると。公債費なんかは、そこそこはもう計算できるはずなのに、それでさえ、もう１年間でたった４億円もふえちゃっているよというふうに、これは返さなきゃいけないお金なので、それを返すなということではないんですけども、計画的にいろいろ進めていかなきゃいけないのに、ちょっとなかなかこれは甘いんじゃないのかなというのが目立ってきたのかなと私は考えます。

単純に言えば、平成３４年度の試算によると２５６億円ですから、あと二、三年で２０億円程度減らさないかんということですよね。これは支出ばかりじゃなくて、収入も減るから、収支のバランスが２５５億円程度だというのが適正だというふうにみずからおっしゃっておられます。

そのためには、じゃあ、今、何をすべきなのかというふうに考えたら、大きく言えば、支出を減らして収入をふやすというような知恵を出すしかないのかなというふうに思いますが、支出を減らす一つの方法として、前回の一般質問で、扶助費を減らすために口腔ケア等を進めて、医療費を抑制しませんかというような提案をさせていただいたりしました。

あとは、まずは市役所の職員さん、全ての方がこの共通認識を持つべきなのかなというふうに思います。入ってくるお金が減ります。だから、今まで同様は出せなくなると。この簡単なお話ですね。

私が読んだその本の中では、とにかく財政課の人たちは嫌われるんだというような、何でだろうというような本だったんですね。そこが、その本によりますと、財政課の人たち以外は、入ってくるお金のことはわからんから、何で今までもらってたお金がもらえないの、財政課に絞られちゃったよというようなことを書かれていて、ああ、なるほどなというふうに私は思いました。減ると、お金が入ってこないよというようなことを認識すれば、今まで自分たちがやってきた事業をどうしなきゃならないのかというふうな気持ちにもなるのかなというふうに思います。

少し話がずれますが、先日、こちらも政務活動費を活用させていただいて、農業を考える議員の会の研修に同行させていただきました。そこで勉強してまいりました。その中で、農水省に行って、国の動向の勉強と陳情活動をしてまいりましたが、そのお話の中で、すごく興味深いお話が何点かあったんですが、とにかく職員さん、異口同音、事業は５年間で見直しをされるんですというふうに、もう皆さん、とにかく言うておられました。どの担当者の方もこのことを念頭に置いて、スケジュールを立てて、ローリングしているということでした。制度設計をして５年たったときに費用対効果のない事業はどんどんなくされると。だからこそ、自分たちがかかわった事業をよりよく、より使いやすくしてもらうために、必死で取り組まれている様子がありありと見て取れました。物すごく嫌みに聞こえるかなとは思いますが、役所の人ってこんなに必死になるんだなというふうに、ちょっと私は意外でした。

そこで、お尋ねなんですけども、私は菊池の市役所の職員さんからその５年縛り、いわゆるタイムリミット的な発言を余り聞いたことがありません。いろんなお話を聞く上で、もうあと何年しかないので、この結果を出したいですというようなお話はあんまり聞いたことがないんですが、本市のその事業の見直しの期限の取り決めというものはありますか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　事業の見直しの期限の取り決めはということでございます。現在、本市には総合計画であるとか、実施計画に基づいた事業評価であるとか、施策評価を毎年行っております。

その中で、事業ごとに対する必要性であるとか、有効性、効率性等を検証いたしておるところではございます。見直しや廃止も含めた今後の方向性をその中で決定をしているということです。

また、そういうことで、事業評価や施策の結果を参考に、中期財政試算を作成する際のヒアリングであるとか、予算編成時の査定においても費用対効果を検証しながら、事業の廃止や事業費の見直しを行っているところです。

スクラップ・アンド・ビルドとかいう形で、本来はそういうすべき部分も当然、そういうことがうまくいけば、そういう形もあるかなと思いますけども、なかなか一回補助事業でやったことが、補助が打ち切られた暁に、それをいきなり切れるのかというのも、そういう部分もあります。ですので、本来はそこでびしっと切れれば、それをやめて、新たな事業へという形にできるかもしれませんが、そこがなかなか市としてはやりづらいという部分も確かにあるところですので、そういうのを考えながら、当然事業の廃止であったり、事業の見直しをやっていかなくちゃいけないというふうに思っております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　確かに、今、部長が言われるように、切るというのはすごく難しいお話だと思います。私も一応議員をしておりますので、できれば、本当はあれもしてくれ、これもしてくれというほうの立場に立ったほうが楽なんですけど、私はどっちかというと、もう見直せと。もう支出を減らしていくべきだというところの視点のほうが多いのかなと自分では思っております。それは、我々はチェック機関ですから、やっぱりここに無駄があると思えば、そこは減らしていかなんと。それは何でかといったら、絶対支払わなんお金がそこにあるからだと思うんですよ。

今の部長の答弁ですと、ちょっとＰＤＣＡに関して聞いたときもそうですけども、やってはいると。ただし、難しい側面があるというお答えだったと思うんですよ。私が聞いたのは、時限の取り決めはありますかというところですので、私の今の聞いた感じでは、はっきり明言、何年ですというのはないというふうに受け取ったんですけども、私はやっぱり聖域なくつくらないかんのじゃなかろうかというふうに思うんですよ。ここは何年、ここはなしというふうになると、やっぱり不公平感も出るので、聖域なく、時限、この１本１本の事業の見直しの時期というのを明確に出すべきだと思いますが、それをつくるという考えはありませんか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　つくるとなかなか明言はできないのかもしれませんですけども、当然歳出を抑えるような方向で動くのは今から必須だというふうに思っておりますので、そういう感覚を持ちながらやっていくべきだというふうに思っております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　明言はできないというのがぎりぎりのお答えかなというふうに

思います。

少しぼんやりしちゃいますけども、じゃあ、支出をどうやって減らそうかとなったときに、一番最初にやっぱり近道と思うのは経常的経費ですね。そこを見直すのが一番早いかなと思いますし、せねばならないというふうに思いますけども、支出を減らすにはどうすれば一番近道かというのをどう考えられているか、教えてもらっていいですか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　抑えるべき支出ということで、当然全体的に見直す必要があるというのは感じておるところです。特に、先ほど申しました義務的経費のうち、年々増加しております扶助費、当然先ほどおっしゃいました公債費、また、今後負担が大きくなると予想されます既存公共施設の更新であるとか改修にかかる費用、インフラの再整備などの経費について、重点的に見直していく必要があるというふうには考えております。

扶助費については、議員、前回、予防事業の充実によりまして抑制に取り組んでいくと。これは長期的に見るしかないかなというふうに思いますけれども、また、公債費につきましては、毎年度の発行額を可能な限り当該年度の償還額以内とすることで、地方債残高の縮減に努めて、公債費負担の軽減を図る必要があるというふうに思っています。

また、公共施設については、かかる経費につきまして、公共施設等総合管理計画をつくっており、それに基づいて、施設ごとの将来方針を定める個別の施設計画というのの策定を進めておりますので、施設の整理統合・廃止を含めて、公共施設の適正な配置を推進していきたいというふうに思っております。

また、その他の経常的な経費につきましても、積極的に見直して、より当然効率的、効果的な予算執行に努めてまいりたいというふうに考えておるところです。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　ありがとうございました。

公債費に関しては、やっぱり何というか、返せるときに返したほうがいいのかなと私は個人的には思います。結局、少しでも早く返せば、そのときはきついですけど、子どもたちに借金を残さないで済むと思えば、いろんな考え方があると思います。やっぱり抑えられるところは抑えていきたいとなると、扶助費もなかなか膨らむ一方ですので、知恵は出さないかんけど、払わないかんところは払わないかんので、あとはやっぱり公共施設になってくるのかなというふうには思います。計画が

あるので、無理をしない程度には、早められるところはもうどんどん早めていっていただいて、積極的に当たらにゃいかんところは積極的にしていただいてというふうなことが現実的かなというふうに思います。

あとは、収入をいかにふやすかがちょっと問題なのかなというふうに思います。先ほど言いました研修のときに、農水省のある役職の方が実はこうおっしゃいました。平議員、国の予算は、実はない補助金はありませんよというふうにこっそり言われたことが、私は一番印象的でした。つまり、鉛筆をなめろということだと思います。国としてはいろいろなメニューをつくっていると。それを取りに来てもらわないと出しようがないでしょうというようなメッセージだったのかなというふうに思います。

農水省の方がそう言われたんですけど、経済産業省の、特に地方創生に関する予算がかなり多くあると。かなり多く組んであるけども、実際は活用されていない部分がとても大きいということでした。政策的経費をふやすためにも、ここはもっとチャレンジをして、１円でも多く国から、県から予算を分捕るぐらいの強い気持ちをもって、気合いが必要になのかなというふうに思いました。そして、そのためには、やっぱり職員さんに頑張ってもらうしかないと思います。給料も今議会が通れば上がります。もうこれはやってもらうしかないと思います。

先ほど部長も言われましたけども、スクラップ・アンド・ビルドということですが、何回も言いますが、その勉強した本の中では、スクラップ・アンド・ビルドではなくて、予算の考え方はビルド・アンド・スクラップだというふうに書いてありました。つまり、何が絶対的に必要なのかというものを考えて、その予算をどこから持ってくるかというふうにつくってくれば、もうここはいたし方ないという部分で削っていくところもあるんじゃないかというふうに示唆してありました。

本当にこれから多分財政的に厳しくなると思います。払いは払わなきゃいけない、入ってくるお金は減っていくというふうに思うと、抑えるべき支出は、今、部長が言われたところだと思いますので、収入をふやすためには、もう皆さんに頑張ってもらうしかないと思います。

ただ、整合性のとれてない、この私たちが持っている試算書、この数値に関してですけども、適正規模というのは２５０億円から２６０億円というふうな数字が明確に出てて、ただし、１年目からこんだけ数字がずれているとなると、どんなふうに整合性をとっていくのかなというふうに思いますが、この試算書をつくり直すのかどうなのか、そのスケジュールを教えてください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　中期財政試算のスケジュールといいますか、今後、毎年ローリングしながら精度を高めていきたいというふうには考えております。その中で、新たな財政需要等に対応できるように、既存事業を見直しながら適正な財政規模となるように努めていきたいというふうに思っております。

当然先ほどお答えしましたとおり、中期財政試算においては、平成３４年度の試算額を２５６億３，５００万円と見込んでおりますので、それに向けた取り組みもやっていきたいというふうに思っております。

また、次の試算の公表時期についても、毎年１０月の予算編成と同時期等に公表しまして、予算編成に取り組みたいと、そういうふうなスケジュール感を持っておるところです。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　じゃあ、また前回が１０月だったので、また１０月にこの数値を見直した感じで来るのかなというお答えだったと思います。とにかく２５０億円から２６０億円というゴールはもう決まってますから、それにどうやって合わせていくのかというところが非常に大切なところですが、市長、最後に、この適正規模に合わせていくためにどうしていこうというふうに考えておられますか。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問は、今後の財政適正規模に向けての考え方という質問でございました。

るる、今、部長のほうから説明しましたように、私どもが次世代に向けて、安定的かつ持続的に公共サービスを提供することのできる財政基盤を確立するというのは、非常に重要な課題でございます。そのために適正な財政規模に向けて調整を図っていくということが、今、私どもが取り組んでいるところでございまして、そのための一つの指針として、中期財政試算というのを作成して、明確な目標設定を行ったところであるわけです。

現在、適正な財政規模に向けて、全体的な見直しはもちろんですけども、特に経常的な経費の見直しであるとか、公共施設の適正管理等の長期的な取り組みを行っているところであります。

ただ、今後の少子高齢化、人口減少の時代というのが、ある意味では私どもがまだ経験してない事柄でありますから、一定の予測はしているものの、その先に一体何があるのかというのは、本当の意味では予測し得ない分も出てくる可能性がありますので、また、それに伴いまして、行政に求められるニーズというもの自体が多

様化していくだろうなということも想像されますので、その時々で新たな財政需要が生じるということも十分考えられるところであります。

ですから、そうした際にも、事業の重要性や緊急性を検証しながら、全体をいつも見直しながら、新しい事業を考えるということで進めていきたいというふうに考えております。

そのような場合には、収入増を図っていくという、これはもう永遠の課題でありますけども、それに合わせて、まさしく、今、ご指摘のあったようなビルド・アンド・スクラップ、市民サービスの低下につながらないように細心の注意を払いながら、議員の皆さんのご理解、ご協力をいただきながら、適正な財政規模となるよう、プライオリティーをつけながら調整を図っていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　私からは、やはり事業に関しては時限設定をするべきかなというふうに思います。

あと、先ほども少し言いましたが、政治家をしていて、あれをつけてくれ、これをしてくれというほうがいいんですけど、市長を初め執行部の方々にはその反対で、これはもう切っていかねばなりませんというような、きつい立場の仕事をしていただかなければならないので、大変かとは思いますが、ぜひ子どもたちが大きくなったときに、ああ、このまちでよかったと思ってもらえるように、切るべきところは切ると、絞るところは絞るというような決断もしっかりしていっていただきたいなというふうに思います。

ちなみに、きょうの何回か言いました勉強をした本なんですが、「自治体の“台所”事情“財政が厳しい”ってどういうこと？」というような本があります。これ、ちなみに、今、菊池の図書館にも入っていますので、よかったら読んでいただければと思います。

次の質問に行きます。きくち防災アプリについてお尋ねいたします。

この質問の目的は、一体何のための事業なのか。そして、今後、どのような活用方法か明確にしたいなというふうに考えておるからです。

ことし１月３日に震度４の地震があったことは記憶に新しいと思います。それからあと何回か地震あっていますが、その１月３日の段階で、そのときに鳴るべき防災アプリが鳴りませんでした。その原因は何でしょうか、お尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、まず、防災・行政ナビのシステムの概要をちょっと説明させていただきたいと思います。

本市の防災行政無線及びきくち防災・行政ナビは、緊急情報を瞬時に伝達するために、全国瞬時警報システム、Ｊアラートですね、と連携をいたしております。Ｊアラートから熊本地方に推定震度５弱以上の緊急地震速報や震度速報が発表された場合、自動的に防災行政無線ときくち防災・行政ナビでお知らせする仕組みとなっております。

１日３日の地震の際には、防災行政無線につきましては、自動的に放送がありましたけれども、きくち防災・行政ナビについてはお知らせができておりませんでした。このため、保守管理業者に原因の特定をお願いしたところ、平成３０年３月２６日、大分前になりますけども、市役所のメールサーバの変更がありまして、その際にＪアラート受信機のメール設定変更が必要でございましたが、連絡調整ミスにより、古いままの設定であったということが原因でございました。

その後、メール設定の変更及びテスト送信を完了しまして、１月２６日の地震の際には、きくち防災・行政ナビにおいてもＪアラートからの自動通知を確認いたしたところでございます。

今後は、このようなことがないように、定期的なテスト送信試験を行うとともに、庁舎内のシステム変更の際には、関係各課と情報共有を密にしまして、再発防止に努めたいというふうに思っております。

１月３日については、大変申しわけなかったというふうに思っております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　ありがとうございました。

地震はいつ来るかわかりませんので、そのときに大切なものが鳴らないと。何のために入れたんやというふうになりますので、しっかりやっていただきたいなと思いますが、この我々が入れているのは、携帯電話に、スマートフォンに入れているアプリですけども、さらに区長さんに配付しているタブレットがあると思います。改めて、この導入の経緯と目的、そして、それにかかったお金は幾らだったのか。そして、財源が何だったのかというのを改めてお示しください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　きくち防災・行政ナビシステムを導入した経緯と目的につきましてですけども、平成２８年に熊本地震を経験しまして、市民への情報発信時にさまざまな問題があったところです。

その問題を解決するための手段としまして、平成２８年に総務省の災害情報伝達手段等の高度化事業というのに応募いたしました。全国７団体の実証事業実施団体に決定いただきまして、平成２９年からこの事業に取り組んでおるところでございます。

今のところ、事業効果としましては、災害時の情報入力が一つの端末で、きくち防災・行政ナビや安心メールなどに配信できるようになりまして、入力作業が大幅に短縮されております。次に、情報伝達方法が音声だけでなく、文字や画像も送れることになりましたので、今まで以上に詳細な情報を提供できるというふうになっております。

また、区長さんや民生委員さんなどには、それぞれの役職に合わせた情報を提供することができるようになりましたので、災害時の初動対応や、対策がよりスムーズに行えるようになったかなというふうに考えております。

タブレットの導入の経費でございますけども、実証事業実施団体として取り組んでおりますので、事業主は総務省となります。そのため平成２９年度において、この事業で負担した金額というのはございません。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　では、ランニングコストですね。その買ったのは総務省からいただいたということになると思うんですけど、ランニングコストと今後の活用方法をちょっと教えてください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　まず、活用の方法からお答えしたいと思います。

まず、区長さんに配付しております区長用タブレットには、タブレットで撮影した写真を簡単に市役所に送付できる写真投函機能と、大規模災害が発生した場合には、各区から災害情報を報告していただくための災害速報入力機能の追加をいたしております。

今後も区長さんのご意見等を伺いながら、情報受信だけではなく、情報の共有化を進めていきたいと、そういうふうなシステムには思いがあります。

また、民生委員さんなどに配付しておりますタブレットにつきましても、今後、災害時に必要な要支援者情報等の共有化をちょっと検討いたしておるところです。

また、スマートフォンをお持ちの皆様には、ぜひきくち防災・行政ナビのアプリをダウンロードしていただきまして、多くの方が利用していただくことによりまして、市民と行政を結ぶ大きな情報ツールになり得ると考えておりますので、そこを

お願いしたいというふうに思っております。

また次に、ランニングコストですけども、平成２９年度に導入しましたので、平成３０年度からシステムとタブレットの機器につきましては、総務省からの無償貸与というふうになっております。

ただ、保守管理につきましては、平成３０年から平成３４年までの５年間の長期継続契約で、金額としまして４，４３８万円が保守管理費でございます。内訳としまして、タブレットシステムの運用保守費として１，５６６万円、スマートフォンシステムの運用保守費として３８８万円、タブレットの通信費として２，２１０万円、システムの追加を行っておりますので、その追加費が２７４万円となっております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　通信費で５年間で２，２１０万円というわけですかね。これは施政方針の１０ページのところに、きくち防災・行政ナビのことについても市長は触れられております。地震を含め有事の際に双方向でやりとりができるというのがタブレットとかスマートフォン、そういうアプリの非常にすぐれたところというか、有益性の高い部分なのかなというふうに思っておりますが、１月３日に動かなかったというのが、ちょっと根底から覆っちゃうんで、すごく言いにくいんですけど、実際、その３日の段階で動かなかったと。でも、対策室等をつくったというふうになった場合に、それを市民にお知らせをしなければ、情報をくださいねというようなメッセージにはならないと思うんですね。市役所だけに対策室があって、ほかの人たちは何もなく生活してたら情報は集まらないので、双方向のやりとりができるというのが一番の魅力であれば、それを使って、区長さんだけじゃなくて、我々だって写真を撮って、ここがこういうふうになってますよというような送ることはできると思うんですよ。だから、震度何以上のときにはこういう対策室をつくるとかという決まりがあると思いますので、それをつくったよという情報を出して、さらに区長さんとか民生委員さんだけじゃなくて、市民の方、アプリを入れている方々にも、その情報をもらうための情報収集に使うというような考えはありませんか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　現在、区長用のタブレット等には、先ほどご説明しましたとおり、写真の投函機能でありますとか、災害速報入力機能などにより、情報の共有化でありますとか、双方向の通信ができるようにしております。

議員のおっしゃることは、スマートフォンとかの投函ができないかということで

ございますけども、当然市民の皆様から情報収集いただきますのは、災害時に多くの情報が市役所に集まることになりますので、大変有益なものというふうには考えております。ただ、送られてきました情報への対応でありますとか、また、正しい情報かとか、そういうのを判別する必要もありますので、現在はタブレットのみにはある程度対応しておりますけれども、スマートフォン等にも対応するためには、もう少しその対応を検討していく必要があるというふうに思っております。

また、災害発生情報を流した後の情報、それ以後、どういうふうになっておるかというのは、また今まではなかなか出すのがなかったかなというふうにちょっと反省をいたしておりますので、その辺もタブレットまた防災・行政ナビ等でお知らせできれば、市民の方の安全・安心につながるのかなというふうに考えております。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　タブレットではなく、そのアプリのほうを、打ち合わせの段階でも同じようなことは言われてまして、まず心配するのは、たくさん情報が来て、それを写真を撮って送った人が、あれどうなったというふうな対応ができないかもしれないからというような答えが一番最初に返ってきて、そこを心配されるんだなと、ちょっと印象的でした。それは一番最初から、有事の際にだけくださいというふうに言ってて、それに対する対応はできませんというふうにしておけば、本当にみんな、今、特に若い方は持っているし、余計使いこなせる人たちがいるのだから、その真贋を見定めなければならないけども、情報を集めるソースとしては、やっぱりオープンにあけておくべきだというふうに思う。市役所としては情報を集めてます。でも、アプリは使わないでくださいというふうに言われちゃうと、じゃあどうやって言えばいいんだろうというふうになっちゃうと思うので、特に、今、私は４０代ですけども、３０代、２０代、そして１０代の子たちは、もうスマートフォンやそういうＩＴ機器を持っているのが当たり前の世代の子どもたちが大人になってきたときに、何てまどろっこしいんだというふうになっていく未来は、これはもう目に見えてますので、ぜひ、そこの対応を考える前に、そうしなくてもいい方法を考えて、ぜひたくさん使っていただけるように知恵を出していただきたいと思いますが、市長、これ、施政方針の中にもこのことを書いてありますが、今後の展望というのがもしあれば、ちょっと教えてください。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの平議員のご質問は、これはスマートフォンにある程度限った質問というふうに考えてよろしいですか。それとも、ＩＣＴ機器。

［「両方お願いします」と呼ぶ者あり］

○市長（江頭　実君）　わかりました。広くＩＣＴというものをもう少し取り込めないか、活用できないかという趣旨のご質問というふうに理解をいたしました。

まず、今、区長さんあるいは民生委員さん、あるいは一部の高齢者の方にお渡ししていますタブレットでございますけども、災害時には情報の共有化が瞬時にできる。迅速にできる。それから双方向の情報のやりとりは可能だと。画像情報も入手が可能だということで、大変、活用次第で初動対応が非常に迅速かつ確実に行えるということで、今後ともさらなる機能の充実を図っていきたいというふうに考えております。

そして、次に、スマートフォンのアプリでありますけども、スマートフォンというのは、文字どおり、常に携帯することが前提になっておりますので、家が留守であろうが、外出していようが、情報が届きやすいということで、情報伝達の確実性が高いということ、また、今後もスマートフォン、それ自体の普及がますます進んでいくだろうというふうに思いますので、積極的に活用していきたいというふうに考えております。

今、ご指摘のあったような部分につきましては、今後、研究する部分はありますけども、基本的には積極的にそのよさを生かしていきたいというふうに思っております。

また、これは災害に限らずに、スマートフォンアプリがこの市の連絡手段として機能すれば、今度はそのアプリを一つの市民の間の情報ツールとして活用していただくということも可能であろうというふうに思っております。例えば、その中を小分けする形で、学校のＰＴＡ単位であるとか、そうしたことの連絡網に使っていただくという、ふだん使いも可能になっていくのではないかというふうには考えているところでございます。

いずれにしましても、行政と市民をつなぐ有効な情報ツールとして機能の拡張を含めて、今後の普及・啓発に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　先ほども言いましたけど、本当にこれからの世代の人たちはもうそれが当たり前という世代になっていきますので、一方、市としてはそういうアプリを皆さんにもっと広めて知ってもらいたいと。市からの届けをしっかり届けていきたい、何かあったときには双方向でやりとりしたいというふうな思いがあるのであれば、やっぱりそのアプリを入れて、市民の方がこれがあって便利だというよ

うに思うようなところもつくっていったほうが普及していくのかなというふうには思います。そこの線引きこそ本当に難しいと思いますけども、私は、この防災アプリにしろ、タブレットにしろ、とても有益なものだというふうに思いますし、これからもっと、何かもったいないなというのがちょっと正直なところですので、いろいろチャレンジしていっていただけたらなというふうに思います。

最後になりますが、今議会をもって定年退職をされる職員の皆様、長きにわたって菊池市のために尽力いただいて、ありがとうございました。余り個人的なことを言うのもちょっとどうかと思いますが、特に私は、ここにいらっしゃる部長の中で、教育部長に対して質問が多かったなというふうに思っております。うまくさばいていただいて、大変お世話になりました。お疲れさまでした。

終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、平直樹君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時５１分

開議　午後１時５９分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　皆様、こんにちは。公明党の泉田栄一朗でございます。

今回は歴史民俗資料館について、仮称でございます。私は、今まで議会質問で菊池の歴史にかかわる質問を数回させていただきました。例えば菊池一族と西郷隆盛のルーツをたどり、龍郷町との友好都市についての質問や、また、文教菊池の基礎を築いた渋江家、そしてまた、木下韡村についての質問もさせていただきました。これらを質問することにより、文献を調べたり、掘り下げて考えたりと、多くのことを学ばせていただいたと思っております。そして、この菊池の歴史がいかに壮大であり、どこよりも私たち市民が誇りにすべきであるということに至りました。

そこで、平成２９年に議会質問で、文教菊池をテーマにした資料館建設が必要という質問をさせていただきました。答弁として、当時の教育部長は、豊かな菊池市の文化と歴史を生かすために、資料館等の施設は必要だと感じています。しかし、現在、市にはまちかど資料館あるいは菊池神社等で展示をしたり、また、市が所蔵している資料はわいふ一番館、また、生涯学習センターの展示室もあるということでございました。それを踏まえて、今後、どのような形がいいのか研究したいとい

うふうな答弁をいただいております。また、江頭市長は、今ある施設が点在しているので、これを機能的にどう結びつけていくのか検討したいというふうに答えられております。

今回は、その検討した内容について、再度、ご質問をさせていただきます。

まず初めに、確認の意味で、本市では、現在、歴史的展示物をどこに、どのように展示しているのか。

２点目に、歴史的資料や文献はどこに保管してあるのか。

この２点をまず質問をさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、泉田議員のご質問にお答えをさせていただきたいと思います。

本市の歴史的な資料についてということの内容でございます。

前回のご質問が平成２９年度からということでございましたので、余り期間はたっておりませんということになろうかと思います。

現在、本市では、歴史資料等につきましてはまちかど資料館、それから泗水公民館、また、公共施設以外では菊池神社の歴史館で展示をされているということになります。

また、生涯学習センターのデジタルアーカイブにおいて、歴史的な写真であったり、文献資料をパソコンや携帯電話、あるいは図書館において閲覧できるようにいたしているところでございます。

本市におきましては、古代の土器や石器、近代の農業や林業に関連した民俗資料等はまちかど資料館と泗水公民館のほうにおきまして紹介をいたしております。また、中世の菊池一族関連の甲冑や掛け軸等は菊池神社で紹介されているというところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　今、答弁いただきましたけれども、各箇所にそれぞれの内容を置いてあると。あと、歴史的な資料の文献などの保管というのはどうだったでしょうか。後でちょっと答えていただきたいと思います。

そういうことで、各箇所で展示してありますけれども、その、今ある施設を活用するというは非常に大事だと考えてはいますけれども、一つに集約された資料館というものが私は必要ではないかと考えております。

理由としまして５点、市民や子どもたち、また、市外の人に菊池のことを紹介し、知ってもらうために、点在していると断片的で全体像がつかみにくいということが１点。そして、貴重な文物、資料等を保管する環境が不十分である。例えば、湿度や光等が管理されていない場所があるのではないかと。３点目に、セキュリティ的なものが不十分ではないかと。４点目に、観光客を呼び込むための経済効果がそれでは薄いのではないかと。５点目に、はっきり言うと、市民は何がどこにあるのか知らない人が非常に多いということが挙げられると思います。

私も友好都市や他県の資料館を私なりに勉強をさせていただきました。本市と友好都市である岩手県の遠野市では、歴史、文化、自然、暮らし等を紹介する遠野市立博物館、さらに、広域の拠点としてにぎわった江戸時代のことがわかる遠野城下町資料館、遠野に伝わる昔話を映像や音声で体感できるとおの物語の館、かつての遠野の農家の生活様式を再現し、文化や風習を伝える伝承館、遠野の農村を丸ごと際限している遠野ふるさと村と。わずか人口が２万５，０００人でありますが、五つもの施設を擁しておられます。また、地元の人たちが自分の住んでいる場所の歴史、文化を知り、ふるさとを誇りに思い、かつ観光ガイドを作成し、観光スポットとして広く周知しておられます。

また、宮崎県の友好都市であります西米良村は現在人口１，１５３人でありますが、何と菊池記念館という歴史民俗資料館があります。菊池一族の末裔の菊池武夫が西米良村を治めたことが顕彰され、資料館の中には菊池精神というものが受け継がれております。

友好都市でもう一つ、鹿児島の龍郷町ですけども、人口が５，８００人のところで、町の歴史や西郷隆盛を中心としたものを紹介しておられます。

近隣の地域では、山鹿市、玉名市も足を運ばせていただきました。

山鹿市の博物館は、市の中心地より外れたところにあり、古墳を中心とした展示が多く、観覧する人が少なかったように感じました。

玉名市の歴史博物館は、新庁舎の近くにあり、川とともに玉名が発展した様子をわかりやすく展示されておりました。皆さんもご存じかと思いますけども、時代劇の中で拝一刀という侍が胴田貫を持っておりましたけど、その同田貫は菊池の発祥ですけども、それが玉名市に展示されてありました。また、現在はＮＨＫ大河ドラマ・金栗四三の展示がしてあり、にぎわいを見せておりました。

それぞれの特徴や問題点を抱えながらも、各市町村は博物館を活用しながら、さまざまな角度で教育や観光に役立てておられました。

私が思う菊池の資料館、本来はやはり菊池の気候風土からの成り立ち、始まり、そして、菊池が昔、小京都と言われる菊池市の歴史があり、菊池を支えた偉人はも

ちろんのこと、そればかりではなく、農林業の変遷とともに生きる人々の生活様式を紹介しながら、名もなき庶民がつくり上げた文化を紹介する場があっていいのではないかと。さらに、その中で生まれた貴重な知恵や遺産等を一同に展示、紹介する場であればいいなと考えております。

昨年は菊池川流域が日本遺産として認定もされました。本市は、現段階で分散している資料館のままでいいという考えでおられるのか、菊池市がどういうふうなスタンスで考えられているのか、再度、確認をします。お願いします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、再質問のほうにお答えをさせていただきたいと思います。

先ほども少し申し上げましたが、本市におきましては、古代の土器ですとか、石器、それから近代の農業や林業に関連した民俗資料等というものは、まちかど資料館と泗水公民館において紹介、保管もいたしているところでございます。また、中世の菊池一族関連の甲冑や掛け軸等は菊池神社で紹介をされているということになります。

そのほかにも、議員おっしゃられたとおり、平成２９年度に菊池市を初めとする菊池川流域の自治体が「米作り、二千年にわたる大地の記憶」をテーマに日本遺産に認定をされたことを受けまして、米づくりの歴史や文化を巡回展、ホームページ、ＳＮＳ、広報誌などで紹介をしているところでございます。

分散のままでよいのかというお話でございましたが、こういったものを一つずつ集めて収集をしていくということがまずは肝要かと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　今、そういうさまざまなところに拡散して置いてあるということでございますけれども、やはり私としては、それは一つの研修、勉強に、ここのところは詳しく見ることはできると思いますけども、全体像がなかなか見えにくいというふうに思っております。

その菊池市に資料館が現在ないことによる損失、弊害を何点か紹介をさせていただきます。

例えば、菊池一族を先祖に持つ、現在、福島県在住の紺野さんは、先祖の品々、例えば、刀、掛け軸、古文書、たくさん持っておられます。これを２年前、菊池で展示したかったということで、そのオファーがあったけれども、そういう場所がな

く、玉名市で展示を開催されたといういきさつをお聞きしました。

また、本市で文教菊池の流れをくむ木下韡村や梅里の重要な古文書がありましたけれども、これを熊本市に寄附をされたということもお聞きしました。これは大きな損失であると思っております。

そしてまた、その韡村の流れをくむ武藤家の宝物がいろいろ、甲冑とか、書物とかあったと思いますけれども、そういうものが外に流出したというお話も聞いております。現在、その武藤家の家を菊池市が管理していこうという動きにはなっていると思いますけれども、やはりそういう一つのきちっとした資料館がないがために、それが流れてしまったということで、このことについて、市はどのように考えておられるのか、質問させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、再々質問にお答えをさせていただきたいと思います。

まず、現在、本市では、まちかど資料館で年３回程度、菊池の歴史や文化に関連した企画展を実施しておりまして、個人がお持ちの歴史的資料につきましても、先ほど議員ご紹介がありましたとおり、平成２９年度に開催しました渋江家に関する貴重な資料の展示展等を実施した例もございます。

先ほど、福島のお話が、オファーがあったという話をされましたが、仲介された方は玉名のほうを紹介されたということで、直接的なオファーはいただいていないのではないかと思っております。

そういったご相談があれば、できる限り協力をしていく、いきたいというつもりでございますが、ものによりましては、議員の先ほどのお話もありましたように、設備の整った施設、空調とか、光とか、湿度とかに対応したような施設が必要となる場合もございますので、所有者と協議の上、対処してまいりたいと考えております。

また、個人がお持ちの歴史的資料の散逸を防ぐことについては、積極的な周知に努めたいと思っております。これまでもご相談があれば、寄贈いただいた上で、市で保管する手段も講じて守ってまいったところでございます。また、寄贈が無理な場合は、寄託をいただいたり、あるいはデジタルアーカイブで対応するという場合もございますので、今後も引き続き広報誌あるいは区長会等で広く呼びかけを行いたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　先ほどまちかど資料館の設備の件も言われましたけれども、私の知っている方がそこに掛け軸をかけたと。そのときに、やはりどうしてもこの湿度と光が問題で、掛け軸が傷んだというお話も聞いております。やはりそういう環境を整えさせるという意味でも、やはりそういう場所が必要ではないかと思っております。また積極的に、そういうオファーがあった場合には考えていただきたいと思っております。

今回、菊池一族と延寿鍛冶展というのが菊池で３月２３日から５月１２日まで、会場を菊池神社で開催されるということを、もう広報きくちで流れております。大人が８００円、子どもが４００円ということでありますけれども、この菊池の宝である名刀の歴史を振り返ったときに、現在、菊池神社があったところに菊池城があったということです。菊池氏の家紋であります揃い鷹は、この菊池城に淵源があるということをお聞きしております。

菊池一族１０代目の武房によって、京都から延寿太郎国村という刀工、来派を連れてきたことに由来するということでございます。その流れをくみ、菊池千本槍、延寿鍛冶、同田貫と、日本の三大名刀が菊池の発祥であるということであります。歴史に関しては、今、国内の歴史愛好家や全国の菊池さん、また、刀剣女子というブームが、今、起きております。そういう中で、歴史観光による関心が生まれ、観光につながると私は感じております。そういう意味で、この展示もされているというのはわかります。ただ、本市のそういう地域をおこすためには、一つの資料館が必要ではないかと。

地域おこしの協力隊の方々も、今、テレビ等でも頑張っておられますけれども、菊池一族の紹介を、絵で紹介したり、また、文献を掘り起こして菊池を観光につなげようと頑張っておられます。

さらに、市内、市外問わず呼びかけて、ここに歴史的な古物等を菊池市に集めれば、相当の数が集まるのではないかというふうに私は思っております。これらの菊池市の財産を紹介することによって、ひいては流動人口が盛んになり、さらに温泉に入り、おいしいものを食べて帰られ、お土産を買って帰られると。そういう経済効果が生まれるのではないかと考えます。

これを本市はどのように捉え、観光に結びつけられるのか、質問をさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　ただいまの泉田議員のご質問にお答えします。

刀剣女子などの愛好家をどのように観光に結びつけていくかという質問だったかと思います。

刀剣女子や歴女に代表される女性の歴史愛好家が増加している中で、菊池一族の歴史文化資源は、本市がターゲットとしている女性の誘客につながる大変重要な観光素材であると考えております。

中でも菊池一族のお抱え鍛冶として繁栄した延寿鍛冶の刀や、日本の名刀を展示する、菊池一族と延寿鍛冶展は、平成２９年度から菊池一族まつり実行委員会によって開催され、期間中、刀剣女子と呼ばれる女性の歴史愛好家も大勢お見えになったという報告を受けております。

また、この延寿鍛冶展にあわせまして、菊池一族や延寿鍛冶にまつわる史跡等への案内も行われており、市内での滞在時間の延長による地域経済の波及につなげる取り組みも行われているところでございます。

平成３１年は、菊池一族の中でも名高い菊池武光公の生誕７００周年の節目を迎えることから、菊池一族に縁のある全国の菊池（菊地）さんや歴史愛好家をメーンターゲットに菊池ファンをふやすための取り組みを行ってまいりたいと考えております。

今後も本市の歴史文化資源を観光素材として活用し、歴史愛好家などに魅力的なプランとして確立させ、新たな誘客につなげる取り組みを推進したいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　積極的にその愛好家を集めるという工夫をされているというのは私も認めたいと思います。ただ、やはり何回も言いますように、やはり一つにその資料館があることによって効果が生まれるということが、私は強く思っているところでございます。

まず、この資料館についてでございますけれども、国、県が補助してくれる財源というか、そういうものを調べられたのであれば、それをお答え願いたいと思います。

以前、武光公、市民広場のところにあります銅像ですけれども、あれはふるさと創生事業１億円ということで建てられたということを伺っております。何かそういうものがないかということを探っていただければと思います。

そしてまた、市長が施政方針の中で、特に本年は菊池一族第１５代当主菊池武光公の生誕７００周年の節目を迎えることを好機と捉え、一族の歴史文化遺産を活用

した地域活性化プロジェクトをスタートさせると言われております。そのためには、菊池市の歴史を体感し、ふるさとを誇りに思えるような、かつ外の人に紹介できるような常設の歴史資料館が必要だと考えております。

先ほど平議員の縮小しろという話とは逆になりますけれども、私は、これは引き下がれない内容でございまして、ぜひつくっていただきたいということで、市長に再度、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、私のほうから、博物館、資料館等の建設に対する補助金の制度についてお答えをさせていただきたいと思います。

博物館等の施設の建設につきましては、平成９年度までは補助制度がございましたが、現在、国の補助金制度等はございません。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、泉田議員からの歴史資料館についての考えというご質問でございます。

ご説明のとおり、本市では現在、まちかど資料館であるとか、あるいは菊池神社さんほかで歴史的な資料が公開されているという状況でございます。おっしゃるとおり、資料館があるのにこしたことはないわけでありますけども、一つには、財政面のさまざまな状況があるのももちろんでありますけども、まず第１には、資料館という箱があるかよりも、どういう資料があるかと。そういう物、中身のほうがまず非常に大事だというふうに思っておりまして、現在、民間が持っていらっしゃるものもあれば、菊池神社さん、そういうふうにいろんなところに分散されているもの、何が一体あるんだろうと。それから、今度は中身の評価ですね。福島にいろんなものがあるといっても、我々、それを中身を実際にまだ評価して確立しているわけではないわけですね。ですから、そういったことをよく研究していかなきゃいけませんし、そうしたさまざまな分散しているものの情報収集、それから評価、こうしたことのために、デジタルアーカイブを通じて資料収集をしたり、それから、今、手に入る限りの貴重な特に古文書については、図書館の中のそれにふさわしい書庫に置いて保管をしながら研究を進めると。

それから、来年度から菊池文化研究所と、これは仮称でありますけども、そういうものをいよいよ運用開始をしていきたいと。そこにおいて、特にこうした資料の研究、収集、分類等々を進めていきたいというふうに考えているところでございま

す。

遠野市の場合、確かに遠野博物館というのはすばらしい施設でありますけども、今おっしゃったように、じゃあ、そこの１カ所で全て集約できているかというと、むしろ特性に応じて、遠野市さんでも５カ所に分散して、遠野というものを見ていただいているわけでありまして、逆に言うと、だからこそ、観光客は回遊をするような仕組みにもなっているわけであります。そういうプラスマイナスの両面あると思いますし、それから、博物館、私、つい先日、遠野を訪れる機会がありまして、この遠野博物館を再訪させていただいたんですが、博物館の狙いとしては、ここにまず最初、観光客に来ていただいて、全体的なその歴史、文化について、鳥瞰図をもって把握していただいた上で、そういう施設に回ってくれればいいんだけど、なかなか実情はそうはいかないと。観光客は余り来ないんですよねというふうな言い方もなさっておりました。

いずれにしましても、まず、点在している貴重な資料を統計的に整理すると。必要なもの、あるいは寄贈してもいいというものがあれば、許す限りそれはもう積極的に応じていきたいというふうに考えております。

もう一つ、これはまだ結論ではありませんけれども、遠野市さんのような、逆に点在して訪れていただくということで、一つのフィールドミュージアムといいましょうか、建物としてのミュージアム、博物館ではなくて、まちなか全体を、施設を生かしながら博物館にするという考え方もあるようでございますので、こちらのほうも参考にしていきたいというふうに考えます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　市長のお考えはよくわかりました。今、とにかく重要なものを集めながら、評価をしながら集めて、今後、どのような形でこれを展開していくのかと。菊池文化研究所というような、そこまで考えておられるということをお聞きしましたんで、将来を見詰めていきたいと思います。

ただ、私が思うのに、この資料館がある位置というのは、やはり今、市民広場ができている場所が一番最適じゃないかと考えております。そして、なおかつ、元体育館跡地の、今、駐車場があったところ、あの周辺が一番場所的にはいいんではないかと。そして、なかなか建物が、研究の中で考えられ、今ある建物を活用すると言われれば、夢美術館等の中身を考え直していただきながら検討していただくと、それも一つかなと思っております。

いずれにしましても、この菊池武光公の銅像があるところの周辺にそういうもの

があればなと。そしたら、観光にもつながっていくんじゃないかというふうな提案をさせていただきながら、次の質問に入りたいと思います。

次に、本市のリスクマネジメントについてということで、このリスクマネジメントとは、各種の危機による不測の損害を最小の費用で効果的に処理するための経営管理手法であります。

全国の市町村の自治体職員に関する事故、事件は毎月のように発生しております。決して他人事ではありません。また、多くの事故、事件は突発的に起こるものであります。自分の所管で万一事故が発生したら、どう対応するのかを判断し、直ちに指示を出さなければならないのであります。その際、うまく対応しろとか、問題を起こさないように処理しろとかいう指示を出したところで、何の意味もないと思います。

自治体のリスクマネジメントの市町村アカデミーの客員教授である大塚康男氏はこうおっしゃっております。二つのポイントがあると。一つは、具体的な指示を与える。そのためには必ず事実確認をしなければならないということ。主観もなるべく排除し、客観的に事実を把握することであると言われております。二つ目に、漏れない指示をきちっとすることということであります。管理職の立場は被害者の対応、事実確認は当然の上、マスコミ対応、そしてまた、議会対応を忘れてはならないと言われています。ここで初めて危機管理対応ができたかということになると思います。

そういうことで、自治体の危機においても、最も発生率の高い事故、事件を紹介したいと思います。

職員の行為に起因するものでありまして、故意による汚職、談合、公金の着服、セクハラ、パワハラなどが挙げられます。また、職員の過失として、飲酒運転、公用車の事故、教師等の不注意による児童・生徒へのけがなどがあります。

次に、自治体の施設上で起きるものとして、自治体が管理する道路、河川、公園、プール、体育館等の設置または管理上の不備によって応じる事故であります。その他、病原性の大腸菌Ｏ１５７とか、鳥インフルエンザ、食品表示偽装等、個人情報流出など、市民を脅かす事件はさまざまです。

今日においては、どのような事件、事故が起きても不思議ではないと思います。このような中で、市民生活を守る一翼を担う自治体職員の方々、危機管理に対する対処法を磨くことは重要であります。特に危機発生時の初動対応は最も大切なものであります。本市でも事務的ミスが多く見受けられました。

市長は、施政方針の中で、開かれた市政と行財政の効率化という箇所で次のように言われております。「市職員としての信頼回復を果たすため、事務管理・執行体

制を見直すとともに、危機管理のための実務的な研修を実施します。あわせて、それぞれの担当部署においては、係ごとの小グループで、継続的に事務品質やサービスの管理改善を行うＱＣサークル活動に取り組みます」と言われております。

このことを踏まえ、本市のリスクマネジメントの取り組みについて、現状を質問させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、現状の取り組みということでお答えしたいと思います。

事故や事件が発生した場合には、まず、その状況把握に努め、原因を究明するとともに、今後の対応策や防止策を検討してまいっております。

また、重大な案件につきましては、まず所属長を通じまして市長のほうにも報告を行うこととしております。あわせて、必要に応じまして警察などの関係機関との連絡・調整を行い、その後、市として賠償責任が発生するものは賠償に向けた対応を、また、職員の処分が必要なものについては、処分等に向けた対応を行っていくことになります。

今般、事務処理ミス等が大変多く発生して、大変申しわけないというふうに思っておりますけども、これにつきましても、状況の把握と原因の究明を行いまして、今後の対応策や防止策等を検討・実施してまいります。

いずれにしましても、リスクマネジメントといった観点からは、事件や事故の発生要因やその影響をある程度予測して、そのリスクに対する備えや防止の方法をとることが必要であるというふうに考えております。

平成２８年度から、現職の警察官を派遣いただいて、事件等の防止につながっていることもリスクマネジメントの一つと考えておりまして、事故等の防止につながっているものというふうに考えております。

今後も必要に応じて、対応策や防止策等を検討し、実施してまいりたいというふうに考えております。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　市としてもさまざまな形で、今、警察官を入れるとか、いろいろ考えられているということをお聞きしました。

全体的に言うと、なかなかぼやけてしまって、どこがリスクマネジメントなのかということで、わかりにくいと思いますので、今回、私がこの質問をするに当たって、ある区長さんから言われたことで、その中の話をします。

先ほど、平議員から言われた防災ナビの活用ということで、それに重複するところがありますけれども、そのことについて、この質問をさせていただきました。

皆様もご存じのとおり、１月３日、和水町を震源地とする６弱の地震がありました。防災ナビにつきましては、議員も試行的に使わせていただきましたし、現在は本市の全区長が防災ナビを使っておりますし、その訓練もされていたということでございます。私も防災アプリを入れております。そういう中で、その防災ナビがあって、３日の日に防災情報が流れるということだったんですけれども、防災のタブレットには流れてなかったということでございます。先ほど平議員も言われたとおりでございます。

さらに、１月２６日の和水町の震源地の５弱のときには、防災ナビ情報があったということでありましたけれども、最初の６弱のところでなくて、５弱のときにあったということであります。そして、その中に発信元がどこであるのかという、普通、一般的にはそのナビが流れたときには発信元が書かれているにもかかわらず、今回は発信元が誰なのかということが書かれていなかったということでございます。もしも本市で大地震があって、それができなかったと、つながるものが、そういう発信元がなかったということであれば、パニックになっている可能性もあります。

そこで、一つは、防災ナビの発信するときの基準、運用のあり方、明確にされていなかったのではないでしょうか。

二つ目に、どのような状態になったときに職員は出動するようになっているのか、具体的にお示しください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　先ほど、１月３日の件と２６日の件については、平議員のほうにお答えしましたので、そこの件については、おわびとともに、その辺はやりたいというふうに思っております。

ただ、地震の緊急情報につきましては、Ｊアラートと連動している関係もありまして、例えばどこから発信元という情報はつけておりません。ということはご理解いただきたいというふうに思います。

ただ、今現在、きくち防災・行政ナビ等で通常お知らせしておりますような情報、あれについては所属部署の決裁を受けて情報を流しておりますし、また、その所属部署等の用件は一緒に添付しておるかなというふうに思っております。

それと、地震とか大雨があって、その体制を組むとき、その組の詳細なとおっしゃいましたけども、例えば地震の５以上が発生したときには、例えばどういう体制をとか、例えば、まず情報連絡本部の体制、その後、最終的には災害対策本部を立

てるような形で、それぞれの条件をしてから体制を整えておりますので、その辺の情報についても当然流していきたいというふうに思っておりますし、また、今どういう状況にありますという情報提供は、今までなかなか少なかったのかなと。ホームページ等では大分流しておったつもりでございますけども、この防災・行政ナビを通じたその辺の情報はちょっと少なかったのかなというふうに思っておりますので、今後はその辺の状況などを情報提供して、住民の方が少しでも安心できるような形での情報提供をやっていきたいというふうに思っております。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　Ｊアラートとの連携と言われましたけども、やはり発信元はどこなのかということを明確にしていかないと、その訓練のときに、今回はこういうときにはありませんよとか、区長さんによっては、どこに連絡していいのかというのがわからないという場合がございますので、やはりそこは明確にしながら、また訓練の折にそういうこともお伝え願えればと考えております。

今回、こういう防災無線、タブレットについての例を挙げて言わせていただきましたけども、今からこの行政の中では、いろんな事故、事件が発生すると思います。そういうことを踏まえながら、これを一例として、今後、どういうふうな連携をしながら、緊張感をもって進めていくのかということを投げかけとして言わせていただきました。

今回のこの質問は、これで終わります。

次に、公園の水の活用についてということでございます。

公園とは、人が集まり、それを活用することによって、生活しやすい環境づくりが生まれると思います。その公園のおかげで、地域の人たちに潤いを与え、楽しみを与えられております。そういうことで、市民が使い勝手のよい公園にしていくことが重要だと思います。最初につくった目的から少しずつ地域の人たちがその公園をどういうふうに活用していくのかという、当然変わってきてもいいのではないかと思っております。

そういう意味で、本市においては、水を活用した公園がどこに、どういうような方法で使われているのか、まずその１点と、次に、具体的に孔子公園が泗水にはありますけれども、孔子廟の公園で、知名度が非常にあります。そこで遊べる公園かというと、そうではありません。もちろんつくられた当初は、中国式の孔子廟を祭る歴史的な公園ということで、どちらかというと、見て楽しむ、そういう公園だとも思いますけれども、その周りには水が流れ、そしてまた、コイを観賞するような形にできております。市民からせっかくこの水の流れがあるのだから、コイがいて、

観賞するだけじゃなくて、部分的に子どもが夏場、遊べるようにできないだろうかと、そういう提案がございました。確かに事業費もかかりますし、また、その観賞用という目的から少し外れてはきますけれども、市民の人たちの憩いの場所、老若男女がそこで遊べて、そして、なおかつ、その近くには中央公民館もありますし、養生市場もあります。そこで買い物をしたり、経済効果も生まれてくるのではないかと思います。そういう意味で、部分的に孔子公園の一部にそういう子どもの遊び場ができないだろうか、水の遊び場ができないだろうかという、この２点について質問させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　皆様、こんにちは。泉田議員のご質問にお答えいたします。

まず、公園の件につきましてお話をしたいと思います。

本市におきましては、水深が浅く、子どもたちが水辺に親しみ、安全に遊べる公園は、泗水町豊水にあります合志川河川公園と、七城町甲佐町にあります鴨川河畔公園の２カ所がございます。

これらの現状でございますが、この二つの公園につきましては、開放型公園のため詳しい集客数等はわかりませんが、合志川河川公園につきましては、以前はイベント時にカヌー体験等が実施されていたようでございます。現在はバーベキューやどんどや等で利用されております。

また、鴨川河畔公園につきましては、平日は小学校や保育園の遠足等で利用されており、休日には家族連れでにぎわい、遊具の利用を初め、広場でバーベキューを楽しんだり、暖かいときには多くの人が水遊びや水辺の生き物を探したりして楽しまれているような状況でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　２点目の孔子公園内に子どもの水遊び場ができないかとの質問について、お答えさせていただきます。

孔子公園は、市民の憩いの場として、また、地域の活性化の拠点となる文化施設として、平成４年度に整備されております。現在は有限会社有朋の里泗水が指定管理者として管理運営を行っております。

主なイベントといたしましては、県内では珍しい１．５尺玉を打ち上げるしすい孔子公園夏まつりや、孔子まつり・コスモスマラソン・農業まつりをあわせました泗水秋まつり、最近では、中国の異国情緒漂う建物を背景にコスプレの撮影スポッ

トとして人気を博していることから、コスプレフェスタが開催されているところでございます。

さらに、本年４月には県北最大級のマルシェであるきくちマルシェが予定されており、年間を通してさまざまなイベントが開催されております。

また、地域住民の方による散策やグラウンドゴルフ、キッズサッカーの練習など、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方がご利用いただいているところでもあります。

孔子公園は、これまでさまざまな整備を行ってまいりました。最近では、平成２９年度に国の地方創生拠点整備交付金を活用し、観光交流施設の建設やステージのリニューアルなど、泗水地区における交流人口の増加を目的とした整備を行ったところでございます。

ご質問の孔子公園の池や水路などを子どもの水遊び場ができるような空間として整備を行うことはできないかというようなご質問だったかと思いますが、孔子公園は築２５年を経過し、建物の老朽化に伴う施設の補修等が想定されていることから、来場者の安全面等を考慮しますと、今後の整備の優先順位としましては、施設の補修を優先したいと考えております。

水遊び場の場所としましては、隣接する泗水公民館敷地内に、地域の要望も踏まえまして、子どもの水遊び場ができる空間を整備していることや、先ほど申し上げました合志川河川公園がありますので、こちらへの誘導を図っていくことも必要ではないかと考えております。

まずは、指定管理者と連携を図りながら、既存の施設を有効に活用しながら利用者の増に努めることで、隣接する養生市場を初めとする地域の活性化に努めてまいりたいと考えております。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　合志川のところ、そして鴨川のところの河川敷を利用して、そういう場所があると。現在はカヌー体験も、昔はやってたけども、現在はやってないということであります。今ある公園を地域の人が愛して、それを管理して活用していくと。これからはやっぱり地域の人たちとワークショップ等を通しながら、今の公園をどう活用していくかということが、今後、重要になってくるのではないかと思います。

今、水遊びということがありましたけれども、まずは築２５年の孔子廟の建物を先にやらないかんということで言われました。私も、今回、改めてゆっくりと公園の中を歩きましたら、孔子廟のかさの部分がもうシロアリがきております。ぼろぼ

ろと落ちておりました。この間、何か修理したかなと思ってましたけども、そういうところをちょっと発見したのはよかったかなと思いますけれども、いずれにしましても、やはりそういう公園のあり方というものを、この水遊びという市民の声からいただきまして、地域に根差した公園づくり、今ある公園を活用していくということを、今回、勉強させていただきました。今後も、公園については、また一般質問等をさせていただきたいと思っております。

私の質問はこれで終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、泉田栄一朗君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後２時５２分

開議　午後３時００分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　こんにちは。議席番号７番、坂本道博です。私は、菊池市市議会議員として、市民の皆様が公平に安心して生活できる環境づくりが大事であると日ごろより感じております。議員活動の中で、地域からの相談や要望など、さまざまな意見をいただいておりますので、それを踏まえて、今回の定例会での質問とさせていただきます。

最近の新聞紙上で、「豚コレラ拡大、終息見えず」といった記事が毎日のように掲載されています。岐阜県での発生１例目以降、飼養豚の殺処分などの必要な防疫措置を実施されてきましたが、ことしに入り、愛知、長野、滋賀、大阪の１府３県に感染が拡大するなど事態は悪化しており、特に封じ込めに不可欠な感染ルートが明らかになっていません。

そのような中、２月２２日、農水省は、相次ぐ豚コレラの発生に対し、感染拡大防止へ野生イノシシへの餌型の経口ワクチン散布を行うと発表しました。岐阜県の豚コレラ発生農場の周辺で豚コレラに感染した野生イノシシ２頭が見つかった経緯を踏まえ、拡散防止のため行われるものであります。

また、農水省は、岐阜県で５例が発生している豚コレラについて、専門家による検討会では、野生のイノシシが最初に感染して、県内の養豚場などに広がったという見解が示され、海外からの旅行者などが違法に持ち込んだ食品に豚コレラのウイルスが含まれ、行楽地などで廃棄された食品をイノシシが食べたことで感染した可

能性を指摘したとありました。

このようなことから、菊池市へ来られた外国人観光客の中に、ウイルスに感染した食品の食べ残しを菊池渓谷などに廃棄され、それをイノシシが食べて、豚コレラや口蹄疫が発生すれば、豚だけではなく、牛にもシカにも感染し、菊池の畜産に大打撃を与える可能性もあるのではないでしょうか。家畜伝染病の防疫対策、有害鳥獣対策にも関連して対策を考えなければならないと思っております。

それでは、通告に従って、質問をしていきたいと思います。

初めに、施政方針について、次に、ごみ分別について、最後に、交通安全対策について、質問します。

それでは、施政方針の中で、市長は、有害鳥獣対策については、農作物の被害が拡大していることから、狩猟免許取得者に対する補助を行い、捕獲隊員の確保を図るとともに、個体数調整や侵入防止柵の設置を推進し、農作物の被害防止に努めると述べられております。狩猟免許取得者に対する補助の内容について、教えてください。

次に、これも施政方針の中の主要施策の中に、快適に便利に暮らせる基盤づくりで、公共交通については、あいのりタクシー、６地域路線で１日最大３往復６便の運行を、４往復８便に増便すると言われています。あいのりタクシーの増便についての詳細と、最近の七城町地内の利用状況について、教えてください。

次に、施政方針の中に、豊富な資源を活用する元気な産業づくりの中で、家畜防疫対策を県と連携し、啓発強化に努めると言われております。

一般質問の冒頭にも言いましたが、現在、近隣諸国においては、口蹄疫や鳥インフルエンザが頻繁に発生しており、また、国内においては豚コレラ等の蔓延が懸念される中、本市での家畜防疫体制においてはどのような対応を行っているのか、お聞かせください。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　まずは、私のほうから、１点目の狩猟免許取得者の補助の内容について、それから、３点目の家畜防疫について、お答えさせていただきます。

１点目の狩猟免許につきましては、本市における捕獲隊員数は、平成２０年の登録者が７７名をピークに、会員が年々減少しております。平成３０年の１１月現在では５４名となっている現状でございます。

有害鳥獣被害防止につきましては、地域ぐるみでの活動や、捕獲隊による個体数調整が重要となっておりますので、捕獲隊員を確保するために、狩猟免許取得者に対する補助を本定例会の平成３１年度当初予算に上程し、審議をお願いしていると

ころでございます。

ご質問の補助の内容についてですが、狩猟免許取得の際に必要な経費のうち、申請手数料、医師の診断書料、講習会受講料、狩猟者登録手数料、わな損害保険料などの経費約３万円程度でありますが、菊池市補助金交付規則で定める補助率３分の１、そして上限を１万円としております。

次に、家畜伝染病についてでございますが、家畜伝染病の発生予防及び蔓延の防止につきましては、家畜伝染病予防法に基づき措置を講ずるものとなっております。そのため、国が特定家畜伝染病防疫指針を作成し、都道府県及び市町村の取り組みについて記載をしております。特に緊急時には、国、県、市及び関係団体が緊密に連携し、市は県が行う具体的な防疫措置に協力することになっております。

現在国内では豚コレラが発生し拡大しております。また、近隣諸国におきましても、口蹄疫や鳥インフルエンザ・アフリカ豚コレラなどの悪性家畜伝染病が続発しておりまして、本市への侵入が懸念されるところでもあります。

密集した畜産地帯を形成しております本市にとりましては、ひとたび悪性家畜伝染病の侵入を許してしまいますと、壊滅的な打撃をこうむることになります。悪性家畜伝染病の発生を未然に防ぐため、畜産農家におきましては、飼養衛生管理基準の遵守を義務づけられており、市としましても、県や関係団体と連携しながら、畜産農家への啓発を進めているところでございます。

しかしながら、いつどこで発生してもおかしくない状況下におきましては、発生後の迅速な防疫措置が求められるところであります。

仮に、九州や県内あるいは市内及び近隣の市町村において発生した場合につきましては、その発生状況に応じ、菊池市家畜伝染病防疫対策要綱に基づく、３段階の対応を行うこととしております。

防疫態勢の構築につきましては、先進地事例などを参考にし、県の指導もいただきながら、庁内における検討を重ね、菊池市における家畜伝染病防疫対策マニュアルを作成しております。

有事の際には、家畜の殺処分への対応など、県が行う防疫措置への後方支援が求められますので、速やかに対応できるよう、庁内各課から担当職員を選出し、演習等を開催しながら防疫体制の整備・構築を図っているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　皆さん、こんにちは。公共交通についてのご質問にお答えいたします。

まず、あいのりタクシーの増便についてお答えいたします。

現在、６路線で１日最大３往復６便の運行でございますが、昨年３月に実施しましたアンケートの結果や利用者のニーズをもとに、平成３１年度、１往復２便を増便し、４往復８便の運行とするものでございます。

この後、事業者との調整、公共交通会議での協議・調整を経て、九州運輸局への変更認可申請が必要となります。その後、市民の皆様への周知を行い、本年１０月からの増便運行を予定しているものです。

次に、あいのりタクシーの七城地域線の利用状況についてということでお答えいたします。

まず、平成２８年度は運行回数が８４３回で、利用者数が１，２７３人でございました。平成２９年度は７６２回の運行で、１，１１３人の利用者です。平成３０年度は、平成３１年１月末現在でございますが、７４２回、１，３０６人ということで、１月末現在で昨年の利用状況を上回っているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

それでは、有害鳥獣対策について再質問をいたします。

１月２７日、菊池市の農業を考える議員の会の先発隊５名で、狩猟免許の中のわな猟免許取得に挑戦しました。事前の予備講習が１月１６日にあり、内容が想像以上に難しかったので、これは自分だけ試験に落ちたら、後で何ば言われるかわからんばいと思い、みんなも一緒だったと思いますが、必死に勉強した結果、無事５名全員合格となりました。ほっとしました。

狩猟免許の事前講習会で、最近では銃による猟よりも、わな猟がイノシシ、シカなどの有害鳥獣捕獲に効果を上げているとのことでした。今、熊本県下でイノシシ、シカが急増し、農作物被害が拡大していることから、受験者もふえており、百数十名が受験されていました。

そこで、わな猟の中の箱わな等に対する国の助成はどのようなものがあるのか、箱わなを仕掛ける場合のわなの貸し出しをしていただくことはできるのか、お聞きします。

次に、有害鳥獣対策全般についての市の取り組みと市長のお考えをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　私のほうから、１点目の質問にお答えさせていただきます。

箱わなに対する国の補助はということと、貸し出しについてのお尋ねだったかと思います。

箱わな等に対します国の補助事業につきましては、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用しました鳥獣被害防止対策支援事業がございます。この事業は、地域協議会や民間団体等が対象となっており、イノシシなどの有害鳥獣を捕獲するための箱わななど、捕獲機材の導入ができる事業となっております。

次に、この補助事業を活用した箱わなの導入につきましては、平成３１年度において菊池市有害鳥獣捕獲協議会が事業主体となりまして、５基の導入を計画されております。

事業で導入されました箱わなにつきましては、菊池市有害鳥獣捕獲協議会の備品となりますことから、貸し出し条件等につきましては、協議会で今後検討されることになります。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、私のほうから、有害鳥獣対策全般についての市の取り組みということでお話をしたいと思います。

近年、本市においては、イノシシ、シカ等の出没情報が増加しておりますし、これまで出没しなかった地域でも目撃されているというふうに聞いております。

本市の有害鳥獣対策としましては、まず農地に入れさせないということで、侵入防止柵の設置、それから、個体数を減らすということで、捕獲機材の導入、こうしたことに、国、県、そして市の補助金を活用して、引き続き積極的に取り組んでまいります。

２番目に、捕獲隊員そのものを確保・増強するという目的のために、既にご説明申し上げましたとおり、新たな市の補助金を導入して、一層の強化に取り組みたいというふうに思っております。

もう一つ、大事なことは、隠れ家をなくすということ、それから、餌場をなくすということは大変重要でありますので、地域全体で有害鳥獣の侵入を防止する対策が有効かつ必要であるというふうに考えております。

こうした取り組みを地域と市が本当に緊密に連携して総合的に実施することで、有害鳥獣対策の強化につながるというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

狩猟免許を取っても、３年間は狩猟経験がなければ有害鳥獣捕獲隊員にはなれません。３年間は猟期のみの捕獲になるため、経費もかかり、経験を積む意味でも、箱わなどを貸し出してもらえれば大変助かると思います。今後、貸し出し可能となるよう制度の改正をお願いします。菊池市でも農作物被害の拡大防止のためにも担い手育成をよろしくお願いします。

次に、公共交通について再質問します。

２月２５日の全員協議会で、菊池市とＭＯＮＥＴ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ（モネ・テクノロジーズ）との次世代オンデマンドモビリティサービス実現に向けての連携として説明がありました。

日本の株式時価総額１位のトヨタと２位のソフトバンクの会社提携により生まれたのがＭＯＮＥＴ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓです。トヨタはソフトバンクの力をかりて、トヨタのつくるハードウエアをベースに、さまざまな自治体と向き合い、最新の事業モデルやサービスを提供することのできる会社だと思います。

既に菊池市はソフトバンクと連携協定を結んでいたことにより、ＭＯＮＥＴとの連携協力の覚書がなされたということは、菊池市にとって大きな可能性を秘めた連携となると思われ、すばらしいことではないでしょうか。今後、強力に連携推進していただきたいと思います。

そこで、移動手段に悩む高齢者や交通弱者のために、連携事業の中で巡回バスの運行など行えないか、お聞きします。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　まず、本市と同様に、ＭＯＮＥＴと覚書を締結した愛知県豊田市の例をちょっとご紹介させていただきます。

豊田市で現在運行されている地域バスで、ＭＯＮＥＴが提供するオンデマンド型交通向けの配車システムを導入した実証実験というのが、もう２月２７日から開始されております。同市の地域バスというのが、本市のあいのりタクシーと同じく、電話予約のみで利用を受け付けし、タクシー車両で運行されているものです。

今回の実証では、スマートフォンアプリを使った予約も可能となるとともに、車内に搭載される乗務員用のタブレット端末で予約状況に応じた最適な運行ルートが提示されることで、運行の効率化と利便性の向上が図れるということで期待されているような状況でございます。

さて、本市の取り組みでございますが、今回のＭＯＮＥＴとの連携で、次世代の

運行サービス施策として、どのような事業を進めていくのかということについては、現在、まだ協議を行っている状況でございます。

ただ、実証の運行に当たりましては、路線バスを含む既存の交通体系への影響も考慮しながら、市民、それから観光、双方の観点から、本市の交通課題の解決に資するものとなるように、検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

昨年実施された公共交通に関するアンケートでも、現在は公共交通を利用しながら、将来的にあいのりタクシーやべんりカーなどを利用するといった回答が多かったとのことなので、さらなる公共機関の構築に向けて、ＭＯＮＥＴとの連携も含めて、よろしくお願いしておきます。

次に、家畜防疫について再質問します。

初めにお聞きしました本市の家畜防疫体制においては、家畜伝染病対策マニュアルも作成されており、検討も重ねられておられます。しかし、愛知県や、発生近隣地域での豚コレラの感染拡大がいまだにとまらない状況であります。

それでは、仮に家畜感染症が発生した場合、菊池市としては、関係自治体や機関・団体との連携した防疫体制の構築も必要だと思いますが、市長はどのようにお考えか、お聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　万一、家畜伝染病が発生した場合の協力体制ということでのご質問でございます。

何よりも、発生の予防が一番ということでありますけれども、万一、発生した場合につきましては、短時間のうちに迅速かつ的確な初動対応を図らねばなりません。特に殺処分から埋却処分完了まで７２時間以内で防疫措置を図らねばならないということでありますので、関係する機関の全面的な協力というのは不可欠でございます。

本市におきましても、県はもとよりでありますけども、既に近隣自治体や県内の農業関連団体など、人員の派遣であるとか、あるいは資機材の確保、あるいは活動に要する施設・用地の確保等について、相互協力するということの覚書を締結済みでございます。

今後におきましても、本市の畜産業というのは本当に全国に誇れる代表的な産業

でありますので、この維持発展を図るために、引き続き関係機関・団体との連携を図りまして、有事の際の迅速な防疫措置が講じられるよう、努めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

本市では、まだ豚コレラなどの発生はありませんが、野生のイノシシが豚コレラの感染拡大要因と言われておりますので、有害鳥獣対策とともに防疫対策もしっかりとっていただきたいと思います。

次に、ごみ分別について質問します。

ごみ分別については、平成３０年第４回定例会で東奈津子議員も質問されております。

今回、七城町の市民の方から、粗大ごみ収集・処理方法についてご質問いただいておりますので、七城地区と旭志地区の現状と、収集・処理方法が変更される２０２１年４月以降の対応について教えてください。

また、平成３０年度七城地区及び旭志地区における不燃性粗大ごみ処理費用と処理量の実績についてもお示しください。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　皆さん、改めまして、こんにちは。ただいまの坂本議員のご質問にお答えさせていただきます。

現在の七城地区及び旭志地区におけます不燃性粗大ごみの収集及び処理につきましては、民間処理業者への業務委託により行っております。

なお、七城地区におきましては、鴨川河畔公園駐車場または七城総合グラウンド駐車場で、旭志地区におきましては、旭志体育館駐車場で、７月と１２月の年２回行っております。

また、２０２１年４月以降につきましては、本市における不燃性粗大ごみ処理の統一化を図るため、民間処理業者への業務委託による収集及び処理を終了いたしまして、七城地区及び旭志地区の住民の皆様が不燃性粗大ごみを排出される場合は、大津町にございます菊池環境保全組合が管理・運営しております環境美化センターへ個人で直接搬入いただくか、または市が指定した業者へ個人で収集運搬を依頼していただく形へ変更となります。

次に、平成３０年度の処理量と費用についてでございますが、本年度における七

城地区及び旭志地区の不燃性粗大ごみの処理費用は、年間で約１４６万２，０００円でございます。また、処理量につきましては、年間で４７．７トンとなっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

七城町で行われた住民説明会の後にこのような声が寄せられたということは、説明会への参加者の数や内容がわかりづらかったのではないでしょうか。市民の皆さんの分別への正しい理解や、新しいルールについても、丁寧な説明が必要だと強く感じております。追加説明会などにより、周知の徹底を図っていただくようにお願いします。

次に、私の住む七城町の山林や道路脇などへの不法投棄が増加しています。不法投棄防止に関する対策として、各行政区による不法投棄防止看板の設置や、行政や警察による不法投棄の開封調査による不法投棄者の特定などが行われております。しかし、不法投棄者が特定されないように細工するなど事案が巧妙化しており、特定できないものがふえているようです。

そのような中、ＳＤカードを使った乾電池式の簡易的な防犯カメラなどが市販されていますが、市として、防犯カメラを設置する考えはないのか、お尋ねします。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　不法投棄防止対策としての防犯カメラの設置についてでございますが、現在、本市では制定しております防犯カメラの設置及び運用に関する要綱におきましては、市が設置し管理する庁舎その他公共施設を対象としておりまして、議員ご質問の山林や道路脇への設置となりますと、公共施設または公共用地以外の土地への設置となりますことから、新たな要綱の制定も含め、慎重な協議・検討が必要であるというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

ごみ分別方法の変更や、統一化が進むにつれて、不法投棄がふえる可能性があると思います。不法投棄防止のための対策として、防犯カメラ等の設置や、何らかの

防止策を考えていかなくてはならないと思いますので、その点もよろしくお願いします。

七城町に住む高齢者の方からのはがきで、粗大ごみは市の委託業務による不燃性粗大ごみの収集運搬及び処理、７月と１２月の年２回実施を取りやめるとのことであるが、そうなると自分で持っていかなくてはならなくなり、高齢者の方には大変だ。収集形態を変えてでもいいので、市の委託業務として継続することはできないかという意見をいただきました。

そこで、そのような考えはないか、市長にお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　新方式後の粗大ごみに関する取り扱いについてという趣旨のご質問だと理解しております。

本市における粗大ごみを含めましたごみ全体の分別、そしてまた、処理方法の統一化ということにつきましては、長年の懸案でございましたけども、安全で、かつ安定的な処理をするにはどうしたらいいか。そしてまた、財政コストの面から、なるべく負担をかけないでやるにはどうしたらいいかと。そういうさまざまな観点から慎重にこれまで検討を重ねてきた上で、菊池郡市２市２町が共同している事業であります菊池環境保全組合に本市全体で加入することが最善の道であるという結論に至りまして、議会の議決をいただいて、それに向けて、今、進めてきているところでございます。

この新方式がスタートいたしますと、これまでの市の独自のルールから２市２町の統一ルールに従うことになります。

今、ご心配の向きが、今までは取りに来てくれる方法があったではないかと。これがなくなるのではないかというご懸念かと思いますが、統一の新ルールは、一つには、各個人による施設への直接搬入、これは可能であります。もしくは市が指定した業者へ個人で収集運搬を依頼するという方法が残っておりますので、委託ということではなくなりますけども、業者が取りに来るということは引き続き可能であります。

いずれにしましても、今回、菊池環境保全組合に加入することで、統一ルールにのっとってスムーズに運用していくものでございますので、ご理解をお願いしたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

新しいルールに基づき、粗大ごみをみずから処理施設へ直接持ち込む方法と、収集委託業者へ個人で依頼する方法があるとのことでしたので、高齢者の方にもわかりやすいように追加説明会を開いたり、試行期間内に新しいルールに移行できるように、正しい知識への理解促進を図っていただきたいと思います。

次に、交通安全対策について質問します。

初めに、市道板井橋田線の通学路について質問します。

現在、七城町上橋田区から元村区、温泉ドームまでの区間は通学路になっており、特に元村区集落内の道路は車が通れば非常に狭いところで、雨の日は傘と車が接触することもしばしばあり、事故の発生が心配されている危険箇所であります。早急の対策を地域で熱望されていますが、何らかの安全対策ができないか、お尋ねします。

次に、市道橋田芦原線と市道高田橋小野崎線との交差点について質問します。

この交差点は、近年、非常に事故が多く、いろいろな対策がとられています。しかし、事故が後を絶ちません。この交差点での事故の発生状況と、現在、この交差点においての事故防止への安全対策はどのような状況なのか、お尋ねします。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　それでは、１番目のご質問にお答えいたします。

市道板井橋田線の元村集落内における状況につきましては、平成２９年の第４回定例会におきましてもお答えさせていただいておりますが、現状としては、道路の両側に家屋が張りついており、抜本的な改善は難しい状態でございます。

交通安全対策につきましては、現在、グリーンベルトの設置を行っておりますが、依然として減速せずに集落内へ入ってくる車両もあるようですので、今後、減速を促すドットライン等の設置を行い、通学時の安全性の向上を図りたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　市道橋田芦原線と市道高田橋小野崎線の交差点の最近の事故状況と、現状の安全対策ということでお答えしたいと思います。

菊池警察署で調べましたところ、平成２６年は、人身事故発生件数が１件、負傷

者数が１人、物件事故が１件ございました。平成２７年は、人身事故発生件数が２件、負傷者数が３名、物件事故が２件、平成２８年は、人身事故・物件事故ともあってございません。平成２９年は、人身事故発生が１件、負傷者数が５人、物件事故が３件、平成３０年は、人身事故発生件数が２件、負傷者数が２人、物件事故が３件、平成３１年度は１月末で、人身事故発生件数が１件、負傷者数が１人、物件事故はなしとなっております。

過去の人身事故発生件数は７件ございますので、この居住地別で見ますと、地元の七城町の方同士が１件で、市外の方同士が６件ということでございました。

また、人身事故・物件事故をあわせて１６件中、１４件は一旦停止を怠ったことが事故原因ということでございました。

現在の交通安全施設等の設置状況でございますけども、市の対応といたしましては、道路区画線、交差点内の白線の枠囲みとか、減速マーキング、道路反射鏡、注意の看板で交通事故多発地点の立て看板設置などを行っております。

また、公安委員会の対応としましては、とまれ標識の設置でありますとか、停止線の路面表示などを行っており、多様な対応を講じられている状況でございます。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

市道板井橋田線の通学路におきましては、道路の両側面に家が建っておりますので、現状では、答弁のとおり、ドットライン等を設置していただきたいと思います。

辛川鹿本線が、今、期成会も発足し、整備の方向に進んでおりますので、そちらが整備された後に新しい通学路を検討していただきたいと思います。

それでは、市道橋田芦原線と市道高田橋小野崎線との交差点について、再質問します。

今後、この交差点において、事故防止対策としてどのようなことができるのか、お聞きします。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、再質問のほうにお答えしたいと思います。

この交差点の事故は、先ほど申しましたけども、一旦停止を怠ったという原因が主なものでございます。まずドライバーのスピードを落とす、とまるなどの交通安全意識の問題が第一かなというふうに思っております。

なお、この交差点につきましては、議員もおっしゃったとおり、事故発生が多いものですから、市道路管理者と菊池警察署の協議が行われております。

今後の対応としましては、主道路となります高田橋小野崎線の減速マーキングの設置、それと従道路になります橋田芦原線の路面標示、徐行の塗り直しとか、交差点内の枠囲みの塗り直しなどが協議をされております。今後ですけども、警察と連携をしながら、対応を進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（柁原賢一君）　坂本道博君。

［登壇］

○７番（坂本道博君）　ありがとうございました。

この路線は、鹿本町を通る国道３号線から芦原地区を通り、泗水町、田島方向へ抜ける道路であり、朝夕の通勤時間は交通量も多く、今後、七城町工業団地から田島工業団地への道路が開通すれば、さらに交通量も多くなり、事故発生も今以上に増加することが考えられます。ぜひとも対策を講じて、安全に通行できる交差点になるように強くお願いしておきます。よろしくお願いします。

最後に、今期で退職される皆様に感謝を申し上げ、一般質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　これで、坂本道博君の質問は終わります。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

次の会議は、明日３月５日に行います。引き続き、一般質問となっております。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立ください。傍聴席の方もよろしければお願いいたします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後３時４２分

第　４　号

３　月　５　日

平成３１年第１回菊池市議会定例会

議事日程　第４号

平成３１年３月５日（火曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之	君
２番	福　島　英　徳	君
３番	緒　方　哲　郎	君
４番	後　藤　英　夫	君
５番	平　　直　樹	君
６番	東　　奈津子	さん
７番	坂　本　道　博	君
８番	水　上　隆　光	君
９番	猿　渡　美智子	さん
１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君
１８番	泉　田　栄一朗	君
１９番	木　下　雄　二	君
２０番	山　瀬　義　也	君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	芳野勇一郎　君
政策企画部長	元島加奈子　さん
総務部長	上田俊介　君
市民環境部長	古田浩敏　君
健康福祉部長	中村隆純　君
経済部長	谷田　修　君
建設部長	淵邉政博　君
七城支所長	楳田邦昭　君
旭志支所長	岩根卓士　君
泗水支所長	坂本忠弘　君
財政課長	上田敏雄　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩　君
市長公室長	前川幸輝　君
教育長	渡邉和博　君
教育部長	大山堅四郎　君
農業委員会事務局長	坂本高秀　君
水道局長	大塚忠康　君
代表監査委員	宮川貞雄　君
監査委員事務局長	清田幸臣　君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治　君
事務局課長	歌岡憲一　君
課長補佐	松原憲一　君
議会係長	安武則貴　君
議会係	吉岡結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

ご着席願います。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（柁原賢一君）　日程第１、一般質問を行います。

初めに、田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　皆さん、おはようございます。田中教之でございます。早速一般質問させていただきます。

まず、第１点目の、法に明るい菊池市についてというところで、四つの趣旨をちょっと用意させていただきました。

ふだん、市民の方から、一般質問というわけじゃないんですけど、よく問い合わせがあります。その中で、政治的なものや政策的なものだけじゃなくて、どちらかというと、法的な問題のほうが多く相談を受けることがあります。法律相談は基本的にできないので、弁護士だったり、司法書士だったり、そういう専門の方のほうにお任せするというふうな状況でございます。

その経緯の中で感じたのが、もう少し市民の方にそういった、ある程度、法律家になるわけじゃないんですけど、ある程度情報が伝われば、皆さんが自立して解決できるような、そういう仕組みができないかなと思っております。少なくともこの場合にはこういう人に相談しようというような、事前知識が菊池市の皆さんにあれば、市民の方がよりよいものになっていくのかなと思っております。

そこで、１点目、法律や制度の市民講座の実施状況について、お聞かせください。

そして、２点目ですが、最近、皆さんの身近にもあるかもしれませんが、軽度の認知症の方、家族の人もちょっとわからないような認知症の方が一人で暮らしてたり、家族がいないときに訪問販売で高い金額で買ってしまって、金品を失うというような事例があります。そういった事態を防ぐためにも、法務省が進めている成年後見制度を利用すべきだと私は考えています。

成年後見制度は、精神上の障がいなので、判断能力が不十分な方を保護して支援

する制度です。例えば、私個人の事例だと、親戚の方が若年性アルツハイマーとなって、知らないうちに借金をしたりとか、知らないうちに高額に買っているというところで、その家族の方の申し立てで、家庭裁判所にこの成年後見人は誰々ということで申し立てます。そうすると、その方が、家族の方が後見人として財産を管理したり、そのご本人が勝手に契約したことを取り消すことも法律でできます。なので、契約がなくなって、支払いとかしなくていいというように、判断能力が不十分な方の保護をするという制度があります。

そこで、２番目として、成年後見制度の利用状況をお教えください。

次に、市民の方が、先ほど冒頭に申したように、自立してそういった裁判所だったり、税務署だったり、相談できるようになるには、あらかじめ学校と、きょう、傍聴においでの児童や中学生の生徒含めて、学校でも教えていく必要があると思います。

そこで、３番目なんですが、児童・生徒を対象とした法教育の実施状況をお答えください。

そして、四つ目なんですが、市役所の職員としても政策法務など法的知識の継続的な習得が必要だと考えます。企業でしたら法務部とかいうのがありまして、法務担当がいて、顧問弁護士に問題点を取り次いだり、あとは社員教育ですよね。その企業の社員に対して、法改正だったり、実際の法制度をレクチャーすると。また、実務についてのアドバイスも行うと。そういうのも市役所にももちろん大事な機能だと思いますが、そこで、４番目なんですが、市の法務担当の育成状況についてお教えください。

以上、お願いします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　改めまして、おはようございます。それでは、田中議員からいただきました質問の１点目と４点目についてお答えをしたいと思います。

まず、１点目でございますけども、市民講座の実施状況ということでございます。

本市が行っております市民講座、いわゆる出前講座におきまして、法律に関係するものは、情報公開、条例・規則、個人番号などのメニューがございます。平成２８年度から平成３０年度２月までの実績としまして、件数で６回、受講者数で３６６名でございました。

また、一方、消費者問題、福祉、医療保険制度などに関するメニューは１０７件、受講者数で３，４３３名でございまして、生活に身近な制度につきましては、開催実績も多く、市民の皆様の関心が高いと考えられます。

続きまして、４点目のご質問でございますけども、市の法務担当者の育成ということでございますけども、条例・規則などの制定、改廃などにつきましては、総務課の法務担当者のほうで審査等を行っております。

本市の事案などに対して法的見解といいますか、解釈とか判断を行う法務担当者、弁護士に近いような形での担当者というのは設置はしておりません。

法的見解を求める場合については、契約をしている顧問弁護士のほうにその見解を随時求めているというような状況でございます。

今後、どういうふうに考えるかということでございますけども、まず全職員で法務に係る行政能力は当然高めていかなくてはいけないというふうには考えておりますし、そのための専門的研修などによりまして、育成に努めていきたいというふうには考えております。

また、各部署にそういう法務の担当者を置いたりとか、それを取りまとめた形で専任の職員を配置するなどということも、ちょっと今、検討をいたしているようなところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　皆様、改めまして、おはようございます。私のほうから、成年後見制度についてということでお答えさせていただきたいと思います。啓発も含めてということでよろしゅうございますでしょうか。

成年後見制度は、認知症や知的障がい、精神障がいにより判断能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者を選び、法律的に支援する制度でございます。家庭裁判所に対しまして法定後見開始の裁判の申し立てを行い、選任されました成年後見人等が本人を保護し、支援をすることとなります。申し立てをすることができるのは、本人、配偶者、四親等以内の親族、検察官、市町村長等となっており、このうち身寄りがない場合等に、市長が申し立てを行っております。

本市におきましては、福祉課及び高齢支援課におきまして成年後見制度に関する相談に応じているところでございます。

まず、福祉課におきましては、障がいのある方のご家族や事業所からの相談に対しまして、ご本人の状況に応じて、成年後見制度の説明を行っているところでございます。

過去３年間における市長申し立ての相談件数は、平成２８年度に３件、平成２９年度は０件、平成３０年度に２件の合計５件となっており、そのうち１件につきまして、市長が法定後見開始の裁判のための申し立てを行っているところでございま

す。

高齢支援課におきましては、認知症の方のご家族や、ケアマネジャー、介護事業所の職員に対し、相談対応を行っております。

過去３年間の市長申し立ての相談件数は、平成２８年度に３件、平成２９年度に２件、平成３０年度に６件、合計１１件となっており、そのうち４件について市長申し立てを行っているところでございます。

今後、成年後見制度を必要とする認知症やひとり暮らし高齢者の増加が見込まれるだけではなく、障がいのある方を支援する家族等の高齢化などから、成年後見制度の必要性は一層高まるものだと考えるところでございます。そのため、周知、啓発につきましては、引き続き出前講座等による説明を行うとともに、ホームページやパンフレット等を活用しながら、広く市民の皆様へ制度のご理解を図ってまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

○健康福祉部長（中村隆純君）　私の説明の中に、家庭裁判所に対し法定後見開始の「裁判」と申し上げておりますけども、「審判」の誤りでございますので、申しわけございません。修正し、おわび申し上げたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　改めまして、皆さん、おはようございます。それでは、教育部のほうから、田中議員ご質問の３点目、学校における法教育の実施状況についてということでお答えをさせていただきます。

平成２０年３月に告示をされました、現学習指導要領におきましては、司法参加や裁判員制度について学ぶことが位置づけられておりまして、現在も児童・生徒は法教育について学びを深めております。

この法教育におきましては、子どもの成長や発達の過程及び学校段階に応じた取り組みが必要ということになります。

こうしたことから、小学校では「約束やきまりを守ろう」といった視点を大切にしつつ、法やルールの必要性について学ぶことができるよう、社会科や特別の教科道徳などで学習を行っております。

また、中学校では、個人の尊厳や法の支配など、法の原理について学びながら、実践的な態度を養う面からも、社会科において裁判の様子についてＶＴＲを活用したり、模擬裁判の形式を取り入れた授業等を展開しながら、法に対する意識を高めているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　ありがとうございました。

それぞれ思った以上に、１点目については、特に身近なものというか、市民の方が気になるところは、確かに６回もあって、３６６人というところで、上がっているのかと思いますが、ただ、まだまだニーズが酌み取れてない部分もあるのかなと思ったりもしました。

また、成年後見制度については、これは実際、直接裁判所に行かれる方もいらっしゃいますので、市としても把握が難しいかと思いますが、部長が申されたとおり、身寄りのない方というところはやっぱり市が、そこは最終的なラインとして守っていくべきところかなと考えております。

３点目、学校での法教育なんですけど、これ、意外とそういうふうに改訂されて、そういうふうに取り組んでやられているのかなというのは、正直、お答えを聞いて思いました。一時期は、裁判員制度が始まったときは、結構大がかりな模擬裁判とか、多分時間かけてやられたと思うんですが、今、授業に取り組められるということであれば、これはこれで一つのやり方として、いいやり方なのかなと思ったりしております。

４点目ですが、確かに顧問弁護士がいるので、そこでその先生に随時お願いするやり方が一番正しいのかと思いますが、実際につないでいくというほうでは、将来的にはそういうふうに担当があったほうがいいのかなと思います。

あと、各部署にそういった担当を置くというのは、やはり決算のときに問題あったりした場合、ちょっと債権の回収であったりとか、そういった民法上の法知識とか、実際、現場であったほうが円滑にいくような、そういうケースもございますので、引き続き法務担当の育成については、しっかりカリキュラムをつくっていただきたいなと思っております。

済みません、再質問をさせていただきますけど、２点目の成年後見制度、ちょっと順序が違います。後見制度についての再質問で、たしか各自治体にもっと成年後見制度を利用しましょうと、そういう推進する法整備が整ったと思いますが、確かに努力義務なんですが、今、菊池市としてはそういう策定というか、計画ありますでしょうか。既にあるのか、なければどういうふうにするのか、その点についてお答えください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、計画策定の状況についてお答えさせていただきます。

平成２８年４月１５日に成年後見制度の利用促進に関する法律が公布されております。市町村は、国の基本計画を勘案し、各市町村における成年後見制度の利用の促進に関する施策につきまして、基本的な計画を定めるよう努めるものとされております。

本市におきましては、利用促進計画の策定を検討しておりますが、現在、他自治体の動向を踏まえながら、研修会等に参加し、情報収集を行っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　ありがとうございました。

これは議会のあり方というところで、全国議長会フォーラムの中で、やっぱり執行部は、国からこういう条例つくりなさいとたくさんおりてきて、なかなかそういう条例作成は難しいので、議会がそこら辺は共同してやるべきだという方向性の意見が出ました。

私としては、これは策定をやって、やっぱり多くの人にこの制度を認知してもらって、やっぱり高齢化する中で、どうしても認知症だったり、そういう方がふえていくのは事実でございますので、その方の権利義務を守るためにも、私だけじゃなくて、議会として、議員としても参画できたらなと考えております。

もう１点、ちょっと再質問で、全体を通じてなんですが、特に市民講座というか、多分所管は生涯学習課と思うんですが、利用者数が少なくはないんですが、十分ではないという感想なので、今後どうでしょう、もっと、税改正もありますし、そういった形だったら、税務署の方を呼ぶとか、全部市がやるというんじゃなくて、もっと外部の方を呼んで、そういった市民講座のあり方というか、メニュー開発というか。先日、熊本県の弁護士会の会長の猿渡弁護士さんとご挨拶したんですが、一時期に比べて、自治体とか学校に呼ばれる、その法教育とか法改正についての呼ばれる回数が減ったと。なので、何かちょっと物足りなさそうな感じでしたので、実費はかかるかもしれませんが、そういった外部の方を直接市民の方にご案内したりとか、そういったふうにしてやっていくのも一つの手なのかなと思っております。その点をちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　改めまして、おはようございます。ただいまの田中議員のご質問、利用者数をふやすための工夫というふうな観点でお答えをしたいと思います。

まず、出前講座については、先に総務部長答弁にもありましたとおり、市民の身近な問題や課題解決のための講座について、申請数もふえてきている状況にあります。

今後は、出前講座の内容をさらに充実させて、ホームページや広報誌はもとより、各区長さんや自治公民館長さん等を通じて周知を図りまして、多くの自治会や団体等で出前講座を開催していただけるよう、そのような啓発をしてまいりたいというふうに思っております。

一方、公民館講座では、本年度、子どもたち向けとして、お金の仕組みを楽しく学ぶ、マネー講座を開催したり、シニア向けとして、さまざまな社会保障制度など生活に役立つための講座、シニアライフプラン講座等を開催するなど、幅広い世代に対しての学びの講座を開催したところでございます。

さらに、平成３１年度には、終活講座の中で、知っておきたい相続問題であったり、また、市内の高校３年生向けの講座として、社会に出る前に知っておくべき学び講座、仮称ですけれども、これらを計画し、社会へ羽ばたく子どもたちへの支援の一助になればというふうに考えているところです。

今後も、市民の学びの要求に応える講座とあわせて、地域の課題解決力あるいは自己解決力を身につけるための講座も充実させていくことで、市民力の向上に寄与し、啓発してまいりたいというふうに思っておるところです。

弁護士会による出張講座等のお話も今いただきましたけれども、いろんな方々にもご協力いただければ、さらにありがたいというふうに思っているところです。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　ありがとうございました。

ぜひ充実させて、利用者数をふやしていきたいと思います。と申しますのも、やっぱり世の中の仕組みって、どうしてもルールがありまして、法律があり、条例があります。もちろんその上位には憲法があり、それを意識するということはなかなかふだんはしにくいかと思います。法律って目に見えないもので、どのように動いているのかというので難しいかと思いますが、やはり、結局、法律というのは我々が選んだ国会議員が国会でつくって、それを運用していくと。それをチェックするのは司法だというところで、やはり将来的には、要は主権者教育につながりますし、三権分立という民主主義につながると思います。ここの根幹をしっかり菊池市の人

はわかっているとなると、また一つの、これは菊池の一つの魅力かなと、目に見えない魅力かなとも思います。

また、意外と皆さんが法律について勘違いされている場合もあります。私の場合、親族に法律家がいますので、だからじゃないかという話もありますが、今、インターネットである程度解決できるようなこともありますし、ただ、やっぱり年配の方はなかなか調べてもわからないという方もございます。特に最近は登記簿ですよね。土地とか相続のときに、もう明治時代のまま、登記の持ち主が明治時代のままで、全部やると、この土地１００万ぐらいしかないけど、相続人が８５人は出てくると。それでどうしましょうかという、印紙代が高いというような、余計なトラブルがありますし、皆さん、土地の権利証、権利証と言いますけど、権利証、どちらかというと、裁判であんまり役に立たないです。やっぱり登記簿にしっかり名前を書いているかとかいうところが求められます。

また、ネット上にもやっぱりデマがありまして、やっぱり自己破産すると選挙権がなくなるとか、そういったうそもありますし、やはりそういったところを市民の方に啓発していくというのは、先ほど申したとおり、主権者教育だったり、民主主義を理解するという上では必ず必要なことだと考えます。

それでは、次のほうに、２番目の菊池川上流流域の再整備について質問したいと考えます。

温泉街から菊池渓谷のほうに、菊池川上流域ですけど、私も住んでいまして、非常に何か資源があると考えております。去年の夏は、千畳河原とか大場堰に多くのバーベキューしたり川遊びする親子連れとか若い世代の方がたくさんいらっしゃいました。車がもう本当に、駐車場が少ない分、渋滞するぐらい、その付近の交通が渋滞するぐらい、やっぱりそういうふうににぎわいを見せている場所もございます。もちろんイデベンチャーもしかり、そういう川遊び、あとバーベキュー、あとは地元の食材を使った個性的な飲食店だったり、もう数え上げれば切りがないんですが、こういった資源があります。

そしてまた、今ある資源だけじゃなくて、江戸時代、この地域でカワノリがとれたらしくて、当時、肥後藩はこのカワノリを幕府のほうに献上したと。なので、この献上のカワノリを復活させたいという声もあります。なので、新しい資源もこれから出ていくのかなと考えております。

今まで、この流域には川があるので、明治以降、河川が整備されたり、昭和に入って道路が整備されてきました。近年、店舗や、電気、電話もそうですし、光ファイバーも結構ほかの地域に比べたら充実していると。中山間地で比べて充実していると思います。携帯の基地局と、携帯の電波もぎりぎり、渓谷のほうもドコモさん

だと入るとかいうふうに整備されてはおります。

ただ、さっき資源と申しましたが、やっぱり点と点と、まだそういう状態でございます。温泉街から菊池渓谷まで、そういった点を結ぶだけじゃなくて、この流域を一つの面として、さらに空間、ドローンを含めたらそういう一つの空間、広い空間として、この各資源を有効活用していくという意味での再整備は必要じゃないかと考えております。その有効活用のために、情報通信技術、いわゆるＩＣＴのインフラ整備が必要であり、ここの資源を有機的につないでいくような計画が必要であると考えています。観光分野、その他、そのような計画があればお答えください。

加えて、グローカルビレッジ構想やアグリサイエンスパークも、今、動いておりますが、この流域の有効活用につながると考えております。それも踏まえて、これまでの現状の取り組みもお教えください。

質問の趣旨の２点目ですが、この地域はやっぱり国道だったり、県が管理する河川があります。なので、市が直接管理を担当できない部分もあるかと思いますが、流域の道路が、ちょっと草木が道路に、歩道のほうにはみ出ていたりとか、千畳河原のアシというか、ヨシというか、その辺がたくさん生えてて、観光に来た人がちょっと楽しみづらいなということがあります。先ほどは計画ですが、このような現時点の問題点について、今後、国や県と一緒に解決する計画はあるか、この２点についてお答えください。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　皆様、改めまして、おはようございます。それでは、私のほうから、ただいまの２点の質問に対してお答えさせていただきたいと思います。

まず、１点目の観光振興を行う上での再整備する計画はあるかとのご質問にお答えさせていただきます。

温泉街から菊池渓谷までの菊池川沿いの地域には、大場堰や千畳河原などのほか、棚田や石橋の美しい風景など、ほかの地域ではなかなか見ることができない自然景観が広がっております。

こうした地域の魅力あふれる観光資源を生かし、イデベンチャーやフットパスなどが実施され、来訪者の皆様に大変好評を得ているところでございます。このほか、中山間地にある埋もれた資源を掘り起こし、着地型観光商品として磨き上げているところでもございます。

現在のＩＣＴの利活用につきましては、市のフェイスブックやホームページでの情報発信を初め、市民や観光客の皆様もＳＮＳ等を通じて個々に情報発信していただいているところでもございます。

現在、国では超高速、超大容量の送受信を行うことができる次世代の移動通信システム、５Ｇの導入が進められております。今後の観光戦略を考えていく上で、必要不可欠なものだと感じているところでもございます。

本年、総務省が実施しました、５Ｇの利活用アイデアコンテストに本市も応募しましたが、採用には至っておりませんが、こうした機会を逃さず、今後もＩＣＴを戦略的に活用し、観光振興を進めてまいりたいと考えております。

次に、２点目の千畳河原のアシの撤去についてお答えさせていただきます。

平成２４年第２回市議会定例会及び平成３０年第３回市議会定例会におきまして、木下議員より質問を受けまして、河川は県が管理しておりますので、県と早急に検討していきたいと答弁させていただいております。

千畳河原は、自然石が石畳状に連なる、本市が誇る観光資源の一つですが、河川内のヨシが年々石の間や上部に根を張り、成長も早いため、良好な環境を維持するのが困難な状況となっておりました。

このため、県北広域本部に要望し、現地立ち会いなども行い、協議を重ねてまいりました。その結果、今年２月にヨシ撤去に向けての試験工事を一部発注するなど、支援をしていただいたところでございます。

今後は、市としましても、観光資源としての利活用や適正な維持管理につきまして、県や地元と連携してしっかり取り組んでまいります。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　皆さん、おはようございます。

現在、本市で取り組んでおりますＩＣＴを活用して地域の課題解決を目指す菊池グローカルビレッジ構想、それと農業の生産性向上を図ることを目的としました菊池アグリサイエンスパーク構想事業、この主な取り組みを、一部ですがご紹介をさせていただきます。

菊池グローカルビレッジ構想では、ＩＣＴを活用した資金調達や起業を支援するために、市民の方を対象に、クラウドファンディング、シェアリングエコノミー、テレワークなどについてセミナーや個別の相談会を開催しております。これまでにもクラウドファンディングであれば、今度４月に開催されるきくちマルシェで資金を募集をしていたりとか、自然食品店が商品開発、設備投資のための資金調達ということで、実際にもう取り組みもなされている分もあります。それから、シェアリングエコノミーでもスペースレンタルという形での取り組みの実績も少しずつですが出ております。

次に、農業分野につきまして取り組みがございます。ベテランの方の暗黙知であったその栽培の技術というものをＩＣＴを活用化することでデータとして見える化すると。それをもって効果的な栽培方法を若手の方も含めて情報を共有することで、生産性の向上を図るというようなことを目指しております。それを栽培ナビゲーション「e-kakashi」というものがございますが、それを２戸の農家で試行的に導入をいたしております。

また、小学校での２０２０年度からのプログラミング教育全面実施に向けまして、人型ロボットのペッパーを使ったプログラミング体験授業を戸崎小学校でも実施いたしました。

次に、菊池アグリサイエンスパーク構想でございます。こちらは生産者と農業系のベンチャー、研究者との連携によって、菊池発のアグリ技術の創出やスマート農業の促進、新規就農者の拡大、人材育成を目的に取り組んでいるものでございます。

さまざまな課題を持つ農家の方と、それを解決する技術を持っていらっしゃる研究者、ベンチャー企業とのマッチングを実施しておりまして、それのマッチングできたところで共同して試作・実証研究というのを実施しています。

平成３０年度は、今回、今お話があります中山間地域に限って申しますと、ゴボウ、果樹、お茶、露地野菜などを栽培する農家の方々が、実際、実証実験に取り組まれております。

また、次世代の人材育成として、企業の研究者が高校生を対象に研究のおもしろさを知ってもらうための講義を行ったり、農業技術に関する課題研究の支援というものも行っております。

一部でございますが、ご紹介します。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　皆さん、おはようございます。国道、県道の維持管理につきましてお答えいたします。

国道３８７号及び菊池渓谷を通る県道阿蘇公園菊池線は、熊本県の管理になりますので、市民の方や車で通行中の方から、樹木や除草の管理不備についての情報をいただいた際には、その都度、県に要望しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　まず、先ほど２番目のほうですよね。整備のほうについては、まず千畳河原のほうが少しずつ動き出すということは、これは喜ばしいことだと。

木下議員を初め先輩方が質問されたことの経緯が動き始めたなという気がします。引き続き対処のほうをお願いします。

道路のほうですが、苦情があった都度というのもわかるんですが、できれば何かしらそこもちょっとＩＣＴを使って、ある程度、センサーだったり、カメラなのかはわかりませんが、ある程度、事前に伸びそうだなと思ったら切るみたいなのを事前に要望していただけると、よりスムーズかなとちょっと感じました。

１点目のほうにつきまして、５Ｇ、これはＧというのはジェネレーションで、世代ということですね。要は、今、第４世代の通信量で、今度、第５世代になると５Ｇということなんですが、第５世代になると、今の第４世代から速度が１００倍になると。一度に送れる量も多くなると。途中が途切れにくくなるというのはこの第５世代の通信網というふうに理解しております。これはコストかかることなので、ぜひ引き続き総務省のほうにご提案いただいて、どの自治体も早く導入できるような動きをお願いしたいと思っております。

また、グローカルビレッジやアグリサイエンスパーク構想も、なかなか、今聞いて知ったこともありましたので、今後もぜひ途中経過を報告いただければと思います。

このように、なぜ私がここにこだわったかというと、やっぱり昔、ここで川遊びをしたという思い出があります。川遊びは、これが釣りだったり、最近になって沢登りみたいな、登山マラソンのすごい過酷な版みたいな、沢登りみたいなのがスポーツでありまして、滝なんかもロープを使って登り上がって水源を目指すと。非常に過酷な沢登りレースというのもありますし、また、川遊びによって、いろんな生物も発見したりとか、特に理科の生きた教材だと思っております。

私が子どものころ、ちょうどテレビゲームが登場、家庭機のゲーム機が登場して、もちろんそれでも遊んでいましたが、やはり何か友達と集まると、隈府から、当時小学校１年生のときは自転車に乗れなかったので、８キロ先のあそこの今の水の駅ですか、あそこまで走っていって、魚を突いたり、そういうこともやっていました。この体験というのは菊池にいると当たり前なんですけど、一旦外へ出ると、非常に貴重な体験だと。そういう経験ができるのはうらやましいというところから気づきました。

現状、やっぱりだから大場堰だったり、千畳河原だったり、みんな遊びに来るんだろうなと。渋滞で人が多い中でも来るというのは、そういう魅力があるのだなと感じております。そこにＩＣＴ、情報通信技術を導入することで、例えばセンサーを置いて、渋滞予測だったり、河川の洪水の水位の予測だったりというのも早目にわかるのかなと。こういう川遊び、川にまつわることというのは、意外と情報通信

技術と相性がいいのかなと考えております。

このように、今後の計画、現状の対策をお聞きしてきたんですけど、この流域を活性化していくには、やっぱり菊池市がリーダーシップを発揮して、民間の事業者や国や県を巻き込んでいく必要があります。私自身、菊池の中山間地を新技術の実証実験の場として、民間企業や研究所を誘致していきたいと考えております。これは私個人の考えです。現状として、情報技術を使った市場調査に関する研究をしている地元の事業者が実証実験できるように、個人的にサポートしています。また、地元企業はもちろん、市外の事業者さんが菊池で実証実験やりたいと。その場合にできるように、農家さんや土地の所有者さんにお願いをしております。周囲の方は意外と協力的です。私だけじゃなくて、ほかの議員、市民、市役所の担当の方と一緒に県や国を巻き込んで、その実証実験が来やすい整備づくり、環境づくりをやっていきたいなと思っている所存です。

そこで、市長、ぜひ市長にもご協力いただいて、国や県を巻き込んでいただきたいと思っております。今後の中山間地の整備や活性化についてお考えがあれば、参考としてお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま田中議員のほうから、その前に、おはようございます。きょうはかわいい傍聴者の方がたくさんいらしております。まだ小学校６年生だということですけども、きょうは難しい言葉がいろいろ飛び交っているかと思いますけども、私たちが、今、話をしているのは、この私たちのふるさとをどういうふうにいいようにしていこうかということを、今、皆さんと異なる立場で意見を重ねているところだということです。そのことで皆さんの暮らしを少しでもよくしていきたいと。皆さんが大人になったときによかったなと思えるような社会をつくっていくために、この議論をしているんだということを頭の隅に入れていただければというふうに思います。

さて、失礼しました。田中議員のご質問、中山間地の活性化についての展望ということでございました。特に、引き合いに出されました隈府から菊池渓谷に至るこの道筋というのは、特に観光を軸として活性化を図る非常に重要な路線であるというふうに思っております。言うならば、菊池の中でも、最も成功への道筋が近い観光の主要街道ではなかろうかというふうに位置づけておるわけでありまして、そのために、癒しの里の中で四つの里というものを位置づけておりますけども、それは食、それから花、自然ですね。それからスポーツ、そして歴史文化、これを駆使して活性化を図っていこうと。また、その素材が非常にそろっている地域でもござい

ます。

そういうことで、この街道筋をグルメ街道というふうに、今、私どもで定義をいたしまして、新しい仕組みで、もっと個性的な店を誘致していこうと。そのことで集客につなげていこうということを打ち出しておりますし、それから、県と協議を重ねまして、県道のところに、今般、桜を数十本植えさせていただくことになりましたので、この街道をドライブする楽しみがまた今後もふえてくると思いますし、近くには民間の方がもう既にアジサイを整備されておることとも相まって、また魅力が高まっていくことだというふうに思います。また、桜の植樹については、地元の方々、子どもも一緒に植樹をしますので、地元に近い議員さんにおかれても、ぜひご一緒にご協力いただければというふうに思っております。

また、水が多いということで、川の活用ということも一つの潜在力であるわけですけれども、先ほど来お話がありました千畳河原については、これは県の管轄地ではありますけれども、あそこは公園ではないということで、なかなか手を出せなかったわけですが、今般、これも協議を重ねました結果、追加の予算をとっていただきまして、まずは試験的に千畳河原をどういうふうな手法でヨシを撤去できるのかということを市と共同しながら進めていくことになりました。こちらのほうも、もしお時間があれば、お立ち会いいただければというふうに思う次第でございます。

また、このほか、イデベンチャーというのが民間の方の活力を生かして、非常に人気になっているわけでありますけども、そのこととあわせて、フットパスの整備、サイクリングの整備を数年かけてやってきたところでございますので、スポーツを楽しむ流域としても非常に潜在力があるところだというふうに思います。

このほか、産さん滝という大変魅力的な資産が今まで眠っていたわけでありますけども、ここにはぜひおりていく道をつなげたいという構想を持っておりますけども、道路が今ない状態で、それを打ち出しますと大変危険でございますので、まず、じゃあ道路を通そうということで、先ほど来お話しましたように、古川伊倉線を、今、毎年少しずつ延伸をさせているところでございまして、これは数年かかりますけども、必ずやこれをつなげることで、今、県道を整備しております日生野隈府線ともこれがつながってまいりますと、大きな観光道路の周遊道路ができていくと。こういうことを今想定しながら進めているところでございます。

あわせまして、これは民間の事業になりますけども、このグルメ街道のちょうど真ん中にあります旧迫水小学校が、今般、民間に売却することができまして、ここを民間のほうでは新たな観光集客スポットということで、今、ご計画をされているようでありますので、必ずや地場経済への大きな波及効果につながるのではないかというふうに期待をしているところでありますし、また、従来、水の駅がありまし

たところも、これも民間のお力で新しい形のアウトドア施設というものを、今、展望されているようで、実際にもう着工がされているというふうに聞いております。

こうした県を含め、官民一体となって、今、ここに集中的に整備を進めているところでございます。これが整備するにしたがって、その魅力が増して、そして、注目がふえて、恐らく滞在時間が延びていくということにつながっていくということになりますので、あわせて進めてまいりました民泊等にも大きな効果につながってまいりますし、また、そうすることで、菊池を素通りしていたのが宿泊につながるということで、街なかの宿泊にもつながっていくだろうと。

それとあわせまして、今、進めております、こうした中山間地でのすばらしい水を生かした棚田米のブランド化というのも進めておりますので、泊まるお客様に対しても、これがまた物販にもつながっていくだろうと。こうしたことをもろもろ総合的に、いろいろ目配りをしながら進めてきているというのが、今、実情でございます。

こうしたことがなかなか今まで、時間も一つ一つかかることが多うございますし、部品の部分をできることから先に進めておりますので、なかなか全体感を皆さんと共有する機会が少なかったと思いますけども、雑駁なご説明にはなりましたけども、全体感としてはそういうことで進めておりますし、大変ここが起爆点になるものではないかというふうに大きく期待しているところでございます。

これに先ほど来おっしゃっているＩＣＴを何とか活用できないかということで、グローカルビレッジ構想というものを打ち出して、内閣府の賛同を得て予算ももらってきたと、こういうことでございますので、これを、現在の武器を使いながら、今申し上げたような整備を進めていきたいと、こういうふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　前向きな意見、ありがとうございました。ぜひ進めていきたいと、私も尽力したいと思っております。

最後に、ちょっと時間がありませんが、公営塾について質問いたします。

１番に、拓志ゼミナールと地域未来塾の現状と今後についてお教えください。

また、市内３高校から大学への進学者をふやすために、市営の進学塾を設置する計画はあるか、教えていただきたいと思います。

１点だけ、公営塾とは、自治体が運営する塾です。ここ数年ふえています。例えば人口８，０００人の大崎上島町、これは県立高校ですけど、ここは地域おこし協力隊が運営しているようなところです。菊池にもこういったものが検討できないか、

お答えください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、１点目の拓志ゼミナールと地域未来塾の現状と今後についてということでお答えをさせていただきます。

拓志ゼミナールにつきましては、菊池高校が主催をして、市内の五つの中学校の生徒を対象に、菊池高校のセミナーハウス「拓志館」において学習支援を目的に行われております。内容は、国語、数学、外国語の３教科を、菊池高校の教職員が講師となって、基本的には質問に答える自習形式ということで実施をされております。

例年、９月から１１月の土曜日に数回開催をされておりましたが、今年度は実施をされておりません。その理由といたしましては、講師となる菊池高校の教職員の不足や、本市が平成２８年度から実施をしております地域未来塾において同様の事業が行われているということから、今年度については見送られましたが、来年度の実施につきましては検討中というところでございました。

また、本市の地域未来塾につきましては、地域の教育力を生かし、学校と地域が連携・協働することで、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動事業の一つとして実施をいたしております。

平成２８年度から平成２９年度までの２年間は、試行的に七城中学校と旭志中学校で、放課後や夏季休暇を利用して数学と英語の２教科を年間各３０回程度開催いたしまして、今年度は市内５校の全中学校に拡大をして、年間各６０回程度実施をいたしたところでございます。

成果といたしましては、生徒の学習習慣の確立と基礎学力の定着につながっているという評価をいただいております。こういったことから、平成３１年度も引き続き地域の協力を得ながら、全中学校で子どもたちの学習支援に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、今年度から小学校を対象とする学習支援といたしまして、放課後子ども教室を泗水東小学校において取り組んでおります。将来的には拡大する方向で考えたいと思っております。

次に、２点目の公営塾に対する考え方ということでございますが、公営塾につきましては、これまでにも他自治体の状況、そういったものを調査・研究をいたしております。既存施設を改修したり、民間テナントを借り上げたりして、民間塾に委託をして講師を常駐させる形、それから、議員先ほどお話のとおり、地域おこし協力隊を活用する形などがありまして、主に個別指導や動画配信を組み合わせた運営

が行われているというところでございます。

他の自治体の費用面の一例を申し上げますと、公営塾１教室を民間塾に委託をして１人の講師を常駐させ開設をする場合、施設を改修する費用を除きまして、年間３，０００万円程度の費用がかかっているというところでございます。

また、地域おこし協力隊を活用する一例といたしましては、３名の協力隊による講師とその研修などを民間塾に委託をして開設する場合、同様に施設改修を除きまして、年間１，７５０万円程度の費用がかかっているというところでございます。

いずれの場合も、多額の財政負担となりますので、今のところ本市で設置する計画はございませんが、今後も市内３高校の要望を聞きながら、さらに調査・研究する必要があると考えております。

なお、現在、市内３高校から大学への進学者をふやすための魅力アップ推進の取り組みといたしまして、各高校からの要望により、ＡＬＴ１名の派遣経費につきまして、平成３１年度の当初予算に計上をしたところでございます。

また、さきに述べました地域未来塾なども将来の高校生となる中学生の支援と捉えますと、大学への進学者をふやす魅力アップ推進につながっていくものと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　なかなかお金の問題で難しいなという雰囲気でしたが、あえて前向きに考えると、ＡＬＴ派遣が、今後、ちょっと各高校での利用によっては、センター試験がなくなる、英語がなくなるというところで、入試対策に通じていくのかなというふうに思いました。

教育長、答弁はいいんで、今後、ちょっとこれは引き続き議論を教育部の皆さんと、時間がないので、継続的にちょっと協議したいと思います。

私は、公営塾という形にはこだわらなくていいと思います。実際、モチベーションが沸けば、やる気が起きれば、生徒も、今、ネットで安価で自宅でできる環境もございますし、どちらかというと、どうやったらやる気が沸くのかとか、スケジュールをどうやって管理するのかとか、そういう何のために大学へ行くのかとか、そこら辺をしっかり整える場所、そこが菊池版の公営塾になると、費用をかけずにやる気が起きると。そこら辺の何か菊池型の公営塾をちょっと模索していきたいと思いますので、教育長、教育部の皆さん、引き続きよろしくお願いします。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　これで、田中教之君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時５９分

開議　午前１１時０７分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　議席番号１５番の大賀でございます。改めまして、皆さん、おはようございます。春は出会いや別れの季節でございまして、先日もお話がありましたように、本年３月をもちまして退職される職員の方が多数おられますけれども、これまでの菊池市発展にご尽力いただきましたことに、心から感謝を申し上げたいと思います。

それでは、通告に従いまして、質問をしてまいりたいと思います。

皆様、ご承知のとおり、本年５月１日から新天皇が即位され、新たな元号となります。今上天皇が生前に退位されて、新天皇が即位されるのは、１８１７年以来、約２００年ぶりだということでございます。

今定例会は平成最後の議会でございますし、また、次の６月議会は新しい元号のもとでの初の定例会ということになります。我が国の歴史の上で、この節目にこの立場に立たせていただいて、一般質問の機会を与えていただきましたので、新しい元号についてのお尋ねを、まず行いたいと思います。

１点目に、新元号に変わる際に、コンピュータシステムなどの改修が必要になるかと思いますけれども、事務上の改修、その他、どのようなことが必要になるのでしょうか、お尋ねをいたします。

次に、今回の新元号発表に際しては、国としては、国民の混乱を避けるために、即位の１カ月前には新元号を発表するという予定でございます。国の機関の間では準備が間に合わないというようなところもあるようでございますが、本市としましては、１カ月間の準備で対応できるのか、その見通しをお聞きしたいと思います。既に現在も準備をされているものがあれば、対応しているものについて、お尋ねをいたしたいと思います。また、今後、取り組むべきものとしてはどのようなことがあるのかをお尋ねして、１回目の質問といたします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　総務部と政策企画部と大きく二つの部にかかわり

ますので、まとめて私のほうからお答えをさせていただきます。

システムの改修や消耗品の購入などということで、何が必要でしょうかということですが、まず元号を使用しております情報システムについては、新元号に対応するためのシステム改修が必要でございます。そのほか、帳票やゴム印等を新たに作成する必要がございます。

あと、現在準備しているものということ、それから、今後取り組むべきものということでのお尋ねにつきましては、まず予算を伴うものとしまして言いました、現在、総合行政システムや水道料金のシステム等の情報システムの改修、それから、元号を削除した水道使用休止・開始届の印刷というのは、もう発注をしているところです。今言ったのが、もう既に取り組みをしているところです。

それから、次年度につきましては、発注管理のシステムやコンビニ交付システム等の情報システムの改修、それから、ゴム印等の作成などを予定しております。

紙ベースの公文書に記載する年及び年度の表記につきましては、市民の皆様にとってわかりやすいものとなるように、昨年１２月に取り扱いを定めています。原則として、和暦を先に表記し、西暦をその後に括弧書きで表示することとしております。

また、新元号が４月１日に発表され、５月１日に施行されることが予定されておりますので、本市においては、和暦と西暦の併記は４月３０日までの取り扱いとし、５月１日以降は、再び和暦のみの表記に戻す予定です。

そのほか、新元号の発表前に、年及び年度の表記をして配布する必要がございます市独自のカレンダーなどには、和暦ではなく、２０１９年または２０１９年度と西暦だけで表示することによって対応をしております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　政策企画部長のお話を聞きますと、本市では新元号の発表に対しまして準備が着々と進められているようでございますが、当然これらの改修や準備には予算も必要になってくると思いますので、この経費については、どの程度を見込まれておりますか、お尋ねをいたしたいと思います。

次に、新元号発表に対する準備を進める中での課題はあるのか。また、今後の対応をどうされるのか。以上、２点についてお伺いをしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　情報システムの改修費としまして約６６１万円、

そのほか、届出書の印刷やゴム印等の経費として約２７万円、総額で約６８８万円を予定しております。

それから、改修などを行う上での課題あるいは今後の対応についてということですけれども、新元号の発表が４月１日に行われる予定ですけれども、新元号を改める政令の施行は５月１日になります。本年４月１日から４月３０日までの期間は、公布されたものの、まだ施行されてない状態ということになります。

この期間中に、公文書に本年５月以降の日付を表記する必要がある際には、新元号を使用してよいのかどうかというのについて、国からまだ通知はあってございませんし、県に確認しましたけれども、県においても検討中ということでございました。

県のほうも、国及び他県の動向により判断をしたいということでしたので、本市もその判断を待って対応を決定するという予定にしております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

これまで、新天皇の即位や新元号が発表されるというのは、天皇が崩御されたときのことでありましたので、国民が喪に服すということで、国民の生活の中で行事などについては大変自粛ムードでございましたが、今回の天皇が即位されるのは、今上天皇が生前に退位をされて、新天皇が即位されるというわけでございますので、これまでとは違った状況ではないかと思っております。現状では国の祝賀行事の意向については、まだ決定をしないと伺っておりますけれども、民間の企業の中にはお祝いのセールをするというようなお話もちょっと伺いました。

そこで、市長にお尋ねしたいと思います。

本市として、今回の新天皇の即位、新元号発表での記念行事や式典などを実施することに関して、市長としてはどのような見解を持っておられますか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　新元号が変わることに伴う、市独自の式典、記念行事等の予定はというご質問でございますけども、まず、県に確認しましたところ、県としては現在のところ、独自の式典、行事等は予定していないということでございました。

本市におきましても、独自の式典、行事等は、現在の時点では予定をしておりません。

参考までに、今上天皇のご即位３０年をお祝いする記帳所の設置につきましては、県にあわせまして２月下旬に本庁及び各支所に設置しているところでございます。また、県内各自治体も同様の扱いをしたというふうに聞いているところでございます。

当然、新天皇のご即位の際には、恐らく記帳所の設置の依頼などが国からあると思いますので、その点については、同様に対応したいというふうに考えているところでございます。

いずれにしましても、その他につきましては、国あるいは県からの依頼あるいは指示、そうしたものをよく見きわめながら考えていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

新元号が発表されるというのは、これはもう本当に何十年に一度という日本の歴史の中で非常に貴重なといいますか、すばらしい年ではないかと思っております。このシステム改修において、市民の皆さんの生活に支障がないように、万全の体制で取り組んでいただきますとともに、新元号が日本の新たな発展の転機となりますことを祈念いたしまして、次の質問に移りたいと思います。

子どものスポーツの振興についてお尋ねいたします。

子どものころからスポーツに親しむことは、子どもたちにとって健康面からはもちろんのこと、青少年の健全育成面からしましても、大変重要なことだと私は思っております。そこで、できる限り多くの子どもたちにさまざまなスポーツに参加する機会を提供していかなければなりません。

そこで、お尋ねですが、これまで各学校を単位とした学校のクラブ活動を中心とした小学校の運動部の部活が行われてきましたが、本年４月の新学期からは、小学校のスポーツクラブが完全に社会体育に移行するということになります。これは先生方の働き方の改革の一環でもあるようでございますが、そのような状況の中で、これまで教育委員会は保護者の理解と指導者の発掘などの受け入れ体制が必要であると、これまでの議会の答弁で答えられてきました。そのために教育委員会としては平成２８年度から試行としまして、泗水町の３小学校での社会体育への移行への準備をされてきました。先ほど述べましたように、いよいよ本年４月から総合型地域スポーツクラブを中心とした社会体育への移行が全市的に実施されます。そこで、これまでの取り組みの過程と現状についてお尋ねをいたします。

次に、本市にございますＢ＆Ｇ施設の利用についてお尋ねをいたします。

この施設は、子どもたちが海洋スポーツに親しむことを目的に、当時のＢ＆Ｇ財団から全国で選定された中で、無償で提供をしていただきました。財源の少ない地方公共団体としては大変ありがたい施設でもあります。

お話を伺っておりますと、３年前の熊本地震におきましても、泗水体育館が被災したことに伴います予算面でも、Ｂ＆Ｇのほうから補助金が出たというお話も伺っております。

そこで、私たちも、当時、Ｂ＆Ｇ財団を誘致するためには、消防団の幹部としてＢ＆Ｇ財団の調査団をお迎えしたことを思い出しております。そのようなかいがありまして、当時の旭志と泗水を選定していただき、現在、本市には泗水の合志川沿いの三つの小学校近くに艇庫が３庫ありますし、富の原に体育館、また、プールもございます。旭志には湯舟のため池に艇庫、また、中学校の近くにプールが１カ所あります。そこで、これらの施設の利用状況についてお尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、大賀議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、１点目の本市の小学校運動部活動の社会体育移行につきましては、平成２７年度に菊池市小学校運動部活動社会体育移行検討委員会というものを立ち上げまして、検討を開始いたしております。

その結果、平成２９年度には、泗水地区をモデル地区といたしまして、泗水小学校、泗水東小学校、泗水西小学校の３小学校と、先行実施の希望がありました隈府小学校の合計４校が移行をいたしました。

残る６校につきましても、平成２９年度中に検討委員会を立ち上げ、取り組みました結果、平成３０年度からは旭志小学校の一部の部活動を除いて、社会体育移行を終えております。ただ、この旭志小学校におきましても、新年度からは社会体育移行を行うということでございます。

また、本年度は、指導者の育成という観点から、指導者講習会を２回実施し、多くの指導者が参加をいただいております。

次に、２点目のＢ＆Ｇ体育施設の利用状況ということでございますが、お話のとおり、平成２８年度が地震、今年度はまた猛暑ということもありまして、過去３カ年間の利用状況に大きな変動がございますので、大まかな数字で年間の利用者数をお答えさせていただきます。

まず、Ｂ＆Ｇ旭志プールでは、夏場の３カ月から４カ月間の間で約４，５００人、Ｂ＆Ｇ泗水プールでは、夏場の３カ月間で約７，５００人の利用となっております。

また、Ｂ＆Ｇ泗水体育館は、熊本地震による泗水第２体育館の改修の影響によりまして、利用者数が大幅に増加をいたしておりますが、通常ベースで考えますと、年間約１万８，０００人の利用があっているというところでございます。

最後に、旭志と泗水の艇庫にあるカヌーの利用ということになりますが、年間２００人前後の利用状況となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。利用状況についてはわかりました。

先ほど申しましたように、４月から総合型地域スポーツクラブに移行するわけでございますが、小学校の部活が、そこで、今現在、もし立ち上げられているジュニアスポーツクラブの現状や、数についてお尋ねをしたいと思います。

次に、今、お示しいただきましたとおり、艇庫については、非常に年間、４カ所ある中で、利用状況が今は少ないのではないかと思っております。私の地元の旭志の湯舟のため池にございます艇庫については、ほとんど利用があってないというふうに私は思っております。あれだけの施設が十分に活用されていないというのは、非常に実際、もったいないのではないかと思っております。これまでの過程の中で、どうしてこの利用状況が少なくなったのかについては、私もわかっておりませんが、まだ艇庫に保管されておりますボート、カヌーにつきましては、十分使用可能であるとお聞きしました。

そこで、本市では、竜門ダムのボート場が現在ございます。これは全国でもすばらしい競技場だと評価されております。本市もこのダム湖のボート場についてはさまざまな整備を行ってきております。そこで、旭志、泗水の艇庫のボートやカヌーについて、活用する見込みがなければ、竜門ダムの艇庫で一括管理していくべきではないかと私は考えております。そのことが指導者の確保にも、その指導者の確保がしやすくなるのではないかと。コスト面にも節約できるのではないかと思っております。

これまでは、いわば地域や学校単位の利用であったために、利用者が少なかったのではないかと思っております。竜門ダムの艇庫で管理することによりまして、市内全域の子どもたちの利用がしやすくなりますし、カヌーやボートの教室を企画するなど、子どもたちに呼びかけを積極的にすることによりまして、活用の頻度もふえ、将来、全国や世界を目指す本市の子どもたちがあらわれるのではないかと私は

思っております。そこで、教育委員会のお考えをお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、再質問のほうにお答えをさせていただきます。

まず、１点目の本市に登録をされているジュニアスポーツクラブのクラブ数につきましては、社会体育移行を機に設立をされた団体が１５団体、既存のクラブチームが４６団体、それから総合型スポーツクラブが１団体の、合計６２団体となっております。また、そういったものの加入につきましては、児童と保護者の希望によって、クラブを選択されているという状況でございます。

次に、２点目の艇庫のカヌーの利用につきましてでございますが、水面として利用いたします湯舟の堤あるいは合志川というものにつきましては、水位が不足するというような問題がございまして、計画的な活用が難しくなっているという状況でございます。

そのため、現状におきましても、旭志や泗水の艇庫からカヌーを竜門ダムへ運搬して、活用することがほとんどということになっております。こうしたことから、今後もさらに竜門ダムでの活用を進めてまいりたいと考えております。

現状の課題といたしましては、カヌーを運搬するための機能及び竜門ダム艇庫での一時収納機能というものがやっぱり必要だろうと思っておりますので、そういった移動・収納用ラックというものを新年度予算で計上いたしておりますので、また、その財団の財源につきましては、Ｂ＆Ｇ財団とも助成事業の協議を進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

カヌーにつきましては、逆に竜門ダムで一括で管理していただいて、例えば、今あるような合志川とか湯舟のため池で利用するときに、向こうに運んだほうが私は効率的ではないかと思っております。

再々質問をさせていただきます。

Ｂ＆Ｇ施設を所有する市町村には、毎年、職員の研修会が実施されていると伺っておりますが、本市にはこれまでに４名の方が研修を受けておられると伺っております。現在１名は出向されていると伺っております。

先ほど述べましたように、今、部長の答弁にもございましたが、艇庫の移管につきましては、Ｂ＆Ｇ財団との縛りもあるようですし、条件もあるかと思っておりま

すので、しかし、活用を促す方向にすることでございますので、Ｂ＆Ｇ財団にもぜひ利用していただいて、そのような方向で進めていただければと思っております。

その中で、海洋スポーツの研修を受けた職員の方々が、子どもたちのカヌーやボートに対して指導することによって、新たなスポーツクラブとしての活動ができるのではないかと考えております。

そこで、お尋ねします。研修を受けた職員の活用を今後検討すべきだと思っておりますが、教育委員会の考えをお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　ただいまの大賀議員のご質問にお答えをしたいと思います。

研修を受けた職員の活用というご質問でございました。

Ｂ＆Ｇの研修や講習は、Ｂ＆Ｇ施設の管理者が、海洋性スポーツの指導を行うことを目的として、センターインストラクターといった資格が取得できるように実施されております。

そのために、研修期間が長期にわたることから、一般の方が受講することは難しく、市役所の職員が受講し、センターインストラクターの資格を取得しているという現状でございます。

そのセンターインストラクターが社会教育課に所属している場合は対応しやすいものの、社会教育課以外に所属している場合には、通常業務との兼ね合いで、なかなか人数的に対応しづらい側面がございます。

このようなことから、現在、カヌーの体験指導を中心となっている現状がございますが、ご提案のとおりに、各種教室の事業計画の必要性は認識しているところでございます。

今後の対応といたしましても、指導者や施設の利活用を考えた場合、Ｂ＆Ｇプールを活用したカヌー教室等を、議員おっしゃったように、市内全域の子どもたちを対象にするとか、そんなような形で、子どもたちに海洋性スポーツに親しむ機会をつくっていけたらというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ご答弁ありがとうございました。

ただいま教育長の答弁の中で、やはり社会体育課を離れると、研修を受けた職員が活用しにくいというのは、これは全市的に市長部局のほうでも考えていただいて、やはりそれだけ研修を受けているんですから、そのことをぜひ生かすべきだと思っ

ております。ぜひそういう市長部局のほうでご検討いただきたいと思っております。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　ただいま答弁しましたときに、「社会体育課」というふうに言うべきところを「社会教育」と申しましたようです。「社会体育課」の誤りでございます。おわびして、訂正いたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　それでは、次の質問に移ります。

道路の改良についてお伺いをしたいと思います。市道の改良について、２路線についてお尋ねいたします。

まず１点目に、市道中原森北２号線についてお尋ねをいたします。

これまでにも一般質問を通じまして、何度か舗装の改良とガードレールの設置を要望してまいりました。おかげさまで、路面の舗装につきましても、県道菊池赤水線から県道旭志鹿本線との交差点までの間と、また、国道３２５号方面からの改良も順調に進められており、感謝をしているところでございます。

この路線には、温泉とレストラン完備の宿泊施設も営業されております。菊池市の観光の一端にも貢献されておりますので、私は整備をしていく必要もあるかと思っております。

また、先日、住民の方から、外側線やセンターラインも消えて、路面も悪くなっており、今後、継続して改修してほしいとの陳情もございました。予算的な面もありますし、一度にできないことは承知をいたしておりますが、今後、舗装の改修と危険箇所でのガードレール設置の計画について、まず１点目にお尋ねをいたしたいと思います。

２点目に、今申しました森北中原２号線から旭志妻越方面に向かいます市道森北線の改良についてお尋ねいたします。

この路線につきましても、これまでに何度か要望してまいりましたが、この路線は泗水方面から合志川沿いに旭志の中央につながる妻越泗水線に直結しておりまして、さきに述べました中原森北２号線に通じており、朝夕は通勤の数も非常に最近ふえてまいりました。また、農業関係の大型の機械も通行が多く、見通しが悪いところも何カ所かありますので、危険な状況にございます。これまでの答弁では、まだ改良の計画の予定はないという返事でございましたが、その後、どのような状況になっておりますか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　それでは、大賀議員ご質問の２点につきまして、ご説明申し上げたいと思います。

まず、１点目の中原森北２号線の整備状況についてでございますけども、平成２７年度から平成２９年度までは舗装の補修工事を行っております。

今年度につきましては、水路への転落防止のため、危険と思われる２カ所において、合計７８メートル分のガードレールの設置工事を発注しており、年度内の完了予定でございます。

次年度以降につきましては、残りの舗装の未補修箇所につきまして、継続的に補修工事を行ってまいる予定でございます。

次の森北線でございますけども、この森北線の改良工事についてですけれども、道路改良事業の継続事業がほかにも多く残っておりまして、新規の道路改良事業につきましては、この森北線を含めまして、現在のところ、まだ計画はございません。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ご答弁ありがとうございました。

中原森北線につきましては、７８メートルのガードレールの設置が今年度で計画されているということを聞きまして、大変私も非常に危険だと思っておりましたのでありがとうございます。

それでは、次の質問に入りたいと思います。２回目の質問を行いたいと思います。

ただいま私の述べました森北線につきましてお尋ねをいたしたいと思います。

現在、菊池市から旭志を経由しまして、大津方面に向かう産交バスの運行路線がございます。この路線上にあります妻越バス停というのが、非常に集落から離れたところにございますし、ほとんど利用する方がないような状況でございます。今後ますます高齢化が進む中においても、公共交通機関の利便性のある利用が求められていると思います。

そこで、私は、今、産交バスの路線を少しだけ変更して、先ほど述べました中原森北２号線にある温泉施設を経由して、この森北線を通過して、合志川沿いの妻越泗水線を利用すれば、妻越集落の中心部に出てきますので、バス停の場所が非常に活用しやすくなります。この路線の変更につきましては、執行部にも、バス会社にも、私は今要望を行っているところでございますが、わずか２キロのバスの路線の延長ということで、実現可能ではないかと私は思っております。

現在もこの森北線につきましては、バスが通る幅員はありますが、部分的に改良でもしていただければ、より安全なスムーズな通行が可能になると思っておりますので、現在、ただいま部長が答弁されましたゼロベースの改良計画を、バス路線の変更があれば見直すことが可能になるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　それでは、再質問にお答えいたします。

この森北線におきましては、今後バス路線化が具体化しまして、道路狭窄部がバスの運行上支障を来すということであれば、その区間においては、部分改良を行いたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

バス路線が決定すれば可能であるというようなお話でございましたので、これからしっかりとまた取り組んでいきたいと思います。

次の施政方針についてお伺いをいたします。

まず１点目に、主要施策についての豊富な資源を利用する元気産業づくりの中で、農業の取り組みについてお尋ねをいたします。

この中で、後継者や新規就農者などの担い手の育成の中で、日本農業経営大学校を運営するＡＦＪとの連携についてお尋ねをいたします。

私も、以前、政務活動費を活用しまして、菊池市の農業を考える議員の会で、この日本農業経営大学に研修にまいりました。学校長を初め、講師陣の皆さんとの研修の中で、農業の可能性への対応、経営者としての自覚、地域のリーダーの育成、また、全国に仲間のネットワークを確立するというすばらしい目標に向かって取り組んでおられるのをお伺いしまして、非常に感銘をしたわけでございます。ぜひ菊池市の農業後継者に入校していただき、本市の農業のリーダーとしての研さんを積極的にしてほしいと思った次第でございます。

そこで、質問ですが、この本市とＡＦＪとの連携のこれまでの取り組みはどのようになっておりますか。経営セミナーや、回数や、参加状況についてお尋ねをしたいと思います。また、本市からの入校者についてはどのくらいいるのか、お尋ねしたいと思います。

次に、農業政策の中での米づくり日本一戦略についてお尋ねをいたします。

その中で、菊池米食味コンクールを通しての市場関係者や消費者へのＰＲ活動と

して行うとして述べてありましたが、これまでに菊池米の食味コンクールが６回、また、九州米の食味コンクールが２回ほど行われてきたと思いますが、私も全ての大会に参加しまして、現在、自家米を出品をいたしております。しかし、ここ数年、出品者の数はふえていると思いますけれども、関係者以外の参加者が非常に減少しているのではないかと思っております。「米どころ菊池」をＰＲする催しとしては大変すばらしい取り組みだと思っております。今後、関係者や出品者が増加することはもちろんでありますが、消費者の方やバイヤーの方を呼び込むことがもっとできないのかということを考えております。

そこで、現在、二日間で行われております食味コンクールの開催を、私は一日に集約して行うことも必要ではないかと思います。そのことにより、参加者の集約とともに、経費面での節約もできるのではないかと思っておりますが、いかがお考えでしょうか。一度原点に返って、企画を練り直すことも必要ではないかと思いますが、執行部はどのように考えておられますか、見解をお聞かせください。

次に、快適で便利に暮らせる基盤づくりの中で、空き家対策についてお尋ねをいたします。

我が国は、全国的な少子高齢化の影響で、毎年、空き家の数が増加の一途をたどっております。全国では空き家の数が９００万戸にも達したと言われております。本市におきまして、まさにそのような状況でございまして、年々増加をいたしております。

施政方針の中で、空き家対策計画に基づき適正な管理促進に努め、効果的な対策に努めますと述べてありますが、空き家の中にもさまざまな形での空き家がございます。市では、そのような空き家全体の数や状況の把握はできているのでしょうか。特に廃屋についての情報は把握されているのか、お尋ねいたします。

次に、市政執行の基本的な考え方と、主要施策の中での自然の恵みを守る安全なまちづくりでの畜産バイオマス事業についての具体的施策についてお尋ねをいたします。

この中で、これまでの研究・調査を進めてきた畜産バイオマスを用いたエネルギーシステムの導入に向け、国の産業都市構想に応募し、産業都市としての認定を目指すということでございますが、この認定に向けての取り組みの現状はどのようになっておりますか。また、今後のスケジュールとしてはどのように考えておられますか。

以上について、お尋ねをしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　まず、私のほうから、１点目の農業政策の具体的な取り組みについてお答えさせていただきます。

一つ目のご質問のＡＦＪ連携協定におけるこれまでの取り組みと、日本農業経営大学校を卒業した人数についてのお尋ねについてですが、ＡＦＪとの連携協定につきましては、次世代の農業経営に必要な知識や技術を初め、農業に対する意欲と能力を持った地域農業の担い手育成を目的としまして、平成２６年８月１日に協定の締結を行っております。

ＡＦＪは、農業界と産業界などが連携し、次世代の農業経営者の育成に取り組んでいくために平成２４年２月に設立され、翌平成２５年には日本農業経営大学校を開校されております。これまでに６１名の方が農業経営を学ばれ卒業されているとのことでございました。

その卒業生の中で、熊本県は全国でも最も多い８名の方が卒業しておられ、うち１名の方は菊池市在住でございます。また来月、４月には本市出身の方が１名卒業されることとなっております。

次に、これまでの取り組み状況でございますが、主に市の認定農業者や新規就農者を対象としまして、農業経営に重点を置いたセミナーを毎年開催してきたところでございます。

年度別の内容といたしましては、平成２６年度は、認定農業者を対象としまして、自立した農業経営と地域農業者との連携を図ることをテーマにしたセミナーを開催し、２２名の参加があっております。

平成２７年度は、若手農業者を対象として、農業者自身が経営上の目的を定め、地域農業者に向けた経営的視点を持つことをテーマにしたセミナーを開催し、２８名の参加があっております。

平成２８年度は、新規就農者を対象として、農業者の生産と販売を学びながら経済的自立への足場をつくることをテーマにしたセミナーを開催し、１６名の参加があっております。

平成２９年度は、認定農業者及び新規就農者を対象として、経営的視点を持った農業者が今後の農業経営戦略が構築できるようにするためのセミナーを開催し、２５名の参加があっております。

そして、本年度におきましては、過去のセミナー受講生を対象として、次世代の菊池の農業を担う農業者の意識改革と地域社会・経済の持続的発展に寄与することをテーマに開催し、３０名の参加があったところでございます。

今後につきましても、セミナーを引き続き開催することで、本市の将来を担う農業経営者を継続して育成するとともに、世界的な視野と地域での実践力を兼ね備え

た地域リーダーの育成を支援してまいりたいと考えているところでございます。

次に、二つ目の食味コンクールの見直しについてのご質問ですが、菊池米食味コンクールにつきましては、生産者の意識の高揚を図り、水稲栽培技術の向上と「米どころ菊池」をＰＲしながら、菊池米のブランド化による消費拡大を目的に、平成２５年度よりこれまでに６回開催しているところでございます。

また、九州のお米食味コンクールにつきましては、九州内の米生産者の食味向上への意識の高揚や、市場における九州産米の地位確立と消費拡大を目的に平成２９年度から本市が主催し、これまでに２回開催してきたところでございます。

この二つのコンクールの開催によりまして、市場関係者や消費者に対しての情報発信が図られ、菊池米のさらなるブランド化が進んだものと考えております。

しかし、来場される方につきましては、先ほど議員ご指摘のとおり、二つのコンクールとも生産者や関係者が大半で、消費者の来場は少ないと思われます。

平成２９年度・平成３０年度の菊池米食味コンクールと九州のお米食味コンクールにつきましては、会場設営経費等の経費削減を図るため、二日連続で七城体育館において開催したところでございます。

ご意見がありました一日の開催につきましては、タイムスケジュールを考えたときに、炊飯の回数や準備に時間を要することや、審査員の食味審査の時間を確保する必要があること、また、九州管内から来られる方々の対応について課題があります。

そのほかにも、炊飯器の数や作業スペース、多くのスタッフを確保する必要があること、また、短時間で多くの事務処理を行う必要があることから、コンクールの運営につきましては、議員からのご意見も含め、課題・問題点を整理した上で、今後、検討させていただきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　それでは、３番目のご質問にお答えしたいと思います。

本市の空き家対策につきましては、現在策定中の菊池市空家等対策計画に基づき、空家等対策の推進に関する特別措置法や民法などの関係法令等に従って、対応していくところでございます。

具体的には、現地を確認した上で、所有者または管理者の調査を行い、判明した場合は、改善等の助言や指導を行います。

さらに、倒壊等、著しく保安上危険となるおそれのある状態、または著しく衛生上有害となるおそれのある状態にあるなど、特定空き家に認定した場合は、勧告及

び命令し、改善が見られないときは行政代執行を行い、強制的に一部または全部を撤去し、かかった費用は所有者等から徴集していくことになります。

ただ、これらの手続を行う中でも、相続放棄等による管理者不在や費用を徴収する際の支払い能力の有無により、徴収ができない場合の対応等、さまざまな課題がございますが、市としましては、菊池市空家等対策協議会のご意見を伺いながら、適切に対応してまいりたいと考えております。

ちなみに、平成２９年度に空き家等の実態調査を行っておりますけども、その中で菊池市における空き家数でございますが、これはもう住宅が専用でございますが、５４８件でございます。これには納屋とかアパートは含んでおりません。

次に、特定空き家の候補でございますが、これは２１件ほど存在しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　改めまして、おはようございます。

ただいまのバイオマス産業都市に向けた進捗状況と今後のスケジュールについてということで、そちらにお答えさせていただきます。

これまで調査・検討してまいりました家畜排せつ物を用いたエネルギー転換システムにつきましては、本市でのバイオマス事業は採算性があるのか、また、民間事業者が参入できる事業なのかを判断するため、今年度は環境省の事業を用いまして、民間企業も参画し、民間企業の視点から事業採算性の精査を行っておるところでございます。

原料となります家畜排せつ物の調達や運搬体制及び発生する消化液の利用体制等の構築が見込まれ、採算性の面でも民間事業者の参入も可能な事業と判断された場合は、バイオマス産業都市の認定へ向け、本年７月の応募、７月の採択を目指すところで予定をしておるところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

再質問でございますけれども、食味コンクールについては、本当に私たちの菊池米のＰＲで非常に重要な、私は企画だと思っております。そこで、先ほど申しましたように、何としてでも消費者の方をぜひ呼び込みたいということで、私なりに考えてみますと、２キロほど提出をしております、出品者の方がですね。それが、今、

執行部へ、災害時支援米として被災地に無償で提供されておると伺っておりますけども、この一部を、例えば参加者の方に無料で配布するとか、また、あるいは米のつかみ取りをするとか、あるいはまた、米を使った料理の大会をするとか、そういうようなことも考えていいのではないかと思っております。そのことにより、多くの参加者もふえるのではないかと私は思っております。そのような検討をしていただきたいと思います。

また次に、バイオマスにつきましてですが、これは現在、九州電力の送電線の容量が不足ということで、発電をしても売電できないというようなことを伺っております。大容量についてということでございますけれども、以前も私もこの質問をしましたときに、市の考えとして、夜間発電をして送電するというような対策もあるというお話はありましたけども、福岡県のみやま市では、電力の地産地消ということで、発電しました電力を、例えば地元の産業や施設で消費していると伺っております。本市としましても、ぜひ家畜ふん尿処理の一環としても、バイオガス発電を事業として実施していただきたいと思っておりますので、そのような状況の中で、市長はどのようにお考えをお持ちでしょうか、ご見解を伺いたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　済みません、先ほどの答弁の中で、７月の応募、１０月の採択と申し上げるところを、１０月の採択と誤って申したようでございますので、おわびして、訂正させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

○市民環境部長（古田浩敏君）　バイオガス発電につきまして、先ほど議員が述べられましたとおり、平成３１年２月時点の九州電力の資料によりますと、菊池地域を含みます九州のほとんどが、再生可能エネルギーの連係に制約が発生する地域となっております。

ただし、発電出力が５０キロワット未満の、いわゆる低圧の場合は、系統連係の際の技術的要件が容易であることから、九州電力への売電は可能とされております。

よって、乳用牛２５０頭程度のふん尿量を原料とするバイオガスプラントならば、生じた電力を売電することもできると判断しておるところでございます。

一方で、発電出力が５０キロワット以上の、いわゆる高圧の場合は、九州電力への売電は現時点では困難と考えております。

よって、各農家からふん尿を集約して発電する集中型のプラントの場合は、売電以外の方法も調査をしておりまして、その方策の一つとして、バイオガス発電を含めた市内の再生可能エネルギーを市の公共施設や民間住宅等に供給し、発電の地産

地消を行うための、地域新電力会社についても検討をしておるところでございます。

先ほど議員が紹介されました、みやま市のほうについても、現在、検討しているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

○市民環境部長（古田浩敏君）　何度も済みません。先ほど、ことし７月の応募、「７月の採択」と申し上げたのを「１０月の採択」に訂正をさせていただきます。何度も済みませんでした。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、私のほうからは、食味コンクールの際のイベントの可能性についてということでお答えしたいと思います。

平成２８年に本市で開催しました米・食味分析鑑定コンクール国際大会の際には、たくさんのお客様をお迎えしようということで、ＪＡさんのご協力をいただきまして、菊池の食の祭典ということもあわせて開催されました。大変盛況したところでございました。

今後についての考え方でありますけども、九州のお米食味コンクールにつきましては、そのようなイベントの可能性というのも考えてまいりたいと思いますけども、実は、御飯を炊く係、配膳する係がもう緊密に連携して、限られた短い時間内にやらなきゃいかんものですから、相当職員に協力をいただいているわけでございまして、関係団体の協力なしには、新たなイベントを同時に開催するということがなかなか難しい側面もありますので、こうしたことを関係団体ともよくお話をしながら、検討してまいりたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

この九州のお米食味コンクール、私は大変すばらしいことだと思っております。これを市のほうの方針としては、九州持ち回りというようなお話もちょっと伺いましたけども、私はぜひ菊池市でずっと、菊池の独特なイベントとして菊池で開いていただきたいと思っております。

これをもちまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　これで、大賀慶一君の質問は終わります。

ここで昼食等のため、休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後零時０５分

開議　午後零時５９分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　皆様、こんにちは。猿渡美智子です。通告に従って、早速質問をさせていただきます。

まず、小中学校でのＬＧＢＴの児童・生徒への配慮ということについて質問いたします。

昨年、政務活動費で日本女性会議に参加させていただき、ＬＧＢＴの分科会で研修をすることができましたので、そのことも踏まえながら質問をしていきたいと思います。

ＬＧＢＴの問題については、昨年９月議会において、東奈津子議員からの一般質問がありました。学校現場の取り組みについて問われたとき、教育長は「研修の大切さを基本にしながら、全ての教職員が性の多様性を真剣に認め、受けとめる、そういう教育環境づくりを進めてまいりたいと思います」と答弁されています。私もそのとおりだと思います。

ＬＧＢＴの子どもたちを受けとめる教育環境をどうつくっていくか、新しい一歩をどのように踏み出すかという視点で質問していきたいと思います。

ＬＧＢＴのうち、性同一性障害については、２００４年に性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律が施行されました。性同一性障害者のうち特定の要件を満たす者は、戸籍上の性の変更を行うことができるとされています。つまり、法律上も認められた存在です。

同性婚については、既に確定している台湾を入れると２６の国で法律上認められています。日本では国としての法律には至っていませんが、幾つかの自治体でパートナーシップ制度が取り入れられています。昨年９月議会の東議員の一般質問では、９自治体と報告されましたが、現在はさらにふえて、４月から導入する熊本市なども加えると１２になるようです。同性婚についても法的に認めようとする動きが広がってきています。

そのような社会的動きの中、昨年１２月の菊池市人権フェスティバルでの講演はＬＧＢＴの問題についてでした。講師を務められたのは日本ＬＧＢＴ協会の理事で

あり、性同一性障害の当事者である清水展人さんでした。聞かれた方も多いと思いますが、清水さんは、先ほどの特例法に基づき、女性から男性へ戸籍の変更をしている方です。当事者のお話を聞くことができたことは、市民の研修、啓発の機会として大変貴重だったと思います。その清水さんは、まず皆様に知っていただきたいのは、ＬＧＢＴなどの性的マイノリティというのは身近な存在だということです。左ききやＡＢ型の割合と同じくらいいると言われています。特別な存在ではなく、あなたのそばにいる存在だということを知っていただきたいのですと述べておられます。数字で言うと７％ぐらいの割合だと言われているようです。１００人規模の学校なら７人ぐらい、３００人の規模の学校なら２０人くらいの数になります。教育の現場でも特別な存在ではなく、身近な存在だという認識を持っていなければならないのではないかと思います。

そこで、３点質問します。

１点目、教育委員会では、菊池市内でのＬＧＢＴの子どもさんの存在を把握しておられますか。

２点目、身近な存在として日常的な学校生活において、具体的にどんな配慮をしておられますか。

３点目、自分が当事者であることを自分から告白するカミングアウトや、本人の了解を得ず、第三者にそれを公表するアウティングについて、どのように考えていますか。

以上、３点についてお願いします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、猿渡議員のＬＧＢＴの児童・生徒に対する認識と対応ということでお答えをさせていただきます。

本市におきましても、ＬＧＢＴの児童・生徒の存在につきましては、数名を把握をいたしております。しかしながら、もっと多くの児童・生徒が潜在的にいるかもしれないとの認識を持っているところでございます。

また、各学校におきましては、ＬＧＢＴに対する研修を重ね、児童・生徒に寄り添いながら、要望があった場合は、適切に対応するように準備をいたしております。例えば、多目的トイレにも「だれでもトイレ」の表示をしたり、保健室のトイレを使えるよう対応しているところでございます。

カミングアウトにつきましては、現在まで確認をいたしておりませんが、非常にデリケートな対応が必要となりますので、慎重に聞き取りを行い、全職員での共通理解と児童・生徒への伝え方の確認を丁寧に行いたいと思っております。また、本

人の了承を得ずに秘密を公言するアウティングにつきましては、極めて重大な人権侵害であると認識しておりますので、適切に対処してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　菊池市にも該当する子どもさんがいるということ、きめ細やかな配慮が必要であるということ、自分のことを話したくない、知られたくないと考えている子どもさんもいるということ、つまり、部長から言われたように、潜在的に悩んでいる子どももあり得るということ、この３点を確認した上で、再質問をいたします。

学校の標準服、制服についてお尋ねをします。

先ほども触れました性同一性障害の当事者である清水さんは、小学校時代は私服通学だったので、ほとんどズボンで過ごしたそうですが、中学校へ入学するときに、お母さんからスカートがどうしても嫌だったら、校長先生に着なくてもいいようにお願いしてあげようかと言われたそうです。その清水さんは、そんなことを言われたら、友達もいなくなってしまうかもしれないし、いじめられるかもしれない。絶対やめてと強く言ったけれど、心の中ではスカートをはくことは本当に本当に嫌だったのですと著書の中で述べておられます。

これまで、学校の制服や標準服は、男子はズボン、女子はスカートというのが当たり前のこととして通っていました。しかし、機能性の面からも、ＬＧＢＴの子どもたちに配慮するという意味からも、これまでの常識を見直す動きが広がってきています。つまり、女子の制服にもズボン、スラックスと表現されている場合のほうが多いようですが、これを選択肢として取り入れて、好きなほうを選べるようにするというものです。既にこの春から全ての区立中学校で実施する東京都の中野区、世田谷区、検討委員会をつくって検討を始めている福岡市等々です。新聞やテレビの報道でごらんになった方も多いと思います。

こういった制服見直しの動きについて、教育委員会としてはどう考えられるのか、重ねて、そもそも男子はズボン、女子はスカートと分けることの意義は何なのか、２点お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、再質問にお答えをさせていただきます。

議員お話のとおり、ＬＧＢＴの認識が高まる中、本市におきましても制服や標準服の意義を改めて考える時期を迎えていると捉えております。

これまでの歴史といたしまして、現行の制服や標準服の意義というものは認めながらも、男子がズボン、女子がスカートと一律的に分けるのではなく、多様性というものを尊重し、児童・生徒や保護者のニーズに応えられるよう配慮していく必要性というものは認識しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　機能性の観点から言えば、ズボンのほうがかなりやっぱり動きやすいです。スカートで掃除などの作業をするときや、自転車通学をするときには神経を使わなくてはなりません。でも、現実的には女の子たちは神経を使わなくてもいいように、スカートの下に体育用の半ズボンをはくのが通常になっています。学校独自のスタイルです。

先ほど触れましたように、東京都中野区は今春から女子の制服にスラックスを選択肢として加えますが、そのきっかけは、小学校６年生の女子児童が出した提案書で、その提案理由は、スカートは体が冷える、痴漢被害に遭いやすいというものだったということでした。

大人の社会では、既に女性のパンツスーツはごくごく普通に見られることで、決して特別なことではありません。学校でもスカート、スラックス、好きなほうを着用できるようになればいいと願います。

ＬＧＢＴの子どもへの配慮という観点から例を挙げます。かつて、菊池市内の中学校に在籍していた生徒の中にもスカートをはくことに拒否感があったお子さんがいたと聞きました。そのお子さんは、不登校傾向でほとんど登校しなかったけれど、たまに登校するときには男子用の学ランを着用していたとのことでした。当時は学ランの着用を認めることが配慮だったのだろうと思います。しかし、名簿上は女子になっているお子さんですから、先ほどのカミングアウトやアウティングの話と重ねて考えると、随分きつかったのではないかと思います。制服にもう少し自由度があったら、もっと楽に、もっとたくさん学校に来られたかもしれないと思います。

ここで、合志中学校のことを紹介します。

合志中は今年度から既にブレザーにスラックスという形の第三の制服を取り入れて、複数のお子さんが着用しているという話を聞きました。新年度入学に向けた保護者説明会では、保護者と生徒に向けて、今までどおりの学生服、セーラー服に加えて、男子も女子もブレザースーツを選べることを説明されたということでした。入学説明会での説明はことしが初めてだったそうですが、保護者から何件かの問い合わせが来ているという教頭先生のお話でした。

そこで、質問いたします。

教育委員会では、菊池市内にもＬＧＢＴの児童・生徒がいることを把握しておられるわけですから、これらのお子さんを受けとめる教育環境をつくるという観点からも、全ての子どもにとっての選択肢をふやすという意味からも、市内の小中学校の標準服、制服について、女子もスラックスを選べるように早急に検討を始められるべきではないでしょうか。先ほど部長の答弁の中に、方向性としてはそういう方向性を持っているというお話でしたが、なるべく早く取り組んでいただきたいと考えます。教育委員会の見解をお示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　ただいまの猿渡議員のご質問にお答えいたします。

小中学校の標準服や制服につきましては、これまで学校が保護者と相談したり、あるいは理解を得ながら判断をしてきた経緯がございます。

一方で、教育部長が答弁しましたように、多様性を尊重しながら、さまざまな配慮が必要な時代になってきたことも確かでございます。標準服や制服の幅などのことにつきましては、まずは校長会議で議論を深めていただいて進めたいというふうに考えているところです。

それぞれの学校の事情や、地域性や、伝統等も尊重しつつも、児童・生徒が男女という分け方に縛られることなく、自分らしさを発揮し、周りも認めていく教育環境の整備に努めてまいりたいというふうに思っているところです。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　教育長から校長会議で検討していくという答弁をいただきましたが、なるべく早い時期に取り組んでいただきたいというふうに願います。でないと、今、在校している子どもの対応が間に合わなくなるからです。言われたように、自分らしさを発揮できる伸び伸びと通える学校であってほしいと思っております。

標準服や制服に選択肢をふやすことは、言われたとおりです。多様性を認め、尊重します、そういうメッセージを子どもたちに送ることになると思います。初めのうちは実際に着用する児童・生徒は少ないかもしれませんが、メッセージを送っていく、そのこと自体に意味があると思います。

９月の東議員への答弁の中で、上田部長が人権啓発リーフレットにレインボーフラッグを掲げたということを紹介されました。レインボーフラッグはＬＧＢＴの社

会運動の象徴です。その旗を掲げたことが、具体的な政策や取り組みになることを要望し、次の質問に移ります。

次の質問に入る前に、直接関係ありませんが、毎年１月に行われる出初式に参加しております。女性の職員さんが寒い中、なぜかスカート姿で参加されていることにも、私は違和感を感じているところです。そのことをつけ加えて、次の質問に移ります。

次は、福祉分野での地域との協働ということについて質問いたします。

先日、議会開会後の全員協議会で、第３期地域福祉計画、地域福祉活動計画案の概略が示されました。四つの計画目標の一つに、地域力を高めるためのつながりづくりということが挙げられています。私が今回言いたい地域との協働というのは、この地域力を高めるということとイコールだと感じているところです。今、大きな社会問題となっている虐待を防ぐためにも、高齢化対策としても、また、防災の面でも、地域力は欠かせないと考えます。

一方で、地域のつながりが弱くなったと言われて久しいものがあります。確かに、私が子どもだったころのようなご近所のつながりはありません。しかし、人々の間に助け合いの気持ちがなくなったわけでは決してないと思います。大きな災害の後にたくさんのボランティアが手弁当で集まることはその象徴のように思われます。そのとき、かなめの役割を果たしているのがボランティアセンターです。ボランティアセンターに人々が集まります。災害時ではなく、日常の市民生活の中にも何かセンターになるものがあれば、人々の善意が集まり、つながりができるのだと思います。

そのことを強く感じるのが子ども食堂です。時々お伺いすることがあるのですが、主催者のお話を聞くと、子ども食堂に市民の方々からさまざまな支援が寄せられています。定期的にお米を持ってこられる方、自宅でとれた野菜を届けてくださる方、手づくりの料理を届けてくださる方、パン屋さんはパンを、お菓子屋さんはお菓子をというぐあいだそうです。主催者の方は菊池のよさを再認識しましたと話されました。そして、寄せられた食料のうち、子ども食堂で余ったものは子育て支援課に届けられて、子育て支援課で活用されているという話も聞きました。

私は、以前、子ども食堂など子どもの居場所づくりに対する行政の支援を求める一般質問をしたことがありましたが、市民からの支援をもとに、子どもの貧困対策に関して、子ども食堂と行政が協働しているということに展望を感じます。

もう一つ、つけ加えれば、このように、市民からの支援から広がる一つのきっかけが、市の広報で取り上げられたことだそうです。そのことも協働の一つの形だと思います。

そこで、２点お尋ねします。

１点目、子ども食堂と子育て支援課がどのように連携されていて、その連携からどのような効果が得られているのでしょうか。

２点目、子ども食堂は、行政と地域がつながっている一つのケースですが、もう少し広い目で福祉行政が地域とどのようにつながりをつくっておられるのか、現状をお尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　まず、子ども食堂と子育て支援課のつながりについて説明させていただきます。

子育て支援課が行政の窓口となりまして、当課がかかわっている支援が必要な家庭へ子ども食堂の情報を提供することを初め、子ども食堂への補助金等の情報提供や、庁内の他部署との業務と連携・調整を行っております。

その中で、子育て支援課がかかわった家庭の中には、交通手段がなかったり、人とかかわることが苦手等の理由から、子ども食堂に行くことが難しいこともあり、子ども食堂から提供いただきました食品を自宅に届けたこともございました。この対応を行ったことで、これまで行政とのかかわりを拒否しがちであった家庭と良好な関係となりまして、そこから相談や支援へつながったこともございました。経済的な支援はもとより、家庭との接点を持つことにより、子どもの成長を支援して、地域での孤立を防ぐことにより、虐待のリスクの低減等にもつながっていくものと考えているところでございます。

２点目の福祉行政と地域との具体的な取り組みでございますが、民生委員・児童委員さんによる活動を初め、菊池地域の地区社協では、ふれあいサロンや見守りなどの支え合い活動に取り組まれており、七城・旭志・泗水地域では、地域福祉委員の協力のもと同様の活動が行われております。市におきましては、菊池市社会福祉協議会と連携しまして、このような地域福祉活動に対する支援を行っているところでございます。

また、地域福祉フォーラムや心のネットワークフェア等のイベントによります地域福祉の理解を促進するための機会づくり、高齢者や消費者被害防止の見守りネットワーク等によりまして、地域や各種団体、関係機関と連携を図っておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　以前、子ども食堂に対する支援ということで質問いたしましたときに、子育て支援課の職員さんが、子ども食堂では、私たちがかかわっている家庭の中には、その支援が届かない家庭もありますというお話をされて、その辺がうまく解決に向かえばいいということを願っていたのですが、先ほど中村部長からお話があったように、子ども食堂とつながりをつくる中で、さらに子ども食堂では支援が行き届かない家庭へも、単に物資を届けるということではなく、交流ができたり、相談ができたりするようになっているというのは、地域力を高めるという一つの大事なケースではないかというふうに思います。

それから、民生委員・児童委員さん、それから、ふれあいサロンさん、社協等についても、現状をお示しいただき、ありがとうございました。

そのような現状を踏まえた上で、第３期地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定があり、地域力を高めるという目標設定があるのだと理解しています。

では、そのつながりつくり、言いかえれば、市民との協働ということになると思いますが、改めて、地域力を高めることの意義は何なのか、これからどのような方向性を持っておられるのか、重ねてお尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、協働についての意義、今後の方向性についてご説明させていただきます。

市民の皆様との協働の意義につきましては、人口減少や少子高齢化等によりますさまざまな地域課題への対応や、複雑化する個人や世帯ごとの生活課題の発見・対応は、市民と行政との協働が不可欠であり、今後ますます重要なものになるということで捉えております。

市民と行政とが協働することにより、行政だけでは難しかったきめ細やかな柔軟な対応、新しいサービス、有効な取り組みが可能になると考えられます。

そのため、今後の方向性につきましては、市民、行政、社会福祉協議会、福祉関連事業所、各種団体等がお互いの特性と立場を理解し、情報を共有し、各自の役割発揮とその連携によって、市全体で地域福祉に取り組んでいく仕組みの充実を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　今後の方向性として、さまざまな機関や人材と連携し、市全体で地域福祉に取り組んでいく仕組みの充実を進めるという答弁をいただきまし

たが、第３期計画の中にも、確かにそのことが書いてありました。

その連携の相手というのが、先ほど現状を尋ねたときの答弁にあったように、これまでは主に社協や民生委員さん、児童委員さん、あるいは区長さん、サロンの協力者の方、福祉関連事業所などの方々でありました。大変重要な役割を担っていただいていると認識しています。

しかし、これらの方々はもともと地域福祉にかかわる立場におられる方々であり、より広く地域福祉の仕組みの充実を図るためには、今までの枠を超えて、市民や地域との連携をつくっていくことが大事ではないでしょうか。

ある情報誌に掲載されていた福井県越前市の取り組みについて、記事を読みます。

越前市は、実態がつかみにくい生活困窮者の早期発見を目的に、市、社協、ＪＡ越前たけふ、武生郵便局と連携し、農家から募った余剰米を困窮者に無料で郵送する「わかちあいプロジェクト」をスタートする。このプロジェクトでは、市がまず１０・１１月の公共料金の滞納者に送る督促状に、お米が届きますというチラシを同封、申し込んだ市民を社協の自立相談支援員が訪ね、実態を把握、生活困窮者と判断されれば、１世帯に月５キロのお米を３カ月郵送する。その間に支援員を中心に、家計の見直し、借金返済、就労などをサポートして自立を促す。送る米はＪＡ越前たけふが窓口となり、農家の余剰米の寄附を呼びかける。配達先の情報を得た郵便局が１１月ごろから困窮世帯に配達する。このような記事でした。ＪＡや郵便局とも連携をつくっているところに広がりを感じます。

菊池市で子ども食堂をセンターにして市民の善意が集まっているように、越前市ではＪＡをセンターにして市民の善意が集まっていくのだろうと思います。そして、それが単に食料を届けるということだけではない困窮家庭への支援につながっていくというのが共通するところであり、大事なところだと思います。規模の大小にかかわらず、このように連携する相手をふやしていくことは、地域力のアップではないでしょうか。地域力を高めるための今後の方向性として、ＪＡや、企業や、民間事業所などとの連携をコーディネートされていくことを求めたいと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、再々質問にお答えさせていただきます。

さまざまな地域課題や生活課題などに対応していくためには、公的なサービスや福祉の領域だけの支援ではなく、人・分野・世代を超えて、多様な主体がつながり、協働することが重要であると考えております。

そのためには、今後、地域福祉の推進役であります市社会福祉協議会と連携しな

がら、事業所や民間企業等が地域福祉活動に参加するための働きかけや、地域における潜在的な人材の掘り起こしを行うなど、地域資源と地域人材をコーディネートし、市民力・地域力を高める取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　潜在的な人材の掘り起こしという言葉がありましたが、市民の皆さんの中には、大きなことはできんでも、自分のできることなら協力しようという気持ちを持った方々はたくさんおられるということをいろんな場面で感じます。できるときに、できる力を出し合うことで、菊池市がより豊かになっていくことを願っています。

先ほど田中議員への答弁の中で、市長から、菊池川上流地域のこれからの開発に向けて、行政と民間と地域が協働して取り組んでいくというような趣旨の、大きな構想を持った答弁がありましたが、癒しの里菊池というときに、やっぱりメンタル面というか、その心の支え合いの気持ちというのがとても大事ではないかと思うところです。そういうことを福祉分野でも発揮していただくようにお願いをして、次の質問に移ります。

次に、プログラミング教育についてお尋ねをします。

指導要領の改訂に伴い、来年度からプログラミング教育が小学校で必修となります。準備期間はあと１年です。これまでになかったことを始めるわけですから、何かと大変であろうと思っています。

私はアナログな人間で、プログラミングなどというものはパソコンのエキスパートがやるものだと思っていました。しかし、来年からは小学校での必修化です。何をするんだろうというのが率直な疑問です。

そこで、２点お尋ねをします。

１点目、文科省は技術よりもプログラミング的思考を育成すると言っているようですが、プログラミング教育とは一体どんなものなのでしょうか。

２点目、１年後の必修化に向けての課題はどんなことでしょうか。

２点についてお尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、議員のプログラミング教育の内容と、その課題ということでお答えをさせていただきたいと思います。

文部科学省は、平成３２年、２０２０年度から新たな学びへ進化する新学習指導

要領の全面改訂を行うこととされております。その中において、平成２９年、２０１７年３月、これまで中学校から取り組んでおりましたプログラミング教育を含んだ、小学校学習指導要領が発表されまして、学習指導要領内に教科ごとの内容が示されております。

そこには「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習活動」という記述があり、これを各教科で行うとされているところでございます。

また、プログラミング教育は、教科が新設されるというものではなくて、学習指導要領やプログラミング教育の手引きなどで具体例は示されておりますが、基本的には各学校で計画を立てて実施をするということになります。

課題はということでございますけども、こうした状況を踏まえますと、本市に限らず、教職員のプログラミング教育に対する理解と授業を行うための指導力を高めること、そして、各学校における６年間のプログラミング教育の指導計画の作成というものが大きな課題であると考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　今、答弁いただいたように、課題としては、教える教師の理解と指導力を高める、６年間の指導計画を立てるというのが、これから取り組んでいかなければならないことですが、新しい教科ができるわけではなく、今ある教科の中でプログラミング教育に取り組むことになるようですが、文科省は幾つかの指導事例は示していますが、教育部長の答弁にもあったように、具体的にどうすればいいか、どこで教えるか、それは各学校、教員が決めていいとしています。よく言えば自由度が高い、悪く言えば現場に丸投げです。これまでやったことがないことを好きなように教えていいですと丸投げされても、現場には戸惑いが大きいと思います。課題を踏まえて、今後、どう取り組んで行かれるのかということを再質問といたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　再質問にお答えをさせていただきます。

本市の場合、ＩＣＴ教育にいち早く取り組んできたという経過がございます。そうしたことから、菊池市学校教育情報化推進計画というものを策定しておりまして、その計画に基づき、各学校において教職員の情報機器活用力というものは確実に高まってきているものと考えております。こういった活用力を土台に、プログラミン

グ教育推進に努めていくということになります。

まず、教職員のプログラミング教育に対する指導力向上に関しましては、既にプログラミング教育研修会を開催し、各校のリーダー育成を始めております。

また、今月中に、熊本高等専門学校と、プログラミング教育に係る連携協定を締結することとなっておりますので、次年度から各小学校に講師を派遣していただきながら、研修会を行う予定としているところでございます。

さらに、各学校で作成することになっております、プログラミング教育の年間計画や授業指導案に関しましては、教育委員会において共通のカリキュラムを作成する方向で進めているところでございます。

このような取り組みにより、２０２０年度に各学校が混乱をすることがないように、スムーズにプログラミング教育を実施することができるよう、教育委員会が中心となって計画を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　これまで、既にいろんなことに取り組んでこられた経過はわかりました。

さらに、プログラミング教育についての年間計画や共通カリキュラムを、現場が混乱しないように、教育委員会のほうで作成される。つまり、文科省は丸投げしてきたけど、教育委員会では教師が取り組みやすいように、まずはひな形をつくられるということですね。それを聞いて、ちょっと安心いたしました。そういうものがあれば、ハードルが随分下がってくるだろうと思います。

土台になるものがあって、まずはそのとおりにやってみる。あるいは、そこから自分流にアレンジしたり、差しかえをしたり、工夫するということであれば、これまでなかったことにも取り組みやすさというのが出てくると思います。そういった教育委員会の下支えというのは心強く思うところです。

しかしながら、教材の持つ意味を理解し、段取りを把握し、自信を持って子どもの前に立つには、おっしゃったように、研修や準備は欠かせないと思います。

偶然出会った学校の先生たちに、忙しくて毎日大変ではないですかと話したら、一人の先生が、正直言って、英語は負担です。英語の授業があると思うと気が重くなりますと言われました。すると、別の先生が、それでもって、今度はプログラミング教育が必修でしょう。研修の時間もとれないのに、どうしろというんですかねと言われました。現場の本音ではないかと思います。

文科省は、片手に働き方改革の旗を掲げながら、もう片方の手では、英語教育だ、

プログラミング教育だと現場を追い立てているような気がいたします。現場は生産能力が追いつきませんので、ご注文は受けられませんとは言えません。

昨日の平議員の一般質問のやりとりの中で、スクラップ・アンド・ビルド、ビルド・アンド・スクラップということが言われました。これまでの学校教育はビルド・アンド・ビルド・アンド・ビルド、これでいっぱいいっぱいになっているような気がいたします。英語教育が来たかと思ったら、今度はプログラミング教育です。何かを削る話は聞きません。しかし、ここら辺で何ならやめることができるのか、何を削ることができるのか、あるいは、やめるとまではいかなくても、しばらく休止することができるのか、真剣に考えなければならない時期に来ているのではないでしょうか。といっても、教科の内容を勝手に削るわけにはいきませんから、それ以外の部分で、教育委員会でできることをぜひぜひ検討していただきたいと思います。やったことのない新しいことに取り組んでいかなければならないときに、せめてじっくり研修する時間がとれるようにすることが肝要だと思います。教育長の考えをお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　ただいまの猿渡議員のご質問にお答えいたします。

本市におきましても、働き方改革において、児童・生徒と向き合える時間確保を目指し、さまざまな取り組みを行ってきております。

今回のプログラミング教育に関しましても、先ほど部長が答弁いたしましたが、事前の準備、各校のリーダーづくりと、あるいは、高等専門学校との連携・協定により、持っていらっしゃるノウハウを教えていただくとか、そういうふうなことを通しまして、教職員の負担とならないように、最大限の努力を図ってまいりましたし、今後もその予定でおります。

さきに述べましたように、プログラミング教育の年間計画及び授業指導案に関しましては、菊池市プログラミング教育コアカリキュラムと、仮の名前になるかもしれませんけども、そして、教育委員会で作成して、各学校・学級ですぐに授業が進められるように支援していこうというふうに考えているところです。

また、このプログラミング教育コアカリキュラムでは、新たに授業をふやすということではなくて、今進められている各教科の単元の中に融合させていくというように計画しておりますので、新たな時数を増加して行うものではないというふうに捉えております。

いろんな先生方の不安の声も紹介いただきましたけども、働き方改革ということで、現在も、例えば運動部活動の社会教育への移行ですとかを進めてきております、

来年度は全ての学校でということで。そういうのもありますし、また、各学校でも、現在、教育課程編成の見直しを行っておりますが、行事等の削減にも努めておるところでございます。菊池市としましても、各研修会の見直し、統合、スクラップ・アンド・ビルドということをおっしゃいましたけども、そういうことも考えながら、見直し、統合等を目指しているところでございます。

今後、さらにゆとりのある時間確保をするために努力してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　今の教育長の答弁の中で、何か減らすという観点から言えば、研修会の見直し、統合などが挙げられましたが、ほかにもできることはいろいろあるのではないかと私は考えています。でも、まず、教育長自身が言われた研修会の見直し、統合、いろんな研究指定や研究発表の数を抑えていただく。校内研に力を入れて、そこで英語教育だの、プログラミング教育だの、新しく導入されたことに立ち向かう時間をつくるというふうに進めてもらえれば、少し一歩が踏み出せるのかなという気は確かにいたします。しかし、それにしても、ゆとりのある時間を確保という言葉には、まだまだ遠いのではないかという気持ちを持っています。

きょうの本題とはちょっと離れますが、児童虐待の専門家とこのごろ、電話で話をしたことがあります。学校の先生たちがもうちょっと子どもの変化とか、子どもの様子に敏感になってもらいたい、そんなことを話されていました。そのためには、教育長言われたとおりに、しっかりと子どもに向き合う時間を保障していく、そういう方向性が大事かと思います。

さらに言われたことは、保護者といろいろもめごとを起こすことを学校はとても恐れている。それは単に相手が手ごわいとか、そういうことではなくて、ほかのことでいっぱいいっぱいの時間の設定の中で、さらに保護者と向き合わなければならないという、そのことの大変さというのもあるのではないかと思っているところです。先生たちの本業はやっぱり子どもと向き合うところから始まると思いますので、取り組みをよろしくお願いしたいと思います。

このごろ、熊日新聞で４回にわたって、ＩＣＴ教育の先進地として、山江村と高森町の取り組みが紹介されておりました。山江村ではプログラミング教育も既に実施されており、そのような先進的な教育の取り組みが移住者まで呼び込んでいるという、そういう記事の内容でした。

その山江村では、村内小中学校全３校に、１人ずつ配置したＩＣＴ支援員が教師

の要望を聞き、デジタル教材の作成などに当たるというふうに書いてありました。

人です。効果的なＩＣＴ教育、プログラミング教育のためには、菊池市にもＩＣＴ支援員を１校に１人配置してくださいと言いたいのはやまやまですが、予算上の課題が大き過ぎるのはわかっておりますので、そこは今回はぐっと飲み込みました。しかし、文科省に対しては、本気でやるなら予算措置をすべきだということを要求していただきたいと思います。

そして、最後に、学校をパンクさせないようにしましょうということを要望して、質問を終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、猿渡美智子さんの質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時５５分

開議　午後２時０５分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　皆さん、こんにちは。議席番号１１番、荒木崇之です。たくさんの方に傍聴いただき、本当にありがとうございます。偶然にも、この後、福島議員が同じ図書館のことを聞かれるので、お時間のある方は、そのままお残りいただければと思います。

３月に退職される部長さん方に、今回、厳しいご質問をいたしますが、議会と執行部がなあなあではいけません。真剣にぶつかることが、退職される方へのお祝いの気持ちであるということをご理解いただきたいと思います。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行います。

中央図書館閲覧用椅子１脚１０万円の購入について質問いたします。

この質問については、昨年の９月議会に質問しましたが、傍聴の方で初めて聞く方もいらっしゃると思いますので、簡単にこれまでのおさらいをしたいと思います。

平成２９年７月７日に、椅子や机の合計１０４点を６７５万円で購入してよいかという物品購入伺が起案されています。８月１０日に入札が行われ、４社が入札し、５３１万１，２０２円で株式会社教育産業社菊池営業所が落札しています。落札からおくれること１カ月後の９月８日、物品購入契約が締結されました。

しかし、９月１５日に株式会社教育産業社から閲覧用椅子３２脚、Ｖｉｔｒａ社製の椅子が海外より大量発注があり、期限までの納入が不可能となったので、同等

品不可、これではないといけないという椅子でありますが、同等品以上のものを選定していただき、納入するといった対応が可能かと書面で申し出があっております。その申し出を受けて、９月２１日にイタリアのＭＡＧＩＳ社製の椅子を同等品として承認され、９月２７日に、当初、契約金額で１脚６万９，０００円だった椅子が１脚８万７，５００円となりました。これは両方とも税抜きです。３２脚分の差額６７万６，４８０円と、空輸運搬費４６万４，０００円、あわせて１１４万４８０円の増額の変更契約が行われております。そして、当初１１月１０日に納入予定でしたが、１４日おくれの１１月２４日に物品が納入されています。

平成３０年９月５日の市議会の一般質問において、業者の都合で当初指定した椅子を納入できなかったのに、市側が差額の１１４万円を支払ったのは不適切だとして、私が一般質問を行いました。

１０月１日に椅子の増額分は税金の無駄遣いであるとして、市民の方から住民監査請求が提出されました。１１月２６日にその住民監査請求を受けて、監査委員が棄却というような判断を下しております。

その後、この前の平成３０年１２月議会の最終日において、市の答弁や、情報公開資料と、監査での市の答弁に大きな相違があるのは不適切な入札があった証拠であるとして、３名の議員の方のご賛同をいただき、百条委員会の設置を提案しましたが、否決となりました。

以上が、簡単に今までの経緯をまとめたものです。

それでは、お尋ねします。

監査委員において棄却との決定がなされていますが、この棄却というのはどのようなものか、お尋ねします。

次に、平成３０年１０月２４日に住民監査請求に係る監査委員の審議が行われていますが、その中で、中央図書館館長である安永館長が「近隣の市で申しますと、大津町図書館にも同程度の価格の椅子が、１０年ほど前ではございますが、導入されているところでございます」と答弁されています。そのような発言をされていることに間違いがないのか、このような発言をされたのか、まずはお尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　皆様、改めまして、こんにちは。荒木議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

まず、その前に、住民監査請求制度についてを述べさせていただきたいと思いますが、住民監査請求とは、地方自治法第２４２条に基づくもので、市民が市長などの執行機関や職員について、違法または不当な財務会計上の行為があると認めると

き、このことを証明する書類を添えて、監査委員に対して監査を求め、必要な措置を構ずべきことを求める制度でございます。

住民監査請求における監査結果は「却下」「棄却」「勧告（容認）」がございます。「却下」とは、請求書を収受し、要件審査を行い各要件を具備していない場合に却下と。「棄却」とは、請求を受理し審査した結果、請求に理由がない、損害をもたらす行為とは認められないと認めた場合。そして、「勧告（容認）」は、請求に理由があると認め、市長等に期間を示して必要な措置内容などを勧告するものでございます。

今回、私たち監査を行ったわけでございますけども、監査請求されました方には恐縮でございますが、請求を受理し審査した結果、請求に理由がないと認めたため、棄却となります。

あと、２番目の陳述した内容は事実かということについてでございますが「大津町図書館にも同程度の価格の椅子が１０年ほど前に導入されている」と陳述されておりますけども、監査における事実確認については、地方自治法第２４２条のとおり、その行為が財務会計上の行為が違法または不当なものに限られているため、この陳述は監査確認事項にしておりませんので、事実確認は行ってはおりません。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　荒木議員のご質問がございました、住民監査請求の中での陳述記録のとおり、中央図書館長が「大津町図書館にも同程度の価格の椅子が、１０年ほど前ではございますが、導入をされている」と述べたことは事実でございます。

これは、あくまでも定価ベースのカタログ価格として同程度としてお伝えをいたしております。各自治体で入札の方法、品目の組み合わせ、また、数量によって納入金額は異なるということになりますので、納入金額としての回答をしたものではございません。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　宮川監査委員様におかれましては、お忙しい中にご出席いただき、ご答弁ありがとうございました。

答弁がありましたように、棄却の採決というのは、一見、住民の言いがかりで、認めないものと思われがちですが、請求は適法で、審議をすべき案件として取り上げたが、税金の無駄遣いとは言えないとして、棄却という判断だと考えます。

この後も監査委員にはご答弁いただきますので、しばし私と執行部のやりとりをお聞きいただければと思います。

では、２番目に質問しました、安永館長が「近隣の市で申しますと、大津町図書館にも同程度の価格の椅子が、１０年ほど前ではございますが、導入されているところでございます」と答弁されたことは間違いないとのお答えをいただきましたので、質問したいと思いますが、大津町図書館は１脚１０万円の椅子を本当に購入されているのですか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　１０万円という価格で導入されているかということですかね。大津町さんを例に出したというものにつきましては、高額な椅子じゃないかという話が当初ございまして、その結果としましては、空間デザインを採用したことによって、こういったものを導入をするということになってきたわけでございます。この導入に当たりましては、市民の皆さんですとか、議会のほうにもご説明しながら、予算の確保も行ってきたということでございます。

大津町さんのほうのご紹介というのは、あくまでもそういったデザインのほうをご紹介をしたんだということで捉えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　これ、カタログ価格を参考にしたというような、何か某国のレーダー照射の言いわけのようなことを言われますけども、ちょっとお聞きいただきたいと思います。

安永館長は、監査の冒頭に、「近隣の市で申しますと、大津町図書館にも同程度の価格の椅子が、１０年ほど前ではございますが、導入されているところでございます」と答弁されていて、後半にも宮川監査委員が本当に入っているんですかというようなことを言われたときに「デザイナーは違いますが、金額的には変わらない、もしくはもう少し高いものが入っています」と二度も発言されています。果たして、これがカタログ価格で済まされるでしょうか。

私は、平成３０年１２月１８日に、担当課である大津町生涯学習課にファックスをして、調査をお願いして回答をいただきました。さらに、先日の２月２７日には、大津町生涯学習課まで聞き取りに行ってまいりました。ここに回答書を拡大したパネルを示します。

［パネルを示す］

○１１番（荒木崇之君）　まず、①大津町図書館では、１脚１０万円の椅子を３０脚購入していますか。答えは、いいえであります。②１２月１０日付の月刊ポリシーが報道される以前に、菊池市議会もしくは菊池市役所より、椅子の件につきまして調査等がありましたか。答えは、はい。しかし、椅子の数のみ、安永館長が調査されていますといって、きちっと大津町役場生涯学習課、荒木啓一課長のサインまでいただきました。答えは、ですから、いいえなんですよ。買ってないんです。

さらに、私は、２月２７日の大津町生涯学習課の荒木課長のお話では、大津町で購入している閲覧用椅子は数種類ありますが、どれも２万円から３万円とのことで、安永館長から椅子の金額についての問い合わせはあってないとのことでした。

もう一度お聞きします。「近隣の市で申しますと、大津町図書館にも同程度の価格の椅子が、１０年ほど前ではございますが、導入されているところでございます」と答弁されているが、その答弁は本当ですか、うそですか。部長が答えられないなら、本人に答えさせてください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　ご質問にお答えをしたいと思います。

先ほども申し上げましたが、中央図書館長が「大津町の図書館にも同程度の価格の椅子が、１０年ほど前ではございますが、導入されている」と述べたことは事実でございます。

それから、先ほど少し申し上げましたが、今回の整備に当たりましては、先進地として多くの図書館を視察をさせていただいております。山形、岐阜、武蔵野、宮城県の多賀城市、それから、福岡県の福智町、都城市、竹田市などでございます。近年オープンした図書館という中では、その多くでデザイナーズチェアが導入をされていました。

大津町の図書館につきましても、整備前の調査をまず行っておりまして、大津町の図書館は１０年以上前にオープンした図書館ということでございますが、れんがをふんだんに用いてありまして、デザイナーズチェアが導入をされ、場所によって異なった趣向の椅子を配置されているというような、先進的な住民サービスを設計段階から取り入れられたということの一つとして認識をしていたところでございます。

一方、一般質問の後に、冒頭申し上げましたが、デザイナーズチェアが導入をされていたということでご紹介したところでございますが、大津町の図書館のほうに出向きまして、現物を改めて見せていただいたということでございます。当時の備品購入に携わった館長がもう退職されて、詳細はわからないということでございま

して、導入された椅子を案内していただきながら、数量等をお聞きしたということになります。その場合、購入時の金額についてはお聞きしておりません。帰館後に現在のカタログにより定価を確認して、同程度とご説明をさせていただいたものでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　私が聞いているのは、本当に大津町が１脚１０万もする椅子を買ったか、買ってないかを聞いているだけで、そんなデザイナーがどうのこうのと聞いてないんですよね。大津町が買ってないというんですから、答えは、これ、うそなんですけども、この問題でとらわれているといけないんですけど、ただ、自覚してほしいのが、勝手によその町村の名前を出して、買ってもないものを買ったと。しかも、住民監査請求、これ市民の権利でやったやつに対して、正式な会議でこういう答弁をしているというのが私は腹立たしいわけです。市の職員が監査の中で虚偽の答弁をしたことで、それを信じた議員が調査もせずに、間違った情報が議会報告会や旭志区長会で市民に伝えられました。それにより、菊池市議会の柁原議長が大津町に電話でありますが謝罪しなければならない状況となりました。それぞれの職責を自覚していただきたいと思います。

では、本題に移ります。

住民監査請求における監査において、陳述記録を情報公開請求で入手しました。一つ一つ質問していきたいと思います。

先ほど、これまでの経過の中で、８月１０日に入札が行われまして、５３１万１，２０２円で株式会社教育産業社菊池営業所が落札しています。落札からおくれること１カ月後の９月８日に物品購入契約が締結されています。菊池市の契約検査課が発行しています菊池市入札契約の手引きの８ページには、落札者決定後、土日を除き１０日以内に契約すると記載してあります。

そこで、昨年の９月議会において、１カ月の契約のおくれの理由を質問したところ、教育部長は答弁で、物品の納入のおくれに係る問い合わせ等に時間を要したためということでありました。これは議事録にも載っています。しかし、監査での陳述では、契約保証金の取り扱いの相違があったため、少しおくれましたと主張されています。

では、お尋ねします。

落札決定後に１カ月も契約をしなかった本当の理由は何ですか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　契約が１カ月もかかった理由というような内容でございます。

ご質問の落札業者は、株式会社教育産業社菊池営業所ということでございますが、それまで中央図書館との納入実績はなかったことから、冒頭、８月２１日に作成をしました当初の契約書案では、契約保証金を納入いただいて、契約を締結するというところで冒頭は考えておりました。

しかしながら、翌８月２２日に、同社から市への納入実績があるので、契約保証金を免除してもらいたいとのお話がありました。そのため、納入実績の証拠書類の提出をお願いしたというところでございます。

そうした中、８月２３日に、同社より一部の椅子が納入できない状況になったという報告、相談がありました。こうしたことから、備品を選定をしました株式会社乃村工藝社に調査を求めるとともに、契約検査課と対応を協議するなどしたため、不測の日数を要したところでございます。その結果、契約がおくれるということになりました。

その間は、業者とも継続的にやりとりしながら、契約がおくれることについては双方で確認いたしまして、口頭ではありますが認めているところでございます。

なお、監査のほうのご説明といたしましては、議員がおっしゃられたように、契約保証金の免除があるということで、受注者から免除対象とならないかとの話があり、契約書をつくり直すということで、保証金取り扱いの相違があったため、少しおくれましたというものの後に、また８月２３日に納入物品の遅延が発覚いたしましたので、取り扱いについて協議を行っていたため、９月８日が契約日となったものでございますというご説明をしているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　どちらが正しいか、どちらも本当の理由だということでありますが、私が一般質問したときには、物品のおくれに係る問い合わせ等に時間を要したためといって、契約保証金の話なんて一言も出なかったんです、この議会においては。

契約保証金というのがどういうのかというのをやっぱり皆さんに知っていただきたいんですが、契約保証金とは、業者が落札したにもかかわらず、逃げたり、納入しなかったときに、発注者である市に迷惑がかかるので、その保証として、額にもよりますが、契約の１割だとかを受注者に納めさせるものであります。

そこで、近隣の自治体に、物品購入時の保証金の取り扱いについてお尋ねしたところ、契約保証金が要らない自治体もありましたが、契約保証金の有無については、ほとんどの自治体が指名審査会、もう入札を開きます、この事業者を指名しますという指名審査会の段階でわかっていますとのことでした。また、仮に契約保証金の有無を調べるとしても、１カ月後もの期間を要することはない。二日あれば十分ですとの答弁でありました。近隣がですね。うちはどうかわかりませんよ。

ただ、菊池市においても、物品購入契約等に係る指名基準というのが定められてますけども、こっちに書類もありますが、その中に、過去２年間及び現年度における納入実績、経営規模、納入後の保守管理等を総合的に勘案することと指名基準の留意事項に明記されていて、入札前に契約保証金の有無についてはわかっているはずなんです。だから、私が思うには、これは後づけの理由であって、契約保証金の有無というのは、議会で一般質問で言われたから、これは何か探さないかんという、私はそういうふうに捉えます。

そもそもですけども、契約検査課が入札の手引きというのを作成しているということを申しましたが、それにもかかわらず、監査の陳述で、契約検査課の職員が民法を持ち出して、契約の有効性を主張しています。民法で正当性を主張するのであれば、条例や要綱、要領は不要なのではないかと。契約検査課の職員の主張にはあきれてしまいます。

そこで、お尋ねします。

契約のおくれについて、おくれる場合には書面を提出しなければならないと定めてありますが、なされていません。そこは部長もおっしゃっています。そのような事務処理は適正な事務処理ですか、それとも、不適正な事務処理ですか、お尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　その適正か、適正でないかということでございますので、要綱といいますか、そういうことで、そういう形で定めておりますので、それを守れていないということにつきましては、だめであるというふうには思っております。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　今、総務部長から不適正な事務処理であったということをお認めになられました。確かに、この１カ月もおくれての契約及び必要書面の未提出は不適正な事務処理であることは間違いないです。なぜなら、監査において、市は「書面による承諾については徹底されていないのは事実でありますので、おわびし

て、今後は徹底していきたいと思っております」と答弁されております。素直に認められておるわけですね。

そこで、監査委員さんにちょっとお尋ねしたいんですけども、契約書のこの期限について、守らなかったことについて、どのような採決を行われたのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　確かに、民法ということで話がありましたが、口頭での契約という、承認というようなことで、契約そのものは、そういう文書的なものは認められるというようなことで受け取りましたので、それで進めております。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　ちょっと監査委員さんのほうで一言漏れていたかと思いますが、答弁がありましたように、民法上はこの口約束でも成立しますよということでありますが、その後に重要なことを書かれているんです。広報にも載りましたけども、適正な契約事務の執行を徹底されたいと。つまり、不適正であるということを言われているわけなんですね。適正な契約事務の執行を徹底されたいと。徹底してなかったということを言われているわけですから、で、私の９月の一般質問では、江頭市長は「何の問題もない」と答弁されていましたが、契約事務処理について不適正があったわけですね。これはお認めになっていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。

当初、市が購入予定だった閲覧用椅子はスイスのＶｉｔｒａ社製の１脚６万円９，０００円、税抜きのものでしたが、この椅子が納入できない事案が発生し、イタリアのＭＡＧＩＳ社製の椅子１脚、これは税込みです、９万４，５００円に契約変更されています。昨年の９月の一般質問の答弁で、議事録の１３６ページになります。これ、皆さん、議員の方はお持ちですが、大山教育部長が「物品の変更については、期間内に納入ができないことが判明したので、受注者の申し出により、同等品以上のものを選定した」と答弁されています。これははっきり議事録にも残っています。

しかし、監査、そこにおいての陳述では「物品の変更については、本件に関しては、発注者としての市が都合により契約変更を締結した経緯がある」と陳述し、一般質問では「受注者の申し出により、いわば業者の都合で契約変更をした」と答弁しているのに、全く違った主張をされておりますが、どちらが変更契約の本当の理由なのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後２時３４分

開議　午後２時３４分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　引き続き、質問に移ります。

総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　契約の変更については、どっちの理由かということでございますので、変更契約については市が行いますので、市の都合ということでございます。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　もう一回ちょっとお聞きしますね。答弁がありました物品の変更について、本件に関しては、発注者としての市が都合により、変更契約を締結した経緯があるというのが本当の理由というので間違いないですか。済みません、重複しますが、もう一回聞きます。

もう一回言いますね。今の答弁では、発注者側の市が契約変更したと、都合によってですね。その答弁に間違いはないのかということです。その答弁で間違いないですか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　変更契約については、そのとき、いろんな事情がございまして、相手方の瑕疵もないということでございましたので、今のうちの契約に基づいて、変更契約をやったということでございます。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　では、さらに質問を続けます。

入札後にスイスのＶｉｔｒａ社製の１脚６万９，０００円の椅子から、イタリア製のＭＡＧＩＳ社製の１脚９万５，０００円の椅子に変更になって、約１１４万円を増額して落札業者に支払った経緯がありますが、９月の一般質問において、私は仮押さえしていない業者に責任があるので、１１４万円の増額の支出は不適切であるとして、その瑕疵について質問をしました。

答弁で、市は、これは答えてあります。先ほどですね。議事録にも載ってますけども、答弁で市は、「入札前に在庫確認した業者に瑕疵はなく、必要があれば契約

変更できるとの約款の項目に基づき行った」と答弁され、平成３０年９月６日の熊日、次の翌日の熊日でも、取材に対して市は入札前に在庫確認した落札業者に瑕疵はないとしたと報道されています。月刊ポリシー平成３０年９月号においても同様の報道がなされております。

しかし、監査では「入札の前日まで、受注生産品である海外製品が納入できることを確認し、入札を行った。受注者は落札後、直ちに受注の連絡を行ったが、受注生産として指定を受けた海外製品椅子について、納入期限には間に合わない旨の連絡を受けた」と陳述されています。

当初、購入を予定していたスイス製のＶｉｔｒａ社製の椅子は、受注生産品であったという、受注生産品という新たな概念がここで出てきまして、それを市が持ち出してきていますけども、本来、受注生産品とは、もう読んで字のごとく、注文を受けてから製作するものであります。しかし、業者は入札前に在庫確認、業者はそれは在庫確認したと言っているわけなんですよね。業者は入札前に在庫確認できるはずないと考えますが、いかがでしょうか。在庫確認ができるということは、これ、いわば既製品です。が正しいのか、受注生産品が正しいのか、どちらの主張が正しいのか、お尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　椅子が受注生産品かどうかということで、今までいろいろ調査した中で、ちょっと契約担当課と図書館側がちょっと意見のずれといいましょうか、感覚のずれがあったというふうにちょっと感じておるといいますか、思っておったということでございます。

契約検査課としましては特注品と呼ばれるものということで、契約検査課のほうはいろんな契約をやりますので、特注品イコールオーダーメードであり、受注生産品だという認識を持っておったということでございました。

また、図書館側については、そんなに経験もないということでございますので、特注品と言われても、海外製のスイスですか、スイス製のものということで、そういう意味での特注品というような感覚があったというふうには聞いております。ということで、そこら辺の意識がちょっとずれておったかなということでございました。

そういうことで、契約検査課のほうとしては、そういう品物だから、８月１０日の入札ですか、その前の日にも確認して、実際、本当に入るんだよねというのを確認をしたというふうなところまでは確認をしておるところでございます。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　契約検査課のほうは受注生産品がというふうに思っていたと。これが正しい答弁であるというふうに言っているわけです。実際、これは住民監査請求に係る監査の中でも、受注生産品でありますとはっきり言っていますので、受注生産品ということが正しいんでしょうけども、それでは、パネルを示します。

［パネルを示す］

○１１番（荒木崇之君）　ここに、平成２９年９月２７日に作成された平成２９年度物品購入伺、変更契約の書面があります。これは情報公開請求にてとって、それを拡大しました。ちょっと見にくいんですが、もともとＶｉｔｒａ社製の椅子をＭＡＧＩＳ社製に変えると。１１４万円増額していいですかという、そのこれは写しなんですね。伺なんですけど、これは教育委員会が作成したものに間違いありませんか、お尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　もう一度、ちょっとそれを見せていただいてようございますか。教育委員会が作成したものに間違いございません。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　これは間違いないということでありました。ここには市長、そして芳野副市長、これは契約検査課の印鑑も全て押してありますね。これの一緒についてたやつに、こんなのがついています。報告協議書、下記について、別紙のとおり、報告、協議いたしますという中で、その中に、落札業者である株式会社教育産業社から、平成２９年９月１５日付で、在庫の確認をとった上で入札に参加しましたが、その後、海外からの大量発注があり、当初の物品の期間内納入が不可能となりましたと報告されています。

加えて、下段の処理または回答のところで、これは市側が書くんですね。この報告を受けて、どういう市がそれに対して回答したかというと、回答欄で、再度国内在庫及び海外の在庫について調査を行った結果、新たに製造するとなるためと市側が回答しています。

契約変更理由では、次に契約変更理由というのが一緒についているんですけども、契約変更理由書では、担当課としては、どこかに在庫があるはずではないか、その他の取扱業者を当たるよう指示した。備品を選定した乃村工藝社にも製造番号を含め在庫確認するよう指示したとあります。この書面からすれば、在庫確認ができる、いわば既製品であることということは明白であります。

そこで、お尋ねしますが、この物品購入伺、これ、公文書なんですよね。に記載してある内容に間違いありませんか。

さらに、この公文書と、監査で受注生産品であるとの陳述が、これが整合性がとれないと思っておりますけども、その整合性についてお尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　担当部署ではございませんですけども、当然、先ほど申しましたように、図書館側としては、その特注品という持ち方ですか、どういう品物であるというような考え方が違っておったかなというふうには思っております。そういうことで、特注品であるならば、本当は在庫があるわけはないと思うんですけども、たまたま海外から来る品物という、そういう意味の特注品という思いであったろうと思いますので、例えば日本にとか、海外にないかというのを、その辺で調べろというような資料を出したということを聞いております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　今の質問の中で、整合性の話が少し出てまいりました。

まず、この契約事務は、その時点、時点で経緯が少し変わってくる、知り得た事実等が変わってくるということがございます。先ほど申し出により選定をしたということで、市が行ったのかどうかというお話も聞かれましたけども、申し出によりまして、当然それをそのとおり協議をして、それを承認して市が発注をするという段取りになります。段取り的にはそういった形になります。

それから、認識の違いが少しあるんじゃないかという話がちょっとございましたけども、監査請求の陳述の中では、契約検査課と図書館が一緒に協議をされたということもございます。一緒に出席をして陳述をいたしておりますけども、出席者の当時の対応、それから認識について、それぞれに質問されて、契約検査課の陳述では、図書館からの物品購入伺等の発注段階で入札に関する特注品が含まれているという情報から、これまでの経験上、契約検査課としては、特注品はいわゆるオーダーメードであって、受注生産品だと認識を最初からしていたというようなことで、そういった答弁をやったということになっております。

しかしながら、発注担当課であります図書館側といたしましては、特注品との認識が受注生産品との、そういった認識ではなくて、海外製品で在庫数が少ない、希少価値がある物品と、そういった認識を持っていたということで、そういった観点から、一緒に陳述をいたしておりますので、そういった思いを述べたというところ

になろうかと思っております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　私、何を言われているのか、さっぱりわからないんですね。これ多分、傍聴者の方も、議員の方も、わからないんだと思いますけど、監査において、契約検査課の職員と教育委員会の職員の考えの相違があったなら、何でその議論がされてないんですか。というか、これ、公文書でしょう。その都度、その都度、入札は変わるとおっしゃいますけど、これ一番最後に、入札が終わって、落札も終わってから請求しているから、これが事実なんです。

簡単に答弁されますけども、議会での答弁と公文書が食い違う場合には、市長の問責決議の対象となるんですよ。そこを十分考えられてご発言していただきたいと思うんですね。

２番目の記憶にちょっと戻っていただきたいと思います。市側の都合によって変更したのか、業者の都合によって変更したのか、私がすっと引き下がったのはこれがあったからなんです。今回、その報告協議書の中で、同等品以上のものを選定していただき、納入するといった対応が可能かお伺いしますと。これ、業者側から出ているんですね。そうすると、２番目の答弁についても全く違うんですよ、公文書と。

もう答えになってないので、ちょっともう一回、既製品なのか、受注生産品なのかということをお尋ねしたいと思いますが、その前に、入札された複数の業者に、私は受注生産品であるとの認識かどうかというのを複数お電話しました。入札に参加された方が、市から渡された仕様書に受注生産品なんて一言も書いていないということであります。これは確かに私も情報公開請求して、それは確認しております。受注生産品とは一言も書いていない。

また、入札参加業者だけでなくて、落札業者でもある株式会社教育産業社菊池営業所もですね、協議書の中で、こう書いてあります。入札時点では入手可能な商品であったことを加味していただきまして、ご協議お願いいたしますと。既製品ということなんですよね。入手可能な製品であったというふうに明記しているわけです。

もう一度お尋ねします。この公文書と監査委員会での陳述に食い違う、食い違いの理由、どちらが本当なのか。受注生産品が本当なのか、既製品が本当なのか、どちらの主張が正しいんですか。これ、食い違うと言いますけど、契約検査課が食い違うと言いますけど、契約検査課も印鑑押しているじゃないですか、全部。そのときに押しているのに、受注生産品なんて、この言葉、この公文書には一言も載って

ないんですよね。私は、それは後からつけたへ理屈だというふうに思うんですが、どちらが本当の理由なのか。公文書が正しいのか、監査で言われたことが正しいのか、それをもう一度お尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後２時５１分

開議　午後２時５６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、ご質問にお答えをしたいと思います。

受注生産品かどうかということでございますが、受注生産品であるかどうかということにつきましては、支店のほうからのおわび文を見て、初めて受注生産品であるということを確認したところでございます。

なお、図書館のほうでは、いわゆる特注品というような認識は持っておりましたけども、仮に受注生産品であったとしても、幾つかの支店とか、展示品とか、いろんなものがありはしないかということで、そういったものを探してくださいというような指示はしていたということでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　今、重要な証言されたんですよね。そのＶｉｔｒａ社から受注生産品であるという通知が来て、初めて受注生産品と知ったと。これ来ているのが、たしか８月２５日だったですかね。この書類によると８月２５日に来ているんですけども、そのことは９月議会で一切おっしゃらなかったんですよね。９月議会では、在庫確認をしたけども、海外からの大量の発注があって、納入できなかったと言っている。またつじつまの合わないことを言われる。ということは、この受注生産品であったということは、かなりページ数あるんですけども、約５０ページぐらいのこの公文書は偽造ということなんですか。うそが書いてあると。その裏にそういった言葉は書いてないからですね。

ちょっとお答えになっていませんので、再度お尋ねしますけども、じゃあ、当初購入を予定していたスイスのＶｉｔｒａ社製の椅子は受注生産品であったという答弁、繰り返されるのであれば、冒頭、ご迷惑をおかけした大津町図書館では、備品

等の購入に当たっては、十分な工期を確保して、納品のトラブルはなかったと言われています。これは荒木課長にも確認しました。十分な工期をとっている。６カ月以上とっているということでした。

では、菊池市の閲覧用椅子が受注生産品であると市がするならば、契約検査課はそう認識していたというならば、受注してから納品まで、どれだけの期間を考えられていたんでしょうか。

また、その他の備品である机やソファと同じくくりにして入札を行っています。これだけが特注品という主張をされるなら、何でこれだけ入札を別にしなかったのか、ここにもずれが出てくるわけですね。

この２点について、なぜほかのとくくりを一緒にして入札をしたのか。それと、どれだけの工期を設けてたのか。十分な工期とおっしゃるなら、その十分な工期は何カ月とっていたのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　工期を十分に確保したのか、納品の確認はどうしたのかということでございますが、通常のソファなんかの納入と一緒に考えていたのかという話でございます。

今回の品物を納入するに当たりましては、前日までに乃村工藝社のほうにも製品が入るのかということを確認をするように、契約検査課のほうから話もあっておりまして、お伺いをした上で、大丈夫だということから、入札に入ったということでございます。

その上で、入札をかけまして、受注できると判断したところから、この椅子に限らず、落札が行われたという状況でございます。その中においては、通常の契約事項と同じように、こういった入札をやります、入札を受けます、大丈夫ですということで応札をされて、その結果として、できたというものでございます。

一つ、議員さんのほうから十分な工期ができたのかということにつきましては、オープンを間近に控えておりまして、非常にタイトな中では進めてまいったところでございます。そういったことから、最終的に変更契約を行ったときに、ぎりぎりの納入になって、期日も延長させていただいたということになっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　今度、工期についてですけども、８月１０日に入札して、１１月に納入ですから、８、９、１０、３カ月なんですよ。たった３カ月、受注生産

品でありながらですね、そう主張されるなら。普通６カ月以上はするでしょう。スイスから持ってきているわけですから、船便で１カ月かかるわけでしょう。最初は空輸便じゃなかったわけですから、その辺にも答弁の曖昧さというのが見えるわけです。

でですね、先ほどおっしゃったこの工期については、十分なのを設けていなかったと。オープンが間近に迫っていたという理由もあったとおっしゃっていますけど、陳述の中で、これは契約検査課の安武審議員さんが、８月初旬に納期を確認していただいたタイミングでは、８月４日と聞いております。仕様設計した段階で再度確認したところ、十分な工期を設けていたというようなことをこの中で言われているんですね。この中では、陳述の中では、十分な工期を確保していたというふうに言われているわけです。と言いながら、教育部長は会館がオープンが迫っていたからと。３カ月で果たして十分な工期と言えたでしょうか。答弁が、契約検査課と教育委員会で曖昧な答弁をされる。どっちが正しいのかわからない答弁をされる。

ここで、宮川監査委員さんにお待たせしました。ちょっとお伺いしたいんですけども、ちょっと時間がないので、市長にも聞こうかと思っているんですけど、監査委員にお尋ねします。

監査において、市が主張していることとの、この公文書との整合性がとれてないのは理解いただいたというふうに思いますが、監査において、虚偽の発言をした職員に罰則はあるんですか。また、虚偽の主張が監査結果に影響を及ぼしていると私は考えます。公文書と全く合わない。ですが、再度、監査を開くお考えはありますか。

そして、市長には、もう「はい」か「いいえ」でお答えいただきたいんですけども、市長は、９月の一般質問において、「入札については何ら問題ない」と答弁されております。しかし、住民監査請求に係る監査結果においては、発注者側において、海外製品の椅子について、十分な確認作業ができていなかった点が挙げられる。これは監査委員さんの結果ですよ。受注生産されるような特注品においては、特に納入期限等を総合的に判断し、適正な事務の執行を求めるとあります。不適正な事務執行であったというふうに書いてあるわけですけども、監査結果での指摘と、今回の一般質問のやりとりを聞いても、市長の考えは変わりませんか。変わったのか。問題ないという気持ちは変わらないのか。変わったか、変わらないか、簡潔にお答えください。

○議長（柁原賢一君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　地方自治法におきまして、住民監査請求における罰則

規定はありません。

また、虚偽の陳述をした場合、再度陳述とありましたけども、監査結果として公表しておりますので、再度陳述を行わせることはありません。ということで、そういう考えでございます。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　この椅子の件に関する私の考えに変わりはないかということでございますが、一つだけ、少し整理をさせていただきたいと思うのですが、受注生産品かどうかということの確認あるいは理解について、契約検査課と、それから実際の窓口である図書館でずれがあったと。このためにいろんな誤解が生じてきているわけでございます。その一つは、図書館側では、受注生産品という頭がなかったというふうに私は後で報告を受けまして、スペシャルな商品であると。したがって、先ほど改めて国内在庫を確認したけども、なかったと言っているのは、実はそのためなんですね。

一方で、契約検査課のほうは受注生産品というのは、文字どおり、受注してから生産するものであると。ただ、そのときに受注ができることを確認したと契約前に言っておりますのは、そのタイミングで受けて、何十台かの椅子をつくれば、納期までには間に合うということでの確認というふうに契約検査課は思っていたわけなんですね。ですから、そこに少しずれがございました。ある意味、ここら辺の検討が不十分であったということは大変お粗末であったということは、私はもう真摯におわびを申し上げたいというふうに思いますし、そのこと自体も監査からもご指摘を受けていることでございます。

また、こうしたことから、実は想定外が起きて、ほかに数十台の注文が入ったものですから、生産能力が限られておりますので、本来だったら、そのタイミングで受けていればできたんだけども、ほかに生産ラインを使われたということでできなくなったと。そういう意味なんですね。ですから、その想定外がなければ、何事もなければ受注して納品できるタイミングであったわけなんですが、それじゃあ、その想定外のところが誰の責任なんだろうというところが一番のポイントになってきまして。

［「あの、もう十分分かりました」と呼ぶ者あり］

○市長（江頭　実君）　ただ、ここが一番大事なところでございますから。

［「いやいや、もう、あの。議長」と呼ぶ者あり］

○市長（江頭　実君）　そこにメーカーのやりとりのミスがあったわけなんですね。そ

こはもうやむを得ないということで、契約そのものは私どもは認めたわけであります。そうした点は全部受けていただいて、見ていただいた結果、監査のほうでも大変手続には問題があったと。不適切な事務処理があったと。しかし、この本件の契約自体は有効であるということをご確認をいただいたわけであります。

ですから、私の９月の段階では、この事務ミスについてのしっかりとした理解がまだ浅かったと思います。しかし、契約そのものは、今申し上げましたとおり、監査にも見ていただきましたし、議会にも同じ情報でもってご判断をいただいたところであるわけです。どうかご理解をいただきたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　議長、ちゃんととめてくださいよ。私の時間なんだから、前回も注意したけど。

最後になりますが、私は警察や裁判所ではないので、この図書館の椅子問題について、誰かを裁こうとか思ってません。ただ、一つ、真実が知りたい。この気持ちは傍聴されている市民の方も同じだと思います。この不適正な事務処理によって、１１４万円の無駄なお金が使われたと思うわけです。市が主張されるように、受注生産品であるならば、もっと早く注文しておけば、納期に間に合ったはずです。当初計画していた椅子が納入され、１１４万円ものお金が必要なかったのではないでしょうか。不適正な事務処理によって、市が負担した１１４万円は、これは誰が負担しているんでしょうか。それは市民の税金なんです。市民が朝から晩まで働いていただいた税金から支払われているのを忘れてはいませんか。市が主張されるように、契約は民法上の抜け道としては有効でしょう。しかし、不適正な事務処理によって税金を無駄遣いし、無駄遣いを招いてしまった。市長を初め職員にも、さらに私たち議員も、もっと真剣に考えなければならないと思います。

私は、市がなぜここまでつじつまの合わない答弁までして何を隠蔽したいのか、これからも市民の誰もが納得する答弁があるまで、問題については取り組んでいきたいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　これで、荒木崇之君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後３時１１分

開議　午後３時１８分

―――――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　皆さん、こんにちは。議席番号２番の福島英徳です。ことしに入りまして、池江璃花子さんの白血病告白には、驚きとともに、日々治療の困難な病気と厳しい闘いをされている方々が一日も早く完治されることを心より願っております。

その池江さんの告白後、骨髄バンクへの登録は急増しているようです。本市としては、助成に対して国レベルで考えるべき支援制度であって、本市独自では行わないという考えに変わりはないのかをお聞きしたいんですが、通告をしておりませんので、委員会の場で改めてお尋ねしようと思います。

本日は、５０％以上を占める森林に対する本市の取り組みについて質問いたします。

一つ目は、森林の整備等を進めるために、さまざまな課題があると考えられますが、その課題と対策についてお示しいただきたいと思います。

二つ目に、本市に譲与、要するに、配分される森林環境譲与税、仮称ですが、この活用、用途をどのように考えているのかをお聞きします。

平成３０年３月現在、本市における林野面積は１万５，１７６ヘクタールで、率にして５４．８％です。そのうち民有林が８３％です。内訳は、国有林が２，５６９ヘクタールで１７％、菊池市保有の市有林が１，１９６ヘクタールで８％、残りの７５％が私有林１万１，４１１ヘクタールです。

本市の面積の５４．８％を占める森林、国有林を除きますと４５．５％を占める民有林をどのように生かすか。まずは本市が森林整備を進めるに当たり、課題も多いと思われます。今抱えている課題と、その課題への対策案をお示しください。

次に、一昨年末に森林環境税及び森林環境譲与税、ともに仮称ですが、創設が決まりました。森林環境譲与税は平成３１年度から自治体への譲与・配分が開始されます。森林環境税の税収の仕組みや、森林環境譲与税の使い道につきましては、林野庁で定めておりますので、ここでは割愛いたします。

きのう、城議員から質問されました、本市には森林環境譲与税が来年度、平成３１年度は約１，８００万円が配分され、林地台帳整備等に充てるとの答弁でした。しかし、林野庁は３年間固定で同金額を配分するとのことですので、本市においても３年間は年間約１，８００万円が配分されるはずです。そこで、配分されるお金をどのように活用するのか、初年度はきのうお聞きしましたので、２年目、３年目

は何に充てるのかをお聞かせください。もし３年間同様の活用法であれば、単年度ごとの説明は不要です。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　ただいまの福島議員の２点についてのご質問にお答えいたします。

まず、１点目の森林整備における課題、それから、その対策についてお答えさせていただきます。

本市の森林管理につきましては、平成２７年度に策定しました菊池市森林整備計画に基づき管理を行っております。

私有林につきましては、木材の伐採が可能な林家、自伐林家と言っておりますが、ここにつきましては、自己管理をされておられます。それ以外の方につきましては、森林組合等の林業事業体での施業委託により下刈や間伐等の管理が行われている状況でございます。

近年、木材需要・価格の長期低迷等により森林所有者の森林に対する意欲が薄れ、枝打ち・間伐等の林業施業が十分なされておりません。また、森林所有者の所在もわからない森林がふえており、意欲と能力のある林業経営者が規模拡大をしようとしても難しい状況となっております。このようなことから、森林の持つ災害防止や水源涵養など公益的機能の発揮が危ぶまれ、林業の持続性が懸念されているところでもございます。

さらに、相続等により森林が所有されても、所有林の場所や隣接する山林との境界がわからないことから、森林整備がなかなか進まないという課題もございます。

このような状況を踏まえまして、平成３０年度に制定されました森林経営管理法では、森林管理が適切に行われていない森林については、市が仲介役となり森林所有者と意欲と能力のある林業経営者をつなぐシステムを構築することとされております。今後におきましても、市が果たす役割はますます重要となってくると思われております。

森林整備につきましては、議員ご承知のとおり、平成３１年度、２０１９年度に創設が予定されております森林環境譲与税を活用しまして、森林の整備に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

また、県や森林組合などの関係機関と連携を図りながら、計画的な森林整備を進めるため、森林経営計画制度のほか各種造林間伐補助事業の周知や地域の林業の牽引役でもあります市内の三つの林業研究グループに対し引き続き支援を行ってまいります。

今後につきましても計画的な施業体系を確立し、林業担い手の確保と施業の省力化を図るために、引き続き作業路・作業道の開設や高性能林業機械の導入に取り組むとともに、あわせて、木材利用の促進と普及啓発、特用林産物のＰＲや施設整備に対する支援などに取り組み、林業振興に努めてまいりたいと考えております。

次に、２点目の森林環境譲与税についてでございますが、これにつきましては、先ほどの説明の中でもありましたとおり、初日の城議員の一般質問でもお答えしておりますので重複しますが、森林環境譲与税の使途につきましては、市町村が行う間伐や人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発など、森林整備及びその促進に関する費用に充てなければならないとなっております。その計画の実行に当たりましては、平成３１年度より森林整備等に必要な森林所有者の行方調査、意向調査及び林地台帳の整備を予定しており、森林所有者の意向調査を行う際には、森林の持つ災害防止や水源涵養など公益的機能についても、周知をしてまいりたいと考えております。

また、本年度から３カ年間同額で交付されますが、その使途につきましては、今後の状況を見ながら支出してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ありがとうございます。

でも、森林環境譲与税、年間１，８００万円です。今、８％しかない市有林を管理するだけでも、それぐらいの実際の費用がかかっているはずです。ですから、やっぱりもっと有効に使うようなことをしっかり考えていただきたいと思います。

先般、市民の方が保有されている山を見にいきました。３０ヘクタールほどの面積でしたけども、山中を軽トラで走れるぐらいに管理されていました。スギやヒノキの間伐も定期的に行われておりまして、太陽の光は地面まで届いて明るく、モデル化したいほど立派なものでした。

一方、龍門から八方ヶ岳一帯の森林の状況も見ましたが、ほとんどの森林は間伐や枝落としが行き届いてなく、木の発育が悪く、枝が張って光も通さず、ツルさえ巻きついているような状況です。

昨年の７月には西日本豪雨災害がありました。線状降水帯の発生場所によっては、本市への影響も十分にあり得たと私は考えます。とても対岸の火事とは思えません。市長の施政方針にもあったように、災害に強いまちづくりを進めるためにも、このような土砂災害等を未然に防ぐ対策は必要だと思います。

２０３０年から廃棄太陽光パネルの大量排出問題が発生すると言われております。２０３９年には８０万トンのパネルが廃棄物として処理されると予想されており、太陽光パネルは有害物質を含有するため、それらが放置、不法投棄されますと、有害物質の流出、拡散へもつながります。

私は自然エネルギーである太陽光発電を否定しているわけではありません。しかし、放置や不法投棄による環境破壊、また、一度に大量の産業廃棄物が排出されることによって、円滑な処理ができるのか心配です。既に山を切り拓き、太陽光発電用パネルを傾斜地に設置されている箇所もあります。雨水への排水対策が施されているとは思いますが、大雨等による大きな災害につながるのではないかと危惧しております。

環境を守るための環境破壊ではだめじゃないでしょうか。環境を破壊しない自然エネルギー活用で自治体ナンバーワンへの取り組みも視野に入れ、所有者の高齢化等いろんな理由により林野を管理できず、太陽光発電の業者に貸与または譲渡せざるを得ない状況をなくすためにも、森林管理に本腰を入れるべきだと考えます。

森林整備の課題と対策や、森林譲与税の活用法におきましては、外部委託になると思われます。今後、林野部門においては、少なくともそういった外部委託がふえることによって、市職員の負担がふえると考えられます。それに対して、現在の所管である農林整備課の増員、もしくは課を新設する等の対策が必要と考えますが、これに対しては市長のお考えをお聞かせいただけませんでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　森林整備に関する今後の対応策ということでございます。特に通告を受けておりませんけども、十分にそこのところには配慮していきたいというふうに考えております。いずれにしても、菊池市にとっての林業は、皆さんが未来を感じていただけるように、そういうふうな支援をしていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ありがとうございます。

ただ、全く通告してなかったわけでもなかったんですけども、間違いなく職員の方の負担はふえると思いますので、ぜひとも早目によろしくお願いします。

災害を未然に防ぐための取り組みというのは、やっぱりどうしても急務だと思います。市民が森林と触れ合い、楽しむ機会ができる環境づくりも大事なのではない

でしょうか。間接的にも人的災害が発生しない、災害に強いまちづくりの実現に向けた取り組みをぜひともよろしくお願いします。

それでは、２番目の質問に入ります。

知的欲求を満たす市民サービスであり、社会的福利厚生施設である図書館のあり方について質問いたします。

平成３１年度の当初予算での図書館費は１億５，４２８万８，０００円となっています。まず、この予算は、中央図書館及び泗水・七城・旭志、各図書館の総予算だとお聞きしていますが、大半は中央図書館に使われると思います。その中央図書館や学習センターが、泗水や七城、そして旭志の市民、特に子どもや高齢者、こういう方々にどのようなサービスを提供されるのでしょうか、お考えをお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　福島議員のご質問にお答えをいたします。

中央図書館と各分館の役割的な話になろうかと思います。図書館法におきまして、図書館は、図書、記録そのほか必要な資料を収集、整理をして、保存しながら、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーションなどに資するということが目的として定められております。

菊池市の図書館は、中央図書館を本館、七城・旭志・泗水の地域館を分館として、直営で図書館サービスを行っているところでございます。

本館は、こうした図書館ネットワークの中核として、図書や歴史資料等に係るさまざまな情報の収集整理を初め、書籍の購入、本の装備、保存、配本、そういった業務を一括して行うとともに、分館・学校図書館等のサービス向上を支援しているところでございます。

また、本館は、公民館講座にあわせまして図書や資料のコーナーを設置するなど継続的な学びにつなげ、図書館の事業を公民館で開催するなど、生涯学習の拠点として地域公民館と連携しながら生涯学習の推進に取り組んでいるところでございます。

一方、分館につきましては、地域の方々にとっては身近な図書館サービスで、いわば、まち角図書館といった、親しみのある図書館としてのサービスに重点を置いております。

また、小中学校や保育園も近いということから、幼児や児童の子育て支援サービスも業務として捉え、一人でも多くの方に立ち寄ってもらえる分館を目指しているところでございます。

そのほかに、週に２回は各分館を配送車で巡回し、地域の図書館でも好きな本を受け取れるシステムを構築をして、サービスの提供に努めているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ありがとうございます。

いろいろとやられているということは、ある程度、調べさせていただきました。それはしばらく後でお話しさせてもらいます。

まず、平成３０年１月から１２月までの来館者数と、貸出冊数というのを調べさせていただきました。来館者数は全体で２０万９，７９３人、内訳としましては、中央図書館で１４万８，１４１人、泗水図書館は４万９，６０６人、七城図書館は８，３３３人、旭志図書館は３，７１３人、率にしまして、中央図書館が全体の７０．６％、泗水図書館が２３．６％、２館で９４％です。

同様に、貸出冊数は３７万７，０００冊、中央図書館は年間２８万７，０００冊で７６％、泗水図書館は７万４，０００冊で２０％、これも２館で９６％を占めています。

このような現状からも、図書館の機能、あり方について見直すことも必要かと思います。今後の図書館というのはどういうもの、どういう形でやっていくかというのをお聞きしようと思って、ある程度、先ほど答弁もいただきましたので、ちょっと私から提案という形でやらせていただきたいと思います。

今、中央図書館でのみインターネット席でのオンラインデータベースが利用されるとお聞きしています。これで間違いないですよね。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　再質問にお答えをいたしたいと思います。

中央図書館では、おっしゃるとおり、インターネットに接続をいたしております。七城・旭志図書館につきましてはやっておりません。泗水図書館につきましては、ちょっと通告いただいておりませんでしたので、確認をとって、後ほどご報告をさせていただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　そうですか。中央図書館と分館全部ということで通告はしてたんですけども、失礼しました。

それでは、ただ、この中央図書館のオンラインデータベースが活用されている頻度が低いと聞いているんですけども、やはりいかに周知させるか。知らない方もいっぱいいると思うんですね。これは課題だと思います。どういうふうに周知をさせていかれるお考えなのか。また、レファレンスサービスというのは、今の状態で十分だとお考えでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　再々質問にお答えをさせていただきます。

図書館の今後の方針ということにつながるものかと思いますので、そういった意味でお答えをさしあげます。

現在図書館のほうでは、蔵書の充実に向けて取り組んでおりますが、そのほかに、平成３０年１２月から電子書籍というものを導入いたしました。これは仕事の都合などで図書館の開館時間に利用できない方などが、図書館が休館中であっても、いつでもタブレットやパソコンなどで利用できるということで、今後も市民の方々への周知を図り、多くの方に利用していただくように進めてまいりたいと考えております。

また、先ほどデータの収集の活用がうまくいってないんじゃないかという話がございましたが、オープン以来、五つのデータベースというものを導入をいたしております。利用促進のための講座を高校生向け及び一般ビジネス向けに行っておりますが、お話のとおり、利用頻度が少し少ないということで、平成３１年度に向けて、さらに市民への周知と講座利用の拡大というものを行ってまいりたいと考えております。

さらに、郷土の貴重な歴史文化関係資料につきましては、デジタルアーカイブ化する取り組みを進め、散逸が心配される古文書、そういったものや、古い写真などの郷土資料の収集はもとより、地域の記憶をデータとして残していくための取り組みを、市民の皆様へ協力を求めながら、さらなるコンテンツの充実を図ってまいりたいと考えております。

そのほかにも、図書館では、子ども向けのイベントといたしまして、英語の読み聞かせや絵本作家とのワークショップ、３Ｄプリンター体験講座、南極教室、星空観賞会などを行ってまいりました。

今後は、高齢者向けの脳トレ講座など多種多様な催しを行い、図書館イベントや展示についても、より利用者目線のサービスに努めてまいりたいと考えております。

今後も、さらなる利用者の拡充に向けて、図書館機能の強化はもとより、小中学校や幼稚園、保育園、そして市内の三つの高校とも連携しながら、知識・情報・交

流の拠点として、多くの人々が本との出会いを楽しめるように、利用者の満足度を上げる施策に取り組んでまいりたいと思います。

レファレンスサービスは十分かということでございますが、しっかり対応してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ありがとうございます。

先ほど申しましたけども、中央図書館、泗水図書館、ここの２館でやっぱり９４％、９６％、ほとんど占めているのが現状です。

そこで、図書館というのを中央図書館に集中させて、分館においてはインターネットによるオンラインデータベースを利用する図書室として、機能を充実させてみるという試みはいかがでしょうか。調べる内容によりましては、１年前の本でも陳腐化する状況です。本が必要な方には図書室まで、また、図書館まで出向くのが難しい高齢者向けには移動図書館といった取り組みも可能だと思います。やっぱりそういったのもぜひ考えて取り入れていただければと思います。

立派な箱物をつくったとしましても、運営をきちんとして利用価値を高めなければ、単なる自己満足にすぎないと思います。自己満足のために何億もの税金をつぎ込むことこそ、無駄遣いの何物でもないと考えます。

先ほどもオンラインデータベースの話をされました。県内にも魅力的な図書館があります。熊本駅前にあるくまもと森都心プラザ、ここにある図書館ですけども、ぜひとも足を運んでいただいて、菊池中央図書館のさらなる向上に生かされることを提案いたします。

やはりオンラインデータベース、特に商用データベースですね。やっぱり一個一個高いものなんですけども、これでやはりイベントもほぼ毎日やっております。そして、レファレンスサービス、これがすごく充実しております。やっぱりそういったものを見ていただき、それを周知させる。そういうのが大事じゃないかと思います。

最後になりますけども、先ほども荒木議員から指摘されておりました閲覧用椅子に関して、別の観点から提案させていただきます。

もう既に購入された物品でございますので、いかに生かしていくか。前回の荒木議員からの一般質問に対して、執行部からは、世界トップの匠の技を体感してもらいたいといった趣旨の答弁をされています。

人間とは、価格を知って、初めてその物の価値を知るものです。正月のテレビ番

組で芸能人格付チェックと題して、さまざまなものを格付しています。有名芸能人であっても、３，０００万円のワインと５００円のワインを判別できないのです。また、宝塚トップスターが３億円のバイオリンと２，０００万円のバイオリンが判別できないのです。

執行部から前質の答弁をされるからには、効果的に生かす必要があります。来館された方が一目でわかるように、世界トップの匠の技を体感してもらいたいという趣旨で、対象の椅子の背もたれの裏面でも構いません。世界トップの匠の技、１脚１０万円の椅子とプレート等で明示されることを声を大にして提案いたしまして、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　先ほど、泗水図書館のデータベースの話を出しておりましたが、泗水図書館のデータベースはないということでございます。ご報告したいと思います。

○議長（柁原賢一君）　これで、福島英徳君の質問は終わります。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

次の会議は、明日６日に行います。

引き続き一般質問となっております。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後３時４９分

第　５　号

３　月　６　日

平成３１年第１回菊池市議会定例会

議事日程　第５号

平成３１年３月６日（水曜日）午前１０時開議

第１　一般質問
第２　議案第３９号　平成３１年度(２０１９年度)菊池市一般会計補正予算（第１号）
　上程・説明・質疑・委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問
日程第２　議案第３９号　平成３１年度(２０１９年度)菊池市一般会計補正予算（第１号）
　上程・説明・質疑・委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之	君
２番	福　島　英　徳	君
３番	緒　方　哲　郎	君
４番	後　藤　英　夫	君
５番	平　　直　樹	君
６番	東　　奈津子	さん
７番	坂　本　道　博	君
８番	水　上　隆　光	君
９番	猿　渡　美智子	さん
１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君

１８番	泉　田　栄一朗　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	山　瀬　義　也　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	芳　野　勇一郎　君
政策企画部長	元　島　加奈子　さん
総務部長	上　田　俊　介　君
市民環境部長	古　田　浩　敏　君
健康福祉部長	中　村　隆　純　君
経済部長	谷　田　　修　君
建設部長	淵　邉　政　博　君
七城支所長	楳　田　邦　昭　君
旭志支所長	岩　根　卓　士　君
泗水支所長	坂　本　忠　弘　君
財政課長	上　田　敏　雄　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中　尾　孝　浩　君
市長公室長	前　川　幸　輝　君
教育長	渡　邉　和　博　君
教育部長	大　山　堅四郎　君
農業委員会事務局長	坂　本　高　秀　君
水道局長	大　塚　忠　康　君
監査委員事務局長	清　田　幸　臣　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	徳　永　裕　治　君
事務局課長	歌　岡　憲　一　君
課長補佐	松　原　憲　一　君
議会係長	安　武　則　貴　君
議会係	吉　岡　結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。傍聴者の皆様もお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席願います。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（柁原賢一君）　日程第１、一般質問を行います。

初めに、水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　おはようございます。議席番号８番、水上隆光です。我がふるさとの里山の裾野に広がりますこの菊池市が活気づくまちになりますよう、いろんな質問をしていきたいと思います。

本日は、最初に、施政方針について、それから２番目に、スクールロイヤー（学校弁護士）について、３番目に、エコ・ヴィレッジ旭について、質問をしていきます。よろしくお願いします。

最初に、施政方針について質問いたします。

まず、新規就農支援について質問していきます。

施政方針の４ページに、新規就農者の支援としては、国の農業次世代人材投資資金と本市単独の新規農業就業奨励金を活用し、地域営農を支える担い手農業者としての育成を図りたいというふうに載っております。

市単独の新規農業就業奨励金のほうですけれども、国の農業次世代人材投資資金のほうは上限の年齢制限が、ことしからですか、４５歳から５０歳まで、５０歳まではいいですよというふうになりましたけれど、引き上げられましたが、市単独のこの奨励金のほうは現在の４０歳のままでいくのかをまずお尋ねしたいと思います。

それから、畜産支援については、施政方針の５ページに、全国第４位の農業算出額を誇る畜産業については、さらなる経営基盤の強化を図るために、優良な家畜の導入に対する市単独の補助を初め、国・県の補助事業を活用した支援を引き続き行います。また、県と連携し、家畜防疫対策や畜産環境問題についての啓発強化に務めますとあります。

畜産支援と防疫対策について質問していきますけれども、畜産支援として、家畜

導入に対する補助、非常に大事な分野で、農家さんも助かっているところでございますけれども、その畜産全体を下支えする獣医、それから人工授精師、この人たちの支援も考えていかないと、畜産自体が行き詰まるということになります。この獣医、人工授精師あたりにも、市としても目を向けてほしいという思いであります。お考えをお示しください。

それから、ただいま、岐阜、愛知ですか、防疫対策として、豚コレラが発症していますけれども、この防疫対策については、一般質問の初日、坂本道博議員が聞かれておりますので、私からは、現在、中国で蔓延しているアフリカ豚コレラというものの防御という意味で、海外渡航者あたりへの呼びかけなどもしっかりやってほしいと。対策はどうかというところをお尋ねします。

このアフリカ豚コレラというものは、ワクチンが効かないという情報も入っております。この辺のちょっと詳しい説明もわかるならばしていただき、厳重な注意がやはりこの豚コレラに関しては必要でありますので、回答のほうをよろしくお願いします。

次に、林業について、これも施政方針の５ページ、林業については、作業路・作業道の開設費用の補助や造林事業のかさ上げ補助、間伐材生産及び流通経費の補助を実施し、林業経営者の森林整備に対する意欲を喚起し、適正な森林管理と木材の安定供給を図りながら林業振興を推進しますとあります。

この間、林業関係者の人と話をする機会がありまして、その人の話では、森林そのものが間伐の時期から全伐の時期に来ていると話しておられました。全伐ということは、その後、植樹をしなければなりませんので、植樹後の五、六年、下刈りというものが必要となります。この下刈りの部分に国の支援はあるのかということについて質問をしていきます。

続きまして、有害鳥獣対策、これも施政方針の９ページに、有害鳥獣対策については、農作物の被害が拡大していることから、狩猟免許取得者に対する補助を行い、捕獲隊員の確保を図るとともに、個体数調整や侵入防止柵の設置を推進し、農作物の被害防止に努めますとあります。

農作物の被害防止はもちろんでありますが、昨年の暮れだったと思いますけれども、福岡市の本当の街なかで、出勤中のスーツ姿の男性をイノシシが襲うニュース・動画が流れました。本市としても、農作物はもちろんですけれども、やはり人的被害、通学の安全性ということを考えても、やはりイノシシの駆除、この辺を真剣に考えなければならないと思っています。

また、山梨県では、非常にジビエの取り組みが進んでいる県でありまして、ジビエのまちとしても売り出しているところでございます。山梨県では、副知事、農水

部長が狩猟免許を取得したというニュースが農業新聞にも載っておりました。わな猟かと思いますけれども、わな猟はそれほど難しいものではありません。本市の執行部も狩猟免許を、わな猟を取得ということを挑戦してみてはどうかと思い、質問し、議員団としては坂本議員が初日に言っておられましたように、５人ほどがもうわな猟の免許を取っておりますので、何とか執行部も市全体として、このイノシシ対策に向かうという意味でも、免許の取得あたりをよろしくお願いし、１回目の質問とします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　皆様、改めまして、おはようございます。ただいま水上議員の４点の質問につきまして、私のほうから３点についてお答えさせていただきます。

まず、１点目の新規就農支援についてのご質問ですが、農業次世代人材投資事業は、次世代を担う農業者となることを志向する経営開始直後の新規就農者に対し、就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため資金を交付するものでございます。

本市においても、平成３１年２月現在、６８名の新規就農者がこの事業により資金の交付を受けております。

今回、国が農業次世代人材投資事業において支援対象者の交付年齢を引き上げました理由は、農地中間管理事業の５年後見直しを行った結果、農地の集積が進まない原因の一つとして、中山間地域を含めて担い手が不足しているという課題を踏まえまして、新規就農者の裾野の拡大を図るため支援対象者の年齢を平成３１年度（２０１９年度）から、原則４５歳から５０歳に引き上げられるものです。

次に、本市では専業農家としての就農をし、継続して農業を営む実践力旺盛な農業後継者の育成を図るため、新規農業就業奨励金の交付を独自に行っております。

この奨励金の要件は、菊池市内に在住し、新たに農業に就業する年度において満１７歳以上４０歳未満の就農者に交付されるものでございます。

過去５年間における交付実績を申し上げますと、平成２６年度は１０名、平成２７年度は１３名、平成２８年度は１４名、平成２９年度は２４名、平成３０年度はこれまでに１２名の就農者に対し交付を行っております。なお、菊池市が合併しました平成１７年度以降から平成３０年度までに交付した人数は合計で２１２名となっております。

本市の農業におきましても、全国的に言われております高齢化と後継者不足が課題となっております。地域の農業振興を図るためには、新規就農者や地域の中心となる担い手農業者の育成が必要であります。

ご質問がありました新規農業就業奨励金の交付年齢の見直しについては、今後の状況や関係団体等からのご意見も伺った上で、検討してまいりたいと考えております。

次に、２点目の畜産支援と防疫対策についてですが、まず１つ目の家畜人工授精師についてお答えさせていただきます。

家畜の人工授精につきましては、酪農経営における搾乳牛や肉用牛経営における子取り用雌牛に対し、人工的に授精を行うものです。

市内の畜産農家の方が人工授精を行われる場合は、それぞれ地域の家畜人工授精師、獣医師が担っておられます。

本市には、搾乳牛が約７，０００頭、繁殖用の子取り用雌牛が約５，２００頭飼育されており、それぞれ１年１産を目標に人工授精が行われております。この場合、１回の人工授精で受胎する牛もいれば、３回行っても受胎しない牛もおり、結果としまして受胎率が低下すれば、より多くの人工授精師が必要になると考えられます。

このような状況の中で、家畜人工授精師についても、昨年、第３回市議会定例会において、議員よりご質問がありました高齢化による獣医師不足と同じような状況にあると思っております。ちなみに、市内の人工授精師は２５名で、内訳といたしまして、獣医師１８名、授精専門７名ということになっております。

家畜人工授精師の免許は、県立農業大学校が年１回開催します講習会において、約１カ月の実技及び学科講習の課程を終了後、修業試験に合格することで取得することができます。本年度は本市からも、県立農業大学校の生徒を含め、３名の方が取得されております。

また、平成１２年以降では、農家の後継者など１２３名の方が免許を取得しておられますが、自分自身の畜産経営において人工授精をされる方は少なく、実情としては経験豊富な人工授精師や獣医師に委ねられておられます。

今後におきましても、高齢化に伴う家畜人工授精師の不足が予測されますので、畜産業の基盤強化を図るために、市としましては、県や関係機関・団体と連携し、課題解決に向けた検討を行ってまいりたいと考えております。

次に、二つ目のアフリカ豚コレラについてのご質問ですが、アフリカ豚コレラは、豚やイノシシがアフリカ豚コレラウイルスに感染する病気で、ダニや直接的な接触により感染し、突然死や４０度から４２度の高熱などを特徴とする致死率の高い伝染病です。感染力が強く有効なワクチンや治療法がないため、発病した場合、畜産業界への影響が甚大であることから、法定家畜伝染病に指定されております。

そのため、家畜伝染病の疑いがある場合は、速やかな届け出と発病が判明した場合は、発生農場等での殺処分が義務づけられております。参考までに、現在、岐阜

県ほか４府県で発生しております豚コレラとは、名前は似ておりますが別の病気でございます。

アフリカ豚コレラは、近隣諸国で発生しておりまして、昨年８月３日に中国で確認されてから、モンゴルやベトナムに広がり、本年２月２７日の時点では１５１カ所において約９２万頭の豚が殺処分されております。

日本においては、これまで発生が確認されておりませんが、２月２２日の時点では、中国の旅行者から持ち込まれたソーセージなどから、アフリカ豚コレラウイルスの遺伝子が１３例確認されており、そのうちの２例は福岡空港での事例となっております。

次に、防疫対策についてですが、ウイルスを国内に侵入させないように、農林水産省所管の動物検疫所では、熊本空港や八代港などで、消毒マットの設置を初めとして、外国人観光客に対し肉製品の持ち込みや畜産関連施設への立ち入り自粛の呼びかけを行い、水際での防疫対応を実施されております。

市としましても、ホームページでの周知や、養豚農家へ文書により注意喚起を促すとともに、庁舎玄関への消毒マットの設置や庁内における防疫態勢の構築など、防疫対策に努めているところでございます。

次に、３点目の林業についてお答えいたします。

下刈りについての補助事業につきましては、民有林の植栽、下刈り、間伐等一連の造林事業に要する経費の補助について、森林環境保全整備事業があります。

内容といたしましては、森林所有者が菊池森林組合等の認定事業体へ施業を依頼される山林のうち、森林経営計画の認定を受けている森林、もしくは本市の特定間伐等促進計画に登載されている森林が補助の交付の対象で、補助率は標準経費の６８％となっております。

なお、本事業につきましては、標準経費の１０％以内で、市のかさ上げ補助を行っているところでもございます。

次に、全伐についても、この事業の中に更新伐というのがございます。この事業は更新の目的により、複層林造成及び育林と長期育成循環施業に分けられており、いずれも補助率は同様の６８％となっております。

まず、複層林造成及び育成の要件といたしましては、９０年生までの人工林を対象に１０ヘクタール以上まとめて事業区域を設定し、その中で面積が５ヘクタール以上かつ１ヘクタール当たり１０立方メートル以上の搬出をする必要があります。また、伐採後１年以内に１ヘクタール当たり１，５００本に伐採率を乗じた本数を植えつけることが事業の要件となっております。

長期育成循環施業については、５０年生から９０年生までの人工林を対象に、１

５ヘクタール以上まとめて事業区域を設定し、その中で２０％から３３％、かつ更新面積が合計５ヘクタール以上になるように、１ヘクタールをめどにモザイク状に伐採を行っていき、１ヘクタール当たり１０立方メートル以上の搬出を行うことが要件となっております。また、１ヘクタール当たり１，５００本に伐採率を乗じた本数を植えつける必要があります。

そのほか、森林所有者と施業者の同意または協定が必要となっております。

なお、事業対象となったエリアは５年間、下刈り、間伐などの施業をしても補助の対象とならないなどの制約があり、本市での実績はございません。

以上のようなことから、市有林などの公有林や、大規模なまとまりのある森林を所有する方はこの更新伐の事業の対象となりますが、一般的な森林所有者には一度に５ヘクタールもの森林を伐採することなど、かなりハードルが高いものとなっているのが現状でございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、おはようございます。

答弁に入ります前に、本日、七城中学校の３年生の皆さんが、この本議会の状況を傍聴に来られております。先ほど来、ある意味では聞きなれない言葉が飛び交っていたかというふうに思います。今まで農林業の話が中心でありましたけども、この議会というのは農業だけではなくて、商工業、あるいは皆さんの学校教育の問題、あるいはお年寄りの健康の問題、あるいは道路の問題、そうしたさまざまな私たちの暮らしというものをどうしたら少しでもよくできるだろうかと、こういうことを議論する場であります。そういうことを念頭に置いて、お聞きいただければというふうに思います。また、その中から、自分もそういうことにかかわってみたいという皆さんが出てくることを大いに期待しております。

さて、水上議員におかれましては、大変失礼いたしました。

私のほうからは、４番目の質問でありました有害鳥獣対策について、市の職員もわなの免許等を取得してはどうかというご提案でございました。

本市の職員のこうした免許の取得につきましては、強制をできるものではございませんけども、狩猟免許取得者をふやすということは非常に大事なことだというふうに考えておりますので、市職員も含めて、広く市民に呼びかけていきたいと、このように考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

人工授精師さんについては、私の周りにもかなり国家資格を持っておられる方が多いんですけれども、どうしてもやはり自分家だけで、ほかの農家の人工授精まではという感じで、なかなか後継者が育たないという状況が続いております。

また、豚コレラにつきましては、愛知、岐阜あたりでイノシシと豚のほうが両方やられているということで、ジビエ肉の買え控えといいますか、ジビエ肉のほうにも影響が出ているというふうなニュースも出ておりました。

イノシシの経緯というのは、ちょっと旭志の酪農家、それから畜産農家のほうから、それと旭志にあります餌工場のほうから、各役員とか社長、副社長が来られて、とにかくもう山手のほうは、中山間地のほうのイノシシによるトウモロコシの被害はひどいということを訴えられましたので、その流れから狩猟免許、わな猟あたりを取りにいくという運びになったところでございますけれども、私は、このイノシシ問題は、常々、何か雰囲気的に二の次に考えられているような気がしてなりません。何とかこれを正面から執行部、議会で考えて、何とか駆除、対策に向かってほしいと、向かわなければならないという思いを持っておりますので、そういうところで、次の２問目の質問に入っていきます。

スクールロイヤー（学校弁護士）について質問していきます。

まず、学校現場ではどのような問題が発生しているのか、そして、教育委員会への相談はふえているのかという質問と、スクールロイヤー（学校弁護士）の全国的な事例というのはあるのか。菊池市には学校問題解決支援事業というものがあると聞いております。この事業の内容についてもお示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　改めまして、皆さん、おはようございます。それでは、水上議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、１点目の学校現場で発生をしております問題の中身といたしましては、昨年度の熱中症への対応問題や、学級経営問題、不登校問題、いじめの問題、ＳＮＳ上のトラブル等の生徒指導上の問題、虐待等の家庭環境問題、学力保障の問題、働き方改革の問題などが挙げられます。

また、その対象は、児童・生徒、家庭、教職員関係と、その発生する問題は多岐にわたっております。

２点目の今年度の教育委員会への相談といたしましては、いじめ、不登校、転校・転入に関すること、家庭環境、健康被害、学級経営や学校経営に関する不満な

どとなっております。

相談の件数に関しましては、その年ごとに増減があるために、増加傾向ということではございませんが、相談内容は複雑多岐にわたっているところでございます。

こうしたことから、一昨年より、菊池市学校支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカーを配置して、対応を強化したところでもございます。

それから、スクールロイヤーとは、学校で起こるいじめや保護者とのトラブルなどを法的に解決をする弁護士でございまして、現在文部科学省がその制度を全国１０カ所に整備をして、その成果を検証している段階にございます。

本市におきましては、この制度はございませんが、先ほど議員述べられましたとおり、いじめ防止推進法に基づく菊池市スクールサポートチームというものを設置いたしまして、いじめ等の重大事案に備えた体制をとっております。

このサポートチームには、市の顧問弁護士を委員として位置づけておりまして、いじめ防止並びに保護者対応等において、法律上の観点から助言をいただいているというところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

法的相談、対応による教職員の精神的負担を軽減というのがスクールロイヤーの役目かと思いますが、学校現場で発生するさまざまな問題に対して、裁判になる前に、なってからかかわるのではなく、むしろトラブルが予測されそうな段階から学校の相談相手としての立場で、子どもの最大の利益の観点から、教育、福祉、子どもの権利等の視野を取り入れながら助言する弁護士は、やはり私は必要じゃないかと思っております。

学校には法律に詳しい人がいないというのが現実だと思います。保護者対応のストレス、問題を大げさにはしたくないという先生の思い、そういうのが現在の状況かと思っていますけども、こういう現状で、特に、一般的に中学校、学校の現場というのは、職場的にブラックだという、ブラックイメージということが言われることもありますけれども、菊池市においては、そのブラックの部分はどうとられているのか、ブラックなのか、その辺を質問したいと思います。

それから、熊本大学の過去１０年間の教育学部の志願者の推移、これがどうなっているのか、わかればお示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、再質問の中学校現場の職場環境の認識ということについてお答えをさせていただきたいと思います。

教員の多忙化につきましては、喫緊の課題でもありまして、教育委員会といたしましても、時間外勤務の削減に向けて現在取り組みを進めているところでございます。

特に中学校の部活動に関しましては、菊池市部活動指針に基づき、活動日・活動時間の短縮を図りながら負担軽減を行っております。

また、教職員の働き方に関する意識改革及び業務改善にも努めておりますので、時間外勤務も減少傾向にはありますが、生徒指導など臨時的な対応もあり、多忙化解消に向け、さらに取り組みを推進していく必要があるものと考えております。

それから、熊本大学の教育学部の本年度の志願者数は５０１名ということでございました。平成２３年度の８３９名をピークに、約３００名の志願者減少が見られますので、若者の教職員離れは進んでいるものと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　特に、中学校では通常授業、あしたの準備、部活、進路指導、問題発生時の対応と非常に多岐にわたっていると。やることが多いという印象は持っているところです。

そういうものが原因となっているかはわかりませんけども、熊大の教育学部の志願者が非常に減っているというのは、今、部長の報告でありました。私は受験しなかったんですけども、４０年ほど前は４倍ぐらいはあったんじゃないかなというふうな気がしています。また、その熊大の教育学部なんかに合格した同級生なんかを見ると、すごいなと、あの人は熊大の教育学部なんかに通ってというふうな、そういう思いで見ていたような、羨望のまなざしといいますか、そういうような思いで見ていたような記憶があります。

少子化、教職というものに魅力を感じなくなっている。また、きつい、精神的な負担が大きいなどの原因があると思われる中で、やはり子どもの教育というものは国の根幹を担う最重要な部分でもあります。弁護士が年に数回、学校を訪問し、教職員と話す機会を設けると。そうすれば、教職員の負担軽減にもなると思いますけれども、ここのところのお考えを、教育長、お示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　改めまして、おはようございます。ただいまの水上議員の質

問にお答えをします。

子どもたちが安心して学べる学校にするためには、先生方を支える仕組みが必要であるというふうに思っております。現在はスクールロイヤーの役割をスクールサポートチームが担っておりますが、いじめ事案に限らず、さまざまな事案に対し、市の顧問弁護士により対応いただいております。

また、法的側面からのアドバイスはできませんが、部長答弁にもありましたように、菊池市学校支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカーが教育委員会に常駐しておりまして、児童・生徒や保護者、さらには教職員の相談体制も整えておりますので、学校の諸問題にも毎日細やかに対応しているところです。

とはいえ、さまざまなトラブルについて学校が弁護士に相談し、アドバイスを受けることで効率的な問題解決を目指したり、保護者からの要望への対応を弁護士が担当したりすることも教職員の精神的な負担軽減につながると考えられます。今回のスクールロイヤー制度導入の検証結果に注目し、見守ってまいりたいというふうに思っております。

いずれにしても、いろんな取り組みによって、教職が本来夢のある、やりがいのある仕事であるという認識が特に若者の間にも広がればと思うところであります。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

私もこの質問をするに当たり、現職の校長先生、それから校長先生のＯＢ、校長先生の経験者のお話を聞きにいきました。やはり最後の局面で、校長先生の対応というのが一番の最後のほうの部分となりますけれども、校長先生一人の対応よりも、そのスクールロイヤー（弁護士）がもう一人いて、校長先生と二人三脚で対応するということになれば、かなりの抑止力にもなるというふうな話もしておられました。

また、子どもの面から、子どもの安全面という面でも、いわゆるスマホにおける有害サイト、そのあたりの問題も出ております。そういう問題なども相談できるんではないかと私は思っております。

市長に、現在の学校現場への思いと、スクールロイヤーについてのお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　スクールロイヤーに対する考え方をということでございます。

学校現場の多忙化というものが抱える課題というものを認識しているところでご

ざいます。教職員の皆様におかれては、大変過酷な状況の中で、日々奮闘されているということに対して、本当に感謝と敬意を申し述べたいというふうに思います。

現在、働き方改革を進めて、さまざまな面で教員の皆さんの負担軽減に努めているところでございまして、児童・生徒としっかりと向き合える時間確保を目指して、取り組んでまいりたいというふうに思っております。

そういう中で、今回のスクールロイヤーの役割というものが、これまでお話しされましたように、学校の法的相談への対応、サポート、あるいは法的側面からのいじめの予防教育に関するアドバイス、こうしたことが大きく期待されますし、また、学校や保護者の相談相手として務めていただくことで、教職員の方々の精神的負担の軽減にもつながるであろうというふうに期待しているところでございます。

現在、文部科学省がスクールロイヤー制度についての検証をしている段階でございますので、当面はその状況を見きわめまして、その成果が出た際には、しっかりと見きわめて対応していきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

何とか仕事の場として魅力ある教職員というものを復活をさせなきゃならないと思っております。

最後に、２月２２日の熊日新聞に、ジャーナリストの江川紹子さんが「視界良好」という文章を掲載しておられます。それの一部になりますけれども、児童虐待の部分も若干入ってきますけども、その文章としては「政府は緊急対策で児童福祉司の増員などを決めたが、人材はすぐに育たない。外部の力で補う必要がある。それに教育関係者や児相職員に威圧的な保護者の対応は荷が重いだろう。トラブル対応のプロを活用し、職員らを守る体制も必要だ。例えば教育委員会に顧問弁護士を置くほか、各学校の校区に弁護士をスクールロイヤーとして示しておく。そうすれば、虐待の親対策だけでなく、いじめ問題への対応、モンスターペアレントと呼ばれる理不尽で執拗に要求をする保護者への対応、子どもへの法教育、さらにはもろもろの法律相談もできる」というような文章を掲載されております。

そういうふうに、現代の非常に暗い部分となっているところでございますので、何とか知恵を絞って、人材、組織のフル活用をというところでお願いしたいと思います。

それでは、最後に質問に入ります。

最後のエコ・ヴィレッジ旭について質問します。

旭志のＲＤＦについてでございますけれども、先般、議員に対して菊池環境保全組合新環境工場の説明がありました。新工場は平成３３年（２０２１年）３月からの稼働というような説明がありました。

では、旭志のエコ・ヴィレッジ旭は、２年延長、平成３３年３月までとなると思いますけれども、そこで、エコ・ヴィレッジ旭の稼働延長になったことの周辺地域への説明はされているのか。されているなら、どういう状況だったのか。それと期限の延長に対する地域対策として、伊萩平線の拡幅工事が計画されていると思いますけれども、この工事内容の説明をお願いし、聞くところでは、Ｌ型コンクリートによる拡幅というふうな話を聞いております。Ｌ型工事による水田への進入路に対する、進入がしにくくなるんじゃないかなというふうな地域住民の声が上がっております。そういう心配されておりますので、その辺の工事の説明もお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　改めまして、おはようございます。ただいまの水上議員の質問にお答えいたします。

エコ・ヴィレッジ旭の稼働期間の２年間延長に伴います周辺地域への説明会につきましては、平成２５年７月より、麓地区の六つの行政区長などで構成されます環境保全対策委員会を初め、麓地区６行政区及び旭志区長会において、稼働期間延長のお願いや、それぞれのご意見を拝聴させていただいております。

説明会、打ち合わせなどを全てあわせますと、２０回以上にわたりまして実施をしておりまして、２年間の施設稼働期間延長につきましてご理解をいただいたところでございます。

なお、議員おっしゃったとおり、エコ・ヴィレッジ旭につきましては、２０２１年３月をもって稼働を終了することといたしております。

施設の稼働終了後の跡地利用につきましては、施設稼働期間の２年間延長に伴い締結させていただきました覚書により実施をしていくところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　皆様、おはようございます。水上議員の２番目のご質問にお答えしたいと思います。

市道伊萩平線は、整備計画延長５２２．５メートルで、平成３１年度から翌年度までの２カ年をかけて整備を行う予定でございます。

農地への進入路につきましては、現状より若干勾配が急になることから、コンクリート舗装にて施工を行うように計画をしております。工事に際しましては、農繁期を避けて施工するとともに、できるだけ耕作者の皆様のご迷惑にならないように、関係者と調整を図りながら工事を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　今の進入路のところですけども、傾斜が急になると、トラクターのロータリーを上げたままその進入路を上がっていくと、トラクターの前方が、逆に後ろが重いんで、はね上がるみたいな危険なところがありますので、ぜひとも進入路については、きちっと工事をお願いしたいと思います。

終わりますけれども、私、昭和３３年の４月生まれで、３月生まれまでの同級生の方が、今度、退職されるということでございますので、お疲れさまと申しまして、質問を終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、水上隆光君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時４５分

開議　午前１０時５３分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　おはようございます。議席番号３番の緒方哲郎です。私は、農業の振興と発展、福祉の充実、教育の充実を柱に、市民の皆様の絶対幸福のために頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

質問に入ります前に、昨年秋の叙勲において、本市消防団の元団長、村上忠吉様が瑞宝双光章を受賞されました。これは村上様の長年にわたる消防団活動はもとより、本市合併時の消防団団長として、また、熊本県消防協会会長としてのご功績に対するものです。心よりお祝いを申し上げます。

また、この村上様の褒章受賞は、ご本人のみでなく、本市消防団の名誉であり、近年、消防団への入団、勧誘等、大変厳しい中において、団員の目標となっていくものと思います。これからのさらなる本市消防団のしっかりとした組織づくりをお願いするところです。

また、今月３日、日曜日には菊之池小学校の新校舎の内覧会がありまして、多くの議員の方々、また、地元の区長さん方がおいでになっておりました。木の香りあふれる立派な校舎の完成で、子どもたちも新校舎で勉強できることを楽しみにしている様子でした。また、昨日は、６年生がこの議会の傍聴にも来られておられました。これからの小学校生活が有意義なものになっていくことを願っているところです。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

今回、私は、中山間地域の農業について、花房坂周辺公園整備について、コミュニティナースについて、ジュニアスポーツ大会について、この四つについてお尋ねをさせていただきます。

それでは、まず、中山間地域における農業についてお尋ねをします。

最初に、この中山間地域については、大まかに畜産を中心とした旭志地区と、普通作を中心とした菊池地区に分かれるのかと、そのように思います。それぞれにお答えできる分に対しては、お答えをよろしくお願いいたします。

それでは、質問にまいります。

近年、全国的に見ましても、耕作放棄地の増加は大きな問題になっておりますが、本市におきましても、農地の３３８ヘクタールが耕作放棄地となっており、その約４０％がこの中山間地域にあると考えられます。田畑のすぐそばまで竹が生えてきて、その対策に追われている。イノシシなどの鳥獣被害に遭って困っている。用排水路など水の管理が大変だなど多くの問題を抱えながらも、田畑を守り、生産意欲を持って頑張っておられる方々がたくさんおられます。

まず、本市において、そのような中山間地域の農業の実態、一つ目に、後継者の有無、二つ目に、経営体質、三つ目に、過去５年間に非農地化となった面積をお尋ねします。

次に、中山間地域で農業を頑張っておられる方々への支援策、今現在も行われていると思いますが、その内容をお答えください。また、新しい支援策等考えておられるのであれば、その内容もお聞かせください。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　ただいまの３点のご質問にお答えさせていただきたいと思います。

まず、中山間地域のほうですね。旧菊池市と旭志とありますが、旧菊池市に限らせて答弁をさせていただきます。

本市の中山間地域の状況ですが、２０１５年農林業センサスの統計では、本市全

体の農業後継者の数は８９０人でございます。このうち旧菊池市の中山間地域の人数は９２人で、全体の約１０％となっております。

同じように、中山間地域の経営体数、これは販売農家数になりますが、市全体で２，２５７経営体、そのうち２６１経営体が中山間地域でございまして、１１．５％となっております。

また、非農用地化した農地の面積につきましては、市営牧場跡地の５１ヘクタールを除きますと、過去５年間の合計で見て、市全体で１１０筆、面積で４．７ヘクタール、このうち中山間地域は３６筆、面積では２．９ヘクタールを占め、面積割合としまして６１．７％となっております。

次に、中山間地域における支援でございますが、中山間地域は生産条件が不利な上に、農業生産活動を継続し、耕作放棄地を防止するために、国・県・市による中山間地域直接支払制度の支援がされております。本市全体では８４集落が取り組んでおり、このうち旧菊池市の中山間地域が３０集落ございます。

また、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の共同活動に係る支援を行う多面的機能支払交付金の支援も行われております。

そのほかに、本市では、東海大学と連携しながら、中山間地域の耕作放棄解消を含め、地域の特産資源でありますヤーコンや菊芋の生産拡大、販路拡大による産地化に向けた取り組みを行っております。また、菊池渓谷周辺で栽培されます米を、菊池渓谷棚田米として販売し、農家所得の向上と地域の活性化につなげる取り組みも行っているところでございます。

中山間地域は、平たんの地域に比べまして地理的条件が悪く、農業生産条件が不利な上、担い手農業者の高齢化が進み、農地の荒廃やイノシシやシカなどの有害鳥獣による農作物被害など深刻な事態も生じております。

また、国の農業政策においては、規模拡大などに対する支援も多くあるものの、中山間地域においては、狭小で不整形な土地も多く、取り組める事業が少ないのが現状でございます。

今後におきましては、中山間地域に適合した農業用機械の導入や農用地の保全維持ができるような施策を、国・県に対し引き続き要望を行ってまいりたいと考えております。

また、現在国が進めておりますスマート農業の分野で、中山間地域において特に課題となっております畦畔の除草作業やイノシシ等による被害防止に関する新たな技術や機械の開発に注視し、迅速な情報提供にも努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　中山間地域の実態の把握、後継者の有無については、菊池地区においては９２名おられるとのことでしたけれども、これはもう全体の１０％にしか当たらないというわけですから、当然農業を続けていこうとしたときには非常に厳しい状況だということになります。

また、経営体数においては、これは先ほども言われましたように、農産物販売農家数になると思いますけれども、２６１経営体、全体の１０．５％、また、三つ目の、過去５年間に非農地となった面積については２．９ヘクタールということでしたが、この面積は農業委員会確認分だと思いますので、実際の面積はもっと広くなるのではないかと推測されます。

わずか３項目、これら全ての数値において、大変厳しいものがあるということは皆さんもご理解されるものだと思いますが、まだまだ他の項目について数値化をするならば、さらに厳しい状況が出てくるものと考えられます。

先月２７日の熊日新聞に、２０１８年、県内の新規就農者が５年ぶりに増加して、これを地域別に見ると、菊池地域が最多であったという記事が掲載されておりました。大きく菊池地域というくくりでありますので、そのまま本市に当てはまるものではないと思われますけれども、農業全体を見たときには大変よい方向へ向かっているものではないでしょうか。

そこで、私たちがこれからしっかりと考えていかなければならないことは、本市において、この菊池地域で考えるならば、２６１経営体、この方々が中心におられるおかげで、中山間地域の農地が維持管理されているということにほかならないと思います。つまり、農業全体からも、また、中山間地域においても、やりがいがあり、魅力ある農業を目標にしていくことは大切になっていくものと考えます。

さらに、その目標は、中山間地域においては喫緊の課題として取り組んでいくものであることから、次に、支援策についてお尋ねをさせていただきました。

支援策については、現在、中山間地域直接支払制度と多面的機能交付金による支援を行っているということでしたけれども、どちらもこれは個人とその集落に対する支援であります。中山間地域で農業をされておられる方にお話を伺いましたが、今現在、その集落を維持していくことすらも困難になってきているということでございました。やはり本市における状況を把握しながら、国の施策だけでなく、本市に見合った支援策を行っていくべきだと考えます。

それに関しましては、地域の特産資源であるヤーコンや菊芋の生産拡大、及び販路拡大による産地化に向けた取り組みもされておられるようですし、また、地形を

生かした菊池渓谷棚田米の栽培など、所得の向上の取り組みをされております。支援といいますと、金銭面なものに偏りがちでございますけれども、このような物質面での支援も必要とされるのではないでしょうか。

中山間地域の農産物の開発など支援をされておられるということは、私は非常に評価すべき点であると思います。これからも中山間地域特有の農産物の支援も大切にすべきと考えます。

また、最後に質問いたしました、新たに考えておられる支援策については、狭く不整形な土地に適合した農業用機械の導入や、スマート農業の分野において、中山間地域において特に課題となっております畦畔の除草作業、また、イノシシ等による被害防止に関する新たな技術の開発に注視されているということでございました。中山間地域に見合った支援策を国や県へ要望されているということ、これは引き続きの支援を私も一緒に考えていきたいと思っております。

そこで、昨年９月の定例会において、支援策の一つとして、物産館への農産物の集荷、これができないものかとお尋ねをさせていただきました。中山間地域の方々も、集荷については、よければ集荷をしてもらいたいと思っておられる方もたくさんいらっしゃるであろうし、集荷してもらえるならば、出荷する作物はつくれるんだけれどもと言われる方もたくさんおられると思います。この集荷については、モデル事業として行われているということでしたけれども、その実績と、また、課題等ありましたらお答えください。再質問とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

本年度におきまして、有限会社きくち観光物産館を委託先といたしまして、実施しております農産物等ピックアップサービスモデル事業につきましては、物産館への搬入が困難な生産者への負担軽減と、物産館の売り上げ拡大並びに農家所得の向上を目的として実施しております。

ご質問の集荷の状況につきましては、まだ事業の途中で実績が出ておりませんので、聞き取りによるところでございますが、昨年５月からことし２月末まで旧菊池市において延べ１４１回の集荷を行っておられます。このうち中山間地域への集荷は延べ２９回で、集荷した農産物は、地域特産の菊芋やヤーコンを初めとして、米や野菜、お茶や果樹及び加工品となっております。

課題といたしましては、売り上げによる利益に対し、人件費や車両の燃料費・維持費などの経費が高くなっておりまして、また運転手の確保が課題であるということで伺っております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　ピックアップ事業として集荷をされているということでございました。また、１４１回、中山間地域に関しては２９回ということでありますけども、わずかこの回数にしても、大変助かっておられる方々はたくさんいらっしゃるのではないかと思っております。

また、課題として、維持経費が問題となっているというようなことでございました。このような事業を行う上で、必ずといってよいほど出てくる問題ではないかと思いますけれども、これからこのような、この集荷という事業というのは絶対必要となってくるものだと思っております。これから国、県、またＪＡ、そのあたりと協力、または要望しながら、ぜひ確立をしていただきたいと思っております。

これから中山間地域の農業に対しては、その地域に見合った施策に取り組んでいかなければならないということを提言しまして、次の質問にまいります。

次に、花房坂周辺公園整備についてお尋ねをいたします。

この花房坂周辺公園整備につきましては、昨年１２月の第４回定例会において質問をさせていただきました。その中で、これからの公園整備は、地元の方々の意見や考えをしっかりとお聞きし、地元の方々にとってより身近なものであるべきであり、そのためには、ワークショップなどを開くべきではないかと考えを述べさせていただきました。

それに対し迅速な対応で、この花房坂周辺公園整備についてのワークショップを２月２０日に花房支館で開いていただきました。これは江頭市長が掲げておられる市職員の意識の向上、問題意識への高まりのあらわれであり、大変評価すべきだと思っております。今後、ますますこのような対応をしていただきますよう、まずはお願いをいたします。

そこで、開催されましたワークショップには、花房校区の方々はもちろん、周辺地域の方々も関心を持って参加をされました。合計３４名の参加を得まして、淵邉部長を初め職員の方々、測量設計請負元の株式会社オオバ、後藤議員と私も参加をしまして、活発な意見が出ておったと思います。

そこで、思いましたのが、これまでの公園建設において、このような意見の集約的なものが行われてきたのか疑問に感じましたので、これまでどのような経緯で公園建設までされてこられたのかをまずお答えください。

次に、先日のワークショップは、一つに、対象地の課題と魅力の抽出、また、もう一つとして、たたき台案の改善点の抽出、この２点をもとに行われたものであり

ますが、本市においてどのようにその集約をされたのか、お聞かせください。

三つ目に、２回目のワークショップの計画もされているとお話があっておりましたが、今後の予定はどのようになっているのか。

この３点について、よろしくお願いいたします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　それでは、緒方議員のご質問にお答えしたいと思います。

公園整備に伴う意見聴取につきましては、平成２５年度に整備しました泗水町桜山にございます、さくら山公園を例にお答えしたいと思います。

このさくら山公園整備に先立ちまして、平成２４年度に桜山地区９区の区長さんと各区の代表の方、合計２２名のご参加により、桜山公園づくりワークショップを開催しております。

このワークショップの中では、施設の配置、デザイン、植栽の樹種について、皆様のご意見をお聞きし、多目的広場ゾーンにグラウンド、遊び場ゾーンに遊具、休憩ゾーンにトイレやベンチ等を整備しております。

次に、花房坂周辺公園のワークショップの意見の集約でございますけども、このワークショップにつきましては、花房校区の住民の方を初め、校区外の方にも参加を募り、２月２０日に第１回目を開催し、議員ご指摘のとおり、３４名の方々のご参加をいただいたところでございます。

花房坂周辺のよいところ、または課題等さまざまなご意見をいただきましたので、今後の公園設計に反映していく予定にしておるところでございます。

次回のワークショップの開催の時期としましては、今のところ３月の下旬を予定しております。第１回目のワークショップの意見を反映した設計を提示させていただきまして、再度ご意見をお聞きする予定としております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　最初の質問、これまでの公園整備においてもワークショップなどを開催されて、市民の方々や地元の方々の意見の集約というのは十分にされておられたとのことでした。やはりこの公園というものは、地域の皆さんに利用していただくことが一番だと考えます。地域の皆さんが憩いの場として利用されているということで、まずは安心をいたしました。

では、次のワークショップにおける意見の集約についてですが、まだまとめができていないということでしたけれども、それだけたくさんのご意見をいただいたと

いうことでよいのでしょうか。

私も参加をさせていただきましたが、この今回のワークショップは、参加者がおおむね１０名程度、四つの班編成を行い、株式会社オオバの方の進行でワークショップが始まりました。まず模造紙というんですか、広い紙がありますけれども、それに予定地、対象地が図面化されておりました。また、別におおむね５センチ四方の用紙、これが三つの色に分けて用意してあり、その色分けした紙にそれぞれの意見を書いて、その模造紙、予定地、対象地が図面化されております模造紙に張りつけていくという作業でありました。色分けについては、課題、また改善すべき点についてが赤色、魅力についてが青色、その他について、これが黄色というふうに分けてありまして、進行された株式会社オオバの方も、ワークショップは何度も開いておられるようで、このようなワークショップについては、魅力についての意見はなかなか出ませんけれども、課題や改善すべき点に集中してしまうというお話でした。

今回のこのワークショップについても、多分に漏れませず、赤色一色となりました。課題や改善すべき点が大半を占めたというわけです。一つの班におきましては、模造紙に張り切れないくらい赤色の紙が張ってあって驚いたところでもありました。本当にたくさんのご意見をいただきました。

このワークショップが終わりまして、後藤議員ともお話をしましたが、たたき台案の中で、公園まで行く道路について、それともう一つ、中腹につくる予定のあずまやについて、少なくともこの２点については、ぜひとも改善していかなければならないという考えで一致をしたところでありました。

そこで、３点目の今後の予定についてですが、３月下旬に２回目のワークショップを開催する予定であるというお考えでありましたけれども、先ほども申しましたけれども、国道から公園まで行く道路について、これについて地元の方々から、道幅が狭いということであったり、また、渋滞などしたらどきゃんしようと。それから、泗水方面、坂の上から来た車などが、その公園まで行く道に回るのを、もう極端にＵターンするような感じになりますので、危険度が大きいんではないかというような多くの意見が出ておりましたし、あずまやについても、中腹では見晴らしが余りよくないのではないか。周りの桜の木が大きくなったら、展望どころではなくなると。また、その場所的にも、国道からの車の事故も以前に起こっているという意見も出ておりました。公園などつくってしまってからでは改善のしようがなかなかできない状態だと思います。

今回出たたくさんの意見を全て取り入れるのは不可能ではございますが、可能な限り取り入れられて、また、改善すべき点はしっかりと改善し、これから２回とい

わず、３回、４回のワークショップを開催し、それにより地元の方々や近隣の方々もより身近な公園と認識され、自然と維持管理等についてもよい方向へ向かっていくものだと考えます。早急な公園整備となってしまわないよう、しっかりとこれからも検討されることを強くお伝えして、次の質問にまいります。

次に、コミュニティナースについてお話をさせていただきます。

私は、このコミュニティナースという言葉をあるテレビ番組で知りました。その時点では、このコミュニティナースという人材は、その対象地域にいて、看護師ときしてできる範囲、例えば血圧をはかったりとか、健康状態の相談を受けるといったものだけだと解釈しておりましたが、実態を調べていくうちに、それではないことに気がつかされました。

まず、このコミュニティナースとは、当然医療行為自体はできませんが、病院や福祉施設、訪問看護に従事する看護師とは異なり、地域の中で住民とパートナーシップを形成しながら、その専門性や知識を生かして活動する医療人材のことです。

以前は、家庭内や地域の中で支え合っておりましたが、それができない時代になってきておりますし、昔から続いていたお祭りなど伝統行事ができなくなってきている。また、老老介護と言われる高齢者による高齢者の介護などが問題になるなど、近年、地域コミュニティは限界を迎えようとしていると言われております。

そこで、地域の住民と住民との間に入ることで、つながりを再構築し、地域の中の支え合いを取り戻し、地域で中長期的にかかわることで、健康なまちづくりに貢献することを目指しているのがこのコミュニティナースです。

また、どのような看護活動が求められているか、住民や他分野の人たちと一緒に考えるという特徴もあります。簡単に言えば、いつも地域の中にいて、健康なまちづくりをする医療人材と言えるでしょうか。

さらに、先日、猿渡議員の質問がございました中に、福祉分野での地域との協働について、この質問のお話を聞きながら、まさしく、その一翼を担う人材がこのコミュニティナースであり、本市にとっても必要な人材であると確信をしました。本市においても、さまざまな保健等の取り組みをされていることはお聞きました。私はそのことを否定するものではなく、大いに行っていただきたいと思っております。

そこで、お尋ねをいたします。

今現在行っておられる保健福祉分野におけるその取り組みについて、どのようなものをされているのか、お答えをお願いいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　皆様、改めまして、おはようございます。それでは、

私のほうからは、保健福祉分野の取り組みについてご説明させていただきます。

緒方議員が言われましたとおり、コミュニティナースとは、地域で生活する人を対象に、ふだんから健康意識を高めるアプローチや、医療や福祉、行政機関への橋渡し等を行う看護職と聞いております。

本市では、市民の皆様の健康や生活支援につきましては、各課で対応しておりまして、次のような取り組みを行っておりますので、紹介させていただきたいと思います。

まず、健康推進課におきましては、健康な地域づくりを進めていく中で、市民の皆様が自分の体を理解していただき、生活習慣の改善につなげることができるように、特定健診等の生活習慣病健診や各種がん検診を実施・推進しております。

その中で、特定健診未受診者の方には、電話や相談、訪問にて受診勧奨を行うとともに、健診を受診された方に対しましては、健診結果をもとに、生活習慣病の発症予防及び重症化予防を目的に、保健師や管理栄養士にて家庭訪問を行っており、把握した課題につきましては、関係機関につなぐなど連携をとりながら支援を行っているところでございます。また、妊婦や乳幼児等にも相談や訪問を通して、必要な支援を行っております。

福祉課におきましては、公的なサービスだけではなく、地域住民が主体的に課題を解決し、地域を支えていく仕組みづくりが必要であると考えております。

そこで、地区社協や地域福祉委員、民生委員・児童委員等の地域福祉活動を支援するとともに、市社会福祉協議会と連携して、地域福祉フォーラムや、心のネットワークフェア等を開催し、地域福祉についての理解を深めていただくための啓発を行っているところでございます。

次に、高齢支援課におきましては、介護予防が必要な高齢者を早期に発見するために、介護士・看護師・歯科衛生士・管理栄養士が地域の高齢者を訪問し、生活の状況・健康状態を把握し、必要な介護予防につなげているところでございます。

訪問活動におきましては、介護保険サービスに関する相談や、高齢者の健康に関する相談、それから経済的な相談などがございまして、地域包括支援センターの保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員につなぎ、問題解決のための支援を行っているところでございます。

住民の地域における活動につきましては、いろいろな形態があると思いますが、コミュニティナースとしての活動は、近隣市町村では実例がございませんので、有効性等につきましても、今後、研究してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　本市におきましても、今、回答をいただきましたように、しっかりとした施策をされておられます。考えをもっと広げるならば、さらに多くの施策がなされており、それぞれに大切なものであるということは皆さんも認めるところだと思います。しかし、一生懸命このような施策がなされていることが、なかなか市民の方々お一人お一人に伝わらないもどかしさを覚えた経験もお持ちだと思います。ただ声を大きくして伝わるものではないと、保健福祉分野の難しさを感じました。

そこで、ふだんから健康意識を高めるアプローチや、病気の早期発見、医療や福祉行政、そういう機関への橋渡しをし、病院、クリニックの看護師、訪問看護師、保健師がカバーし切れない領域で活動して、必要に応じて専門家とのかけ橋になり、多くの施策がより多くの市民の皆様に伝えることができるのが、このコミュニティナースであり、より顔の見える関係だからこそ、これらが円滑にできてくると思われます。まさに、地域力を高めていく人材ではないかと思っております。江頭市長が掲げておられる、安心・安全の「癒しの里」きくちのためにも、ぜひとも必要な人材となると思います。

これから私もしっかり調査研究しながら、具体的な施策等をお示しできるようにしてまいりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、次の質問にまいります。

ジュニアスポーツ大会についてお尋ねをいたします。

私たちが運動することは、身体面、精神面など、いろいろ役に立っていることは皆様もご理解されておられると思います。また、大人から子どもまで一緒に体を動かすことで、地域の輪も生まれます。

私も、地元の小学生と一緒に、長年、バレーボールをしてまいりました。以前はよかった身体的な指導、これは近年は身体的、精神的体罰となって、指導者としての指導能力がより大切にもなってまいりました。

また、ジュニアスポーツにおいては、学校体育から社会体育へ移行しましたが、体育施設の維持管理に必要な利用料の問題など、一般質問もされておられます。

そこで、一つ目に、本市において、ジュニアスポーツクラブの学校体育から社会体育に移行した後の現状はどのようになっているのか、お答えをいただきます。

二つ目に、本市登録のジュニアチームが主催をして開催をしている大会等があることはご存じでしょうか。例を挙げてみますと、本市登録チームである泗水ジュニアバレーボールクラブが、ちょうど今月の１６日に旭志体育館と旭志中学校体育館

で開催されます菊池ＦＦバレーボール大会というものがあります。今回が１３回目の大会となり、１６チームの参加という大会になるそうです。６年生最後の大会と位置づけられて、指導者、保護者、また、子どもたちも一緒になってこの大会をつくりながら、６年生にとって、より思い出深い大会になるように頑張っておられます。しかし、その大会の運営において、厳しい現状であるとのお話も伺いました。

そこで、このような本市登録チームが主催する大会において、特に施設使用料の減免というものですが、ゆうり基金の活用も含めて、どのような支援があるか、お答えください。お願いします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、緒方議員のご質問にお答えをさせていただきます。一部、昨日の大賀議員の答弁と重複をするというところがございますが、ご理解いただきたいと思います。

１点目のジュニアスポーツクラブに登録されている団体数でございますが、小学校運動部活動の社会体育移行に伴いクラブ化をした団体が１５団体、以前から活動されている団体が４６団体、総合型スポーツクラブが１団体ございますので、合計６２団体が活動をされているということになります。

次に、施設使用料等の減免等でございますが、本市のジュニアクラブチームにつきましては、会員数が５名以上であり、その半数以上が菊池市在住であることを要件に認定を行っております。

施設の使用料につきましては、社会体育移行に伴い新たに発足をしましたクラブチームの場合は平成３１年度まで全額免除といたしております。また、従来のクラブチームの場合は２分の１免除としているところでございます。

大会時の施設使用料につきましては、市外の参加者も多く見込まれること、スポーツ店などの民間企業が主催をする大会が多いこと、それから参加費を徴収される場合が多いことなどから、減免の対象とはいたしておりません。

ただし、先ほどお話がありましたジュニアスポーツクラブの登録チームが主催をされる大会の場合は、ゆうり基金補助金の申請をされますと、施設使用料を含めた大会経費について、３万円以内の補助を受けられるようにしているところでございます。

施設の使用料につきましては、施設の維持管理に必要な経費でもございます。利用者負担の原則からも、ご理解をいただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　学校体育から社会体育へ移行した後の本市の登録チームが、既存の４６チームから新規の１５チームを加えた、また、総合型スポーツチーム、全６２チームと。このようにふえたということは大変よい結果だと言えるのではないでしょうか。

また、これから総合型スポーツといったものの考え方から、子どもたちも自分に適した、または自分のやりたい種目などの選択の幅が広がるということはよいことだと思います。

次に、本市登録チームの主催する大会への支援についてですが、まず減免対象にしていない理由の中に、菊池市以外の参加者も多く見込まれるというようなお話がありました。しかしながら、大会を開催するには本市登録チームの数だけでは大会自体が成り立ちませんから、当然菊池市以外、また、県外のチームに参加を呼びかけるのは当たり前のこととなると思います。

その際の捉え方として、観光という観点からだけではなく、大会への参加が主になりますが、そこにはお弁当であったり、飲み物の購入や、帰り道には物産館などへ立ち寄って帰られるなど、菊池市へ来てくださるというような考えの転換も必要ではないでしょうか。そして、新たに菊池市を見て、知っていただくことは本市にとってもプラスになることと考えます。このようなことはもっと柔軟に対応すべきで、今後の課題としていくべきものの一つだと思っております。

そこで、大会への支援策ですが、今も活躍されております女子プロゴルファーの不動裕理さんの協力で設けられたゆうり基金により支援を行っているとのお答えでした。私の取り違いでなければ、以前、この基金は施設使用料へは使えなかったと思いますが、現在は使えるようになったとのことでした。利用範囲が広くなったということはよいことですが、どうしても大会の運営が厳しい状況であるということならば、その補助金の金額、今、３万円ということでございましたけども、少しでも上げて支援することも大切ではないかと考えます。

ただ、やみくもに金額を上げてくださいということではございません。この基金を利用する場合、大会の会計報告の義務があると思います。その報告書から、改善すべきところや、もう少し支援すべきところ、そういうものも見えてくるのではないかと思います。このような作業というのは必要になってくるのではないでしょうか。

これからもスポーツを通して、子どもたちの健全な成長を願う上からも、ぜひ検討していくべきであるという思いをお伝えして、私の質問を終わりますが、終わりに、ことし３月をもって退職される職員の皆様方の長年にわたる市発展のために努

力されてこられたことに敬意をあらわしますとともに、議員１年生の私の拙い質問にもしっかりと受け答えをしていただきました。幹部職員の方々にお礼を申し上げ、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　これで、緒方哲郎君の質問は終わります。

ここで昼食等のため、休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１１時４０分

開議　午後　零時５９分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　皆さん、こんにちは。議席番号６番、日本共産党、東奈津子です。通告に従って、質問を行っていきます。

まず最初に、菊池市の徴税業務について質問をいたします。

国民健康保険税など高過ぎる税金が市民生活を圧迫する中、病気や失業、所得の激減などで国保税が払えず、差し押さえとなるケースが全国各地で起きています。２０１５年度では全国で２９万８，０００件に達しています。中には情け容赦なく財産が差し押さえられている実態もあります。２００８年には熊本県宇城市三角町三角港で軽ワゴン車が海に転落、乗っていた家族７人のうち６人が水死、実況見分でブレーキをかけた跡はなく、市税を滞納していた６０代の男性が移動販売用の車を市にロックをかけられ、差し押さえられ、体調を崩した上に、移動販売車を動かせなくなって、将来を悲観しての一家心中でした。国や自治体の差し押さえによって、市民生活が破壊されることを示した事件ではなかったでしょうか。

もちろん、菊池市において担当課の職員の皆さんが、国保税を初め税金を払えない方に対して、窓口で納税相談にしっかり乗って、分割の納付などの措置をとる丁寧な対応を心がけておられることは理解をしております。しかし、この滞納差し押さえ問題というのは、一歩間違えば命にかかわる問題です。問題があればしっかりと正さなければならない、この思いで、今回、この問題を質問で取り上げました。

まず最初に、菊池市の差し押さえの実態についてお聞きします。

過去５年間の差し押さえの件数、金額についてお答えください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　ただいまの東議員のご質問にお答えいたします。

市税及び国民健康保険税の差し押さえにつきましては、法令にのっとりまして、適正に事務処理を行っておるところでございます。

お尋ねの平成２５年度からの５年間の差し押さえの人数及び換価の金額について、説明させていただきます。

平成２５年度延べ３９２人、３，１６３万８，００４円でございます。平成２６年度延べ６２５人、３，８８２万３，０９６円、平成２７年度延べ７８８人、４，３２１万５７７円、平成２８年度延べ４６９人、３，４１１万１，２７３円、平成２９年度延べ１，０５５人、５，８１９万２５７円となっております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　この５年間で差し押さえ件数は３，３２９件、金額で言えば２億５９７万３，２０７円にも上っています。平成２９年度は、その前の年と比較して件数で２．６倍、金額も１．８倍に上っています。

ちなみに、合志市ではどのぐらいの差し押さえがあっているのかというのを調べました。ちょっと年度がずれて、平成２４年度からの５年間の差し押さえ件数となりますが、全体で１，７３２件、７，０１０万４００円、合志市と比べても件数も２倍近く、金額に至っては約３倍となっています。

この質問を準備するに当たって、平成１７年度、合併してからの件数も調べましたら、昨年度、平成２９年度は、平成１７年度と比べて、件数は１３倍、金額は１８倍となっております。

県全体と比較したらどうなるか。私は平成２６年度、１年間の県の資料がありましたので調べました。国保税の差し押さえ件数は、県内で菊池市は断トツに高いです。市レベルで見ても、ほとんどの市が１００件から２００件台、一番少ないのが宇土市で３１件、近隣市の合志市は２５８件、山鹿市は１７９件、菊池市は６２５件あります。人口の一番多い熊本市の６３４件と肩を並べております。この数字から、困窮者など市民の暮らしに寄り添った徴税業務が行われているのか、率直に言って疑問を感じます。

そこで、再質問をいたします。

平成２９年度には１，０５５件の差し押さえが行われていますが、どういったものが差し押さえられているのでしょうか。内容と、その件数をお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　平成２９年度に執行いたしました差し押さえの種類等につきまして、説明をさせていただきます。

不動産延べ３２人、換価金額０円、動産５７品、換価金額０円、国税還付金延べ７４人、換価金額２０３万４，５４５円、給料及び年金延べ５６人、換価金額１，７３７万４，４９９円、預貯金延べ７５２人、換価金額２，１６３万８，４２８円、賃貸料延べ３人、換価金額８１６万５２７円、生命保険延べ３１人、換価金額３０１万１，３２７円、自動車延べ７人、換金額１万１，６５０円、交付要求延べ６人、換価金額６万７，９５７円、その他の債権延べ３７人、換価金額５８９万１，３２４円となっております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　今、答弁がありましたが、預貯金の差し押さえが前年より約３倍にふえています。この預貯金の差し押さえについて、具体的にお聞きしておきます。

ご承知のように、国税徴収法により、給与、年金の生活費相当分、児童手当などの福祉給付などは差押禁止財産となっており、これをねらい撃ちにした差し押さえはできないこととなっております。差し押さえには厳密なルールがあります。

そこで、お聞きします。

預貯金の差し押さえで、最高額と最低額をお聞かせください。また、先ほど述べました差押禁止財産とされる児童手当や年金の差し押さえなどの状況があればお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　再々質問にお答えします。

まず、預貯金の差し押さえの実態につきましては、各年度ごとの差し押さえ時における換価金額の最低及び最高の金額をお答えいたします。

平成２５年度、最低２８０円、最高８２万３，４６０円、平成２６年度、最低１１円、最高１３２万２，７９１円、平成２７年度、最低４７円、最高１２９万７，５８０円、平成２８年度、最低１１円、最高４７万１，５２４円、平成２９年度、最低２０円、最高７３万６，８２０円でございます。

なお、最低額が１００円未満につきましては、差し押さえ通知到達時の預金残高で差し押さえを執行したものでございます。

それと、先ほど児童手当等につきましては、児童手当法に基づき差し押さえが禁

止されております。

また、児童手当法の趣旨に鑑みまして、児童手当が振り込まれたときに差し押さえということはしておりません。

年金につきましても、地方税法がその例としております国税徴収法に基づく差押禁止額を上回った場合は差し押さえはしておりません。ただし、滞納者本人の承諾を得た場合はその限りでないとありますので、生活に支障がない等、本人と相談の上、徴収した事例はございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　児童手当の差し押さえは行っていないということであります。

ここで、問題にしたいのが差し押さえの最低金額です。昨年で２０円、おととしに至っては１１円です。もちろん事務手続上の、今、部長答弁にありましたさまざまな理由はあるかと思いますが、平成２６年度から数十円の差し押さえが結果として最低として続いております。差し押さえを行うには、金融機関に照会をかけたり、書類の郵送など諸経費がかかります。どう考えても差し引き赤字です。無益な差し押さえと言わざるを得ません。国税徴収法では、このような無益な差し押さえは禁止されております。

そこで、このような差し押さえを行う金融機関への照会をどれくらい行っているか、お聞きします。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　調査の件数につきましては、調べておりませんので、後ほど答弁させていただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　調べてないということで、今、答弁がなかったんですけど、私、事前に調べました。昨年１年間だけでも２，３７９人、１万４，５７８件の照会が行われております。正直、この件数に驚きました。これが多いか少ないのかというところでは、またちょっと合志市を比較しますが、合志市も多いということで議会で指摘を受けておりますが、合志市は、平成２７年度１年間で５，８８０件、年度が違うんで、単純な比較にはなりませんが、菊池市は２．４倍となります。

この照会というのは、金融機関にどれぐらい個人の財産があるかという照会は慎

重にならないといけない問題です。職員の方にはしっかりとこの照会を行うことのできる権限の大きさを考えてもらいたいと思います。

民間のサラ金業者は、銀行に対して、この人、預貯金持っていますかという問い合わせをしても、個人情報ということで絶対に教えてはもらえません。しかし、役所は権限を持っています。法律に基づいて調べると、ほとんど金融機関は回答します。そういう意味では、役所は権限を持っているし、調べようと思えば、どこまでも調べられます。しかし、国税徴収法１４１条には、あくまでも財産調査は必要と認められる範囲内で調査すると決まっています。菊池市の照会の実態を見ると、数の上だけではありますが、本当に必要な範囲の調査なのか、かなり疑問があります。やはり預貯金の調査、そして差し押さえに関しては慎重に慎重を期すべきである。このことを指摘しておきます。

また、生命保険の差し押さえが、過去５年間で１７１件にも上ります。生命保険は差押禁止物件にはなっていませんが、これも慎重にならないといけません。なぜなら、二十歳で入るのと、５０歳で新たに保険に加入するのでは、条件も金額も全然違います。したがって、今、解約されると困るというケースも出てきます。あるいは、１カ月後、２カ月後に病院にかからないといけない人の生命保険も差し押さえるのかと、こういうことは禁止されています。生命保険というのは慎重に判断をしなければいけません。

次に、生命保険関連でもう１点お聞きします。

過去５年間、生命保険の差し押さえの中に学資保険は含まれていますか、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　ただいまの質問にお答えします。

学資保険が含まれているものもございます。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　含まれていると答弁ありましたけれど、これは私も調べました。菊池市では、この５年間で２１件も学資保険が押さえられております。たびたび出して申しわけないんですけども、合志市も平成２４年度からの５年間は押さえていますが、これはたったの３件、菊池市は７倍にもこの学資保険の差し押さえがあります。

学資保険も禁止物件ではありませんが、今の時代は進学にお金がかかります。子

どもの教育費として積み立てられた学資保険を差し押さえるのは、子どもたちの学ぶ権利まで侵害することになります。国税徴収法７５条には、禁止財産として、滞納者またはその者の生計を一にする親族の学習に必要な書籍及び器具と規定し、教育を尊重し、これに必要な財産の保護を目的としています。

この国税徴収法の原型は、実は明治時代につくられて、３４年間改正されておらず、したがって、もう５０年前には教育に必要なものは書籍及び器具だったかもしれませんが、今は学資保険も必要になっております。子どもたちを進学させるために積み立てておかなくては、高校や大学に進学させられません。憲法の精神からも、地方自治体が容赦なく学資保険などを差し押さえるべきではない。直ちにこれは中止すべきであると指摘しておきます。

次に、質問します。

昨年、２９件あった動産の差し押さえ、物品の差し押さえですね。これについて質問します。

ここに、過去５年間の差し押さえの一覧表があります。何を差し押さえたかという、これを見ますと、高額なものは軽自動車の見積額１０万円が１件、次に高いのがファンヒーターが１万５，０００円の１件、あとは多くが見積額１００円から３００円、５００円の品物です。一番安いのが５０円の硬貨、さらに驚いたのが見積額２００円の仮面ライダーのフィギュア、２００円の新幹線の模型、子どものおもちゃの類いまで差し押さえを行っております。換価を行ってもほとんど意味のない少額の品物をなぜ差し押さえをされるのですか、目的を教えてください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　ただいまの質問にお答えいたします。

市税及び国民健康保険税につきましては、地方税法の規定により、納期限を過ぎ、かつ督促の通知がなされてもなお、納付がない場合は差し押さえを執行することとなっております。

本市におきましても、税の公平負担の観点から、差押禁止財産及び生活に支障があるものを除き、金額の大小にかかわらず公売に付し換価を行っておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　法律に基づいて行っていると。税の公平負担の観点から行っているという答弁がありました。

実際には多くは執行停止ですね。もう小さいものを押さえて、これ以上支払い能力はないと。執行停止をかけるための少額の差し押さえになっているのかなと思いますが、国税徴収法では無益な差し押さえは禁止されており、このように、物を差し押さえなくても執行停止はできます。

徴収法第４８条では、差し押さえることができる財産の価値、処分予定価格が滞納処分費用と滞納租税、国保税より優先して回収される税金等の金額を超える見込みがなければ、差し押さえ・換価したところで、滞納租税、国保税の回収に役立たないので、差し押さえ、本来できない、こう書かれています。

これは差し押さえるのが、差し押さえたものが滞納額を上回らない場合には差し押さえは本来できないというふうに私は読み取りました。２００円や３００円の見積もりのタオルや子どものおもちゃなど、捜索をして持って帰ってきて、それを売って、一体どれだけの返りになるのでしょうか。滞納している人の滞納額に占める割合のどれだけになるのか。これは、やはり私は無益な差し押さえと言われても仕方がないと思います。

また、これをこういう差し押さえをやる理由として、周知啓発、公売会にかけて、滞納をするとこういうことになるよと市民に周知する、啓発するという意味もあるかと思いますが、もちろん払えるのに払わない悪質な滞納者には、きちんと市として対応することは必要だと思います。しかし、そういうケースが滞納者の多数であると私は思いません。圧倒的には、払いたくても払えない生活困窮が主な要因だと思います。果たして、これで収納率が上がっていくのか、市民の生活は再建していけるのか、こういう無益な差し押さえはすべきではありません。こう思います。

国税徴収法では、納税者を守る規定もしっかりと書かれてあります。ぜひ職員の皆さんは、差し押さえのルールだけではなく、この守るルールの規定をしっかりと研修していただきたい。このことを指摘しておきます。

では、なぜこのように滞納が減らないのか、どうすれば根本的な解決につながるのか、私は滞納を生み出す根本的な原因を考えることが重要だと思います。

ご承知のように、滞納で一番多いのが国保税です。平成２６年度の県の資料で調べましたら、菊池市の滞納の差し押さえ件数６２５件中、全てが国保税の滞納でした。

そこで、質問をいたします。

改めて、国保税の過去５年間の滞納者数と金額、そして、国保世帯における滞納者数の割合をお聞かせください。また、なぜこのように滞納が減っていかないのか、市としてその原因は何と考えますか、お聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　ただいまの質問にお答えいたします。

各年度における滞納者数につきましては、集計上、課税年度ごとの集計をされておりますので、延べ人数で答弁をさせていただきたいと思います。

平成２５年度の滞納繰越者数及び滞納繰越額は、３，２３９人、７億２，１５７万４，００４円、同じく平成２６年度、２，９１５人、６億９，９９８万１，２１６円、平成２７年度、２，７９７人、６億７，４６７万８，４０７円、平成２８年度、２，４８４人、６億２，７７２万６，９３３円、平成２９年度、２，１８６人、５億６，９８２万９，７５５円となっております。

また、滞納が減少しない原因は何かということでのお尋ねでございますが、発生する原因は、一概にはお答えできないのですが、経済的、社会的要因、滞納者の個人的要因もございまして、滞納が発生しているものと考えます。

また、納税に対するモラルの低下も一つの原因ではないかというふうに考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　幾つか原因としては述べられましたけども、最後に述べられたモラルの低下、つまり、個人の問題であるという答弁もありました。私はこの回答は大いに疑問があります。もちろん払うことができるのに払わない、悪質な滞納者はいないとは言えません。しかし、こういう事例は少数ではないでしょうか。全国でも全体の３％ぐらいかと言われております。ほとんどの滞納者は払いたくても払えない状況ではないでしょうか。

今、同時に答弁があったように、菊池市でも国保世帯の１割を超える方が国保税が払えなくて、短期保険証の発行となっております。つまり、答弁の最初に言われたように、根本の原因は経済的な要因、つまり、高過ぎる国保税にある、こう思います。減免措置もいろいろありますが、しかし、減額されても負担能力を超える国保税が強いられている。だから、これだけの短期証の発行となっています。ここをしっかり見る必要があります。

ここで、生活困窮者の滞納者に寄り添いながら、収納率を改善している取り組みが始まっている自治体の例として、滋賀県野洲市の取り組みを紹介します。

野洲市の場合、差し押さえ率は３．４％という低さ、ほとんど差し押さえを行っておりません。収納率が低いかというと、そうではありません。２０１７年度の収納状況は、現年度分で個人市民税が９９．０４％、法人市民税９９．８９％となっ

ています。野洲市の滞納処分が注目されるのは、単に差し押さえが少ないというだけではなく、また、収納率が高いということだけでもありません。それを実現している行政手法、つまり、どのような取り組みを行っているのかが全国で注目されています。

野洲市債権管理条例では、「ようこそ滞納いただきました条例」と言われるものが市のホームページにあります。同じホームページに「ようこそ滞納いただきました」とする言葉もあります。この野洲市の市長がおっしゃるには、これは温情主義ではないと。ビジネス的見地からの手法であると。つまり、問題が深刻化する前に手を打つことで、行政コストを減らす手法であり、部署を横断する相談体制と就労支援に至る生活再建型の滞納処分が最も有効とのことです。滞納はそのシグナルとして受けとめるので、ようこそということです。

野洲市では、少数の差し押さえは連絡がとれないなどの案件に限定して、できるだけ生活再建型の滞納処分を基本としていることです。病気において早期治療が重要であり、そのことが医療コストを下げることは広く理解されております。野洲市の取り組みは、まさにこれに当てはまるのではないでしょうか。経済的問題も深刻さが増す前に手を打てば生活再建ができ、滞納した税金を支払うことも可能となる。それを経済的困窮を無視して、国税徴収法すら違反しての滞納処分は、かえって行政コストを増加させます。

最後に、市長にお聞きします。

今回、菊池市の徴税業務の実態についてお聞きしましたが、この間の差し押さえ件数、金額、内容等を見ても、市民の暮らしの厳しさを顧みない差し押さえの強化がなされていることが懸念をされます。先ほど紹介した野洲市の事例にも学び、困窮者の生活に寄り添った徴税業務のあり方に変えていくべきと思いますが、どうでしょうか、見解をお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　とりわけ生活困窮者に対する徴税、あるいは差し押さえの考え方ということでございますけども、今、本市におきまして、累積となっております多額の滞納繰越額があるというのは厳然たる事実でございます。こうしたことに向けて、市税、それから国保税のみならず、債権管理の一元化に向けて、先進自治体の事例に倣いまして、組織体制の見直しの検討を始めたところでございます。

しかしながら、生活困窮者に対しては、それぞれのやはりご事情、それから、議員がおっしゃるように、生活再建というものが非常に大事でございますので、徴収等の猶予を行った上で、納税相談等を実施しているところでございます。また、必

要に応じまして、福祉課のくらしサポートセンターと連携を図りまして、滞納者の実情に合った徴税業務ということにも力を入れているところでございます。

今後も、他市の状況も参考としながら、債権の徴収はもとより、生活困窮者に対しては、生活再建も視野に入れた徴収業務を関係部署間で十分に連携させながら行ってまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　納税相談等も行っていらっしゃると、今、答弁がありました。私も十分承知しております。今回、このような質問を取り上げましたが、税務課の職員の皆さんが先頭に立って、必死にですね、やはり市の財政再建と市民の生活と二つのことを考えながら、徴税業務に、相談業務に当たっていらっしゃることは十分承知をしております。

ただ、やはり数の点から見ただけでも、かなり多くの差し押さえがなされておるし、中身的にも無益と言われるような差し押さえも実態としてある。このことはしっかりと受けとめていただきたいと思います。

よく公平性という言葉が言われます。確かに、生活を切り詰めて何とか国保税などを支払っている人も多くいらっしゃいます。だから、滞納の方をそのままにしておくというのはよくないと私も思います。その上で、滞納せざるを得ない実情をよく、さっき市長もおっしゃったように、見るべきだと思います。根本原因は、繰り返しますが、一言で言うと、高過ぎる国保税の構造的欠陥であると私は思います。

この間の私の一般質問でも、菊池市の国保世帯の所得の状況を明らかにしてきましたが、国保は低所得者中心の医療保険、負担できる保険料は限られています。にもかかわらず、中小企業従業員向けの協会けんぽと比べても保険料が高い。県の試算した資料によると、菊池市では年収４００万円、４人家族のモデルケースで、国保だと４２万３５０円、同じモデルケースで協会けんぽだと２０万２，６００円、こんなにも負担の重さが違うんです。

今、全国知事会、市町村会長も、１兆円の国庫負担の増額を求めております。地方自治体の目的は住民の福祉の増進、それは目先の税収確保での滞納は絶対に許さないでは実現できません。この取り組みは、税務課だけの仕事ではなく、野洲市のように各課との連携もぜひとっていただきたい。宇城市の例も冒頭に紹介しましたが、滞納差し押さえの問題は、一歩間違えば命の問題です。滞納者に追い打ちをかける、北風を吹かせるのか、それとも、生活再建で支払えるようにする太陽か、どちらの道を選択するのかが地方自治体に問われています。私は、今、北風ではなく、

太陽の政治こそ、市民にとって必要であると思います。

最後に、改めて困窮者の生活に寄り添う徴税業務を行っていくべきであると指摘をして、次に質問に移ります。

次に、就学援助制度について質問をいたします。

来月、４月から新年度がスタートし、入学、進学など、子どもたちが新しいステージに立つ季節となりました。この時期は子どもの成長を喜ぶ一方で、制服代や通学用品など教育費の負担の大きさに悩む家庭も多いことかと思います。子どもたちが安心して学校で学び、過ごせるように、就学援助の役割がますます大きくなっています。

就学援助制度は、小中学生のいる世帯に学用品、修学旅行費、給食費、医療費などを援助する制度で、憲法第２６条の義務教育は無償、学校教育法第１９条、経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童・生徒の保護者に対しては、市町村は必要な援助を与えなければならない。これに基づいて施行されております。

私もたびたび、この問題を一般質問で取り上げてきました。菊池市は、他市に先駆けて入学準備金の前倒しなど改善に取り組み、教育長を初め執行部の皆さんの熱意に改めて敬意を表します。

しかし、子どもの貧困問題は大きくクローズアップされてはいるものの、現状では解決にはまだまだ大きな課題を抱えています。平成２９年に熊本県が行った、子どもの生活に関する実態調査がありましたが、県全体と菊池市を比較した調査結果、概略ではありますが、見せてもらいましたので、少し紹介します。

「経済的理由で子どもが希望したにもかかわらずできなかったこと」という質問では、菊池市は、学習塾に通えなかったが８．５％、習い事に通えなかったが９％、必要な服や靴を買えなかったが１０．３％、お小遣いを渡せなかったは１１．７％、また、もう一つの質問、「経済的な理由で経験をしたことがある」としての中身は、家族旅行を控えたが３４．３％、必要な服や靴を買うのを控えたが２２．６％、食費の切り詰め２５．４％、税金の滞納１２．９％、このような結果が出ています。菊池市においても子どもの貧困の解決は待ったなしの状態です。

そこで、最初に、２点お聞きします。

１点目は、支給の現状です。過去３年間の人数と割合をお聞かせください。また、あわせて、昨年１０月から生活保護基準が削減されましたが、就学援助制度への認定基準への影響はありますか。

２点目は、支給内容と制度の周知の徹底についてです。国が定めた支給内容で、菊池市ではまだ支給されていない品目が４項目あります。クラブ活動費、生徒会費、ＰＴＡ会費があります。また、今年度から国の内容に卒業アルバム代が加えられる

予定です。菊池市の支給内容に、国の示した内容のとおりこの四つの科目を加えるべきと思いますが、どうでしょうか。

また、この制度の周知についてですが、現在、小学校の就学前説明会でプリント配布と説明が行われ、在校生には毎年、プリントが配布されていますが、これだけでは必要とされるご家庭への周知が不十分だと思います。市のホームページの１年を通した掲載や、子どもたちの家庭の状況を一番詳しく把握している保育園の先生方、学校の事務以外の先生方への制度の熟知を求めますが、どうでしょうか。

以上、お聞きします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、東議員の就学援助制度のご質問にお答えをさせていただきます。

１点目の、本市の就学援助制度の支給現状における過去３カ年間の支給対象者数及び全児童・生徒数に対する割合ということでございますが、まず、要保護の児童・生徒数は、いずれも年度末現在で、平成２７年度が３２名、平成２８年度が２９名、平成２９年度が２１名となっております。同じく準要保護の児童・生徒数は、平成２７年度が５４４人、平成２８年度が５７３人、平成２９年度が５８８人となっておりまして、合計で平成２７年度が５７６人、平成２８年度が６０２人、平成２９年度が６０９人と、支給対象者数は、わずかではございますが、年々増加の傾向にございます。

また、全体の児童・生徒数に対する支給対象者の割合は、平成２７年度が１４．６％、平成２８年度が１５．４％、平成２９年度が１５．６％となっておりまして、割合についても微増しているという状況でございます。

次に、生活保護基準の見直しで、基準が引き下げられた場合の本市の認定基準はどうなるかということでございますが、本市の準要保護の認定基準につきましては、国の方針に基づきまして、平成２５年８月以前の生活保護基準により認定をしておりますので、生活保護基準が見直しされても影響は及ばないように対応をしているところでございます。

それから、２点目に、本市が支給していないクラブ活動費、生徒会費及びＰＴＡ会費並びに平成３１年度から追加が見込まれます卒業アルバム代等の４項目の拡大についての考え方ということでございますが、県内１４市及び菊池管内２町の、本市を除く１５市町を調査しましたところ、クラブ活動費、生徒会費及びＰＴＡ会費の３項目を支給しているのは、二つの市のみとなっております。

また、平成３１年度から追加される卒業アルバム代等の項目については、現状に

おいて、平成３１年度から新たに支給を追加する自治体はございませんでした。

以上のことから、就学援助制度の支給項目に新たに４項目を追加するというところは、現在のところ考えておりません。

最後に、就学援助制度を周知徹底するための方法、改善というようなご質問でございます。

現在の本市の就学援助制度の周知方法につきましては、例年１月ごろに小中学校を通じまして全家庭へお知らせのチラシを配布して、広報きくちに掲載し、学校では先生方が各家庭の状況を把握され、必要に応じて本制度を個別にお知らせしていただいている状況でございます。

また、平成２９年度から新入学児童・生徒の学用品費を前倒しで支給しする入学準備金の項目を新たに追加したことから、各小学校で入学前に実施する健康診断の通知と一緒に入学準備金のお知らせのチラシを同封し、さらに、健康診断の当日にも担当者が会場に出向いて、詳しく説明しているところでございます。

さらなる周知徹底の方法につきまして、先ほども幾つかご案内がございましたけども、これまでの申請者の多い時期に限って市のホームページへ掲載をいたしておりましたので、より多くの方々へ周知するために、年間を通して閲覧できるよう改善を図ってまいりたいと考えております。

また、教育・保育現場の先生方に制度を知ってもらうことが大切であると考えておりますので、保育園等の園長先生が集まる会議にお伺いをいたしまして、就学援助制度を説明させていただきたいと思っております。また、学校におきましては、学校事務の先生方を通して先生方へさらなる周知をお願いをするということで、保護者への周知徹底を行いたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　現状についてですけれども、質問をするたびに、直近の支給状況をお聞きしていますが、この３年間で就学援助を受ける率も人数もふえています。子どもの全体の数は減っているのに、援助を受ける子どもの数はふえている。昨年度は１５．６％にもなっているという、本当に深刻だと思います。

まず、保護費削減の影響はないとの答弁だったので、安心をいたしました。今後も影響のないように、ぜひ努めてください。

周知の問題では、改善を図っていくとの答弁でした。ぜひよろしくお願いします。

私も小学生の息子がいますので、毎年、学校からこの就学援助を知らせるプリントを持って帰りますが、かなりわかりやすいように工夫はされていると思うんです

けども、正直、ただこれを読むだけでは難しいかなと思います。申請にまで行き着かないご家庭もあるのではと、このプリントを見て思います。

日本の福祉は申請主義で、保護者が生活保護や就学援助をみずから申請しないといけません。しかし、対象となるべき低所得の階層の人ほど、それらの制度や申請方法についての情報が伝わりにくい、いわゆる情報弱者が多いという現状があります。また、就学前の説明会では多くのプリント類が配布され、就学援助の制度のお知らせのプリントは見落としがちになるのでは、これも申請にまで行き着かないのではと懸念されます。

おととし、福祉厚生常任委員会で研修した沖縄県では、テレビのＣＭでわかりやすく就学援助をお知らせしているとのことでした。もちろんこれは県での取り組みですが、このように、若い保護者の方などにもわかりやすく周知をしていってほしいと思います。

次に、支給内容拡大の問題です。今のところ考えていないという答弁でありましたが、仮に新たに四つの科目を支給したら、予算はどれぐらいになるのでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　再質問の、新たに四つの支給項目を支給した場合の費用につきまして、お答えをさせていただきます。

平成２９年度のベースで算出をいたしますと、小学校で約１４７万円、中学校で約６７４万円、合計で約８２１万円の費用が必要ということになります。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　今、答弁をいただきました。額的には、四つ全部支給となると、確かに小さい額ではありません。

しかし、先ほどの県の実態調査の結果に戻りますが、菊池市において、スポーツクラブや部活に加入していないと答えた子どもたちの理由の７．９％が、加入したいが、保護者に月謝等の負担をかけられないと経済的理由を挙げています。これは県平均の６．７％を上回っています。また、必要と思っていて持っていないものでは、クラブ、部活動などの用具が９．７％、これも県の平均８．０％を上回っています。切実ではないでしょうか。少なくとも国がクラブ活動費などを支給項目の中に入れているのは、援助の必要性があると認めているからです。何も市独自の内容をふやせと言っているわけではありません。私は、これは予算の問題だけではなくて、根本にはやる気の問題ではないかと思います。

最後に、教育長に改めてお聞きします。

子どもたちにとって、セーフティネットとも言われる就学援助制度ですが、教育長は、今広がっている子どもの貧困の実態に照らして、就学援助の必要性をどのように認識していらっしゃるでしょうか。見解をお聞かせください。また、先ほど来述べていますが、支給内容の拡大についての見解も、あわせてお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　ただいまの東議員のご質問にお答えいたします。

就学援助制度は、ご紹介があったとおり、学校教育法第１９条の規定を受けておりまして、市としても必要な援助を行っているところでございます。さまざまな家庭の状況の中、経済的な理由によって、なされるべき教育が受けられないということがないように、どの子どもたちにも一定の教育環境を保障すべきで、教育費負担をできるだけ軽減する必要があるというふうに考えているところです。

東議員がおっしゃるとおり、四つの支給項目の中には、高額な費用がかかる項目もありまして、保護者にとって負担となるということは十分理解しているところでございます。

しかしながら、さきに教育部長から答弁いたしましたように、県内の１５市町では、ほとんどの市町において、ご質問のあった４項目については、来年度においても支給を予定していないというふうな状況でございます。

ご承知のとおり、本市における就学援助の認定基準につきましては、県内のほかの市町と比べるとすぐれた基準で運用しておりますので、まずは現行制度の維持・確保を最優先に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解をお願いしたいというふうに思います。

就学援助制度に新たな支給項目を追加するということは、今現在としては考えておりませんが、引き続き、ほかの市町村の状況を精査しながら、慎重に見きわめてまいりたいと考えております。

また、先ほどありましたような見落とされないような制度の周知についても図ってまいりたいというふうに思っているところです。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　認定基準が、他市と比べると、確かに菊池市は進んでいると、１．３倍でですね。しかし、子どもたちの置かれている実態からは、決してこの制度が、必要としているご家庭にこの基準で満たしているということはできない

と思います。できれば、私は１．５倍にまで引き上げてもいいくらいの、今、状態ではないかと、子どもたちはと思います。だから、やっぱり認定基準を理由に内容を拡大できないという、これを妨げる理由にはならないんではないかと思います。

また、他市の動向で、支給をしているところがないということで、ほとんどないということで理由を挙げられましたが、合志市や玉名市は実施をしております。

入学準備金の前倒しは、そういう中でも他市に先駆けて菊池市はスタートをいたしました。この取り組みが近隣の自治体へと逆に広がっていった、いい例だったと思います。

今、全国でも小中学校のこの前倒し支給が７割にも広がっているということで、私はこういう点では先駆けることは何も悪いことではない。ぜひ支給の内容でも、今度は先駆けてほしいと思います。

先ほどのアンケートでは、親の希望どおりに進学できないと思うと回答した親御さんの４６．２％、約半数がその理由に経済的な余裕がない、こんなふうに菊池市の親御さんは答えられております。子どもたちがお金のことを心配しないで学校に通えるように、環境整備を図るのは行政の責任です。

格差、貧困の拡大が広がる中、義務教育のセーフティネットとも言える就学援助制度を充実させることは緊急の課題です。今回、４項目の拡充を要望しましたが、進め方として、四つ一度に全て拡充しなさいと言っているわけではありません。予算的にもすぐにでも可能であるところから、一つずつでも検討して実現をしてほしい。ぜひ教育長の決断をしていただきたい。このことを重ねて要望しまして、私の一般質問を終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、東奈津子さんの質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時５２分

開議　午後２時００分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　皆さん、こんにちは。議席番号１７番、是は是、非は非がモットーの二ノ文伸元でございます。お昼過ぎの気だるい時間だとは思いますが、執行部におかれましては、ご答弁よろしくお願いをいたします。

泗水町、旭志村、七城町、旧菊池市が合併をして、３月２２日をもって、はや１

４年が経過をいたします。その当時、国は、あめ、合併特例債と、むち、交付金削減を使い、合併を強力に推し進め、結果、その流れに乗り合併に至ったものと考えております。その当時、議員の一人として携わり、合併に至る大変さと責任の重さも感じているところでございます。

合併に際し、庁舎の所在地については、市民の不信感を招き、合併解消の動きまで起こり、合意に至るまでには相当な論争、摩擦もあったことを記憶しております。特に泗水地区の方々には、市役所の所在地を花房台に建設することを一丁目一番地の条件としたものの、結果的にはかなわなかったものの、最終的には寛容な心で合意していただいたことで、現在の菊池市があるものと思っております。

しかしながら、合併をしない都市宣言をした矢祭町など、合併をしなかった自治体へのむち、いわゆる交付金削減が、時間の経過とともに、さほど影響がなかったのではないかと思うのは私だけではないでしょう。

合併をした自治体は、最初のあめ、いわゆる合併特例債に踊らされ、１０年が経過し、交付金は徐々に削られ、厳しい財政状況にある市町村も多く、菊池市もその一つであり、職員及び議員の定数削減などが実施されました。

また、箱物については、類似施設が混在し、熊日新聞にも掲載されましたように、菊池市の箱物のだぶつき率は全国でトップクラスにあるようです。

このようなことを踏まえ、今回、財政改革について質問をいたします。財政といいましても、今回は箱物に絞って質問をいたします。

以前、菊池市中期財政試算によりますと、今後４０年間に公共施設の更新にかかる費用は約１，３５６億円になり、年間で約３４億円が必要とされております。しかしながら、現実には年間更新投資額は約１７億９，０００万円と、更新費用の５割となっており、残り５割の施設については、更新が厳しい状況であるということであります。

そこで、お尋ねをいたします。

１点目、公共施設等総合管理計画策定後からこれまでの公共施設の削減率、コスト削減はどうなっておりますか。

２点目に、今後の目標はどうなっているのか。

以上、２点についてお尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　皆様、改めて、こんにちは。それでは、二ノ文議員からいただきました公共施設等総合管理計画策定後から今までの削減率及び額、それと今後の目標ということで、答弁したいと思います。

本市が保有します公共施設の多くにつきましては、合併前に各自治体が整備したものを受け継いでおりまして、施設の機能の重複が見られ、市民１人当たりの公共施設の延べ床面積は全国平均から比べても過大な傾向にあります。これは先ほど議員からもご指摘があったところです。

さらに、老朽化も進行しておりまして、今後、公共施設等の維持・更新に要する経費の増加が予測されるところとなっております。

こうした状況や課題を踏まえまして、将来にわたり公共施設等を維持するための更新費用等を見据えながら、市全体の公共施設等の更新及び管理方針を示すとともに、施設用途別の方向性を定めることを目的に、公共施設等総合管理計画を策定したところです。

本計画では、平成２６年度末時点での公共施設等（建物）の延べ床面積４３万８１３．９平方メートルから、上下水道などのインフラ施設を除いた２８５施設、４１万9，２２２．４８平方メートルを移管・削減前の延べ床面積と設定をいたしております。

これに対しまして、平成３０年9月３０日時点で8万7，６１６．９６平方メートルを削減し、２３７施設、３３万1，６０５．５２平方メートルとなりまして、約２０．９％の削減率というふうになっております。

なお、この削減率に反映しております施設については、利用者が維持管理費を負担していただいた農業用のハウスであったり、地区公民館などが主でありますので、コスト削減には余り寄与をしていないというところでございます。

それと、今後の目標でございますけども、公共施設等総合管理計画で目標としております削減率につきましては、全体の４１万9，２２２．４８平方メートルのうち、廃止や移管などが可能と思われる施設のシミュレーションをした結果でございますけども、２０５６年度までの４０年間で５２．２％、延べ床面積２０万４６６．９２平方メートルまでの削減を目標といたしております。

なお、本計画の計画期間につきましては、平成２９年から平成３８年までの１０年間でございます。５年経過後に計画の進捗状況を踏まえ、また、社会情勢等も考慮しながら、本計画の見直しを行っていくことというふうにしております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　それでは、再質問をいたします。

先ほども申しましたように、施設更新にかかる費用は、４０年間で約1，３５６億円と試算ではなっておりますけれども、この運用が可能がどうかは、私にはちょ

っと全く見当がつきません。１，３５６億円って、いかなるお金の大きさなのか、ぴんとこないわけでありますけども、約４０年後に、果たして市長以下、私も含めて生存しているかどうかもわかりません。しかし、箱物余剰率解消をよりスピーディにやり、次の時代の方々に市政を安心して受け渡すことが我々の務めであり、責任でもあると考えます。

今の答弁では、延べ床面積のことを言われましたが、やはり面積とかじゃなくて、やはりお金が一番大事だろうと思います。実際、今、この私が調べた範囲では、年間３３．９億円ですか、それがかかっていると。試算によると年間１８億円弱ですか、それぐらいということは、約２分の１の削減をしていかなければならない。そういう時期に、今、ご答弁がありましたように、床面積のことを話されても、余り効果がないというふうに思います。

今後、１０年以内に菊池市公共施設等管理計画では、築３０年を超える公共施設が５割を超える。このままでは修繕費用の増加も懸念されるところです。

そこで、お尋ねですが、次の施設に絞り、質問をいたします。

一つ、菊池市文化会館、二つ、泗水ホール、三つ、四季の里旭志、四つ、七城多目的研修センター、五つ、菊池市交流センター龍龍館、この五つの施設運営形態と事業者数及び維持管理費はどうなっているのか、また、費用対効果はどのようになっているのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、いずれの施設も平成２９年度の実績でご報告いたします。

まず、文化会館及び泗水ホールは、二つの施設の合計ということになりますけれども、維持管理費が約７，０００万円となっております。二つの施設とも年間３０３日開館しておりまして、文化会館で８万６，５６４人、泗水ホールで２万４，１７１人が利用されております。

各ホールの収容人数に対する利用者数につきましては、まず、文化会館の大ホールの年間利用者件数は１１９件でございます。利用者数が４万５９５人、１回当たりの入場者数は定員が８１８人に対しまして３４１人、稼働率は、これは開館から、利用された件数の割合でございますけども、稼働率は約３９％となっております。

また、泗水ホールの年間利用者件数につきましては１７２件で、利用者数は２万４，１７１人、１回当たりの入場者数は定員が４３２名に対しまして１４０人、稼働率は約５７％となっております。

次に、四季の里旭志は、維持管理費が約３，０００万円、年間３３５日開館して

おり、５万８，５９９人が利用されております。

次に、七城多目的研修センターですが、維持管理費が約２５０万円、年間２３８日開館しており、主に子育て支援事業で２，２６５人の方が利用されております。

最後になりますけども、菊池市交流促進センター龍龍館でございますけども、維持管理費が約３８０万円、年間２０８日開館しておりまして、主にレストランに来場されている方が４，８３８人ということでございます。

最後に、費用対効果ということでございましたけども、これらの公共施設については、それぞれ目的を持って設置された施設でございます。条例に基づき、主に市民の福利厚生や地域振興を目的として設置されております。一概に、現在の利用者状況に対する費用対効果を算出することはちょっと難しいものかというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　それでは、再々質問をいたします。

質問というより、提案ですけれども、今のご答弁を聞いたところ、やはりどの施設も運営といいますか、稼働率、少し私からすれば、少しどころじゃありませんね。ちょっと悪いかなと。今の管理費等、いろんなお金の部分なんですが、これを足し合わせると、やはり１億円ぐらいかかっているというふうに思います。

そのことを踏まえて、質問をいたします。

今も申しましたように、提案という形で、今の答弁によりますと、五つの施設、いずれも今後の運営が大変厳しいものであると私は受けとめたわけであります。風光明媚な場所に立地している龍龍館、先日、再スタートしたばかりの四季の里旭志、ともにこれまでもさまざまな努力をされてきましたが、厳しい状況が続いているものと私には感じております。また、七城多目的研修センターは、近くに類似施設もあり、当時、施設の重複についても検討の余地があると考えます。どの施設も愛着をお持ちの方がおられることは私も承知をしております。菊池市の今後、全体を考え、売却または廃止の方向で提案をしたいと思います。

また、大ホールを有する会館について、一つの自治体に２館以上も必要なのか、検討の余地があると思います。二つの会館については、合併前の旧菊池市及び泗水町に既に建設がされており、合併したことにより２カ所になったわけでございます。しかし、この現在の財政状況から、築年数、維持管理料、利用者数、ホール付近の状況を踏まえ、泗水ホールを残し、断腸の思いではありますが、菊池市文化会館を取り壊し、駐車場にしたらいかがかと考えております。

菊池市文化会館は、私が成人式を迎えた１年後に運用が開始されたと記憶しております。ということは、ことしで私が６０歳になりますので、約３９年だったと記憶をしております。ということは、既に建設され４０年が経過していることになります。当時、私は建設されていく姿を見ながら、大きく立派な建物ができたものだと感激したのを覚えております。当時はまだ若く、建設費用やコストのことなど考えたこともありませんでしたが、平成１３年に議会にて行政にかかわるようになり、借地としての年間土地借地料は、今年度予算で約８００万円を超え、契約年数は６０年と知り、無謀な契約内容だと感じましたが、そう感じているのは恐らく私だけではないというふうに思います。もちろん当時の契約内容に異を唱えることはありませんが、契約が法律にのっとられているものと思うからであります。

そのようなことも勘案しますと、文化会館を取り壊し、駐車場とし、市役所周辺に現在借用している駐車場を地権者に返却することで、借地代を別運用できると考えます。菊池市の財政全体からすると、駐車場借地代はわずかですが、文化会館運営費用とあわせると相当な財政支出の削減につながると考えます。

それから、文化会館にかわるものとして、泗水ホール、総合体育館の利用のほか、一昨年、完成したキクロスには高額な調度品となる椅子もあり、本施設をさらに有効に活用していけば可能ではないかなというふうに考えます。

泗水ホールについては、さらに市民が使いやすいように検討していくことは必要かと思います。もちろん市民への十分な説明は必要となります。しかし、現在及び今後の財政状況を踏まえ、ただいま大胆に提案をいたしました四季の里旭志、龍龍館、七城多目的研修センター、並びに特に菊池市文化会館の売却ないし廃止について、どのようにお考えですか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　まず、提案いただきまして、本当にありがとうございます。

現在、公共施設等総合管理計画に定める、廃止とか民間移譲など七つの具体的な将来方針を記載しました個別施設計画の策定を進めております。

この七つの具体的な方針と申しますのが、施設を廃止するとか、地域に移管する、民間移譲する、統合する、複合化する、縮小建てかえであるとか、同規模建てかえと、この七つの方針を設定することとしております。

この個別施設計画が整いますと、議員よりご提案がありました文化会館や泗水ホールなどの施設につきましても、施設ごとの方針や、その時期をお示しすることができるかなというふうに思っております。

今後、全体的に計画がまとまりましたら、改めてご報告させていただきたいと思

っております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　菊池市公共施設等管理計画を見せていただきました。何か数字がいっぱい並んでいるだけで、どこの施設を何年までに廃止します。そして、その廃止することによって幾ら浮いてきますというようなことをやはり早急に立てていただかないと、１，３５６億円ですか、このことは４０年間の積み重ねでその値段になってくると。ということは、年間に３４億円から半減すると。それが運営管理費をうまく使っていけば、いろんな施設が続いていくというようなことです。考えてみますと、即刻、極端に言うなら、半分の施設を削って、半分の予算でやっていくということですよね。何かこれを見てみますと、４０年先までにその半額にすればいいのかなというふうに受け取れるわけです。

今、部長がおっしゃったように、早急にやはりその計画ですか、どこをどうするというようなことをお示しをしなければ、本当に菊池市がこの箱物によって財政破綻を起こしはしないか、私はそこを心配して、きょうの質問をしております。

平成２９年３月に完成した菊池市公共施設等管理計画を見せていただきました。細かい数字が事細かに記されておりますが、具体的に、今後、どの施設がどのように運用をされ、統廃合、売却されるのか、全く不明です。

計画では、施設更新に平成２９年から４０年間で、正確には平成２７年度からですよね。４０年間で約１，３５６億円とありますが、それから既にもう４年が過ぎているわけです。

先日も、熊日新聞にも写真入りで、日本一の桜の里づくりの模様が掲載されておりました。公園整備など未来へのプロデュース、投資も必要な部分であり、桜色の城山公園も想像すると、明るい菊池市につながると思います。しかし、さらに現在の菊池市をよりよい未来に存続するには、現在の財政管理運用が適正にされなければ、今後の財政はますます、現在の状況が厳しいことは職員の皆様方も、市民の皆様方も承知のことかと思います。そのためには、菊池市にとり、暗い厳しい案件ではありますが、箱物の管理運用についても待ったなしで、今、検討が必要な部分だと考えております。

全国どこの自治体においても、削減に向けて取り組んでいるのが扶助費、公債費、人件費のいわゆる義務的経費と呼ばれるものですが、第４の義務的経費として、今後の自治体に影を落とす、将来、大きな負担となってくるのが公共施設の管理費であります。

そこに、最後に市長にお尋ねいたします。

待ったなしの財政改革のために策定された菊池市公共施設等総合計画の目標達成のために、どのように取り組んでいかれるおつもりなのか、市長自身のお考えをお伺いしたいというふうに思います。きょうは時間はたっぷりありますので、ひとつよろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　ちょっと総合管理計画の補足を述べさせていただいてよろしいでしょうか。

公共施設の総合管理計画といいますのは、国が求めておりまして、当然公共施設が多いもんですから、それを削減していくような方法を国から求めいただいた計画でございます。ということで、４０年以後、将来的な目標設定をするということで、５２．２％を削減しようというようなシミュレーションを使った計画でございます。

今回、個別の施設計画と申しますのが、施設ごとにどういった方向性で、いつごろに例えば廃止なり、増築するとか、そういった形の個別計画を今つくっているところでございます。本来であれば、個別計画をつくった後に、要は総合計画があるべきなんですけども、国の求めがそういう形でしたので、今、そういう流れになっておりまして、個別計画がおくれております。議員がおっしゃったように、その辺がはっきりしないからということで、議員から先ほどご指摘があったのかなというふうに思っております。

平成３０年度、本年度中に個別計画をつくり、まとめ上げますので、来年度中にはまずは市内から、全域から見て、適正配置的なものを全体的に考えながら、その個別計画について、またお示しできるかなと思いますので、しばしお待ちいただければというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　公共施設の今後の計画についてということでございます。

恐らく議員さんのほうに少しまだ誤解されている部分があるんではないかと思いますが、今、部長のほうから説明申し上げましたように、本来は個別計画が積み上がって、全体計画となるべきところでありますけども、国のほうからは、先に全体の総合管理計画というものを出しなさいと、こうなっておるわけであります。

しかしながら、全く根拠のないものをつくるわけにいきませんので、いわば国の定めた一定の定型的な条件に当てはめてシミュレーションをした、いわば概算の数

値であります。その全体を出した後で、個別の計画の策定に入ってくださいということでありますから、今、部長のほうから個別がおくれていますと言いましたけども、正確に言うと、個別は総合管理計画の後でつくりなさいということで、今、大体スケジュールどおりにその策定をしているわけでございますので、それが間もなくでき上がれば、改めて個々のご説明をできるというふうに思います。

それから、４０年ということではなくて、今すぐやるべきではないかというお話がございますが、一つには、今申しましたような国からのスケジュール感に基づいてやっておりますし、それから、一口に公共施設といっても、単純に割り切りができません。地域での利用状況であるとか、それから、とりわけ、じゃあ学校が多いから半分にしますかといったときに、そんな簡単な議論ではないわけですね。そうしたことを個々の個別施設計画のほうに反映させていくわけであります。ですから、個別の積み上げと、定型的なシミュレーションでやった５２．２％という最終の数値目標には若干の変更が生じることは当然考えられます。この部分につきましても、取りまとめが終わりましたらご報告をさせていただきます。

また、実際には少子高齢化、人口減少の世界というのは、予測はできても、本当に実際に何が起きるかというのは、ある意味、誰もわからないわけでありますので、これも所信によりまして、今後も５年計画に社会情勢等の変化をもう一回織り込んで、それを考慮した上で、本計画の見直しを行うということになっておりますので、その点についてもご理解をお願いしたいというふうに思います。

それから、もう一つ補足しますと、単純にこの面積で議論すべきでないんではないかと。全くそのとおりでありまして、先ほどの総合管理計画の中で、このままある程度、一つの見込みのとおりにいくと、果たして体力に見合った管理費であるとか、再投資ができるだろうかということを目的としてシミュレーションをしたわけでありまして、その結果、今の体力でいった場合に、体力の倍ぐらいの財務負担になりますよということから逆算して、５２．２％というものが出てきたわけでありますね。ですから、面積ありきということではないということをご理解いただきたいというふうに思います。

いずれにしましても、今後の少子高齢化の進展に伴う社会保障費等が増加するなど、厳しい財政状況が予想されますので、公共施設の適正配置については、市民や施設利用者のご理解も求めていかなければならないわけであります。ですから、今後はこの個別施設計画ができ上がりましたら、適切な情報提供、そして丁寧な説明を行いながら、じっくりと合意形成に努めると、そういうプロセスも必要になるということをご理解をお願いしたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　懇切丁寧なご説明ありがとうございました。

計画書をつくるということですけれども、その計画書ができ上がって、絵に描いた餅にならないように、しっかりとご協議をいただき、そして、我々議員にもそのことをお示しいただくことが一番肝要かというふうに思っております。

今、市長がおっしゃられましたように、市長のように筋肉質になるように、この市政がなることを私も願っております。

最後に、これからの議員のあり方として、公園をつくれ、博物館をつくれと提案するのも議員の務めだろうというふうに思います。しかし、そこには管理費など修繕費、そのようなランニングコストがかかっていくということを常に頭の中に入れて、提案をしていくことが大事だろうというふうに思っております。そのことを申し添えて、市議会と執行部と手をとって、この市政がますます豊かになるように願いを込めまして、きょうの一般質問を終わります。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　これで、二ノ文伸元君の質問は終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後２時３４分

開議　午後２時４２分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さん、こんにちは。質問の前に、今月末をもって市役所を退職されます職員の方々に対しまして、長い間、合併前の市町村の時代から、それぞれの地域の発展のために頑張っていただいことに敬意と感謝を申し上げます。今後も、これまでの行政経験を生かして、菊池市発展のために、さらにご尽力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

まず、道路整備について、県道原立門線についてお尋ねをいたします。

この路線につきましては、地域住民の生活道路はもちろん、菊池高原ゴルフ場、オートポリス等の観光ルートとしても重要な路線でありますので、これまで何度も質問、要望を続けてまいりました。市としても、県に対して熱心に要望していただ

いておりますので、整備が進んでおりますが、現在の進捗状況と今後の計画をお示しください。

次に、市道古川伊倉線についてお尋ねをいたします。

この路線は、国道３８７号の交通渋滞を含め、災害時に対する迂回路として、また、産さん滝、千畳河原への観光ルートとして、これまで何度も質問、要望を続けてまいりました。市としても必要性を認識していただき、千畳河原、滝区集落内は整備は完了しております。その後は継続して伊倉区までの整備が行われる予定ですが、現在の整備の状況をお示しください。

次に、西迫間寺小野線についてお尋ねをいたします。

この路線は、竜門ダム下流域の避難道路としての整備の必要性がありながら、特に市野瀬区の集落内については未整備の部分が多く、道路幅員も狭く、地域住民の生活道路としても支障が生じております。第１寺小野橋のかけかえの工事が行われておりますが、橋りょう工事の進捗状況をお示しください。

次に、市道立石野間口線についてお尋ねをいたします。

この路線は、植木インターへの主要な道路でありますが、道路幅員が狭く、また、用水路が絡んでおりますので、歩道の段差等の問題もあり、安全面にも支障が出ておりましたので、平成２６年１月に、地元野間口区長様より市に要望書が提出されておりましたので、私からも質問、要望を続けてまいりました。現在、平成２９年度に七城方面から５８メートル整備が完了し、今後も継続事業で進めていかれると思いますが、今後の計画をお示しください。

次に、花房線についてお尋ねをいたします。

この路線については、１０年以上前に分譲された住宅の排水の問題の発生により、早急に隣接する道路を整備することにより、排水問題等を解決するために、市としても緊急性を認識して、これまで取り組んでいただいておりますが、現在の進捗状況をお示しいただきたいと思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、淵邉政博君。

［登壇］

○建設部長（淵邉政博君）　それでは、木下議員のご質問にお答えいたします。

まず、１点目の県道原立門線についてですが、県北広域本部土木部に確認したところ、原味橋から伊野橋までの約４００メートルについて、約４メートルの現道幅員を７．５メートルに拡幅する計画で、平成２５年度までに用地取得が完了し、平成２６年度から段階的に工事を進めております。今年度末での整備完了を予定しているとのことでございます。

次に、市道古川伊倉線についてでございますが、平成２６年度から用地交渉を始め、平成２７年度に滝集落側から工事に着手、平成２９年度までに約３７９メートルの施工を完了しています。今年度は橋りょうの予備設計を行っており、次年度において詳細設計を行う予定でございます。

次に、市道西迫間寺小野線についてでございますが、平成２８年度までに必要な用地の取得を終えており、平成２９年度から現在まで、約１７１メートルの工事を完了しています。今年度から橋りょう工事に着手しており、再来年度末での供用開始を目指しております。

次に、市道立石野間口線でございますが、歩道部の段差解消を目的として、平成２９年度から工事に着手しております。昨年までに約５８メートルの工事を行っており、今年度においては、約４４メートルの工事を施工中で、今後も継続して整備を行っていく予定でございます。

最後に、花房台線についてでございますが、花房台地区の排水問題を解決するために行っている事業で、平成２６年度から排水路下流側から施工に着手しております。平成２９年度まで約５２０メートルの施工を終えている状況でございます。次年度以降につきましては、道路事業用地の未買収地があるため、まずは用地の取得を進める予定としております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

いずれにしましても、各路線とも地元にとっては非常に大事な市道でございますので、また継続する部分があるものについてはしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

それでは次に、旧迫水小跡地への進出企業、熊本県菊池エミュー観光牧場株式会社の現状と、地元の要望等に対する協議についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、私も地元でございますので、城議員とともに、これまで市が主催する関係地区の説明会に参加し、進出企業の株式会社山口油屋福太郎を校区の区長さんたちと訪問させていただいたり、また、一般質問等でこれまでの企業側の概要、動向については、おおむね理解はしておりますが、平成３０年第３回定例会の議案第９３号、財産の譲渡について、総務文教常任委員長報告に対しての質疑で申し上げましたように、地元に対して災害時の避難所の問題、学校跡地での屠殺、飼育に伴う排水処理等、また、譲渡の相手方の熊本県菊池エミュー観光牧場株式会社の概要、エミューというまだなじみのない動物の飼育をされることに、地域

住民には不安がありますので、頭数等の確認、住民とのトラブル等があった場合、買い戻しの特約、譲渡等の禁止について、お尋ねをいたしましたが、現時点での確認はとれていない状況であります。

４月には校区の区長交代もありますので、これまでの経緯も含め、企業側による地元への説明会を早急に開催する必要があると思われますが、今後の計画を具体的にお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　皆さん、こんにちは。旧迫水小学校跡地への進出企業の件でお答えをいたします。

平成３０年の第３回定例会におきまして、迫水小学校跡地売却に伴う財産の処分、それと社会体育施設の条例廃止について議決をいただいておりますので、それ以降の状況についてという形でご説明をさせていただきます。

平成３０年１２月４日付で文部科学省から、公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分について承認をいただきました。それを受けまして、同年１２月１４日付で熊本県菊池エミュー観光牧場株式会社と市有財産譲渡に係る契約を締結いたしました。

その後、同年１２月１８日付で所有権移転の登記を行い、現在、迫水小学校跡地は同社が所有する土地・建物となっております。

これまでに地元からいただいております、エミューの飼育の際の排水であるとか、屠殺等に関する要望、意見につきましては、企業のほうには既に伝えております。今後、どのように対応していくのかというのは、現在、検討している状況ということで報告を受けております。ですので、現時点では説明会につきましては、水迫地区及び重味地区の区長さん方を対象に、３月の中旬までには、まずは市のほうで今の状況ということでご説明をするということで開催を予定しております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

３月中旬には区長様を対象に説明会を開いていただけるということでございますが、譲渡の後、なかなかそういう情報も入ってきませんし、地元としては、やはりとても心配されておるわけですね。私としても、地元の区長さん方が、その後、何も連絡がないからということで、何度も申し上げますが、心配されておりますので、今回は特に、市長が先般の答弁の中で、この山口社長も、とにかく地元と一つ一つ

協議をしながら進めていきたいということでおっしゃっているということでございましたので、そういうことも含めて、市長として、もちろん市長が山口社長とお話をされていると思いますので、その状況も含めて答弁をいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま、部長のほうからご説明したこととかなり重複をしますけども、改めて私のほうから申し上げますと、先方様としては、十分な説明を地元の皆さんにしたいという意向でありまして、まさに、今、挙げられたような点も含めて、事業計画を、今、詳細に策定されている途中でありますので、もう少しお時間を頂戴したいということでございます。

大変ご心配をかけているということでございますが、この先方様は、地元との協調というものを大変大事にされておりまして、地元とともに発展するということを社是とされておりまして、既に幾つかのほかの地域の先行事例があるわけでありますけども、それは言葉だけではなく、実際にそういうふうな運営をされているということを関係の区長さん方も視察をいただいて、その点については確認をいただいているところでございます。いま一度、先方の事業計画が整うまで、ご猶予をいただきたいというふうに思います。

また、それに先立ちまして、現時点での私どものほうから持っている情報を地区の皆様にお話をして、区長様向けの説明会を開催して、もしそこでいろいろなご意見が出てくれば、それをあらかじめ企業のほうにお伝えをして、先々の企業説明会の際にその点もクリアにしていただくというふうに考えておりますので、どうぞよろしくご理解のほどをお願いいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

きょうは地元の区長さん方が何人か傍聴に来ていただいておりますので、今、市長のほうから直接答弁がございましたので、少しは安心されたかなと思います。

私どもは、城議員ともどもにしっかり理解しているつもりですが、なかなか地元の方々には情報が伝わらない点がございますので、きょうはこういった形で、改めて質問をさせていただいたところでございます。今後はしっかりその情報の共有をしていただきたいと思います。

それでは次に、給付型奨学金教育振興小川基金の状況についてお尋ねをいたします。

この小川基金の奨学金につきましては、平成２１年３月定例会の質問以来、これ

まで何度も質問、要望を続けてまいりました。私自身、平成２１年１２月に直接、故小川水寶氏のご遺族の小川恵美様とお会いすることができ、青少年育成に対する熱意を強く感じたところであります。

これまでの市の対応において、遺族側との意思疎通が不十分だったこともあり、長い間、小川基金を活用した奨学金制度が創設できなかった背景がありましたので、やっと平成３０年１０月１日から給付型奨学金の申請受け付けが始まりました。特に私が当初から要望しておりました、入学一時金を含む給付型奨学金が創設できましたので、これまで経済的理由で進学が難しい子どもたちの夢がかなうのではないでしょうか。そして、この奨学金によって、将来的には菊池市の発展に大きく結びつくと思われます。

そこで、お尋ねをいたしますが、給付型奨学金教育振興小川基金の申請状況及び内定の状況をお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、木下議員のご質問にお答えをさせていただきます。

菊池市教育振興小川基金を活用した給付型の小川奨学金につきましては、「優秀な子どもに上級学校進学の夢を与えたい」という、本市泗水町出身の故小川水寶氏の寄附金をもとに、本年度から設立をしました新しい制度ということになります。

制度の周知につきましては、広報きくちや市ホームページへの掲載はもちろんのこと、市内中学校や関係高校及び高等専門学校へのチラシの配布、各区への回覧、また、市役所や各公民館窓口へのチラシの設置等によりまして、広く市民の方々に周知を図ってきたところでございます。

申請につきましては、平成３０年１０月１日より１１月１５日までの一月半かけまして受け付けを行い、本年度は高校進学者が６名、大学進学者が７名の計１３名の申請者ということでございました。

その後、住所要件や成績要件、所得要件などの申請資格につきまして、１２月１２日に第１回選考委員会を開催し、１３名中８名を２次審査対象として選考させていただきました。その上で、１月７日に小論文と本人面接による第２回選考委員会を開催したところでございます。

最終的には、高校進学者５名、大学進学者３名の計８名について、本年度の内定者として決定をいたしました。現在、その内定者からの志望校合格の申し出により、順次入学一時金の支払いを行っている状況にございます。

なお、来年度につきましても、引き続き制度周知に務め、給付を行っていくこと

としております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

高校生が５名、大学生が３名、内定しているとのことでございます。これで経済的な心配をすることなく、しっかり勉強していただき、それぞれの夢をかなえてもらいたいと思います。そして、将来は菊池のためにも、いろいろな面にご支援、ご協力をいただくことを期待しておきます。

これまで、小川基金を活用した奨学金の創設を要望してきた者として、大変うれしく思います。そして、改めて、故小川水寶氏とご遺族の小川恵美様に心より感謝を申し上げたいと思います。

市としても、今後、３０年間で６００人程度に給付をする計画とのことでございますが、今後はさらにご遺族の意向を尊重していただき、オプションなどを提案して、ご遺族の信頼関係が崩れないように、しっかりと経過を報告し、意見を聞きながら慎重に取り組んでいただくことを指摘、要望しておきたいと思います。

それでは次に、図書通帳についてお尋ねをいたします。

図書館のあり方については、昨日、福島議員より、今後の役割と方針について、費用対効果、また、今、問題となっている閲覧用の１脚１０万円の椅子については、市民に対しての提案もございましたので、私からは、図書通帳についてのみお尋ねをいたします。

この図書通帳については、図書館建設に当たり、導入の提案をさせていただいた経緯もあり、平成３０年第１回定例会において図書通帳の利用状況も確認させていただきましたが、市内小中学校の児童・生徒に約４，０００冊を支給、一般の大人の方には１冊１００円で作成していただいているとのことでした。

図書館の入館者についても、図書通帳の導入効果もあって、開館以来、大変多くの方に利用されております。子どもたちには無償提供ですので、大いに活用していただき、たくさんの本を読んで、お金を貯金するような気持ちで、知識の貯金をして、将来に役立ててほしいと思います。一般の大人の方には、図書通帳を作成していただくと、わずかではありますが、市にも利益が出ますので、私も図書館友の会等で図書通帳作成の呼びかけを行っております。市の職員の方々はもちろんつくっておられると思いますが、現在の図書通帳の推進の状況と、今後の活用について、お答えをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　それでは、議員ご質問の図書通帳の現状についてお答えをさせていただきます。

本市では、平成２９年度の中央図書館の開館時に図書通帳を導入いたしております。これは、預金通帳型の読書の記録システムというもので、読書の履歴を見える化し、もっと読みたいという読書意欲を促進することを目的といたしております。

本市の図書通帳システムの特徴は、小中学生は学校で読んだ本の記録も同時に記帳できるというところにあります。これは図書館システムを学校にも導入し連携をすることにより可能ということになりました。また、学校において読書アドバイスにも活用できるという効果も持ち合わせております。

実際に自分の図書通帳を持った子どもたちは、学校や図書館で通帳を見せ合いながら競い合って本を読むようになっております。現在までに図書通帳は５，２５０冊を発行しておりますが、一番多い子では、既に７冊目という児童もおり、読んだ本といたしましては約１，５００冊にも及ぶということになります。

また、一般の方にも、お話のとおり、図書通帳を紹介し購入をいただいておりますが、昨年３月の熊日新聞の読書の広場欄に「図書通帳を利用することで、読んだ本の名前や選ぶ本の傾向がわかり、通帳を確認しながら本を選ぶのが楽しみである」という記事が掲載をされておりました。また、本文中で「本の金額も記載されるために、これまでたくさんの本を読んだことで、何とお世話になったことだろうか」と感謝の言葉がつづってございました。

議員のお話のとおり、図書通帳でお金はたまりませんが、読んだ本の思い出や、知識・教養というものは、たまってまいるものだと思っております。

本が好きな人はもちろんでございますが、多くの市民の皆様に図書館に通っていただき、たくさんの本と出会い、親しむきっかけになれるよう、図書通帳の普及に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

私も、その新聞の記事をご紹介しようかなと思ったら、部長のほうでしっかりと紹介をされましたので、それはいいんですけれども、私としては、子どもさん方も最高は７冊目で、本当に１，５００冊以上を読んでいただいたということでございますが、大人の方のほうの、要するに、通帳の作成はどれだけ進んだのか、そのことをちょっと再確認したいところがございますものですから、もしわかればお答え

いただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、大山堅四郎君。

［登壇］

○教育部長（大山堅四郎君）　５，２５０冊の発行の内訳ということで申し上げます。

児童・生徒が４，５８３冊、一般が６６７冊ということになっております。

以上、お答えいたします。６６７冊。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

私としては、子どもさんは無償でさしあげていますので、２冊目、３冊目になったおかげで、私が先ほど数字を申し上げました、４，０００冊から５８３冊はふえているわけですね。しかしながら、大人のほうは６６７冊ということでございますので、もちろん私はつくっておりますが、ぜひとも、やっぱり市の職員も含めて家族でつくれば、すぐ１，０００冊以上はふえていくはずだと思いますし、せっかくこの制度をつくってありますし、また、市民の方もこうやって新聞に掲載までして喜んでいらっしゃる方もいらっしゃいますので、そういうことも含めて、やはり今後ともそっちのほうの啓発にも努めていただきたいと思います。要望でございます。

それでは次に、有害鳥獣による農林産物の被害への対策の現状と今後の拡充についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、今定例会において、先日は坂本議員、本日は水上隆光議員より質問がありましたが、私の地元は特に中山間地で被害が深刻な地域でございますので、重なる点もあると思われますが、よろしくお願い申し上げます。

坂本議員、水上議員より報告がありましたが、私も農業を考える議員の会の水上隆光会長の提案により、狩猟免許に挑戦し、わな猟の免許に合格することができました。私たち議員も鳥獣被害の知識を深めるためにも必要だと思います。

本年１月末に、政務活動費を活用して、農業を考える議員の会で農林水産省を訪問させていただき、研修を行ってまいりました。国も地方の鳥獣被害の状況を十分認識されており、さまざまな対策の実例の説明を担当の方から直接お聞きすることができ、とても参考になりました。また、地域の現状を知っていただく機会ともなりましたので、大変有意義な研修となりました。

市としても、国、県の対策も含め、市独自の事業が実施されていると思われますが、有害鳥獣による農林産物の被害への対策の現状と今後の拡充についてお示しをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、谷田修君。

［登壇］

○経済部長（谷田　修君）　ただいまのご質問の、有害鳥獣の被害の現状、対策の実施状況等につきましてお答えさせていただきます。

まず、有害鳥獣による農作物の被害の状況でございますが、農家からの被害報告や各種補助事業申請時の聞き取り、農業共済組合への照会などにより把握を行っております。また、被害額の算定に当たりましては、国が定めております農作物等災害単価表に基づいて算出しております。

平成２９年度におけます本市の有害鳥獣による農作物の被害は、イノシシによる被害が、水稲や果樹、野菜、飼料作物等をあわせまして、被害面積で２５７アール、被害金額が２３４万円となっております。

次に、カラスによる被害ですが、被害面積で２６５アール、被害金額が４１２万８，０００円となっております。合計しますと６４６万８，０００円の被害金額となっております。ただ、被害報告がないものもあることから、被害額はさらに多いことが予想されております。

次に、本市における有害鳥獣防止対策につきましては、イノシシ、シカ、カラス・ハト類、ノイヌの有害鳥獣の捕獲とあわせ、イノシシの電気牧柵やワイヤーメッシュ柵などの侵入防止柵の設置に対する支援を行っております。

まず、有害鳥獣の捕獲につきましては、これまで菊池市有害鳥獣捕獲隊に捕獲業務を委託し、あわせまして報奨金を設けて捕獲を推進し、有害鳥獣の個体調整を行うことで農作物の被害防止を図っております。

次に、侵入防止柵の設置につきましては、国、県、市の補助による事業を実施しております。

まず、市単独事業においては、市内在住の農家に対し、侵入防止柵や防鳥ネットの一部について、５万円を上限として補助を行っており、本年度については１５カ所を実施しておりまして、全て設置済みとなっております。

単県事業につきましては、えづけＳＴＯＰ鳥獣被害対策事業に取り組んでおりまして、県北広域本部農業普及振興課と連携し、農家で組織する団体を対象に、鳥獣対策についての勉強会や研修会を行い、地域ぐるみでイノシシを寄せつけない地域づくりを推進しながら、侵入防止柵の設置を行っております。本年度は白木地区、鳳来地区、陣内地区の３地区で実施しており、全て設置済みでございます。

国庫補助事業では、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した鳥獣被害対策支援事業に取り組んでおります。

これも鳥獣被害防止対策についての複数回の勉強会や講習会を実施し、イノシシを寄せつけない地域の環境整備とあわせ、農家等で組織する団体がみずから柵を設

置する場合に、定額で電気牧柵やワイヤーメッシュ冊等の資材相当分が予算の範囲内で受けることができる事業であります。この事業は平成２９年度から本市有害鳥獣捕獲協議会が事業主体となって実施しております。

本年度につきましては、ワイヤーメッシュ柵が下組地区、穴川地区、龍門１区地区、小楠野地区、堀切地区の６地区、電気牧柵が藤田地区、下組地区、穴川地区、龍門１区地区、小楠野地区の５地区を実施しており、全額補助で事業費は１，７３６万２，０００円となっております。内容といたしましては、ワイヤーメッシュ柵延長２万５，９８７メートル、電気牧柵（２段）で延長１万４２１メートルとなっており、全て設置済みとなっております。

平成３１年度（２０１９年度）以降においても、平山地区、長六地区、柿木平地区、岩下地区、生味地区、伊野地区、竹ノ牧地区、白木地区、稗方地区から事業要望が上がっております。

事業要望されました地区につきましては、既に各地区に対し事業説明会を実施し、各地区から事業計画図を受け付け、計画地区の被害状況や費用対効果等の内容を作成し、本年２月に県を経由し、国に事業計画書の提出を行ったところでございます。

平成３１年度に事業が採択された場合は、事業決定後に資材の入札を行い、納品があった後に、各地区の自力施工による侵入防止柵の設置となっております。

今後の対策としましては、引き続き奨励金による有害鳥獣捕獲の推進とあわせ、国、県、市の補助事業による侵入防止柵等の施設整備を実施してまいります。

また、坂本議員のご質問でも答弁しましたが、平成３１年度から捕獲体制の強化を図るため、狩猟免許取得者に対する補助について、本定例会の平成３１年度当初予算に上程し、審議をお願いしているところでもございます。

今後も、ハード事業とソフト事業をあわせて実施することにより、野生鳥獣が好んですみ着く、安全で餌のある場所をなくし、寄せつけない取り組みの普及啓発に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　丁寧に説明ありがとうございました。

今、それぞれの事業要望がたくさんの地域から上がっているということは、それだけやっぱり被害に困っていらっしゃるということだろうと思います。

農水省の研修のときに、こういった形で資料をきちんといただきました。本当にいろんな事業がございますので、こういうのもまた参考にしていただいて、対策を練っていただきたいと思います。

午前中の水上隆光議員の質問で述べられましたが、私も菊池市にとって有害鳥獣対策は最重点施策として取り組む必要があると思います。私からは、改めて、今後は有害鳥獣をいかに有効利用するかが課題ですので、加工施設の建設、野生鳥獣肉解体処理車、通称ジビエカーの導入等を市としても取り組んでいただき、菊池市でもジビエ料理の普及につながることを願っております。

菊池市と姉妹都市の宮崎県西米良村では加工場を建設し、現在はイオンとも取引もされているとのことであります。

国もさまざまな対策の事業を考えていただいておりますので、市もモデル事業を取り込むような気持ちで、積極的にやっていただきたいと思います。要望しておきます。

それでは次に、学童保育の現状と拡充についてお尋ねをいたします。

子育て支援につきましては、これまで子育てサポート事業、病後児保育事業の拡充については、質問、要望を続けてまいりました。おかげさまで、子育てサポート事業については半額補助が始まり、平成２４年度からは新たな支援策として、利用者の兄弟姉妹など同時に利用する場合は、２人目以降は市が全額補助するようになり、私も子育てサポート事業のお助け会員として、子どもさんたちを預かっておりますので、利用者の方も大変喜んでおられます。

病後児保育についても、何度も要望を続け、やっと平成２４年度より市内の保育園で実施されております。

また、菊池市すくすく子宝祝金についても、平成２６年度までは第３子から現金１０万円の支給でしたが、拡充の要望を、めぐるん券の活用による増額の提案の質問をさせていただき、平成２７年度より第３子が現金１０万円、第４子の場合、現金１２万円とめぐるん券３万円、合計１５万円、第５子の場合、現金１５万円とめぐるん券５万円、合計２０万円、第６子以降が現金２０万円とめぐるん券１０万円、合計３０万円が支給されるようになりました。多子家庭の経済支援及び定住促進に結びついていると思われます。

今回は、改めて、平成３０年第２回定例会において質問、要望をいたしました、学童保育の要望書の確認を含め質問をいたしますが、前回の答弁での場所や支援員の確保、児童の受け入れについて、現状を把握し、増設の必要性を含めて、これらの検討をしてまいりたいとのことでしたが、その後の検討の状況をお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部長、中村隆純君。

［登壇］

○健康福祉部長（中村隆純君）　それでは、木下議員のご質問にお答えさせていただき

ます。

学童保育は、放課後等における児童の安全・安心の確保はもとより、適切な遊びや生活の場を提供することで、児童の自主性や社会性の向上、基本的な生活習慣の確立、児童の健全育成を図るとともに、保護者の就労と子育ての両立を支援するものでございます。

平成３０年度は市内１２カ所において実施しておりますが、共働き家庭やひとり親家庭の増加によりまして、児童数の減少に反して利用者は増加しており、施設や支援員の確保が課題となっているところでございます。

支援員の確保につきましては、広報誌による求人の掲載や、支援員の処遇改善加算の補助金を支給するなどの対策を講じるとともに、平成２９年には３カ所の支援施設の増設を行っており、利用者の拡充を行っておるところでございます。

しかしながら、現時点におきましては、一部の校区で待機児童が発生する可能性も出てきており、さらなる増設についての検討を行っているところでございます。

今後につきましては、平成３１年度策定予定の子ども・子育て支援事業計画の見直しの中で、現在実施しておりますアンケート調査の結果をもとに、利用者や児童数の推移を見ながら、学童保育の充実を図ってまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

先般、私が、地元の若いお母様のほうからの要望書というのが昨年の５月に出ておるんですが、それの内容的なものは、やはりもう長期、言うなれば夏休みとか、そういうときにもう全然預かる場所がないと。そういうのも非常に課題になっているということでございます。

先般、２月の熊日新聞は、県は放課後児童クラブの拡充というのを打ち出しておりますし、先般、施政方針を見ましたら、なかなか具体的な子育て支援についてのあれが書いてなかったものですから、私もこれまで、市長の施政方針については、ずっとファイリングしておるんですが、だんだんだんだん何かそういう具体的な施策が施政方針の中になくなって、されていないような感じがするものですから、このことは施政方針の問題として、この学童について、市長がどういうふうな見解をされているのかをお聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　学童保育に対する考え方ということでございますけども、学童

保育を充実させるということは、子育て世代に対する直接の支援にもなりますし、また、魅力あるまちづくりということにもつながるものでありますので、本市の移住・定住の一つの誘引剤にもなるだろうというふうに考えているところでございまして、今後も引き続き、国や県の制度を利用しながら対応していきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　困ってらっしゃる親御さんもいらっしゃいますので、しっかりと検討していただきたいと思います。

それでは次に、中小企業振興基本条例の事業所の現状についてお尋ねをいたします。

菊池市には、議員提案によって市内の地場産業育成のための中小企業振興基本条例がありますが、地域の中小企業の実態調査を行い、その振興について、基本となる事項を定め、中小企業の経営基盤の強化及び健全な発展を促進することにより中小企業の振興を図り、もって、活力ある地域社会の実現を図ることを目的としています。

この条例の第２条で事業所の定義が定めてありますが、現在、菊池市の事業所の数はどれだけあるのか、お示しをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、お答えいたします。

指名願提出業者のうち、菊池市内の支店・営業所の数を申し上げますと、工事業者が９者、委託業者が８者、物品業者が６者となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

答弁によりますと、菊池市のそれぞれの支店・営業所があるということでございます。

今回は、現在、図書館に海外製の１脚１０万円の椅子を納入した教育産業社菊池営業所の件でお尋ねをしたいと思います。

私は、平成３０年第４回定例会の百条委員会設置案に対する賛成討論において、菊池市中小企業振興基本条例の、市内に事務所・事業所については、従業員が常駐

していることが条件になっていることも申し上げましたが、今回、その点を確認させていただきたいと思います。

私は、平成２９年１２月の総務文教常任委員会において、入札の同等品不可の問題とともに、この件を指摘しております。

そこで、お尋ねいたしますが、教育産業社菊池営業所の従業員の常駐について、その後、確認をされたのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　まず、菊池市内の支店・営業所に対して、実態調査の確認等の要件等をお知らせしたいと思います。

支店及び営業所の取り扱いということでございますけれども、建設工事において、建設業法施行令第１条に「常時建設工事の請負契約を締結する事務所とする」と定めて、建設業法の許可を与えまして、請負の相手先と契約できるものとしてございます。物品・役務委託におきましても、明確な規定はございませんけども、建設工事に準じまして、常時請負契約を締結する事業所を指名対象事業者としておるところでございます。

そのようなことですから、本市の指名審査会においても要件を定めて、市内の支店及び営業所の業者には、指名願提出時に誓約書の提出を求めております。

要件につきましては、８項目ございますので、８項目を述べますと、１項目めが、法人及び受任者が、菊池市税の滞納がないこと。二つ目に、支店または営業所の土地建物が、自社所有または経営者の所有であること。賃貸借の場合は、単に従業員や親類知人の自宅・門扉を兼ねているものではないこと。明確に部屋が独立したテナントであることという要件です。三つ目に、支店または営業所に電話、ファクス、その他事務用機器、机、椅子等を備えていること。四つ目に、支店または営業所に自社の看板を常設していること。五つ目に、支店または営業所の常設の電話が、恒常的に本社等への転送状態でないこと。六つ、会社の営業時間中は、原則として支店または営業所が留守状態でなく、営業所専任者が、速やかに連絡がとれる体制であること。原則として、菊池市内または３０分以内に支店・営業所に戻ってこられる場所で業務に当たること。七つ目に、災害・機器の故障等の。

［「総務部長。確認したかどうかだけでいいです」と呼ぶ者あり］

○総務部長（上田俊介君）　そうですか。まず、８項目ございますので、もうこの要件を満たしていない場合には、異議を申し立てない旨の誓約書をいただいております。

さらに、抜き打ちでありますとか、条件違反の情報が得られた場合については、現地調査を実施しております。

先ほど、あったかということですので、当然現地調査の実施をしているところでございます。

この今申し上げました誓約書、８項目ございますけども、これに違反した場合については、指摘、指導の上、改善通知書を送付しまして、期限までに改善ができない場合については、指名審査会にて審議した後に、指名の対象としないなどの措置をとるというような対応をしているところでございます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　私も、教育産業社がそういう、例えば電話は転送であったらいけないとか、基本的に中小企業振興基本条例に基づけば、その事業所に従業員が常駐しておかなければいけないというのは、ちゃんと確認をされているかというのをお聞きしたいんですが、なかなかその答弁になっていないところもあります。

今回、私も最初、その事業所がどこにあるか全然わかりませんでした。それを確認して、きょうはパネルを持ってきておりますけれども、これがその事業所でございます。教育産業社の事業所ですね。これがその看板をこうやって中に車１台入れれば、この看板は全然見えません。そういう状況の菊池営業所でございます。

今回、ここが先日も荒木議員、一般質問がございました。平成３０年の第３回定例会でも、この納入業者のことも荒木議員のほうから問題提起がございました。そのときの市長の答弁で、基本的に地場産業だから、一生懸命とっていただいたみたいな答弁がずっとあっておりました。そんたくという言葉まで使われて答弁をしておられます。私としてみれば、これが地場産業なのかというのをちょっと疑問符する点がございますものですから、そのことを含めて、市長に答弁をいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　従業員が常駐していない事業所は、中小企業振興基本条例に該当しないのではないかというような基本的な考え方かなというふうにも思います。それでよろしかったでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今、お尋ねの会社については、地場産業に該当しないのではないかという話を今なさったかというふうに思いますけども、地場産業というものを、これは菊池市の中小企業振興基本条例に定められているわけでございまして、そこを恐らくもう十分にご熟読をいただいたものというふうには思っているわけであり

ますけども、そこには対象として２種類の定義がなされておりまして、一つには、第２条第１項におきまして、中小企業者ということで、市内に事務所または事業所を有するものをいうと。従業員等が常駐していない事業所等を除くというふうにございます。

しかしながら、平成２９年９月に条例が、これは議員さんの提案によるものでございますけども、第２条第２項において、小規模企業者という定義がなされておりまして、小規模企業者というのは、中小企業基本法、これはその前の年に改正されておるわけでありますけども、それに該当する小規模企業者で、本市に事務所を有する者をいうとだけ規定されておりまして、小規模企業者には従業員等の常駐を直接的には求められておりません。既に営業されている菊池市内の業者の皆様が、全てたくさんの従業員を常駐できるような中小企業者以上の企業に育っていただくということを願っているわけでございまして、実際には菊池市の中には、ここに定義されたところの小規模企業者に該当する方のほうがむしろ大多数なわけでございます。こうしたものの育成が菊池市民全体の利益につながるということで、それこそ、地場産業の育成と言えるのではないかと考える次第であります。まさに、このような考えに基づいて、小規模企業者を追加する条例変更というのが、今申し上げましたように、平成２９年９月に議員提案によりなされまして、これは木下議員もご賛同いただいて可決されたところでございますので、この中小企業基本法には十分に該当するということでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　私は実態を申し上げておるわけでございます。基本的には、もう誰が見ても、あの事業所、やっぱり人が常駐はしていない。電話も転送であるということは、もう私も電話をかけてみましたからわかります。それはもう考え方ですね。ですから、私は、市民の立場からすれば、あれを地場産業とは思えない。それは私確認しましたら、商工会にも加入はされていないということを確認しております。そういうことも含めて、私どもがやるべきことは、やっぱり市民目線に立って、本当の地場産業の推進をするのが私たち議員の役目だと思っておりますので、今後もこの購入については、引き続きしっかりとチェックを果たしていきたいと思います。

以上で、終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、木下雄二君の質問は終わります。

以上で、一般質問は終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第２　議案第３９号　上程・説明・質疑・委員会付託

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、議案第３９号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　一般質問、大変お疲れさまでございました。

それでは、ただいま上程されました追加議案につきまして、ご説明を申し上げます。

追加議案書の１ページをお願いいたします。

議案第３９号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計補正予算（第１号）でございます。

今回の補正は、本年１０月からの消費税引き上げに伴う経済対策として、全国的に実施されるプレミアム付き商品券の販売を実施するものでございます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご賛同いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　それでは、追加提案いたします議案第３９号につきまして説明させていただきます。

追加議案書の１ページをお願いいたします。

議案第３９号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計補正予算（第１号）でございます。

３ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に２，００２万円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ２８４億７０２万円とするものでございます。

まず、歳入につきまして、事項別明細によりご説明いたします。

７ページをお願いいたします。

款１５国庫支出金、項２国庫補助金、目６商工費国庫補助金２，００２万円の増額は、消費税率引き上げに伴う経済対策として、低所得者及び３歳未満の子育て世帯向けにプレミアム付き商品券の販売を行う市町村に対して交付される国庫補助金の増額でございます。

続きまして、歳出につきましてご説明いたします。

同じく７ページをお願いいたします。

款６商工費、項１商工費、目１商工総務費２，００２万円の増額は、プレミアム付き商品券の販売を行う実行委員会に対する補助金の増額でございます。

このプレミアム付き商品券の販売は全国的に実施されるものであり、先月、２月２１日に行われました熊本県市町村課の説明を受け、国から示されたスケジュールどおり事業を遂行するに当たり、早急に対応する必要があるために、今回、追加議案として提出するものでございます。

以上が、議案第３９号の説明とさせていただきます。

また、追加で申しわけありませんですけども、今回、当初予算議案として、平成３１年度一般会計当初予算を提出させていただいております。この当初予算が成立しない段階で補正予算を提出できるかという点につきまして、ちょっとご説明させていただきたいと思います。

この点につきましては、議会運営に関する疑義をまとめた議会運営実務提要によりますと、当時の自治省、現在の総務省より行政実例が示されており、当初予算が成立していない段階において、これを補正する補正予算の提出はできるというふうにされております。ただし、補正予算の議決は、当初予算の議決をされた後でなければならないということになっておりますので、議案の採決を行っていただく際に、当初予算を先に採択いただきまして、可決いただきましたならば、その後に補正予算の採択をいただく流れになろうかというふうに思います。

以上、追加予算の説明でございました。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　今の件についてお尋ねします。

本体がまだ可決されていない状況での上程ということでありますが、例えば、本体が修正可決された場合にはどういうふうに考えられているのか。これは通るということを見越して上げてられますが、通ることを前提にですね。もし仮に修正可決とか、例えば可決に至らないとかいった場合には、どういう手続になるかをお尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田俊介君。

［登壇］

○総務部長（上田俊介君）　質疑にお答えさせていただきます。

当初予算が否決された場合には、当然補正予算の効力はなくなります。

○議長（柁原賢一君）　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで質疑を終わります。

次に、委員会付託を行います。

議案第３９号は、予算決算常任委員会に付託します。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　以上で本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、３月２２日の午前１０時から開き、議案等の採決を行います。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

散会　午後３時４７分

第　６　号

３月２２日

平成３１年第１回菊池市議会定例会

議事日程　第６号

平成３１年３月２２日（金曜日）午前１０時開議

第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

――――――――――――――――○――――――――――――――――

追加議事日程（第６号の追加１）

第１　決議案第１号　児童虐待のない菊池市の実現を目指すための決議
　上程・説明・質疑・討論・採決
第２　決議案第２号　菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議
　上程・説明・質疑・討論・採決

――――――――――――――――○――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について
追加日程第１　決議案第１号　児童虐待のない菊池市の実現を目指すための決議
　上程・説明・質疑・討論・採決
追加日程第２　決議案第２号　菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議
　上程・説明・質疑・討論・採決

――――――――――――――――○――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之　君
２番	福　島　英　徳　君
３番	緒　方　哲　郎　君
４番	後　藤　英　夫　君
５番	平　　直　樹　君
６番	東　　奈津子　さん
７番	坂　本　道　博　君
８番	水　上　隆　光　君
９番	猿　渡　美智子　さん

１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君
１８番	泉　田　栄一朗	君
１９番	木　下　雄　二	君
２０番	山　瀬　義　也	君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実	君
副　市　長	芳　野　勇一郎	君
政策企画部長	元　島　加奈子	さん
総　務　部　長	上　田　俊　介	君
市民環境部長	古　田　浩　敏	君
健康福祉部長	中　村　隆　純	君
経　済　部　長	谷　田　　修	君
建　設　部　長	淵　邉　政　博	君
七城支所長	楳　田　邦　昭	君
旭志支所長	岩　根　卓　士	君
泗水支所長	坂　本　忠　弘	君
財　政　課　長	上　田　敏　雄	君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中　尾　孝　浩	君
市長公室長	前　川　幸　輝	君
教　育　長	渡　邉　和　博	君
教　育　部　長	大　山　堅四郎	君
農業委員会事務局長	坂　本　高　秀	君
水　道　局　長	大　塚　忠　康	君

	監査委員事務局長	清　田　幸　臣　君

―――――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	徳　永　裕　治　君
事 務 局 課 長	歌　岡　憲　一　君
課　長　補　佐	松　原　憲　一　君
議　会　係　長	安　武　則　貴　君
議　　会　　係	吉　岡　結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席願います。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　ただいまより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　日程第１、去る２月２８日及び３月６日の会議において各常任委員会に審査を付託しました議案第３号から議案第３９号までの３７議案について、各常任委員長から審査結果の報告があっておりますので、これを一括して議題といたします。

ただいまから各常任委員会における審査の経過及び結果について、各常任委員長の報告を求めます。

まず、総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　おはようございます。それでは、総務文教常任委員会委員長報告を行います。

本定例会で総務文教常任委員会に付託されました案件は、条例案７件、議決案件２件です。

２日にわたり慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

初めに、議案第５号については、働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律の施行に伴い、条例の一部を改正するものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、組合とは今から協議するのか。そっちを優先にしたほうがいいと思うがとの質疑に対し、執行部より、組合とは時間外の取り扱いについても協議を行っているところである。そのほかの事項についても、今後、協議していく考えであるとの答弁がありました。また、委員より、時間外勤務手当の削減につながるのかとの質疑に対し、執行部より、時間外勤務の上限を設けるということであり、手当の削減にもつながるものと考えるとの答弁がありました。さらに、委員より、時間外の上限が設けられても仕事量が変わらず、現場は悲鳴が上がっているとも聞く。職

員の増とかも同時に図っていく必要があると思うがいかがかとの質疑の対し、執行部より、職員数をふやすことは厳しい。まずは業務の見直しやＩＣＴ等による効率化を図りたい。また、部署による仕事量の偏りについても検討したいとの答弁がありました。

次に、議案第６号については、国家公務員の給与改定及び熊本県特別職の給与改定に伴い、市長、副市長及び教育長並びに議員の期末手当について支給率を引き上げるものであるとの説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第７号については、人事院勧告及び熊本県人事委員会勧告に基づき実施された公務員の給与改定に準じて、本市職員の給与を改定するため、地方公務員法の規定により、条例の一部を改正するものであるとの説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第８号については、菊池市幼稚園民営化検討委員会、菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会、菊池市母子保健推進委員及び菊池市介護相談員の廃止並びに菊池市上水道事業運営審議会及び菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会の設置に伴い、条例の一部を改正するものであるとの説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第１３号、議案第１４号、議案第１５号、議案第３６号については、学校教育課所管の菊池市立泗水幼稚園の民営化に伴うものであり、一括して審議しました。

委員より、平成３２年４月入園の園児募集は移譲先が行うのか。建物の評価額はとの質疑に対し、執行部より、平成３２年度入園の園児募集は移譲先が行う。評価額については、前々年度の評価で土地が４，３５０万円、建物が１，６３０万円であるとの答弁がありました。また、委員より、現在の園児数と本年度卒園予定の園児数は。また、本年４月の入園予定園児数はとの質疑に対し、執行部より、現在の園児数が１９名であり、うち８名が卒園予定である。本年４月の入園は７名の予定であるとの答弁がありました。さらに、委員より、土地は貸し付けであるが、譲渡したがいいのではとの質疑に対し、執行部より、公募条件でも貸与としている。譲渡後に移譲先法人がほかの事業を行っては困るため、縛りをかける意味から土地は貸与としている。保育園を移譲したときも同様であるとの答弁がありました。

次に、議案第３８号については、熊本市と菊池市が連携して事務を処理するに当たっての基本的な方針及び役割分担を定める協約を締結するためには、同法第２５２条の２第３項の規定により、議会の議決を経る必要があるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、なぜ、このタイミングで急いで締結するのかとの質疑に対し、執行部

より、事業の集約化ではなく、広域的にやったほうが効率的かつ経費の削減を図られることを加味し、決めたところであるとの答弁がありました。また、委員より、事業の集約化ではないとの説明だが、そうなる危険性があると指摘しておきたい。もう少し検討が必要であるとの意見がありました。

議員間討議では、議案第６号について、地方の経済はよくなってきていないのが現状であり、議会での審議もできていない思いがあるとの意見や、特別職については、安易に人事院勧告が出ているからでは通らないとの意見がありました。

以上、審議しました結果、当委員会に付託されました議案第５号、議案第７号、議案第８号、議案第１４号、議案第１５号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、討論があった議案について申し上げます。

まず、議案第６号については、委員より、市長や議員等の特別職の値上げである。市民の暮らしが大変厳しい中で、特別職の給与等の値上げは行うべきではないとの反対討論がありました。また、委員より、人事院勧告に基づくものであり、勧告どおりに賛成であるとの賛成討論がありました。

次に、議案第１３号について申し上げます。

委員より、福祉、教育分野で財政面を理由に民営化を進めていくことは、自治体の責任放棄である。既に移譲先も決定されており、平成３２年度スタートの状況だが、たびたび泗水幼稚園の民営化に関しては反対してきたし、今もその立場は変わらない。以上の理由から反対であるとの反対討論がありました。また、委員より、これまで、保育園、養護老人ホーム等の民営化が行われてきたが、民営化により行政での運営よりもサービスがよくなった事例もある。幼稚園としての機能もよくなっていくものと考えるとの賛成討論がありました。

次に、議案第３６号について申し上げます。

委員より、議案第１３号と同じく、泗水幼稚園の民営化には反対であるとの反対討論がありました。

次に、議案第３８号について申し上げます。

委員より、行政の集約・広域化を進めれば周辺自治体は権限・財源が奪われ、中心都市に公共施設などを集中させ、周辺自治体の住民は行政サービスが受けられなくなったり、声が届きにくくなったりし、住民自治の後退につながることが懸念される。このような懸念がある中での締結は反対であるとの反対討論がありました。また、委員より、多くのメニューの中から、連携して取り組んだほうがよいものを抽出してある。一緒にやったほうが合理的なもの、もしくは、より相乗効果があるものが記載されており、一緒にやるべきとの賛成討論がありました。

採決の結果、議案第６号、議案第１３号、議案第３６号及び議案第３８号については、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定どおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、総務文教常任委員会委員長の報告を終わります。

○議長（柁原賢一君）　次に、福祉厚生常任員長、猿渡美智子さん。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（猿渡美智子さん）　おはようございます。

本定例会で福祉厚生常任委員会に付託されました案件は、条例案４件です。

２日にわたり慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

まず、議案第３号は、菊池市における地域包括ケアシステムの構築に関し、医療、介護及び福祉の各分野における多職種間連携を円滑に推進するため、菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会を設置することを目的としたものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、地域ケア会議とは別に新たな協議会をつくる必要性をどう考えるのかとの質疑に対し、執行部より、地域ケア会議は、個別の事例に対しての検討と、ネットワークの構築という形での会議との二つ構えで会議をしている。在宅医療・介護連携推進事業は、在宅の医療が必要な方、介護が必要な方に切れ目のないサービスができるような事業の構築の仕方を総体的に考えていくものであるとの答弁がありました。また、委員より、民生委員とのかかわりはどうなるのか。負担がふえないかとの質疑に対し、執行部より、この事業の啓発ということで民生委員にはお願いしたいと考えている。民生委員が困ったときの行き先が地域包括支援センターであり、この協議会であることをわかっていただければと考えているとの答弁がありました。

次に、議案第９号は、社会福祉法の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものであり、社会福祉法人が余裕資金を活用して地域公益事業を行う場合に限り、地域協議会といった場所で意見等聴取を行うことが規定されているため、本市では地域福祉計画策定委員会が適切であると考えて、その所掌事務等の一部改正を行うものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、地域福祉計画はもうすぐでき上がるが、その後はどうなるのかとの質疑に対し、執行部より、今後も策定委員会は地域福祉を推進するための委員として継続するので、必要に応じてこの協議会としての役割を担っていただくとの答弁がありました。

次に、議案第１０号は、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の

一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。今回の主な改正内容は、支援員の資格要件の拡大であるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、なり手が少ないから範囲を広げるという趣旨かとの質疑に対し、執行部より、そのこともあるが、指導員の質の確保ということで、子どもに対する専門の教育をきちんと受けている人を入れるということの二つの意味があると考えている。本市については、指導員の確保はなかなか難しいところであるとの答弁がありました。

次に、議案第１１号は、介護保険法の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。主な改正内容は、共生型地域密着型サービスに関する基準の追加であり、これまでは、障がい福祉サービス等事業所でサービスを受けていた障がい者の方が、６５歳になると介護保険事業所に移らなければならないケースがあったが、この改正により、使いなれているこれまでの事業所でサービスを受けることができるようになるものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、今までは共生型のサービスがなかったので、困られた方がいたということかとの質疑に対し、執行部より、そういう意見の集約により、この法改正があったと思うとの答弁がありました。

その後の議員間討議では、議案第１０号に対し、委員より、昨年も放課後児童支援員の資格要件を広げる条例の改正があり、今回もまた資格要件を広げることになっている。しかし、そうやっても支援員が集まるかどうかはわからない。やはり報酬の割にはリスクが大き過ぎると思う。資格を持っている人、現在働いている人からヒアリングを行って改善策を打っていく必要があるとの意見や、資格を持っていても、その資格を有効に使わない人がいるようなので、資格を持った人をこちらから探して、積極的にアピールすることも大事ではないかとの意見や、なかなか人手が集まらないということなので、報酬について、国、県に対し予算措置をしてもらうように働きかける必要があるとの意見がありました。

以上、慎重審議しました結果、議案第３号、議案第９号から議案第１１号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、福祉厚生常任委員会委員長の報告を終わります。

○議長（柁原賢一君）　次に、経済建設常任委員長、坂本道博君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（坂本道博君）　おはようございます。経済建設常任委員会委員長報告をさせていただきます。

本定例会で経済建設常任委員会に付託されました案件は、条例案２件、議決案件１件です。

現地調査も踏まえ２日にわたり慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

初めに、議案第４号については、上水道事業の健全な経営を図ることを目的に、菊池市上水道事業運営審議会を設置するもので、平成３２年度から１０年間の新たな菊池市水道ビジョンを策定するに当たり、水道施設の更新計画やそれに伴う財政計画を審議いただくことや、必要に応じて諮問できるように本条例を制定するものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、組織に学識経験を有する者とあるが、どういう方がなるのかとの質疑に対し、執行部より、環境課において熊大の先生が七城地区を調査されており、できればそういう方を考えているとの答弁がありました。また、委員より、七城地区の水の硝酸態窒素がふえているということで、上水道を設置できないかとの要望があるが、そういうことも審議するのかとの質疑に対し、執行部より、国が示している水道ビジョンは１自治体に１水道事業という考え方である。施政方針では市の全体の水道事業について、安全な水の供給ということで触れられており、環境課が中心となって行っている。七城地区については、水道局としても環境課と連携しながら取り組んでいきたいとの答弁がありました。

次に、議案第１２号については、学校教育法及び技術士法施行規則の一部改正に伴い、現在の技術士第２次試験の専攻科目や上水道部門の選択科目が見直されるため条例改正するものとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第３７号については、平成２３年度に民有地から市道への樹木の張り出しにより車両の通行に支障を来すと地域住民から苦情及び伐採依頼があっており、市は相手方に対し、石垣から公道上にはみ出した樹木を剪定するよう長い年月をかけて話し合いや勧告を行ってきたが、見解の相違があり、今後は交渉にも応じないとして履行しようとしないため、樹木の剪定を求める調停を申し立てるものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、この場所は用地買収のときの境界問題も絡んでいるようだが、どのような状況かとの質疑に対し、執行部より、相手方は石垣より１メートル６０センチ先までが自分のところで境界だと言われている。当時の図面等を見ても、今の石垣のところが境界として証拠が残っているとの答弁がありました。

また、委員より、市としては何回ぐらい交渉しているのかとの質疑に対し、執行部より、以前は勧告書も送っているようだが、平成２９年度には本人と六度ほどお会いしている。平成３０年度には三、四回お会いし、９月が最後で相手からも裁判

の話が出ているとの答弁がありました。

さらに、委員より、調停が不成立になったら裁判になるが、費用はどのくらいかかるのかとの質疑に対し、執行部より、訴訟までいく場合は約１００万円程度かかると考えているとの答弁がありました。

また、委員より、今回の調停のポイントは、境界問題についてではなく、あくまでもはみ出している樹木を伐採したいということかとの質疑に対し、執行部より、市としては地籍が確定しているため、そこを道路境界として考えており、そこからはみ出した部分を伐採してほしいとの調停であるとの答弁がありました。

以上、慎重審議しました結果、当委員会に付託されました議案第４号、議案第１２号及び議案第３７号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、経済建設常任委員会委員長の報告を終わります。

○議長（柁原賢一君）　次に、予算決算常任委員長、平直樹君。

［登壇］

○予算決算常任委員長（平直樹君）　おはようございます。予算決算常任委員会委員長報告をいたします。

去る２月２８日の本会議において、予算決算常任委員会に付託された議案について、３月７日、８日、９日及び１２日に予算決算常任委員会分科会、２月２８日、３月６日、１８日に予算決算常任委員会を開催し、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について報告いたします。

本委員会に付託されました議案は、議案第１６号から議案第３５号及び議案第３９号の２１議案です。

各分科会において所管する分を慎重に審査し、各分科会長より経過報告がありましたので、その主な内容について報告します。

まず、議案第１６号について、そのほとんどが事業実績もしくは見込み額の確定による減額補正であります。主なものについて申し上げます。

地域振興費のまちづくり人材育成事業１００万円の減額について、委員より、当初予算計上額と同額を減額する理由はとの質疑に対し、執行部より、まちづくりプランに関するコンテストの優勝チームが行うプラン事業化に対する補助金として計上していたが、子育てや仕事の関係で事業化が厳しいとの優勝者からの申し出により減額を行ったとの答弁がありました。

さらに委員より、補助金は２分の１で、残りの２分の１の内容はとの質疑に対し、執行部より、残りは自己資金となるとの答弁がありました。

答弁に対し、委員より、自己資金が問題だったとも聞く。当初予算を計上するときにきちんとした形でやっていただきたいとの意見がありました。

次に、熊本地震災害廃棄物処理基金活用事業の減債基金積立金９，３０５万５，０００円について、委員より、国庫支出金で９，３０５万５，０００円入っているが、この積立金は平成３２年までに全部取り崩すということだったかとの質疑に対し、執行部より、本年度、県よりいただいた補助金であり、熊本地震の災害廃棄物の処理基金として積み立てを行っている。熊本地震による災害廃棄物の処理にかかった起債の償還が平成３２年に開始されるので、それまで基金に積み立てておき、平成３２年に全額取り崩して返済に充てるよう考えているとの答弁がありました。

次に、四季の里整備事業において、繰越明許費補正２，１９０万２，０００円と工事請負費１，５２６万６，０００円の減額について、工事内容のわかる資料を請求し、審査いたしました。

執行部より資料説明のあった主な内容は、まず、温泉ポンプ及び揚湯管改修工事２，４４０万７，０００円は行わなくなったため減額となった。つり橋改修工事２，１６８万３，０００円については、１２月末に木製の主桁に腐食が見つかり、主桁を鉄工に変えるため３，０４９万２，０００円となり、８８０万９，０００円の増額となる。また、緊急を要するため工事費から設計に４９万８，０００円流用しており、予算額と執行見込み額の差１，５２６万６，０００円を減額するものである。繰越明許費については、増額となるつり橋改修工事費３，０４９万２，０００円から既に前払いしている８５９万円を差し引き２，１９０万２，０００円で計上しているものである。耐用年数については、橋りょう設計の指針があり、木造が２５年、鉄工が１００年となっており、トータル費用は鉄工が安くなるとの説明がありました。

委員より、木造部分に腐食があったから鉄工に変えるということだが、木造で改修する場合はもともとのつり橋改修工事費２，１６８万３，０００円が幾らになるのか。また、その財源はとの質疑に対し、執行部より、鉄工に変えた場合は３，０４９万２，０００円であるが、木造の場合は概算で２，８１５万７，０００円程度と見込んでいる。財源についてはもともと辺地債を充てていたが、費用を使ってしまっているために、追加の分については一般財源となるとの答弁がありました。

さらに、委員より、辺地債の場合は設計変更をするときは３０％の枠があり、今回の４０％アップというのは枠外になり、重要変更契約事項になると思うが大丈夫なのか。また、それがわかった時点で全員協議会等への報告ができなかったのかとの質疑に対し、執行部より、報告できなかったことは大変申しわけなかったと思う。重要変更になるため現在工事をストップさせており、今回の予算通過後に改めて変

更契約をするとの答弁がありました。

次に、議案第１９号については、委員より、高額介護サービス費の増額１，８５３万円について、国庫支出金から全て出されているが、高額介護サービス費については、基本的に国庫支出金で全て賄えるものと考えてよいのかとの質疑に対し、執行部より、本来の財源内訳としては、国が２５％、県と市がそれぞれ１２．５％、第１号と第２号を合わせた保険料が５０％である。しかし、国からの給付金が多く交付決定されて振り込まれているため、今回はこういったところで合わせないと、歳入・歳出のバランスがとれない。後は決算で調整するものであるとの答弁がありました。

次に、議案第２６号中、その主なものを申し上げます。

歳入における寄附金のがんばるふるさと菊池応援寄附金２億円について、委員より、本議会の平成３０年度一般会計補正予算で１億１，３４０万円の減額となっている。予算の組み方として、歳入欠陥についてどのように考えた上での今回の計上かとの質疑に対し、執行部より、物品ばかりでなく、平成３０年から実施した見守りサービスのほかに、草取りや剪定の代行サービス、観光商品などの返礼品の充実を考えており、平成３０年度同様２億円としたとの答弁がありました。さらに、委員より、努力はわかるが、歳入欠陥となった場合は、どこかで財源を確保しなければならない。歳入欠陥が見込めるような予算の組み方はいかがなものかと考えるとの意見がありました。

次に、教育総務費の補助教員配置事業について、委員より、補助教員を２８名配置するとのことだが、例年との配置数の比較は。また、現在の複式学級数はとの質疑に対し、執行部より、補助教員数は平成３０年度より１名減となっているが、特別支援教育支援員は１名増となっている。複式学級数は戸崎小学校の１学級となっているとの答弁がありました。また、委員より、複式学級数の今後の見込みはとの質疑に対し、執行部より、平成３１年度まで１学級で、それ以降は解消されるとの答弁がありました。

次に、社会教育総務費の地域学校協働活動推進費補助事業について、委員より、地域未来塾では、英語と数学が実施科目となっているが、要望により理科や社会などまで広げる考えはとの質疑に対し、執行部より、科目をふやすことについては、多数要望があれば検討するとの答弁がありました。また、委員より、放課後子ども教室推進事業は、年何回の開催かとの質疑に対し、執行部より、本年度から泗水東小学校で始めた。５年生、６年生を対象として国語・算数を３５回予定しており、地域未来塾の小学生版として始めたものである。支援員の確保ができればいろんなメニューが組める。支援員の確保に全力を挙げているところであるとの答弁があり

ました。

次に、放課後児童支援員等処遇改善等事業補助金１，７２８万７，０００円について、委員より、処遇改善等事業というのは、どこでどんな事業をやるのかとの質疑に対し、執行部より、児童育成クラブで、家庭や学校との連絡及び情報交換等の育成支援に主担当として従事する職員を配置した場合に１５７万５，０００円、それに加え、地域との連携・協力等の育成支援に主担当として従事する常勤職員を配置した場合には３１２万円を支給するものであるとの答弁がありました。また、委員より、その補助金を受け取れているクラブは幾つあるのかとの質疑に対し、執行部より、６クラブであるとの答弁がありました。

次に、農業施設管理事業の委託料において、委員より、第三セクターの指定管理委託料が計上されているが、行政改革大綱では会社組織の統合と第三セクターの自立経営がうたってあり、第三セクターは統合に向けて全く動いていないようだが、行政改革大綱との整合性はとの質疑に対し、執行部より、第三セクターの新たな指定管理が４月から５年間始まるが、統合については三セクの協議会で話し合われている。また、公共施設の総合管理計画の中で個別計画を検討しており、もう少し時間が必要であるとの答弁がありました。

次に、ブランド推進事業の菊池米ブランド推進協議会補助金５３０万円において、委員より、九州のお米食味コンクールの持ち回り開催について、一般質問の答弁では、第２回までを菊池市が担って軌道に乗せてほかの自治体と協力体制に持ち込みたいと答えているのに、また計上されている理由はとの質疑に対し、執行部より、沖縄を除く九州の自治体にアンケートをとり、このコンクールに関心がある自治体に直接訪問して説明している。費用や開催方法等の課題もあり、それをクリアしていくよう進めているとの答弁がありました。

次に、花房坂周辺公園整備事業８８９万６，０００円においては、先日開催されたワークショップで出された意見の内容について資料を請求し審査いたしました。委員より、国道下で地元は納得して公園整備を進めているとのことだが、何で見晴らしが特別よいわけではないのに中途半端なところにつくるのかということを言われる方が結構いる。ワークショップの参加者が３４名と少ないようだが、区長や花房の協議会役員等は入っているのか。また、総事業費と維持管理費はどれぐらいで積算しているのかとの質疑に対し、執行部より、ワークショップには協議会の役員等は入っておられた。人数については広く周知しているが３４名の参加ということであった。事業費は公園と道路等で当初は４，０００万円で予定している。維持管理については検討中で正確にはまだ出していないとの答弁がありました。

また、委員より、実際にワークショップに参加したが、できるなら既存の展望所

付近につくってほしいとの意見がほとんどの人から出ていたが、市民の税金を使うわけであり、利活用できるような公園にするよう検討が必要ではないかとの質疑に対し、執行部より、今度ワークショップの意見の総括ができるので、その中で場所等について変更の余地があれば検討していかなければならないと考えるとの答弁がありました。

議員間討議では、国際交流事業について、このままでいいのか、一旦立ちどまるべきなのかが問題という思いがするとの意見や、政治的な要因が大きく交流事業で影響するので、しっかり考えていかなければいけないのではないかと思うとの意見。また、安全という点ではどこの国でも気をつけなければならない。国際交流協会の方も行くばかりでなく、来ていただく交流にも力を入れたいとの話も出ているとのことであり、今後は、来られる方、住まわれている方等との交流のあり方も検討すべきではとの意見がありました。また、国際交流の必要性と目的が示されているが、出てくる事業は全く同じという点が少し問題であると思うとの意見もありました。

がんばるふるさと菊池応援寄附金について、努力はわかるが、本年度１億２，０００万円程度の減額である。歳入については、もう少し慎重に計上すべきであるとの意見や、大事な取り組みではあるが、同じ金額を計上するのは検討すべきとの意見がありました。

また、農林業後継者対策推進事業の担い手育成対策奨励金及び商工業新規就業奨励事業の中小企業後継者育成対策助成金において、昨年度まであった結婚祝い金は、分科会での当初の説明では、市の財源が厳しい中、補助金の見直しにより予算計上していないということであった。しかし、その後の分科会の審査の途中で説明を訂正し、結婚祝い金の予算が復活したことは問題である。予算については、執行部は信念を持って提出しなければならず、議会はそれを市民目線でチェックする。それぞれの緊張感があって、初めて予算が成立して、よりよい菊池市になっていくと考えるとの意見がありました。

次に、議案第２７号については、委員より、特定健診等委託料２，３０６万２，０００円は特定健診者数等により計算していると思うが、前年度実績から予測しているのか。対象者数がふえるということは、次の予防につながっていくと思うため、例えば、５年、１０年ぐらいの平均をとるなどの統計方法も入れていってはどうかとの質疑に対し、執行部より、特定健診の単価と対象者数で健診料金を出しており、これには特定保健指導の委託料も含まれている。委託料については、前年度の人数で見ているが、健診受診が少しふえると見込んで計算している。特定保健指導については、特定保健指導実施計画というものを立てており、今年度の受診率が３１．８％であったが、計画では来年度３４％を見込んでおり、その数字に合わせて予算

を計上しているとの答弁がありました。

次に、議案第２８号については、委員より、低所得者の軽減措置が来年度から変更されると思うが、そのことにより保険基盤安定繰入金が発生するというところをもっと詳しく説明してほしい。また、軽減措置が減ったことにより、今までよりも少ししかお金が入ってこなくなると、その差額分というのは市へどう影響するのかとの質疑に対し、執行部より、保険者の中には軽減世帯があるため、それに合わせて不足分が繰り入れで入ってくるものである。保険料の軽減分について、割合の変更はあるが、軽減世帯というのは残るため、その軽減分が広域連合から入ってくるように変わるものである。また、軽減による差額についても、国から国庫補助として入ってくるようになっているとの答弁がありました。

次に、議案第３４号については、委員より、短期入所の希望者に対して、嘱託職員の不足による影響はなかったのかとの質疑に対し、執行部より、短期入所についても、長期入所についても待機者がいる状態である。長期の定数が１２０名であるのに対して、短期入所は定数が１４名しかなく、制限すると枠が少ないため迷惑がかかると考えて、昨年度は、長期入所者の入所を一時見合わせて、短期入所はそのまま利用していただいた。今年度は嘱託職員の不足が長期間にわたりそうなので、長期入所を優先して、短期入所の制限を早目にお願いしながら、利用者に支障がないようにするとの答弁がありました。

なお、議案第１７号、議案第１８号、議案第２０号、議案第２１号、議案第２２号、議案第２３号、議案第２４号、議案第２５号、議案第２９号、議案第３０号、議案第３１号、議案第３２号、議案第３３号、議案第３５号、議案第３９号については、特に質疑はありませんでした。

以上が、各分科会長からの経過報告となります。

経過報告に引き続き、各分科会長に対する質疑を行いました。

議案第１６号について、委員より、地域振興費のまちづくり人材育成事業１００万円の減額についてとあるが、事業内容の具体的な説明等はあったかとの質疑に対し、総務文教分科会長より、プランコンテストの優勝者が行う事業化に対し補助金を計上した。対象者は平成２９年度のまちづくり人材育成事業に参加したグループで、菊池市の活性化につながる事業についてそれぞれ発表し、その中での最優秀の団体に対し補助金を交付するとの説明があったとの答弁がありました。

次に、議案第２６号について、委員より、農業施設管理事業の委託料において、第三セクターは統合に向けて全く動いていないようだが、行政改革大綱との整合性はとの質疑に対し、執行部より、もう少し時間が必要であると答弁されているが、どういうことを意味しているのか。分科会での議論内容は。また、花房坂周辺公園

整備事業で、維持管理費については検討中で正確にはまだ出していないとの執行部からの答弁であるが、ランニングコストの試算もなく予算化するのは疑問だが、どういった議論がされたのかとの質疑に対し、経済建設分科会長より、第三セクターの統合について、個別計画ができていないため、もう少し時間が必要であるとの答弁があっており、委員からはそれに対して指摘があっている。また、維持管理については、軌道敷の借り上げや除草の経費等に関する維持管理費の質疑や指摘する意見があったとの答弁がありました。

以上、慎重に審議しました結果、議案第１６号及び議案第２６号から議案第２９号を除く、議案第１７号から議案第２５号、議案第３０号から議案第３５号及び議案第３９号については討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、討論がありました議案について申し上げます。

初めに、議案第１６号についてですが、四季の里旭志整備事業においてのつり橋改修工事で２，１６８万３，０００円が計上され施工されているが、主桁を鉄製に変えるために８８０万円を増額するものである。温泉ポンプの改修工事代から８８０万円をつり橋改修に充てることは当初の予算説明と異なり、本来ならば本年１月の臨時会において補正予算をつり橋改修工事費として計上すべきものである。また、変更契約については変更率が４０％で、重要変更契約の取り扱いとなり、財源として辺地債が入っていることからも、単なる同じ節内での流用ということでは納得のいくものではない。平成３０年度予算で２，０００万円のつり橋改修工事を認めても、３，０００万円の改修工事費は議会は認めていない。以上のことから、議案第１６号には反対であるとの反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

次に、議案第２６号については、修正案が２件提出され、本案とあわせて議題としました。

１件目の修正案については、提出者より、九州米食味コンクールについて、昨年９月の一般質問で、本年度は菊池市での開催はしないと答弁されているにもかかわらず、予算計上されている。過去２回の大会での費用対効果も低いと考えるため、九州米ブランド推進協議会補助金５３０万円を予備費に計上するものである。また、花房坂周辺公園整備事業８８９万６，０００円についても、現在、国道下に整備するよう計画が進められているが、平成３１年２月２０日に開催されたワークショップにおいては、既存の展望所付近に整備を望む意見が多数出されている。また、維持管理費については検討中とのことで積算もされていない。市民が望む公園となるよう計画の再検討が必要であり、予備費に計上するものであるとの説明があり、特

に質疑はありませんでした。

２件目の修正案は、１件目の修正案のうちの花房坂周辺公園整備事業８８９万６，０００円を予備費に計上するもので共通しており、同様の説明があり、特に質疑はありませんでした。

討論では、共通する部分を除く、九州米ブランド推進協議会補助金を予備費に計上する部分について、委員より、もともと七城地域の米農家の強い要望で進んできた経緯がある。また、一般質問の答弁の中では、次のところが手が挙がればと私は理解している。今の時点で受けるところがないということであれば当然我が市で、九州の中の米どころ菊池市を売るためにもこの予算は絶対必要だと思う。よって、この修正案に反対するとの反対討論がありました。また、委員より、基本的には地元ですることは２回までで、今後は九州各県のほうにやっていただいて推進をするということを議会で答弁されている。これは議事録に残っているわけである。議員としてチェックしなければいけないことは、これをまた予算計上するということが果たして正しいということなのか。一旦この場は予備費に移して再検討する必要があるため、この修正案には賛成であるとの賛成討論がありました。

採決の結果、賛成少数により否決すべきものと決定しました。

次に、両修正案に共通する花房坂周辺公園整備事業を予備費に計上する部分について、委員より、ランニングコストがはっきりしなかったり、ワークショップでもうちょっと市民の声を聞いてみたり、もっと市民のためになるよう、喜ばれるような公園を目指していただきたいと思う。もし既存の展望所付近にできるような余地が少しでもあれば確認したいので、修正案に賛成するとの賛成討論がありました。

採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

次に、ただいまの修正案部分を除く残りの原案について、委員より、本予算では消費税増税等に伴う施設の利用料など市民負担を前提とした予算であり、市民の暮らしの実態が顧みられていない。また、国保税の負担解消のために一般会計からの基金の法定外繰り入れを行うべきと指摘しているが、反映されていない。部落解放同盟への補助金についても適切な額でないとの反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

次に、議案第２７号についてですが、保険税が高過ぎる。保険料の据え置きに努力はされているが、今必要なのは値下げであるとの反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

次に、議案第２８号についてですが、高齢者に差別を持ち込む制度そのものに反対であり、今年度に引き続き低所得者の軽減措置が変更され負担増となるためとの反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

次に、議案第２９号についてですが、昨年から一定の所得者の利用料の２割負担が３割負担へと引き上げられ、また、総合事業が引き続き継続され、サービス後退の予算のためとの反対討論がありました。

採決の結果、賛成多数で可決すべきものと決定しました。

以上、本委員会に付託されました議案の審査の経過及び結果について、ご報告いたします。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、速やかに御賛同を賜りますようお願いを申し上げ、予算決算常任委員会委員長報告といたします。

○議長（柁原賢一君）　ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時５０分

開議　午前１０時５７分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ただいまの各常任委員長の報告に対し質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで質疑を終わります。

これから委員長報告が修正可決でありました議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算並びに議案第３９号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計補正予算（第１号）を除き、討論を行います。

議案第３号から議案第２５号、議案第２７号から議案第３８号の、以上の３５議案について、討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　皆さん、おはようございます。議席番号６番、日本共産党、東奈津子です。

議案第６号、議案第１３号、議案第２７号から２９号、議案第３６号、議案第３８号について、反対討論を行います。

まず最初に、議案第６号、菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について、反対の立場から討論をします。

今条例等の一部改正は、国の人事院勧告に伴うものであり、別の議案として一般職員の給与等に関しても同じ内容で上程されております。職員の給与に関しては、

民間の給与にも影響を与えるという点でも、また、住民サービスを行う公務員の身分を保障するという点でも、引き上げには賛成であります。しかし、第６号は職員とは別の、市長や議員などの特別職対象の値上げであります。市民の暮らしが大変厳しい中で、特別職の給与等の値上げは行うべきではないと判断しています。

以上の理由から、議案第６号については反対であります。

次に、議案第１３号、菊池市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について、討論を行います。

菊池市立幼稚園は、平成１９年の菊池市行政改革大綱実施計画で、保育所、老人ホームなどの民営化とあわせて計画の中に盛り込まれ、検討が開始されました。その後、内部、外部の検討委員会の検討を受けて、平成２５年に民営化の方針が出され、旭志幼稚園を泗水幼稚園に統合し、統合後、３年を目標に民営化することを決定、平成２８年に正式に民間移譲が決定されました。

この間の保育園の民営化、つまごめ荘の民営化と同様に、福祉、教育分野で自治体が財政面を理由に民営化を進めていくことは、自治体の責任放棄であると述べざるを得ません。既に移譲先も決定されており、平成３２年度からのスタートも予定されているという状況ですが、当選後、たびたびこの幼稚園の民営化に関しては反対してきました。議員としての立場は変わりません。

以上の理由から、議案第１３号には反対であります。

次に、議案第２７号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市国民健康保険事業特別会計予算についてです。

反対の理由は、高過ぎる保険税であるという点であります。今年度から都道府県化が始まり、標準保険料を示されながらも、保険料の据え置きに努力されている点は評価できます。しかし、市民の暮らしの実態からして、今必要なのは引き下げであります。根本的な解決は国庫補助の引き上げであり、全国知事会も要望している１兆円の公費負担の早急の増額であります。同時に、それ待ちにならず、地方自治体独自での努力が待ったなしであります。均等割の免除など一般会計からの法定外繰り入れを行って引き下げに取り組んでいる自治体も全国では少なくありません。菊池市もこのような努力が求められます。

以上で、反対討論とします。

次に、議案第２８号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市後期高齢者医療事業特別会計予算についてです。

反対の理由は、今年度に引き続き、さらに低所得者の軽減措置が変更され、結果として後期高齢者の方の負担増となっている点であります。

以上の理由から、反対とします。

次に、議案第２９号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市介護保険事業特別会計予算についてです。

昨年から一定の所得者の方の利用料の２割負担が３割負担へ引き上げられ、また、介護保険制度給付外しとも言える総合事業が引き続き継続されております。このような負担増、サービス後退の予算には反対であります。

次に、議案第３６号、財産の無償譲渡についてです。

反対の理由は、議案第１３号と同じで、泗水幼稚園の民営化に反対であるからです。

次に、議案第３８号、熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結についてです。

今、国は人口減少やむなしという議論を大前提にして、個々の市町村が行政サービスを全部提供する必要はないという考え方で、地方創生の名のもとに、広域連携による行政の集約化を進めています。こうした行政の集約、広域化を進めれば、中小都市以外の周辺自治体は、権限、財源が奪われ、一方で、中心都市に公共施設などを集中させるため大型開発を招き、そのため、周辺自治体の住民が住んでいる自治体では行政サービスが受けられなくなったり、住民の声が行政に届きにくくなり、住民自治の後退につながることが懸念されます。

２月２４日の熊日新聞に圏域構想に対しての記事が掲載されていました。共同通信のアンケートで、全国の自治体では新たな広域連携に反対が３４％という結果が出ていました。「中心となる市に財源や権限が一層集中するとの見方が強く、小規模市町村は地域が衰退すると危機感を募らせた」、こう報道があっています。県内の結果も、この圏域構想に対しては賛否が分かれております。

このような懸念のある中での締結には反対であります。

以上で、議案第６号、議案第１３号、議案第２７号から議案第２９号、議案第３６号、議案第３８号について、反対討論を終わります。

○議長（柁原賢一君）　ただいま議案第６号、議案第１３号、議案第２７号、議案第２８号、議案第２９号、議案第３６号、議案第３８号に対する反対討論がありました。

議案第６号、議案第１３号、議案第２７号、議案第２８号、議案第２９号、議案第３６号、議案第３８号について、賛成者の発言を許します。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　議案第６号、議案第１３号、議案第２７号、議案第２８号、議案第２９号、議案第３６号、議案第３８号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　議案第１６号、平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）について、反対討論を行います。

平議員の委員長報告と重複する点がありますが、ご了承ください。

議案第１６号中、８ページの繰越明許費補正、款６商工費、項１商工費の、四季の里整備事業ですが、平成３０年度予算で、工事請負費にて、つり橋改修工事費として２，１６８万３，０００円が計上され施工していましたが、工事中につり橋の主桁が木製であることが判明し、それを鉄製に変えるため８８０万円を増額するものです。

同じ節の工事請負費だからといって、温泉ポンプの改修工事代から８８０万円をつり橋改修に充てることは、当初の予算説明とは異なり、本来ならば本年１月の臨時会において補正予算をつり橋改修工事費として計上すべきものであります。

また、２，０００万円から３，０００万円への変更契約については、変更率が４０％で重要変更契約の取り扱いとなり、財源として辺地債が入っていることからも、単なる同じ節、工事費内での流用ということでは納得いくものではありません。平成３０年度予算で２，０００万円のつり橋改修費を認めても、３，０００万円の改修費を議会は認めていません。

以上のことから、議案第１６号には反対であります。

○議長（柁原賢一君）　次に、議案第１６号に対する賛成者の発言を許します。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで、討論を終わります。

これより議案第３号から議案第５号、議案第７号から議案第１２号、議案第１４号、議案第１５号、議案第１７号から議案第２５号、議案第３０号から議案第３５号及び議案第３７号について採決します。

ただいま反対討論がありました議案第６号、議案第１３号、議案第１６号、議案第２７号から議案第２９号、議案第３６号、議案第３８号、委員長報告が修正可決でありました議案第２６号並びに議案第３９号を除き、一括採決します。

議案第３号から議案第５号、議案第７号から議案第１２号、議案第１４号、議案第１５号、議案第１７号から議案第２５号、議案第３０号から議案第３５号、議案第３７号、以上の２７案件について、各常任委員長の報告は原案のとおり可決であります。

各常任委員長の報告のとおり決定することにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、以上の２７案件については、各常任委員長の報告のとおり可決することに決定しました。

次に、討論がありました議案第６号、議案第１３号、議案第１６号、議案第２７号から議案第２９号、議案第３６号、議案第３８号については、起立により採決します。

最初に、お諮りします。議案第６号ついて、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第６号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第１３号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第１３号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第１６号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第１６号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第２７号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第２７号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第２８号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第２８号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第２９号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第２９号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第３６号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第３６号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第３８号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第３８号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、予算決算常任委員長報告が修正可決であります議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算について討論を行います。討論はありませんか。

まず、原案に賛成者の発言を許します。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　次に、原案及び修正案に反対者の発言を許します。

東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　議席番号６番、日本共産党、東奈津子です。

議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算について、反対の立場から討論を行います。

本予算は、消費税増税等に伴う施設の利用料など市民負担を前提とした予算であり、市民の暮らしの実態が顧みられていません。今、国の政治が暮らしを破壊するような政治を進める中で、地方自治体は、本来、暮らしを守る防波堤の役割を果たさなければなりません。しかし、本予算案は、その役割を果たしているとは言えません。

本年度に引き続き、地震からの復興予算、防災に伴う予算、地域未来塾など教育関連予算措置など評価できる点もありますが、それ以上に市民の暮らしの実態は深刻です。生活保護世帯は就労支援の努力もあり、停止の件数もありながら、新規の申請がふえ続けています。菊池市の奨学金返済未納者の数は年々ふえており、平成２９年度は１年間で７５人にも上っています。

一方で、市のため込み金、財源調整基金は平成３０年９月３０日現在で６０億円を超えています。決算審査のときにも指摘しましたが、暮らしが厳しいときにもっとこの基金の活用をすべきであります。とりわけ国保税の負担を解消するためにも、一般会計からの基金の法定外の繰り入れを行うべきであることを繰り返し指摘していますが、反映されておりません。

さらに、具体的な指摘としては、同和関連予算であります。部落解放同盟への補助金が来年度は約３０万円の減額となっており、検討が行われ、減額へ踏み出したことは評価できます。しかし、まだ全体の額で見ると適切な額とは言えません。昨年の決算でも指摘しましたが、補助金のほとんどが日当や旅費に充てられており、本来、このような支出の財源は団体みずからの会費等で捻出すべきものであります。税金の使い方に関しても、市民の理解が得られる内容ではないと指摘をせざるを得ません。

以上の理由から、議案第２６号には反対とします。

○議長（柁原賢一君）　ほかに原案及び修正案に反対者の発言はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算について、修正案を除く原案に反対討論を行います。

反対の理由としまして、議案第２６号中、１２９ページの款５農林水産業費、項１農業費、目７ブランド推進費の菊池米ブランド推進協議会補助金５３０万円については、一部、九州米食味コンクールの予算でありますが、昨年の９月の坂本道博議員の一般質問において、九州米食味コンクールを本年は菊池市では開催しないと答弁されているのにもかかわらず、平成３１年度に計上されています。他自治体で開催を見送るような大会を多額の予算と多数の市職員の動員をかけて、３年連続で開催する必要はなく、過去２回の大会の費用対効果も低いと考えるためであります。

県内の自治体では、熊本地震の復旧事業を優先させるため、ソフト事業の予算のカットや優先度の低い事業の廃止など、財源確保に向けての取り組みが続いています。菊池市も起債残高が膨らんでおり、財政運営には堅実さと緊張感を持つべきであります。

以上のことから、議案第２６号には反対であります。

○議長（柁原賢一君）　次に、修正案及び残りの原案に賛成者の発言を許します。

緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　まずは、修正案に対して賛成者の立場で発言をさせていただき

ます。

花房坂周辺公園整備事業に係る一般会計予算の委託料１５万７，０００円、公有財産購入費７００万２，０００円、補償補填及び賠償金１７３万７，０００円の合計８８９万６，０００円を予備費へ計上するという修正です。

これは公園整備に反対するものでも、また、花房地域振興対策協議会の同意意見に異議を唱えるものでもございません。このことは、これからしっかりと協議会の方々や地域の方々にお話をしていくべきものだと思っております。

ただ、花房坂周辺公園整備については、迅速な対応でワークショップを開催していただきました。その中で、花房校区の方々や近隣地区の方々から多くの意見が出てまいりました。その意見は要望であったり、また、改善していくべき問題もあったように思います。まずはその意見を取りまとめ、精査して、これからの公園づくりに反映し、地域の方々に喜んでいただけるような公園にしていくべき観点から、一度予備費へ計上するものです。まず、協議会へ取りまとめた意見を持ち、同意案をもとに素案をつくっていただき、その素案へ何度かのワークショップをしながら、しっかりと肉づけをして、でき上がった計画に対して予算を組んでいくべきものだと考えます。そして、少しでもよりよい公園にするための要素が見つかれば、それも取り入れていくべきだと思っております。そうすることによって、多少完成までは時間がかかるかもしれませんが、より多くの方々に親しんでいただける公園になっていき、これからの公園整備においても必要となってくるものだと考えます。

以上、この修正案に対しての賛成意見とさせていただきます。

続いて、修正案を除く残りの原案について、賛成の立場で発言させていただきます。

九州米食味コンクールを含んだ事業に関して、ぜひとも地元開催をと考えております。昨年９月の定例会において、坂本議員の一般質問で、今後の九州米食味コンクールの持ち回り開催についての質問に対し、今後、検討課題としながらも、まずは他の自治体との協力体制の確立と、関連自治体参加の協議会の設立へ努力されていかれる答弁であったと私は認識しております。

稲作農家にとって、このコンクールの地元開催は米づくりに対する意欲の向上につながりますし、さらに言いますならば、平地の条件のよい場所だけでなく、現在菊池渓谷周辺で栽培されているお米を菊池渓谷棚田米として販売されておられますが、このコンクールで評価されることにより、中山間地域で米づくりに頑張っておられる方々の意欲の向上にもつながり、本市農業にも大きな成果が出てくるものと考えます。まずは答弁であったように、他の自治体との協力体制の確立と、関連自治体参加の協議会を設立し、コンクール自体の開催内容を確立すべきだと考えます。

稲作農家においても、地元開催により競争意欲を持ち続け、おいしいお米づくりができる方が一人でも多く誕生することは、本市にとって意義あるものになると考えます。

以上、修正案を除く残りの原案についての賛成意見とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

議案第２６号については、予算決算常任委員長の報告は修正であります。よって、予算決算常任委員長の修正部分について、起立により採決します。

お諮りします。議案第２６号について、予算決算常任委員会の修正案に賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第２６号の予算決算常任委員会の修正案は可決することに決定しました。

次に、ただいま修正議決しました部分を除く残りの原案について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第２６号の修正議決した部分を除く残りの原案は、原案のとおり可決することに決定しました。

ただいま議案第２６号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算が修正議決されましたが、これに伴いまして、議案第３９号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計補正予算（第１号）のうち、計数整理を要するものにつきましては、会議規則第４３条の規定により、その整理を議長に委任されたいと思います。これにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、議案第３９号の計数整理は議長に委任することに決しました。

次に、議案第３９号について討論を行います。討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　議案第３９号、平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計補正予算について、反対の立場から討論を行います。

反対の理由は、この議案の内容が消費税１０％増税を前提としたプレミアム付き商品券発行に伴う事務手数料であるという点であります。消費税１０％増税を前提に、キャッシュレス決済のポイント還元や、プレミアム付き商品券の発行で多額の費用が投入されます。増税で消費が落ち込むことが口実とされていますが、そうであるならば、増税そのものをしないのが何よりもの対策であります。

毎日新聞の昨年１２月１７日の世論調査では、このプレミアム付き商品券の導入を望まないが５５％となっており、多くの国民はこのような対策を望んでいません。国民が望まない増税対策はやめて、増税そのものをきっぱりと中止すべきであります。

以上の理由から、議案第３９号には反対といたします。

○議長（柁原賢一君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで討論を終わります。

ただいま討論がありました議案第３９号については、起立により採決します。

お諮りします。議案第３９号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第３９号は原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、委員会の閉会中の継続審査並びに調査についてを議題とします。

議会運営委員会 １　議会運営等に関する諸問題の調査について 総務文教常任委員会 １　一般行財政、企画開発、地域振興、情報処理、防災、教育等に関する諸問題の調査について 福祉厚生常任委員会 １　福祉、環境、市税、健康管理、地籍調査等に関する諸問題の調査について 経済建設常任委員会 １　農政、林業、商工振興、観光振興等に関する諸問題の調査について ２　土木、都市計画、公共下水道、水道等に関する諸問題の調査について

予算決算常任委員会

１　予算及び決算に関すること議会広報特別委員会

１　議会広報に関すること

熊本地震からの復旧・復興特別委員会

１　熊本地震からの復旧・復興に関すること

議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から所管事務調査事項について、議席に配付の閉会中の継続審査並びに調査申し出一覧表のとおり申し出があっております。

お諮りします。議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることに決定しました。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

追加日程第１　決議案第１号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　次に、追加議事日程第１、決議案第１号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　それでは、決議案第１号、児童虐待のない菊池市を実現するための決議について申し述べます。

決議案第１号を別紙のとおり、菊池市議会会議規則第１４条第２項の規定により提出します。

提案理由としましては、全国的に多発している虐待による子どもの死傷事件は、現代社会が持つ深刻な課題を私たちに提示しており、早急な対応が求められている。本市においても虐待に関する相談は年々増加し、平成３０年度は１００件に上っている。

このような状況の中、菊池市議会は、関係機関との連携を強化し、行政を初め市民と一体となって、子どものとうとい命と健やかに成長する権利を守るため、全力で取り組むことを決議するものである。

これが、本案を提出する理由であります。

決議案については、お手元に配付のとおりです。

議員各位におかれましては、決議案の趣旨にご賛同いただきますようお願い申し

上げ、提案理由とします。

○議長（柁原賢一君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時２９分

開議　午前１１時２９分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　引き続き、会議を開きます。

猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　大変失礼いたしました。今の説明に過ちがありましたので、訂正いたします。

菊池市議会会議規則第１４条第１項と申すべきところを第２項と申しました。訂正いたします。すみません。

○議長（柁原賢一君）　以上で説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

決議案第１号については、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

城議員。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　児童虐待の決議について、賛成の立場から討論したいと思います。

先ほど猿渡議員から言われましたように、児童虐待、毎日のように報道されております。児童虐待から子どもを守る防止策としては国が法制化を進めております。そこで、そのことは国に任せまして、現実に向き合うのは私たち議員であり、市民であります。地域ぐるみで子どもを守る、児童虐待に取り組む姿勢を市民の皆様の代表として議員が率先してアクションを起こすべきと考えます。子どもの命が最優先であります。強い意思で児童虐待に議会として声を上げるべきと考えます。そし

て、この決議がゴールではございません。児童虐待へ歩み出す一歩と考えております。

そういう意味で、賛成の立場から討論といたします。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで、討論を終わります。

討論がありましたので、起立により採決します。

お諮りします。決議案第１号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、決議案第１号は原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

追加日程第２　決議案第２号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　次に、追加議事日程第２、決議案第２号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　それでは、決議案第２号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議案の提案理由を説明いたします。

提案理由でありますが、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関しての情報公開資料（公文書）と平成３１年第１回定例会一般質問においての答弁及び報道機関に答えた内容に整合性がありません。また、平成３０年１１月２６日付の住民監査請求に係る監査結果にて執行部が主張している内容に虚偽があるためであります。

本議会の私の一般質問において、受注者の瑕疵については、平成３０年９月５日の一般質問で、市は入札前に在庫確認した落札業者に瑕疵はなく、必要があれば契約変更できるとの約款に基づき行ったと答えていますが、監査での主張は、入札の前日まで受注生産品である海外製品が納入できることを確認し、入札を行ったと主張しています。

受注生産と在庫確認はどちらが本当であるかとの質疑に対し、執行部は終始しどろもどろの答弁で、結局、展示品も含んでの在庫と答えるなど、一般質問の答弁と公文書が食い違うどころか、公文書自体が偽造であるかのような新たな疑いも出てきております。このことは、菊池市が椅子の入札について、明らかに不適切な入札を行った証拠であります。毎回、答弁と公文書の整合性がとれない執行部の主張は

何ら信じることができません。過去にあった議員の税金滞納問題と同じで、滞納はなかったと繰り返し主張していた構図と全く同じであります。

このままでは市政に対する市民の信頼を大きく損ねることになりかねません。今こそ強い調査権をもって、虚偽の答弁を行ったら検察に告発もできる百条委員会の場で真相を究明すべきであり、間違いがあったとするならば、それを悔い改め、正しい方向へと導くことが私たち市議会議員の役目ではないでしょうか。それが市民への説明責任を果たすものであると考えます。

以上を提案理由として、別紙決議案の内容を読み上げて、説明いたします。

１、調査事項

地方自治法第１００条の規定により、次のとおり菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査を行うものとする。

２、特別委員会の設置

本調査は、地方自治法第１０９条及び委員会条例第６条の規定により、委員８名で構成する「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査特別委員会」を設置し、これに付託して行う。

３、調査権限

本議会は、１に掲げる事項の調査を行うため、地方自治法第１００条第１項及び同法第９８条第１項の権限を「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査特別委員会」に委任する。

４、調査期間

「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査特別委員会」は、１に掲げる調査が終了するまで閉会中もなお調査を行うことができる。

５、調査経費

本調査に要する経費は、予算の範囲内とする。

以上、議員各位におかれましては、速やかにご賛同賜りますようお願い申し上げ、決議案第２号の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　以上で説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで質疑を終わります。

決議案第２号については、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに

決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　決議案第２号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議について、反対の立場から討論を行います。

反対の理由は、本決議案で百条委員会の設置が求められている点であります。百条委員会を設置するのであれば、決算認定を覆すような新たな事実が発覚した場合であると判断をしております。私自身は決算認定を覆すような事実が発覚しているとは思いません。

また、３月議会で代表監査委員が職員の認識の違いによる発言の不一致が監査に影響していない。監査をやり直すつもりはないとの答弁が本会議の場であっていることからも、百条設置には正当性がないと判断をいたしました。

以上の理由から、決議案第２号には反対であります。

○議長（柁原賢一君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　議席番号１７番、是は是、非は非がモットーの二ノ文でございます。よろしくお願いします。

私は、決議案第２号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議に賛成の立場で討論を行います。

まず、私は、中央図書館の高額な椅子の値段についてのみ問題としているのではありません。椅子購入に関する入札の経緯が不透明であることについて、問題であると言いたいのです。

議員の皆さん、よく考えてください。当初、昨年９月の荒木議員の一般質問に対し執行部の面々からの回答は、何ら問題なしと声をそろえて答弁をされておりました。しかし、多くの市民の皆さんも疑念を持たれ、今回３月議会での追及では、不適切であったと市長みずからがお認めになっておられます。しかし、これは遅きに失したと言わざるを得ません。これについては、当然何が、どういうところが不適切であったか、それを明らかにすべきことであり、再三の追及において発言が撤回されるなど、執行部の隠蔽ともとれるような対応については、市民の皆様に対しても申しわけが立ちません。今回、その点について、百条委員会を設置して真相究明

をし、今後の市政に反映させることこそが議会の最大の役割であると思っております。

議員とは、市民の声を反映すること、為政が正しく運営されているのか、チェックすることであり、疑念、疑問が生じた場合は、ただしていくことが我々議員の本来の使命であります。議員の仕事、チェック機能を発揮するのは今ではないでしょうか。

よって、今回の市執行部の疑念を晴らすためにも、議員の皆様のこの決議案に対するご賛同を切にお願い申し上げ、討論とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　田中教之でございます。反対の立場から討論いたします。

前回の定例会以降、地方自治法第１００条及びこれまでの過去の例を調べてみました。今回の反対討論は、一般論をちょっと述べたいと思います。議員の皆様におかれましては釈迦に説法ですが、制度趣旨から考え直したいと考えます。

地方議会の調査にかかわる制度の中で、調査の及ぶ範囲が特に広範囲なもの、この第１００条第１項に基づく調査です。１００条調査と呼ばれることが多いように感じます。行政実務について、１００条調査は、議会が持っている条例制定権や、予算議決権等の権限を有効、適正に行使することを目的としております。議会は条例を制定したり、予算を議決することがまずの責任です。

１００条調査は、議会がその権限を十分に遂行できるために認められた補助的、付随的なものでございます。憲法上、捜査や真実発見の場は司法権が担うと考えております。国家権力が国民の自由を奪う強制力を限定的に解するべきだからです。このことは民事訴訟法や刑事訴訟法には明記されております。刑事事件の捜査は警察、検察が担い、他の機関がこれを担うべきではありません。それ以外での事実認定や真実発見は、裁判所は裁判官の自由な心証をもって総合的に判断されるということで実現されることになっております。

他の自治体の過去の１００条調査を見てみますと、職員の不祥事の場合、既に警察が起訴された後、その後に再犯防止のための条例を制定するために１００条調査は開かれたケースがございます。このように、個別具体的な調査でなく、あくまでも条例制定だったり、議会の機能を付随的、補完的に担うものだと考えております。

ですので、１００条調査を行う場合には、より一般的な公益性が必要だとするのが制度趣旨だと考えます。この公益性とは、公共の利益、広く社会一般の利益だと解されております。ですので、個別具体的な真実究明の場ではないと行政法の専門

書の先生も述べております。

今回につきましては、先ほど東奈津子議員が申されたとおり、決算や住民監査のやり直しにつながるような一般的な公益性があるとは思いません。調査結果後からさらに内容をつついて、個別具体的な真実究明だと考えますので、こういう個別具体的な追及に関しては、１００条調査はふさわしくないんだなと私は考えております。それでもって、反対をしたいと考えております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さん、おはようございます。決議案第２号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議に、賛成の立場で討論をさせていただきます。

図書館の椅子購入に関しましては、これまで熊日新聞に何度も掲載され、また、先般の議会報告会でも多くの市民の方より、海外メーカーの１脚１０万円もする椅子を購入する必要があったのか、怒りを感じる等の厳しい意見が噴出いたしました。

荒木議員の提案理由でも述べられましたが、一般質問の答弁と公文書が食い違うどころか、公文書自体が偽造である新たな疑いも出てきております。私も強く疑義を感じております。

住民監査請求をされた市民の方も、監査委員の棄却の結果に対して、唖然とした、証拠となる文書も出してほしい、今後も市民が納得できる形で税金が使われているか議会でしっかり審議してほしいと、熊日新聞のインタビューにも答えておられます。菊池市の市民感覚とかけ離れた価値観、金銭感覚に疑問を持っている市民の方々がたくさんおられるのではないでしょうか。

少子高齢化で将来的に厳しい財政状況の中で、高額な椅子の購入、ましてや、地場産業育成を考えなければならないのに、海外製を選択している問題、他市ではあり得ない入札後の業者への対応等、また、菊池市中小企業振興基本条例の市内に事務所または事業所については、従業員が常駐していることが条件等も再確認をする必要がありましたので、落札業者の教育産業社菊池営業所については、本定例会で一般質問をいたしましたが、入札の同等品不可の問題とともに、さらに調査の必要があります。

現在の菊池市は、先般の職員の公文書偽造や、公用車の車検切れの問題、西郷南洲公園の土砂の損害賠償等の問題で、市民等の信頼関係は崩れております。私たち議員は市民の代弁者として、税金の使途を監視することが仕事であります。今回の

図書館の椅子の購入問題は、先ほども申し上げましたが、市民の住民監査請求もあり、また、熊日新聞で何度も掲載されておりますので、市民は徹底的な調査を望んでいます。市民に納得していただき、議会としての説明責任を果たすためにも、これらのことを重く受けとめて、採決に臨んでいただきますようお願いいたしまして、賛成討論といたします。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで討論を終わります。

討論がありましたので、起立により採決いたします。

お諮りします。決議案第２号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立少数。よって、決議案第２号は否決することに決定しました。

以上をもって本日の議事日程は全部終了し、今定例会に付議されました事件は全て議了しました。

これをもちまして、平成３１年第１回菊池市議会定例会を閉会します。

全員、起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

閉会　午前１１時５１分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

菊池市議会議長　柁　原　賢　一

菊池市議会議員　緒　方　哲　郎

菊池市議会議員　後　藤　英　夫

付　　録

平成３１年第１回定例会付議事件一覧及び審議結果表

（２月２５日・３月２２日議決）

議案番号	件名	審議結果
議案第 ３ 号	菊池市在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会条例の制定について	原案可決
議案第 ４ 号	菊池市上水道事業運営審議会条例の制定について	原案可決
議案第 ５ 号	菊池市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第 ６ 号	菊池市長等の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第 ７ 号	菊池市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第 ８ 号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第 ９ 号	菊池市地域福祉計画策定委員会条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第１０号	菊池市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第１１号	菊池市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第１２号	菊池市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第１３号	菊池市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について	原案可決
議案第１４号	菊池市幼稚園民営化検討委員会設置条例を廃止する条例の制定について	原案可決
議案第１５号	菊池市立泗水幼稚園移譲先事業者選定委員会条例を廃止する条例の制定について	原案可決
議案第１６号	平成３０年度菊池市一般会計補正予算（第６号）	原案可決
議案第１７号	平成３０年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第１８号	平成３０年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第１９号	平成３０年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第４号）	原案可決

議案番号	件　　名	審議結果
議案第２０号	平成３０年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第２１号	平成３０年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第２２号	平成３０年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第２３号	平成３０年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第２４号	平成３０年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）	原案可決
議案第２５号	平成３０年度菊池市水道事業会計補正予算（第４号）	原案可決
議案第２６号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市一般会計予算	修正可決
議案第２７号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市国民健康保険事業特別会計予算	原案可決
議案第２８号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市後期高齢者医療事業特別会計予算	原案可決
議案第２９号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市介護保険事業特別会計予算	原案可決
議案第３０号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市公共下水道事業特別会計予算	原案可決
議案第３１号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計予算	原案可決
議案第３２号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市地域生活排水処理事業特別会計予算	原案可決
議案第３３号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市農業集落排水事業特別会計予算	原案可決
議案第３４号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市特別養護老人ホーム特別会計予算	原案可決
議案第３５号	平成３１年度（２０１９年度）菊池市水道事業会計予算	原案可決
議案第３６号	財産の無償譲渡について	原案可決
議案第３７号	調停の申立てについて	原案可決
議案第３８号	熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結について	原案可決

議案番号	件　　名	審議結果
議案第３９号	平成３１年度(２０１９年度)菊池市一般会計補正予算（第１号)	原案可決
決議案		
決議案第１号	児童虐待のない菊池市の実現を目指すための決議	原案可決
決議案第２号	菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議	原案否決
報　　告		
報告第　２　号	専決処分の報告について（除草作業事故）	原案報告